

科目名 (英)	ミュージックセオリー I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
	Music Theory I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	半期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	水曜 1 限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 プロミュージシャンや声優、俳優には移調や楽曲制作、演奏に必要な基礎知識、裏方には照明や台本に照らし合わせてタイミングや間の取り方を、そして音楽の基礎知識をあまり必要としない学科の学生にも、学び方や、考え方の多面性を育てることが目標。							

授業計画・内容	
1回目	<楽譜の歴史> ファンデーションカリキュラムの説明、楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への移り変わりを知る
2回目	<音名> 鍵盤と音名の一致 楽器ごとの音域を知る
3回目	<音符、休符> 音符、休符の表し方
4回目	<拍子記号> 小節線について、単純拍子、複合拍子は紹介のみ、タイ、シンコペーション
5回目	<反復記号> 反復記号を学び、音源を使用して楽譜を終えるようにする
6回目	<スコアリーディング> 楽譜と音源を使用し、前半の総復習
7回目	<確認テスト> 確認テスト
8回目	<メジャースケール> メジャースケールの仕組み、＃系のメジャースケールの仕組み
9回目	<メジャースケール> 5度圏、b系のメジャースケールの仕組み
10回目	<記譜法、臨時記号> 調号を臨時記号の違い、臨時記号の効力、正しい楽譜の書き方
11回目	<テンポ、強弱記号> 速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ
12回目	<スコアリーディング> 楽譜と音源を使用し、後半の総復習
13回目	<期末テスト> 期末テスト
14回目	前期復習
15回目	後期内容の確認と予習
準備学習 時間外学 習	宿題はほぼありませんが、毎回プリントを提出して頂きます。
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック	

科目名 (英)	イヤートレーニング I Ear Training I	選択 必修	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	半期
						曜日・時限	水曜 2 限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 音程 1 ～ 8 度、音程のまとめ、メジャーとマイナーの聞き分け。四分音符から 1 6 分音符まで。							

授業計画・内容	
1回目	<音名> リス`ムは四分音符と四分休符、2線紙を使って音の高低を判定。
2回目	<音符、休符> 5線紙を使つての書きとり、八分音符が入ったリス`ム打ち、3線紙を使って音の高低判定。
3回目	<拍子記号> リス`ム八分休符の書きとり、5線紙を使ってC～Eの書きとり、全音、半音と度数のみ
4回目	<反復記号> リス`ム復習、休符の多い書きとり問題、音程は1,2,3,8のみ
5回目	<スコアリーディング> リス`ム復習、1 6分音符の導入、メロディー暗記問題、音程 1, 2, 3, 8度のみ、変化記号がついた場合。
6回目	<中間テスト>
7回目	<メジャースケール#系> リス`ム復習、1 6分音符、書きとり、メロディーは跳躍進行、八分音符の導入、新曲視唱、音程は1～5, 8 トライトーン
8回目	<メジャースケールb系> リス`ム八分休符、八分音符の導入、メロディーはC～Fまでの順次進行、音程は1～5, 8 トライトーン②
9回目	<記譜法、臨時記号> リス`ム 8 分と 1 6 分の組み合わせの導入、メロディーC～Gまでの順次進行、音程 1 ～ 6 と 8 度
10回目	<テンポ、強弱記号> リス`ム 1 6 分と 8 分の組み合わせの導入、メロディーC～Gまでの跳躍進行、音程 1 ～ 8 度
11回目	<スコアリーディング> リス`ム総復習、メロディー総復習、音程 1 ～ 8 度
12回目	<予備テスト>
13回目	<期末テスト>
14回目	イベント実践を通してデザインスキルの必要性、重要性を学ぶ
15回目	イベント実践を通してデザインスキルの必要性、重要性を学ぶ
準備学習 時間外学習	宿題はありませんが、進行に差し支える学生には復習プリントを用意しています。
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	歌う事によって、体で音を感じていきましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	デジタルファンデーション I Digital Foundation I	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜4限
【授業の学習内容】 社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 講義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。 実務者経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとなった。17LIVE準認証ライター。							
【到達目標】 Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタルポートフォリオを所持できるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。（レタッチ中心） Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。（ベジェ曲線操作、デザイン中心） STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ（web）の運営ができるようになる。							
授業計画・内容							
1回目	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション Keynote（自己紹介PPT）を使用して資料を作成しプレゼンする						
2回目	ワードエクセル基本操作理解。ワード（ビジネス文章）/エクセル(タイムテーブル)提出 優秀資料のプレゼン発表する						
3回目	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解、基本操作（ワークスペース、ツールバー、パレット、画面拡張、新規作成、保存）【Ai】図形						
4回目	【Ai】基本操作 選択、図形、バウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダイレクト選択ツール、スタイライズ、パスファインダ、整列、テキスト入力、グループ化、ベジェ曲線、スウォッチ、模様、グラデーション						
5回目	【Ps】レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像度、フォーマット						
6回目	【Ai】配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデザインとは何か。（コンセプト～ラフ作成・色理解～提案～レイアウトデザイン～ブラッシュアップ）						
7回目	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク						
8回目	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成（レイアウトデザイン～ブラッシュアップ）よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる						
9回目	【Ps】【Ai】オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツール、アートボード、保存形式を指定して書き出し						
10回目	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用できるデータ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。						
11回目	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP画像と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。						
12回目	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させる。						
13回目	ポートフォリオサイトの提出 到達度テスト						
14回目	イベント実践を通してデザインスキルの必要性、重要性を学ぶ						
15回目	イベント実践を通してデザインスキルの必要性、重要性を学ぶ						
準備学 習 時間 外学習	定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考える						
評価方 法	筆記又は、実技テストによる採点						
受講生への メッセージ	映像・写真を用いた魅力的な作品（ポートフォリオ）を制作できるようになってください。						
【使用教科書・教材・参考書】 Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション							

科目名 (英)	デジタルファンデーションⅡ Digital FoundationⅡ	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜4限
【授業の学習内容】							
写真やビデオ等の映像機器及び映像編集ソフトを用いた表現に関する学習を通して、表現力・映像処理能力を高める。							
実務者経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとなった。17LIVE準認証ライター。							
【到達目標】							
履修者全員が動画制作ができるようになる。 Adobe AfterEffectsの基本操作ができるようになる。(アニメーション作成・エフェクト適用・実写合成中心) Adobe Premiereの基本操作ができるようになる。(カット編集中心) Youtubeに動画投稿し、自身が制作した動画を他社に共有できるようになる。							
授業計画・内容							
1回目	【Ae】AfterEffectsの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、コンポジション作成、平面作成、テキスト入力、図形作成、素材読み込み。最終課題説明。						
2回目	【Ae】キーフレームアニメーションの理解。 基本的なパラメータを使用したキーフレームアニメーションの作成、動画書き出し方法を学ぶ。						
3回目	【Ae】トランジションの作成。 キーフレームアニメーションを用いてトランジション映像を作成し、発表をする。						
4回目	【Ae】テキストアニメーションを理解し、リリックビデオ制作に役立つ機能を取得する。						
5回目	【Ae】テキストアニメーションを理解し、リリックビデオ制作に役立つ機能を取得する。 エフェクトやテキストアニメーションプリセットを利用し、短いリリックビデオを作成、発表する。						
6回目	【Ae】エフェクトを理解し、ダンスビデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、エフェクトの機能を学ぶ。						
7回目	【Ae】エフェクトを理解し、ダンスビデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、動画を作成、発表する。						
8回目	【Ae】自動トラッキング機能について理解し、実写合成に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材と入力したテキストを合成する。						
9回目	【Pr】Premiereの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、シーケンス作成、素材の読み込み、カット編集、字幕入力、色調補正、動画書き出し。Youtubeに動画を投稿しURLを共有する。						
10回目	最終課題選定。リリックビデオ・ダンスビデオ、実写合成から最終課題のジャンルを選択し、映像の構成を考える。 アイデア出し～絵コンテ制作について理解し、完成させる。						
11回目	個人制作						
12回目	個人制作						
13回目	個人制作と最終課題の提出(Youtubeに投稿しリンクを提出する) 到達度テスト						
14回目	イベント実践を通してデザインスキルの必要性、重要性を学ぶ						
15回目	イベント実践を通してデザインスキルの必要性、重要性を学ぶ						
準備学 習 時間 外学習	定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考える						
評価方 法	筆記又は、実技テストによる採点						
受講生への メッセージ	映像・写真を用いた魅力的な作品（ポートフォリオ）を制作できるようになってください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション							

科目名 (英)	グローバルコミュニケーション Global Communication	必修 選択	選択	年次	1.2.3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分 曜日・時限	受講者のレベルにより異なる 受講者のレベルにより異なる
【授業の学習内容】							
日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。 ※講師 1 実務者経験：2001年より日本にて英会話講師の経験あり ※講師 2 実務者経験：2000年より日本にて教授をしている。小学、中学、高等学校等で英会話の教授経験あり。							
【到達目標】							
様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。							
授業計画・内容							
1回目	EVOLVE UNIT 01 ※使用テキスト（EVOLVE1.2.3）は受講者レベルにより異なる						
2回目	EVOLVE UNIT 02						
3回目	EVOLVE UNIT 03						
4回目	EVOLVE UNIT 04						
5回目	EVOLVE UNIT 05 授業内小テスト						
6回目	EVOLVE UNIT 06						
7回目	中間試験						
8回目							
9回目	EVOLVE UNIT 08						
10回目	EVOLVE UNIT 09						
11回目	EVOLVE UNIT 10 授業内小テスト						
12回目	EVOLVE UNIT 11						
13回目	EVOLVE UNIT 12						
14回目	試験前対策						
15回目	期末試験						
準備学習 時間 外学習	事前に教科書を読んでおきましょう。						
評価方法	TOEIC中間・期末試験の結果 60% 授業内小テストの結果 10% 授業内課題への取り組み 10% 出席状況 20%						
受講生への メッセージ	皆さんは既にたくさんの英語を知っています。英語を話せるように、一緒に頑張りましょう！						
【使用教科書・教材・参考書】							
EVOLVE1.2.3 ※受講者のレベルにより異なる							

科目名 (英)	著作権 I Copyright I	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜1限
【授業の学習内容】 著作権の基礎理解 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 著作権とは何か、なぜ重要か、基本的な権利と用語の理解							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：著作権とは/知的財産、権利の意味、なぜ守る必要があるか
2回目	著作権の歴史と意義/著作権法の背景、日本と世界の違い
3回目	著作物とは何か/対象となるもの・ならないもの、著作物の例
4回目	著作者の権利/著作者人格権、著作財産権の基礎
5回目	権利の発生と保護期間/自動発生、保護期間の年数など
6回目	著作権と産業・教育/現代社会での著作権の役割
7回目	著作権と日常生活/SNS、動画、音楽の利用時の注意
8回目	引用のルール①正しい引用とは、条件の説明
9回目	引用のルール②実際の文章や画像での引用練習
10回目	フェアユースと日本の制度/フェアユースの概念、日本との違い
11回目	著作権と他の権利/肖像権、商標権との違いと関係
12回目	著作権侵害とは？/違反例、罰則、訴訟の事例紹介
13回目	ケーススタディ①/アニメ・マンガにおける著作権問題
14回目	ケーススタディ②/学校・授業内での利用問題
15回目	まとめと振り返り/理解度確認テスト、感想共有
準備学習 時間外学習	毎時間プリントを渡して提出
評価方法	理解度テストによる判定
受講生への メッセージ	基礎座学で面白くないかもしれませんが、楽しく学べるよう工夫します。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	著作権Ⅱ CopyrightⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜1限
【授業の学習内容】 著作権について応用と実践Ⅱ ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 実際の著作物を扱う中での著作権処理・引用・違反事例を知る							

授業計画・内容	
1回目	著作物の利用手続き/許諾、ライセンス、申請の流れ
2回目	Creative Commonsとは/利用方法、マークの読み方
3回目	オープンデータの活用/国や自治体の著作物利用
4回目	教育における著作権特例/学校教育法との関連
5回目	SNSの著作権/利用規約・転載・二次創作
6回目	二次創作とパロディ/ファンアート、同人活動の問題点
7回目	企業の著作権戦略/任天堂、ディズニーなどの事例研究
8回目	実際に申請してみよう/写真利用・音楽利用の模擬申請
9回目	著作物をリミックスする/合法的なリミックス制作体験
10回目	フリー素材の利用演習/正しく使う、改変ルールの確認
11回目	引用を使った作品制作①引用ポスター制作
12回目	引用を使った作品制作②文章引用エッセイ作成
13回目	グループディスカッション/実際の違反事例を議論する
14回目	著作権管理団体の調査/JASRAC等について調べて発表
15回目	まとめと発表/グループ発表・レポート提出
準備学習 時間外学習	毎時間プリントを渡して提出
評価方法	学期末の発表会にて、理解度を評価
受講生への メッセージ	基礎座学で面白くないかもしれませんが、楽しく学べるよう工夫します。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	著作権Ⅲ	必修 選択	選択必修	年次	1		
	CopyrightⅢ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜1限
【授業の学習内容】 著作権について実務と創作 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 自ら著作物を作成・発表しながら、著作権と向き合う姿勢の習得をする							

授業計画・内容	
1回目	創作活動と著作権/自分が著作権者になる意識
2回目	自作著作物の登録方法/登録制度、記録の取り方
3回目	発表と公開の手続き/Web公開時の注意点
4回目	模擬著作権トラブル①ロールプレイ：違反を指摘されたら
5回目	模擬著作権トラブル②ロールプレイ：他人の著作物を使ったら
6回目	プレゼン準備①自作作品のコンセプト構想
7回目	プレゼン準備②使用素材の整理と出典明記
8回目	作品制作①実際に作品を作成（映像・音楽・文章など）
9回目	作品制作②引用・利用素材のチェック
10回目	作品制作③フィードバックの受け取り
11回目	発表リハーサル/著作権に配慮した発表準備
12回目	作品発表会①プレゼンテーション
13回目	作品発表会②フィードバックと振り返り
14回目	著作権の将来/AI・生成コンテンツと著作権
15回目	まとめと修了/学習の振り返り・今後の課題
準備学習 時間外学習	毎時間プリントを渡して提出
評価方法	学期末の発表会にて、理解度を評価
受講生への メッセージ	基礎座学で面白くないかもしれませんが、楽しく学べるよう工夫します。一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	韓国語講座 I Korean I	必修 選択	選択	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 文字の読み、書き、発音。挨拶をする/ 自己紹介をする。国籍、趣味、職業、好みを尋ねる。家族紹介をする。場所を尋ねる。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。日本認定心理士の資格を持つ。 【到達目標】 文字を読める書ける。 簡単な挨拶が出来る。 平易な韓国語が理解でき、初歩的な韓国語でコミュニケーションがとれるようになる							

授業計画・内容	
1回目	ハングルの仕組みと基本母音字
2回目	子音字（1）平音
3回目	子音字（2）激音、濃音
4回目	合成母音字
5回目	パッチム（一文字パッチム、二文字パッチム）
6回目	日本語のハングル表記、辞書引き方、キーボードの打ち方、発音上手になるコツ、小テスト（単語の正しい表記、発音通りの表記）
7回目	自己紹介：私は日本人です（～は、～です、～と申します、～といいます）
8回目	趣味は何ですか？（～が、～は、～ですか）語彙 単語
9回目	韓国人ではありません（～でいらしゃいますか、～ではありません）
10回目	今、日本にいます（あります・います/ありません・いません）、こそあど言葉
11回目	週末には普段何をしていますか？（します、しています、～です、～ですか）
12回目	演劇を見ます（です、ますのかしこまった丁寧語、用言の否定語、動詞の反対語、ハッピーバースデーの歌）
13回目	何料理が好きですか（です、ますの打ち解けた丁寧語）
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	テキストを見て学習した内容の復習をしましょう
評価方法	■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	前期の授業ですべての韓国語の文字が読めます。文字が読めるとKPOPをもっと楽しめます 自分の名前も韓国語で書いて簡単な自己紹介もできます。
【使用教科書・教材・参考書】 楽しく学べる韓国語	

科目名 (英)	韓国語講座Ⅱ	必修 選択	選択	年次	1		
	KoreanⅡ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】							
値段を尋ねる（買い物）。予定について話す。道を尋ねる。食事や映画を誘う。希望を述べる。							
(講師プロフィール)							
韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。日本認定心理士の資格を持つ。							
いつ、どこ、誰が、なぜ、どのように、いくらなどを使って簡単な会話できる。韓国旅行で買い物ができる。電車に乗ったり、道を尋ねる事が出来る。食堂で好きな食べ物を注文することなど簡単な会話ができる。							
授業計画・内容							
1回目	とても素敵でよかったです 用言の過去形（～した、～かった、だった）形容詞の反対語						
2回目	この靴いくらですか？漢数詞いち、にさん,,,,, けれど～ですね						
3回目	夕方6時から10時まであります、固有数詞一つ、二つ、三つ,,,,,						
4回目	運転できますか 可能、不可能の表現						
5回目	食事はされましたか 敬語（現在の尊敬語、～なさる、～される/過去の敬語、～なさった）						
6回目	旅行はどこへ行きますようか 勧誘形、しましょう/ざんざいな言い方/助詞～で、～の方へ						
7回目	映画を見たいです ～がしたい/～したがる						
8回目	写真を撮ってもいいですか してもいい/してみる/しないでください禁止						
9回目	報告書を作らなければなりません 義務、条件 しなければならでん						
10回目	コンビニがあるのでそこで尋ねてください 原因、理由 ～だから、～ので						
11回目	何をなさいますか ～します意志や推測の表現						
12回目	冬休みの時何をするつもりですか ～と思います、～のために						
13回目	<期末テスト>						
14回目	卒業進級制作展						
15回目	卒業進級制作展						
準備学習 時間外学習	特にありません。						
評価方法	■出席率50％ ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50％						
受講生への メッセージ	文字は読めるようになったので、楽しく、しっかり基礎を勉強することによって、ますます興味を持つようになると思います。これからは自分で言いたいことを会話文を作ってどんどん会話しましょう。日本語の語順とほぼ同じなので単語はたくさん覚えましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
楽しく学べる韓国語							

科目名 (英)	韓国語講座 Ⅲ Korean Ⅲ	必修 選択	選択	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 初対面の人と話す。趣味、家族、職業について話す。手紙やメールを書く。道案内をする。誘ったり、希望を述べる 感想をいう。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。日本認定心理士の資格を持つ。 【到達目標】 自己紹介と他人の紹介ができる。交通手段を尋ねる事ができる。手紙やメールを書ける。誘ったり、希望を述べたり、 感想をいう事ができる。							

授業計画・内容	
1回目	お名前は何とおっしゃいますか (インタビューする) 会話 単語 表現
2回目	打ち解けた敬語 ～でいらっしゃいますか/条件、仮定 ～たら /意図、計画 ～しようと思います①練習問題 日本語を韓国語に訳する
3回目	朝子といいますが、日本から来ました (自己紹介) 会話 単語 表現
4回目	説明、紹介 ～なので/ 以来、期間～してから/動作の順序～した後で、～する前に 1) メールを読む
5回目	魚は焼かないでください(決まりを言う) 会話 単語 表現
6回目	義務～しなければなりません 2) メールを読む ② 練習問題 日本語を韓国語に訳する
7回目	丁寧な命令、許可、禁止～ください/～でもいいですか/～してはいけません
8回目	ファンの集いに行くことになりました(約束をする) 会話 単語 表現
9回目	形容詞の連体形～な、～い/理由～で、～なので/決心～することにしました ③ 練習問題 日本語を韓国語に訳する
10回目	道を渡って左にずっと行ってください(道案内をする) 会話 単語 表現
11回目	位置を表す語 前、後、左、右/ 手段～で/動作の順序～してから 3) メールを書く
12回目	ファンの集いに行ってみてください…(感想を言う) 会話 単語 表現
13回目	動作、存在しの現在連体形 ～している、～する～/試行、経験 ～してみました
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	特にありません。
評価方法	■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	日常会話が少しずつ言えるようになります。 KPOPの歌詞も少しずつ訳することができます。
【使用教科書・教材・参考書】 楽しく学べる韓国語	

科目名 (英)	韓国語講座 IV Korean IV	必修 選択	選択	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 一日の日課を話す。敬語で丁寧に依頼する。体の具合を言う。人の趣向や性格を言う。間接話法で伝える。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。日本認定心理士の資格を持つ。 【到達目標】 最近のマイブームや経験したことを話すことが出来る。敬語を使ってより丁寧な依頼をすることができる。体の具合を説明できる。間接話法で伝えることができる。							

授業計画・内容	
1回目	「朝子さんの一日」 読解 読んで韓国語で質問したり、答えましょう
2回目	「少し安くしてください」店での買い物 依頼
3回目	～してみてください（勧誘/アドバイス）/～していただけますか（より丁寧な依頼）
4回目	「私の気持ちですから受け取ってください」（プレゼントする） ～だから（理由）
5回目	～ですね（感嘆）/～そうです、～だろうと思います（推測）
6回目	「咳がひどくて眠れませんでした」（体の具合をいう）
7回目	～出来ない（不可能）/～時、するとき（時間、場合）
8回目	「字幕を見ながら勉強しています」（勉強の仕方話す）
9回目	～する方です（傾向）/～しながら（同時、並行動作）/～するのが（事柄）
10回目	「今日は来られないそうです」（話を伝える、間接話法）
11回目	～だそうです、～だったそうです（間接話法過去）
12回目	久しぶりに来てみて、どうですか（思い出を話す）
13回目	<期末テスト>
14回目	卒業進級制作展
15回目	卒業進級制作展
準備学習 時間外学習	特にありません。
評価方法	■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	日常会話が出来て、一人で韓国に行った場合でも基本的な事柄に対応が出来るようになります。
【使用教科書・教材・参考書】 ちょこっとチャレンジ！韓国語	

科目名 (英)	韓国語講座 V Korean V	必修 選択	選択	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 一日の日課を話す。敬語で丁寧に依頼する。体の具合を言う。人の趣向や性格を言う。間接話法で伝える。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。日本認定心理士の資格を持つ。 【到達目標】 韓国語の中級文法を理解し、日常会話や簡単なビジネス会話ができる。 自分の意見や感想を韓国語で表現することができる 簡単な韓国語エッセイやスピーチ文を書けるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／中級文法の復習・自己紹介リニューアル
2回目	～しなければなりません／～してもいいですか？（義務・許可）
3回目	～と思います／～つもりです（意見・意志の表現）
4回目	～しながら／～した後で（連続・並行動作）
5回目	短い記事やコラムの読解練習①（読解と要約）
6回目	韓国の文化紹介プレゼン①準備（テーマ選定・語彙準備）
7回目	韓国の文化紹介プレゼン①発表＆フィードバック
8回目	韓国語での買い物・レストランのやりとり練習
9回目	韓国語でのSNS投稿を読んで、意見交換
10回目	韓国語日記・エッセイの書き方①（構成と語彙）
11回目	韓国語エッセイ執筆①「私の好きな場所」
12回目	韓国語で電話・メールでのやりとり
13回目	テスト実施
14回目	振り返り
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	特にありません。
評価方法	■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	日常会話が出来て、一人で韓国に行った場合でも基本的な事柄に対応が出来るようになります。
【使用教科書・教材・参考書】 ちょこっとチャレンジ！韓国語	

科目名 (英)	韓国語講座 VI Korean VI	必修 選択	選択	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 一日の日課を話す。敬語で丁寧に依頼する。体の具合を言う。人の趣向や性格を言う。間接話法で伝える。 (講師プロフィール) 韓国出身。日本在住22年。大学で観光経営学を学ぶ。日韓通訳案内士の免許を持って、通訳や翻訳。日本認定心理士の資格を持つ。 【到達目標】 韓国語のニュースや映像を聞いて要点を理解する力を養う。 複雑な意見交換やディスカッションが韓国語でできる。 実践的な会話力と表現力を高め、社会的テーマにも対応できる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／3年次の学びの振り返りと目標設定
2回目	ニュース記事を読む①（社会・文化）
3回目	ニュース記事を読む②（政治・経済）
4回目	韓国語のニュース映像を見て要約／内容確認
5回目	中級～上級文法①（仮定・条件文）
6回目	意見を述べる表現（～と思われる、～と考えられる）
7回目	ディスカッション①：日韓の若者文化
8回目	中級～上級文法②（原因・理由の複文構造）
9回目	韓国語でのSNS論争を読んで考察／まとめ
10回目	韓国語ディベート準備①（立場・主張の練習）
11回目	韓国語ディベート実践②（グループ形式）
12回目	韓国語のエッセイ執筆②「未来の社会」
13回目	<期末テスト>
14回目	卒業進級制作展
15回目	卒業進級制作展
準備学習 時間外学習	特にありません。
評価方法	■出席率50% ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】小テスト50%
受講生への メッセージ	日常会話が出来て、一人で韓国に行った場合でも基本的な事柄に対応が出来るようになります。
【使用教科書・教材・参考書】 ちょこっとチャレンジ！韓国語	

科目名 (英)	キャリア教育 I Career Education I	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	各担任により開講
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OB OG セミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。							
【到達目標】 1. セルフマネジメント（自己理解）を実践できる 2. チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる 3. 自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる 4. 目指す音楽業界を理解し、その特徴を説明できる 5. 自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1 回目	集団（クラス）づくりの理解と実践（集団の中での自己の学校生活の土台づくりを行う）
2 回目	サポートアンケート実施。その他のインフォメーション 働く意義（勤労観・職業観）を理解し考える
3 回目	学園祭を盛り上げるためにはどうすれば良いか？「集団での役割」の理解と実践
4 回目	ネットリテラシー「集団での役割」の理解と実践
5 回目	「集団での役割」の理解と実践 <学園祭準備活動>
6 回目	グループワーク：音楽業界が求める人材を理解し、自己の目標を設定する
7 回目	グループワーク：音楽業界研究と自己の進路を考える ①
8 回目	グループワーク：人としての「在り方・生き方」を考え、自己の進むべき方向を定める
9 回目	グループワーク：希望進路を達成するための人間力を理解し、自己の現状を振り返る
1 0 回目	グループワーク：夢への一歩を踏み出す勇気を身につける
1 1 回目	グループワーク：音楽業界研究と自己の進路を考える ②
1 2 回目	グループワーク：セルフマネジメント（自己理解）とチームマネジメント（協働作業）の振り返り
1 3 回目	グループワーク：振り返りとこれからの目標を設定する
1 4 回目	CSU検定試験対策
1 5 回目	CSU検定試験
準備学習 時間外学 習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OG セミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 【セルフマネジメント（自己理解）】 学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント（自己理解）】 事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	キャリア教育Ⅱ Career EducationⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	各担任により開講
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OB・OGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。							
【到達目標】 1. セルフマネジメント（自己理解）を実践できる 2. チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる 3. 履歴書・プロフィールシート作成ができるようになる							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1 回目	自己理解 ① 働く意義（勤労観・職業観）を理解し考える
2 回目	自己理解 ② 自己PR/履歴書作成 <自己PR・趣味特技>
3 回目	自己理解 ③ 自己PR/履歴書作成 <専門分野・関心事>
4 回目	自己理解 ④ 自己PR/履歴書作成 <志望動機・立志作文>
5 回目	企業研究 ① 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ①
6 回目	企業研究 ② 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ②
7 回目	企業研究 ③ 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会の振り返り
8 回目	社会人準備 ① 夢をかなえた先輩たちの「行動の原則 +α」を学ぶ
9 回目	社会人準備 ② マネー教育（収入と支出のバランスを学ぶ）
10 回目	社会人準備 ③ 社会保険や税の仕組みなどを学ぶ
11 回目	「集団での役割」の理解と実践 ① <WeareFSM準備活動> ・ 自己理解とインターンシップ準備 ①
12 回目	「集団での役割」の理解と実践 ② <WeareFSM準備活動> ・ 自己理解とインターンシップ準備 ②
13 回目	卒業進級制作展 準備
14 回目	卒業進級制作展 準備
15 回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 【セルフマネジメント（自己理解）】 学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント（自己理解）】 事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	キャリア教育Ⅲ Career EducationⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	各担任により開講
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OB・OGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。							
【到達目標】 1. セルフマネジメント（自己理解）を実践できる 2. ホスピタリティを実践し、視野を拡大する。 3. 履歴書・プロフィールシート作成ができるようになる 4. インターンシップ、オーディションなど現場で行動できるコミュニケーション力をつける							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1 回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ① 個人スピーチの実施（自己肯定感を高める。）
2 回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ② 個人スピーチの実施（自己肯定感を高める。）
3 回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ③ 個人スピーチの実施（自己肯定感を高める。）
4 回目	ネットリテラシー「集団での役割」の理解と実践
5 回目	企業研究 ① 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ①
6 回目	企業研究 ② 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ②
7 回目	企業研究 ③ 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会の振り返り
8 回目	グループワーク ① チームワーク力
9 回目	グループワーク ② プレゼンテーション力
1 0 回目	グループワーク ③ イノベーション力
1 1 回目	自己理解とオーディション対策・インターンシップ準備 ①
1 2 回目	自己理解とオーディション対策・インターンシップ準備 ②
1 3 回目	自己理解とオーディション対策・インターンシップ準備 ③
1 4 回目	就職・デビュー対策講座① ※開催日はゲスト講師（講演者）・企業様のスケジュール変更になる場合があります。
1 5 回目	就職・デビュー対策講座② ※開催日はゲスト講師（講演者）・企業様のスケジュール変更になる場合があります。
準備学習 時間外学 習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 【セルフマネジメント（自己理解）】 学習ポートフォリオ (5 0 %) 2. 【セルフマネジメント（自己理解）】 事前課題等の各種レポート (5 0 %)
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	キャリア教育Ⅳ Career EducationⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	各担任により開講
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OBOGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。							
【到達目標】 1. スピーチ能力を高める 2. 自分自身をしっかり表現できる 3. 履歴書・プロフィールシート作成ができるようになる 4. インターンシップ、オーディションなど現場で行動できるコミュニケーション力をつける							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1 回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ① 個人面談（面接練習）
2 回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ② 個人面談（面接練習）
3 回目	自己理解とプレゼンテーション力強化 ③ 個人面談（面接練習）
4 回目	SNSについて学ぶ
5 回目	企業研究 ① 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ①
6 回目	企業研究 ② 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会に向けての準備 ②
7 回目	企業研究 ③ 新人発掘プレゼンテーション・合同企業説明会の振り返り
8 回目	スピーチ練習 スピーカーとは
9 回目	スピーチ練習 表現力を高める
1 0 回目	スピーチ練習 相手に伝えるには
1 1 回目	自己プロフィールを書く 将来の夢
1 2 回目	自己プロフィールを書く 一番得意な事
1 3 回目	卒業進級制作展 準備
1 4 回目	卒業進級制作展 準備
1 5 回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学 習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. O B ・ O G セミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 【セルフマネジメント（自己理解）】 学習ポートフォリオ (5 0 %) 2. 【セルフマネジメント（自己理解）】 事前課題等の各種レポート (5 0 %)
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	キャリア教育Ⅴ Career EducationⅤ	必修 選択	選択 必修	年次	3	担当教員	各担任により開講
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OB・OGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。							
【到達目標】 1. 就職活動、デビュー活動を円滑に行うことが出来る							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1 回目	個人面談① 卒業後の目標を設定する
2 回目	個人面談② 卒業後の目標を設定する
3 回目	個人面談③ 卒業後の目標を設定する
4 回目	プロフィールシート、履歴書の書き方① 書式の説明
5 回目	プロフィールシート、履歴書の書き方② 記入
6 回目	プロフィールシート、履歴書の書き方③ チェック～フィードバック
7 回目	プロフィールシート、履歴書の書き方④ 修正～完成
8 回目	面接練習①
9 回目	面接練習②
1 0 回目	面接練習③
1 1 回目	面接練習 フィードバックと今後の対策
1 2 回目	前期のまとめ
1 3 回目	就職・デビュー対策講座③ ※開催日はゲスト講師（講演者）・企業様のスケジュール変更になる場合があります。
1 4 回目	就職・デビュー対策講座④ ※開催日はゲスト講師（講演者）・企業様のスケジュール変更になる場合があります。
1 5 回目	就職・デビュー対策講座⑤ ※開催日はゲスト講師（講演者）・企業様のスケジュール変更になる場合があります。
準備学習 時間外学 習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 【セルフマネジメント（自己理解）】学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント（自己理解）】事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】 新社会人の基礎力のテキスト（株式会社 教育企画センター）	

科目名 (英)	キャリア教育VI Career EducationVI	必修 選択	選択 必修	年次	3	担当教員	各担任により開講
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道を見つけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。なお、より本科目を充実したものにするために、夢をかなえ音楽業界で活躍する先輩たちの話を聞く「OB・OGセミナー」、音楽業界の方から業界が求める人物像について学ぶ「合同企業説明会」を別途開催すると共に、視野を広げて主体性を身につけるために、「海外実学研修」や「インターンシップ」などの校外学習を実施する。							
【到達目標】 1. 就職活動、デビュー活動を円滑に行うことが出来る							

授 業 計 画 ・ 内 容	
1 回目	新社会人の基礎力テキスト第1章「会社に入ること」① 第1章01-10
2 回目	新社会人の基礎力テキスト第1章「会社に入ること」② 第1章11-20
3 回目	新社会人の基礎力テキスト第2章「組織の中で働くということ」①第2章21-29
4 回目	新社会人の基礎力テキスト第2章「組織の中で働くということ」②第2章30-39
5 回目	新社会人の基礎力テキスト第3章「自分を成長させるキャリアパス」①第3章40-47
6 回目	新社会人の基礎力テキスト第3章「自分を成長させるキャリアパス」②第3章48-58
7 回目	新社会人の基礎力テキスト第4章「社会人の基礎力を高める」①第4章59-67
8 回目	新社会人の基礎力テキスト第4章「社会人の基礎力を高める」②第4章68-74
9 回目	新社会人の基礎力テキスト第5章「企業人として遵守すべき規範とは」①第5章75-86
1 0 回目	新社会人の基礎力テキスト第5章「企業人として遵守すべき規範とは」②第5章87-95
1 1 回目	新社会人の基礎力テキスト第6章「社会人として自分を守り高める」①第6章96-102
1 2 回目	新社会人の基礎力テキスト第6章「社会人として自分を守り高める」②第6章103-109
1 3 回目	卒業進級制作展 準備
1 4 回目	卒業進級制作展 準備
1 5 回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学 習	1. 日々の学校生活を学習ポートフォリオに書く 2. OB・OGセミナー、行動企業説明会、海外実学研修、動物施設での校外学習に参加する 3. 事前課題など各種レポートを書く
評価方法	1. 【セルフマネジメント（自己理解）】学習ポートフォリオ (50%) 2. 【セルフマネジメント（自己理解）】事前課題等の各種レポート (50%)
【使用教科書・教材・参考書】 新社会人の基礎力のテキスト（株式会社 教育企画センター）	

科目名 (英)	ヴォイストレーニング I	必修 選択	選択必修	年次	1		
	VoiceTraining I	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜 1 限
【授業の学習内容】							
①Chestレジスター内もしくは少しMiddleレジスターに入るくらいのエリアで歌い、安心と安定を作る。 ②それぞれの声の特性を知り、それに則したトレーニングをする。 ③Headレジスターをじっくり作っていく。 《講師プロフィール》 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】							
①自分の声と向き合う習慣を持つ。 ②このトレーニングで行う3つのスケールを覚えて、歌うことができる。(5 ノート、オクターブ、オクターブ & ハーフ) ③楽曲練習にボーカライゼーションを取り入れる習慣を持つ。 ④ステージ経験ををする。							

授業計画・内容	
1回目	【どんな授業?】 言葉を構成する要素には子音と母音があり、歌う際はこれのコンビネーションを使う。このクラスではそれらを分解し、スケール練習に入れることで、歌う下地を作る。自己紹介好きなアーティストを教えてもらうがなぜ好きなのか、どこをどうお手本にしたいのかまで聞く。こちらの到達目標も話し共有する。→トレーニング方法の講義、実演。(Liproll、Mum) 次回1コース歌ってみよう。
2回目	自分の好きな曲を歌ってみよう!!これを通してそれぞれの声の特徴を知っていきます。3つのトレーニング用スケールのレクチャー。ピアノで弾けるように。
3回目	始めはオの母音を中心にトレーニングをし、口を縦に開ける基礎を作る。課題曲①を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。ボーカライゼーションも。
4回目	オの母音をまず復習し、アの母音にも応用するように口を開ける。課題曲①をセクションを跨いで歌唱。
5回目	ウの母音をレクチャー & 実演。オとアのトレーニングおさらいと経過観察。課題曲①を1コース歌唱してみよう。
6回目	イの母音をレクチャー & 実演。オとアとウのトレーニングおさらいと経過観察。課題曲②を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。
7回目	エの母音をレクチャー & 実演。オとアとウとイのトレーニングおさらいと経過観察。課題曲②をセクションを跨いで歌唱。
8回目	全ての基本的な母音の口の開け方と共鳴をリラックスした状態でどこからどこまで歌えるのかを知る。課題曲②を1コース歌唱してみよう。
9回目	全ての基本的な母音の口の開け方と共鳴をリラックスした状態でどこからどこまで歌えるのかを知る②。課題曲③を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。
10回目	3つのスケールをピアノで弾けるかをチェック。エクササイズ。課題曲③をセクションを跨いで歌唱。
11回目	質疑 & 応答。エクササイズ。課題曲③を1コース歌唱してみよう。
12回目	課題曲①～③の中から1曲を選曲し、ステージで歌唱する。
13回目	振り返りとトレーニング。
14回目	学期末特別授業
15回目	学期末特別授業
準備学習 時間外学 習	スケールの理解の為の反復。エクササイズを体現するための反復。
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	常に今のMyBestを録音しよう!!完璧じゃなくいい。後で聞いたときにきっと過去も今も誇れると思いますよ!!練習をする事で自分の事を知ろう!!経験を重ねることで成長しますので、その経験を重ねる努力をしていこう。
【使用教科書・教材・参考書】	
ipad	

科目名 (英)	ヴォイストレーニングⅡ VoiceTrainingⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜1限
【授業の学習内容】 ①Chestレジスター〜Middleレジスターに入り、そのエリアで歌い、安心と安定を作る。 ②それぞれの声の特性を知り、それに則したトレーニングをする。 ③Headレジスターへの行き来をエクササイズに取り入れる。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーを持つゴスベルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やホーカススクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ①自分の声と向き合う習慣を持つ。 ②このトレーニングで行う3つのスケールをゆっくりでも弾きながら、歌うことができる。(5ノート、オクターブ、オクターブ&ハーフ) ③楽曲練習にボーカライゼーションを取り入れる習慣を持つ。 ④ステージ経験を積み重ねる。							

授業計画・内容	
1回目	前期を通して自分の声と向き合ってきた気づいたことをシェアしてみよう!! 3タイプに分ける。課題曲④を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。
2回目	LightChest、PullChest、Flipの3タイプのどれに属するかを診て、エクササイズを処方する。(個人をみるアプローチ) 課題曲④をセクションを跨いで歌唱。
3回目	それぞれのエクササイズへのアプローチを聴きながらアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲④を1コーラス歌唱してみよう。
4回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑤を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。
5回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑤をセクションを跨いで歌唱。
6回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑤を1コーラス歌唱してみよう。
7回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑥を使い、フレーズやセクション毎に歌ってもらおう。
8回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑥をセクションを跨いで歌唱。
9回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。課題曲⑥を1コーラス歌唱してみよう。
10回目	それぞれのエクササイズへのアプローチへのアドバイスとエクササイズのプラス。教室内リハ(曲を選んで歌唱)
11回目	後期の課題曲の中から1曲を選曲し、ステージで歌唱する。
12回目	振り返りとトレーニング。
13回目	振り返りとトレーニング。
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	自分に処方されたトレーニングを練習し、向き合う時間と歌の練習。
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	今までのMyBestの積み重ね、聞いてみましたか？時に過去の自分の歌から今の自分へのヒントが見つかることがありますよ。沢山の歌の思い出を作って行ってください。
【使用教科書・教材・参考書】 ipad	

科目名 (英)	ヴォイストレーニングⅢ Voice training Ⅲ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜 2 限
【授業の学習内容】 ①シンガーとして必要なヴォイストレーニングの基礎知識やノウハウを、実践を交えながら教えていく。また練習経過を丁寧に観察し、細やかなフィードバックや更なる練習法の提示、その後再度経過観察、を繰り返しながら声の基礎作りのサポートをする。 ②発声トレーニング (①) で学んだことを活かし歌唱の中で実践出来るようにレクチャーする。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 声の基礎が固まり、様々な課題曲を自信を持って歌いこなすことが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【発声】1年生の復習・呼吸・低音・表情筋の強化 【歌唱】共通 Bridge over troubled water (Simon&Garfunkel/LeannRimes) 発音・ゴツ・1番を歌ってみよう
2回目	【発声】呼吸・低音・表情筋の徹底トレーニング 【歌唱】共通 Bridge over troubled water (Simon&Garfunkel/LeannRimes) 復習・1曲通して歌ってみよう
3回目	【発声】ソルフェージュ・イーストレッチ・裏声 【歌唱】 Bridge over troubled water (Simon&Garfunkel/LeannRimes) ミニ発表会・1人ずつ前で歌ってみよう
4回目	【発声】呼吸・低音・表情筋・イーストレッチの徹底トレーニング 【歌唱】 男 Fly me to the moon (FrankSinatra) 女 Top of the world (Carpenters) ※以下進行は1曲目同様
5回目	【発声】ソルフェージュ・スタッカート・メソソム 【歌唱】 男 Fly me to the moon (FrankSinatra) 女 Top of the world (Carpenters)
6回目	【発声】クラシック発声・ロングトーン 【歌唱】 男 Fly me to the moon (FrankSinatra) 女 Top of the world (Carpenters)
7回目	【発声】まとめの小テスト 【歌唱】 男 Your song (EltonJohn) 女 The climb (MileyCyrus)
8回目	【発声】1対1での細かいチェックとフィードバック 【歌唱】 男 Your song (EltonJohn) 女 The climb (MileyCyrus)
9回目	【発声】前回からの経過チェック 【歌唱】 男 Your song (EltonJohn) 女 The climb (MileyCyrus)
10回目	【発声】呼吸・低音・表情筋の徹底トレーニング 【歌唱】 男 Love me tender (ElvisPresley) 女 So far away (CaroleKing) ※今回のみ仕上げ2週間です
11回目	【発声】スタッカート・メソソム・ソルフェージュ・ロングトーン・クラシック発声の徹底トレーニング 【歌唱】 男 Love me tender (ElvisPresley) 女 So far away (CaroleKing)
12回目	曲決定・勘所のチェック・衣装の打ち合わせ・発表会のリハーサル
13回目	全体発表会 (1人1曲・課題曲の中から選曲しステージで歌ってみよう)
14回目	学期末特別授業
15回目	学期末特別授業
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	人前で楽しく自信を持って歌えるように全力でサポートします！いっぱい練習して来てください！
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォイストレーニングⅣ Voice training Ⅳ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 2 限
【授業の学習内容】 ①シンガーにとって必要なヴォイストレーニングの基礎知識やノウハウを、実践を交えながら教えていく。また練習経過を丁寧に観察し、細やかなフィードバックや更なる練習法の提示、その後再度経過観察を繰り返しながら声の基礎作りのサポートをする。 ②発声トレーニング（①）で学んだことを活かし歌唱の中で実践出来るようにレクチャーする。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 声の基礎が固まり、様々な課題曲を自信を持って歌いこなすことが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【発声】前期の復習・個々の経過チェック 【歌唱】男She (ElvisCostello) 女Rainydays and mondays (Carpenters) 発音・コツ・1 番を歌ってみよう
2回目	【発声】呼吸・低音・イーストレッチ強化 【歌唱】男She (ElvisCostello) 女Rainydays and mondays (Carpenters) 復習・1 曲通して歌ってみよう
3回目	【発声】ソルフェージュ・クラシックボイス・裏声強化 【歌唱】男She (ElvisCostello) 女Rainydays and mondays (Carpenters) ミニ発表会・1 人ずつ前で歌ってみよう
4回目	【発声】表情筋・ソルフェージュ・イーストレッチ強化 【歌唱】男Can you feel the love tonight (EltonJohn) 女Milion reasons (LadyGaga) ※以下進行は1 曲目同様
5回目	【発声】1 対1 での細かいチェックとフィードバック 【歌唱】男Can you feel the love tonight (EltonJohn) 女Milion reasons (LadyGaga)
6回目	【発声】前回からの経過チェック 【歌唱】男Can you feel the love tonight (EltonJohn) 女Milion reasons (LadyGaga)
7回目	【発声】呼吸・低音・表情筋・ソルフェージュテスト 【歌唱】男Home (MichealBuble) 女Killing me softly (RobertaFlack)
8回目	【発声】スタカート・メミモム・クラシックボイステスト 【歌唱】男Home (MichealBuble) 女Killing me softly (RobertaFlack)
9回目	【発声】イーストレッチ・裏声テスト 【歌唱】男Home (MichealBuble) 女Killing me softly (RobertaFlack)
10回目	【発声】1 年間のまとめ・質疑応答 【歌唱】男Home (MichealBuble) 女Killing me softly (RobertaFlack) 後期発表会の曲決め
11回目	勘所のチェック・衣装の打ち合わせ・発表会のリハーサル
12回目	全体発表会（1 人1 曲・課題曲の中から選曲しステージで歌ってみよう）
13回目	振り返りとトレーニング。
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	人前で楽しく自信を持って歌えるように全力でサポートします！いっぱい練習して来てください！
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォイストレーニングⅤ	必修 選択	選択必修	年次	3		
	Voice TrainingⅤ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】							
①各生徒の目標や問題点にフォーカスしてカウンセリングしていきます。②ウォーミングアップ、発声練習の具体的なやり方のレクチャーを全体で行い、その後個別に指導していきます。③発声練習で学んだ姿勢、呼吸、声の出し方を実際に歌で練習していきます。							
【講師プロフィール】							
200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。							
【到達目標】							
①歌う前の適切なウォーミングアップと発声練習を習得、習慣化し、いつもベストなコンディションで歌えるようになる							
②学んだ発声の技術を歌に応用できるようになる							
③他者との比較ではなく自分の成長に集中し学習できるようになる							

授業計画・内容	
1回目	短いカウンセリング（質疑応答）、目標の確認、発声チェック、歌唱チェック
2回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
3回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
4回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
5回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
6回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
7回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
8回目	【発表会】各学生の改善点、課題に沿った課題曲を歌唱
9回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
10回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
11回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
12回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
13回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
14回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
15回目	【発表会】各学生の改善点、課題に沿った課題曲を歌唱
準備学習 時間外学習	発声練習 課題曲練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■発声の知識、理解度 ■課題曲
受講生への メッセージ	基礎力を身につけて弱点を克服するのはもちろんですが、しっかりと得意なところを伸ばしていきましょう。 体調、コンディションの管理なども徹底的にやっていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ヴォイストレーニングVI	必修 選択	選択必修	年次	3		
	Voice TrainingVI	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】							
①各生徒の目標や問題点にフォーカスしてカウンセリングしていきます。②ウォーミングアップ、発声練習の具体的なやり方のレクチャーを全体で行い、その後個別に指導していきます。③発声練習で学んだ姿勢、呼吸、声の出し方を実際に歌で練習していきます。							
【講師プロフィール】							
200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。							
【到達目標】							
①歌う前の適切なウォーミングアップと発声練習を習得、習慣化し、いつもベストなコンディションで歌えるようになる							
②学んだ発声の技術を歌に応用できるようになる							
③他者との比較ではなく自分の成長に集中し学習できるようになる							

授業計画・内容	
1回目	短いカウンセリング（質疑応答）、目標の確認、発声チェック、歌唱チェック
2回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
3回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
4回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
5回目	外化、発声チェック、歌唱チェック、発表会リハーサル
6回目	【発表会】各学生の改善点、課題に沿った課題曲を歌唱
7回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
8回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
9回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
10回目	外化、発声チェック、歌唱チェック（目標に合わせて深くアプローチ）
11回目	発表会リハーサル
12回目	【発表会】各学生の改善点、課題に沿った課題曲を歌唱
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	発声練習 課題曲練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■発声の知識、理解度 ■課題曲
受講生への メッセージ	レッスンごとに皆さんの目標をより明確にしていきます。 歌い続けられる声とマインドを一緒に作っていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ディクシオン I Diction I	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年 木曜日 2 限目
【授業の学習内容】 洋楽の名曲を使用し、言葉を明確に伝え、音を正確に歌う技術を学びます。 【基礎的な練習】 母音、子音の発音練習 早口言葉 【課題曲】 リエゾン、音節の区切り方、アクセントなど、英語の楽曲を使用し、言葉とリズムを正確に歌うテクニックを実践していきます。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスベルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 英語を恐れず歌えるようになる。 英語の子音、母音を理解し、歌で実践できるようになる。 子音でリズムを明確に再現し、母音のポジションをコントロールしてピッチを明確に歌えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	まずは楽しく歌ってみよう！ 課題曲①Beatles「Hard days night」□
2回目	まずは楽しく歌ってみよう！ 課題曲①Beatles「Hard days night」□
3回目	簡単な子音にチャレンジ (th, f, v) 課題曲②Elvis Presley「Can't help falling in love with you」 □
4回目	簡単な母音にチャレンジ (a, e, i, ou, u) 課題曲②Elvis Presley「Can't help falling in love with you」 □
5回目	日本語にない子音にチャレンジ (l, r) 課題曲③Cyndi Lauper「Time after time」
6回目	日本語にない母音にチャレンジ (æ, ʌ, ə, ɔ) 課題曲③Cyndi Lauper「Time after time」
7回目	発音ミニテスト
8回目	テストの全体的なフィードバック、苦手発音の洗い出し 課題曲④Boys town gang「Can't take my eyes off you」□
9回目	苦手発音を強化しましょう 課題曲④Boys town gang「Can't take my eyes off you」□
10回目	ロックをカッコよく 課題曲⑤Bon Jovi 「You give love a bad name」
11回目	ロックをカッコよく 課題曲⑤Bon Jovi 「You give love a bad name」
12回目	テスト課題曲 Gloria Estefan「Conga」 練習
13回目	テスト Gloria Estefan「Conga」
14回目	学期末特別授業
15回目	学期末特別授業
準備学習 時間外学習	発音の宿題。課題曲の練習□
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	英語の発音を名曲を通してマスターしていきます。 今まで英語が苦手だった人も、「知らなかったことを知る事」「練習する事」で楽しんで克服していきましょう！ 世界を目指すヴォーカリストになりましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ディクシオン II Diction II	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年 木曜日 2 限目
【授業の学習内容】 前期よりもさらに発音の難易度が上がります。TH、LR、リエゾンなど苦手な部分にフォーカスして練習していきます。 【基礎的な練習】 母音、子音の発音練習 早口言葉 【課題曲】有名な英語の楽曲（スタンダード）を使用します。 （講師プロフィール） 200曲以上をレパートリーに持つゴスベルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 英語の発音を恥ずかしながら歌えるようになる。 英語の子音、母音を理解し、歌で実践できるようになる。 子音でリズムを明確に再現し、母音のポジションをコントロールしてピッチを明確に歌えるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の発音の復習、苦手な発音の確認 課題曲①Little Eva「Locomotion」□
2回目	苦手に発音に気を付けて課題曲に挑戦してみよう 課題曲①Little Eva「Locomotion」□□
3回目	リエゾン強化週 課題曲②Earth wind & Fire「September」□
4回目	リエゾン強化週2 課題曲②Earth wind & Fire「September」□
5回目	TH強化週 課題曲③Aerosmith 「I don't wanna miss a thing」□
6回目	TH強化週2 課題曲③Aerosmith 「I don't wanna miss a thing」□
7回目	発音ミニテスト □
8回目	LR強化週 課題曲④Last Christmas□
9回目	LR強化週 課題曲④Last Christmas□
10回目	現在地を確認しましょう。これまで練習した曲の中から歌唱
11回目	テスト課題曲 Aerosmith「Walk this way」練習
12回目	テスト Aerosmith「Walk this way」
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	発音の宿題。課題曲の練習□
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	英語の発音を名曲を通してマスターしていきます。 今まで英語が苦手だった人も、「知らなかったことを知る事」「練習する事」で楽しんで克服していきましょう！ 世界を目指すヴォーカリストになりましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ディクションⅢ	必修 選択	選択必修	年次	3		
	DictionⅢ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜日 2 限目
【授業の学習内容】							
1年生の時に学んだ発音を歌のテクニックとしてさらに強化し、それぞれの学生の苦手な発音に着目して強化していきます。リエゾン、音節の区切り方、アクセントなど、英語をかつこよく歌うためのテクニックを、課題曲を通して実践していきます。色々な年代のスタンダードな曲を課題曲/アンサンブルの授業の楽曲を課題曲にします。							
〈講師プロフィール〉							
200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】							
英語の歌に対する苦手意識を克服する。 子音、母音の発音記号を理解し、課題曲の歌のスタイルに合わせて使い分けられるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	バラードをゆっくりはっきりしっかりと歌おう！課題曲①Roberta Flack 「Killing me softly」□
2回目	バラードをゆっくりはっきりしっかりと歌おう！パート2 課題曲①Roberta Flack 「Killing me softly」□
3回目	できてそうで出来てない子音を強化 課題曲②No doubt 「Don't speak」□
4回目	できてそうで出来てない子音を強化 パート2 課題曲②No doubt 「Don't speak」
5回目	リズムを歌おう 課題曲③Carole King 「You've got a friend」
6回目	リズムを歌おう パート2 課題曲③Carole King 「You've got a friend」□
7回目	発音小テスト
8回目	NY風、バラードをゆっくりしっかりと歌おう！課題曲④Eric Carmen「All by myself」□
9回目	NY風、バラードをゆっくりしっかりと歌おう！パート2課題曲④Eric Carmen「All by myself」□
10回目	かつこよく発音しましょう 課題曲⑤Michael Jackson「Man in the mirror」□
11回目	かつこよく発音しましょう パート2 課題曲⑤Michael Jackson「Man in the mirror」□
12回目	テスト（自由曲）の歌唱
13回目	学期末特別授業
14回目	学期末特別授業
15回目	イベント実習
準備学習 時間外学習	発音の宿題 課題曲の練習□
評価方法	実技テスト（提示された課題曲に対して、正しい発音で歌唱できているか評価する） 出席率
受講生への メッセージ	英語の発音を名曲を通してマスターしていきます。 今まで英語が苦手だった人も、「知らなかったことを知る事」「練習する事」で楽しんで克服していきましょう！ 世界を目指すヴォーカリストになりましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
発音練習用プリント、歌詞	

科目名 (英)	ベースラインコンセプト I Bassline Concepts I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜3限
学科・コース	音楽プロデュース科						
【授業の学習内容】 音楽の3要素であるメロディ・リズム・ハーモニーに対する感性、知識、技能を深めるため五線上の音符やリズム譜に頼む。ベースを専門分野とするために楽器の各部の知識、音が出る仕組み、メンテナンスの基礎を学習する。ベースラインを構築する為に必要なリズムトレーニング(8ビート系)を学習しリズム譜読み、書き取りを学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため読み取った教材のリズムをクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。ベースラインを構築する為に必要なコード(3和音、属7)のコードトーンを学習する。ベースラインを構築する為に必要なメジャースケール、ナチュラルマイナースケールを学習する。ベースラインを構築しアンサンブル中で演奏する為に必要な音楽性を身につけるために楽曲を用いてAメロ・Bメロ・サビ等曲の構成を書きとる方法を学習する。ベースラインに彩りを加えるために必要な経過音の知識・センスを学習する。 【講師プロフィール】 2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。2011～2013 年横浜ジャズプロムナードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国のChilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM「Session 2016」に出演。2017 年にNHK-FM「Session 2017」に出演。2023年韓国蔚山ジャズフェスティバルに出演予定。また多くのCD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黑白波等のCMにてベースの演奏を担当。							
【到達目標】 自分の楽器をきちんとした状態で維持できるようになる。 カウント、小節数を数えながら楽曲を聴けるようになる。Aメロ・Bメロ・サビ等の楽曲の構成について理解できるようになる。4 小節単位・8 小節単位の感覚が身につく。コード譜を見てルート音を弾きながら要所に経過音を挿入できるようになる。主に8ビートについて楽曲毎のベースラインの違い、ドラムとのコンビネーションを聞き取れるようになる。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため教材にそったベースラインをクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							

授業計画・内容	
1回目	エレクトリックベース各部の名称、音が出る仕組みを説明できる。楽器の簡単な健康チェックができる。1 2 個の音の場所が説明できる。
2回目	Cメジャースケールが複数の場所で弾ける。コード譜の8分音符のルート弾きができる① 8ビートのリズムが読める①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
3回目	Cナチュラルマイナースケールが複数の場所で弾ける。コード譜の8分音符のルート弾きができる② 8ビートのリズムが読める②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
4回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習① コード譜の8分音符のルート+ 5度弾きができる① 8ビートのリズムが読める③読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
5回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習② コード譜の8分音符のルート+ 5度弾きができる② 8ビートのリズムが読める④読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
6回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習③ コード譜の8分音符の1 + 5 + 7度弾きができる① 8ビートのリズムが読める⑤読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
7回目	Cメジャースケールを用いたスケール練習④ コード譜の8分音符の1 + 5 + 7度弾きができる② 8ビートのリズムが読める⑥読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
8回目	Aナチュラルマイナースケールを用いたスケール練習① コード譜の8分音符の1 + 3 + 5度弾きができる① 8ビートのリズムが読める⑦読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
9回目	Aナチュラルマイナースケールを用いたスケール練習② コード譜の8分音符の1 + 3 + 5度弾きができる② 8ビートのリズムが読める⑧読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
10回目	Aマイナーペンタトニックスケールとブルーノートを用いたスケール(ブルーススケール)の練習① コード譜の1 + 3 + 5 + 7弾きができる。8ビートのリズム譜が書き取れる①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
11回目	Aマイナーペンタトニックスケールとブルーノートを用いたスケール(ブルーススケール)の練習② コード譜の1 + 3 + 5 + 7弾きができる。8ビートのリズム譜が書き取れる②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
12回目	Aマイナーペンタトニックスケールとブルーノートを用いたスケール(ブルーススケール)の練習③ コード譜のルート弾きをしながら経過音を挿入できる。8ビートのリズム譜が書き取れる③ 読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。到達度確認
13回目	学期末テスト
14回目	振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。 授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	"授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度(20%) 自己実現力と演奏力(歌唱力)の向上度(20%) "□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽の力(グループ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4～8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅡ Bassline ConceptsⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜3限
【授業の学習内容】 音楽の3要素であるメロディ・リズム・ハーモニーに対する感性、知識、技能を深めるため五線上の音符やリズム譜に親しむ。ベースラインを構築するために必要なリズムトレーニング(16ビート系、3連系)を学習しリズム譜読み、書き取りを学習する。ベースラインを構築するために必要なコード(4和音、属7)のコードトーンを学習する。ベースライン、フィルイン等を構築するために必要なアイオニアン・ドリアン・フリジアン・フリジアンメジャー・リディアン・ミクソリディアン・エオリアン・ロクリアの各スケールを学習する。ベースラインを構築しアンサンブル中で演奏するために必要な音楽性を身につけるために楽曲を用いてAメロ・Bメロ・サビ等曲の構成及びルート音を書きとる方法を学習する。ベースラインに彩りを加えるために必要な経過音の知識、用いる場合の条件等を学習する。重要なコード進行の1つであるツー・ファイブ・ワンについて学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため学習した内容をクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。 【講師プロフィール】 2010年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演、2011～2013年横浜ジャズブルームナードに出演、2015年大阪高槻ジャズストリート、韓国のChilpo国際ジャズフェスティバルに出演、2016年にNHK-FM「Session 2016」に出演、2017年にNHK-FM「Session 2017」に出演、また多くのCDのレコーディングにも参加、ほっともっと、黒白波等のCFにてベースの演奏を担当、2010年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演、2011～2013年横浜ジャズブルームナードに出演、2015年大阪高槻ジャズストリート、韓国のChilpo国際ジャズフェスティバルに出演、2016年にNHK-FM「Session 2016」に出演、2017年にNHK-FM「Session 2017」に出演、2023年韓国蔚山ジャズフェスティバルに出演予定、また多くのCDのレコーディングにも参加、ほっともっと、黒白波等のCFにてベースの演奏を担当。							
【到達目標】 カウント、小節数を数えながら楽曲を聴けるようになる。Aメロ・Bメロ・サビ等の楽曲の構成について理解できるようになる。ルート音が聞き取れるようになる。4小節単位・8小節単位の感覚が身につく、レコード、ダル・セーニョ、タ・カーボ等の譜面の進行も読める。コード譜を見てルート音、3度、5度、7度の音を組み合わせさせて弾きながら要所に経過音を挿入できるようになる。8ビートに加えて16ビート、3連系について楽曲毎のベースラインの違い、ドラムとのコンビネーションを聞き取れるようになる。メジャー及びマイナーキーのツー・ファイブ・ワンのコード進行のスケール及びアルペジオが弾けるようになる。以上の内容を基に各習得段階に応じた任意の楽曲に沿ってベースラインを作成し将来のDTM等の制作時の要求に応えるためクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							

授業計画・内容	
1回目	ドリアンスケールの練習① ルート音聞き取り練習① 16ビートのリズムが読める①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
2回目	ドリアンスケールの練習② ルート音聞き取り練習② 16ビートのリズムが読める②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
3回目	フリジアンスケールの練習 ルート音、構成の聞き取り練習① 16ビートのリズムが読める③読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
4回目	フリジアンメジャースケールの練習 ルート音、構成の聞き取り練習② 16ビートのリズムが読める④読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
5回目	リディアンスケールの練習 ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習① 3連系のリズムが読める①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
6回目	ミクソリディアンスケールの練習① ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習② 3連系のリズムが読める②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
7回目	ミクソリディアンスケールの練習② ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習③ 16ビートのリズムが書き取れる①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
8回目	エオリアンスケールの練習 ルート音、構成を基に要所のフレーズも加えた簡易的なベース譜の作成練習④ 16ビートのリズムが書き取れる②読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
9回目	ロクリアンスケールの練習 メジャーキーのツー・ファイブ・ワンのスケールの練習 16ビートのリズムが書き取れる③読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
10回目	各種スケール総合練習① メジャーキーのツー・ファイブ・ワンのアルペジオ練習 16ビートのリズムが書き取れる④読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
11回目	各種スケール総合練習② マイナーキーのツー・ファイブ・ワンのスケール練習 3連系のリズムが書き取れる①読み取ったリズムをクリックと共に録音し自己評価できる。
12回目	ダイアトニックスケール及びアルペジオの総合練習 メジャーキー・マイナーキーのツー・ファイブ・ワンの総合練習 到達度確認
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。 授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	"授業へ取り組む姿勢（60%） 各課題曲での目標の達成度、実戦度（20%） 自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（20%）"□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽の力(グループ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4～8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
	Bassline ConceptsⅢ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜4限
学科・コース	音楽プロデュース科						
【授業の学習内容】							
1 年次同名授業で習得したダイアトニックスケール及びメジャー、マイナーキーのツー・ファイブ・ワンにおけるスケール及びアルペジオを用いて様々な曲に対応したベースラインを構築・アレンジする方法を実際の曲などから簡易的なベース譜の作成練習を通して学習する。コード進行の基礎となるダイアトニックコードおよび付帯するセカンダリドミナント・リレイテッドⅡ m7を暗記して簡易的なベース譜の作成効率を上げる。ディミッシュコードのコードトーンとスケールと使用方法を学習する。オルタードスケールと使用方法を学習する。オリジナル曲に対してベースラインを構築する方法を学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため構築したベースラインをクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。 【講師プロフィール】 2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。 2011～2013 年横浜ジャズプロムナードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016」に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017」に出演。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等のCFにてベースの演奏を担当。2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。2011～2013 年横浜ジャズプロムナードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016」に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017」に出演。2023年韓国蔚山ジャズフェスティバルに出演予定。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等のCFにてベースの演奏を担当。							
【到達目標】							
メジャーキーのダイアトニックコード及び付帯するセカンダリドミナント・リレイテッドⅡ m7をベースの指板を用いて表にまとめて書けるようになる。ダイアトニックコードのアルペジオ及びメジャー、マイナーキーのツー・ファイブ・ワンのアルペジオが弾ける。曲のコード進行においてルート音、3度、5度、7度等を使用してベースラインを構築できる。構築したベースラインを演奏しながら効果的に経過音を挿入できる。曲のキーに対応したブルーススケールを用いてフィルイン及びベースソロがとれる。曲のコード進行に沿ったスケールを弾ける。以上の内容を基に各習得段階に応じた任意の楽曲に沿ってベースライン・フィルイン等を作成し将来のDTM等の制作時の要求に応えるためクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							

授業計画・内容	
1回目	メジャーキーのダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡ m7をまとめた表が書ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
2回目	アイオニアン、ドリアン、フリジアン、フリジアンメジャー、リディアン、ミクソリディアン、エオリアン、ロリアンの各スケールが弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
3回目	メジャー、マイナーキーのツー・ファイブ・ワンのスケール及びアルペジオが弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
4回目	既存の曲の譜面を見てルート音が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
5回目	既存の曲の譜面を見てルート音 + 5 度が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
6回目	既存の曲の譜面を見てルート音 + 3 度 + 5 度が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
7回目	既存の曲の譜面を見てルート音 + 3 度 + 5 度 + 7 度が弾ける。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
8回目	既存の曲の譜面を見てアヴェイラブル・ノート・スケールが弾ける①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
9回目	既存の曲の譜面を見てアヴェイラブル・ノート・スケールが弾ける②与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
10回目	既存の曲の譜面を見てアヴェイラブル・ノート・スケールが弾ける③与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
11回目	既存の曲の譜面を見てマイナーペンタトニックスケールとブルーノートを用いてソロが取れる①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
12回目	既存の曲の譜面を見てマイナーペンタトニックスケールとブルーノートを用いてソロが取れる② 与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。到達度確認
13回目	学期末テスト
14回目	振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。 授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	"授業へ取り組み姿勢（60%） 各課題曲での目標の達成度、実戦度（20%） 自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（20%）"□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽の力(グループ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4～8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅣ Bassline ConceptsⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜4限
【授業の学習内容】 既存の曲、オリジナル曲を聴いてキーを特定する方法を学習する。そのキーでのコード進行をまとめた表を書く方法を学習する。またベース、ドラムの基本的なパターンを聞き取る練習をする。ルート音を聞き取る練習をする。聞き取ったルート音をコード進行をまとめた表に照らしてコードネームを類推し、確認する練習をする。それらを基にベースラインを構築する方法を学習する。ディミニッシュやオルタードスケールについて学習する。 リハーモナイズの基本を学習する。将来のDTM等の制作時の要求に応えるため学習した内容をクリックに合わせて録音する。 【講師プロフィール】 2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。 2011～2013 年横浜ジャズプロムナードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016」に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017」に出演。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等の CFにてベースの演奏を担当。2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。2011～2013 年横浜ジャズプロムナードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016」に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017」に出演。2023年韓国岡山ジャズフェスティバルに出演予定。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等のCFにてベースの演奏を担当。							
【到達目標】 ベース音からその曲のキーを確定できる。そのキーでのコード進行をまとめた表を書ける。曲の構成要素を聞き取ることができる。構成要素ごとのベースとドラムのパターンを聞き取れる。ルート音とコード進行をまとめた表からコードを確定できる。コード進行からベースラインを構築する事ができる。簡単なリハーモナイズができる。以上の内容を基に各習得段階に応じた任意の楽曲に沿ってベースライン・フィルイン等を作成し将来のDTM等の制作時の要求に応えるためクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							

授業計画・内容	
1回目	曲のキーを使ってあるベースの音から類推し、確認して確定できる。そのキーにおけるダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡ m7をまとめた表が書ける。曲のキーを使ってあるベースの音から類推し、確認して確定できる。そのキーにおけるダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡ m7をまとめた表が書ける。与えられた
2回目	曲を聴きイントロ、Aメロ・Bメロ・サビ等の曲の構成要素を書き取れる。ベースとドラムを聴き基本的なパターンを聞き取れる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
3回目	曲のルート音を聞き取ることができる。そのルート音から曲のキーにおけるダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡ m7をまとめた表を用いてコードを類推し確認できる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
4回目	確定したコード進行と聞き取った基本的なパターンから音使いの規則性を探し、曲の構成毎にまとめることができる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
5回目	作成した簡易的なベース譜を見ながらベースを演奏する事ができる。オリジナルのフィルイン等を聞き取り譜面にすることができる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
6回目	ディミニッシュコードのアルペジオとスケールを弾くことができる。バッキングディミニッシュの用法について説明できる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
7回目	オルタードスケールを弾くことができる。オルタードスケールの用法について説明できる。フリジアンメジャースケールとの違いを説明できる。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
8回目	課題曲(唱歌等)のコード進行をアレンジし、メロディを阻害しないような別のコード進行を考えられる①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
9回目	課題曲(唱歌等)のコード進行をアレンジし、メロディを阻害しないような別のコード進行を考えられる②与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
10回目	オリジナル曲に対してダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡ m7をまとめた表を基に与えられたリズムパターンの上でベースラインを構築する①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。
11回目	オリジナル曲に対してダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡ m7をまとめた表を基に与えられたリズムパターンの上でベースラインを構築する①与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。 期末テスト
12回目	オリジナル曲に対してダイアトニックコード及びセカンダリドミナント、リレイテッドⅡ m7をまとめた表を基に与えられたリズムパターンの上でベースライン、フィルインを構成する。与えられたコード進行に対してベースラインを作成しクリックに合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。 到達度確認
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。 授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	"授業へ取り組み姿勢（60％） 各課題曲での目標の達成度、実戦度（20％） 自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（20％）"□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽の力(グループ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4～8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅤ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
	Bassline Concepts V	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜1限
学科・コース 音楽プロデュース科							
【授業の学習内容】 ポピュラー音楽のリズムの題材として用いられる世界各国の民族音楽を基にしたリズムパターンを実際の曲を通して学びベースラインの動きの特徴を学ぶ。I～IVまでで学習したコード進行の理論及びベースラインの構築方法を基にオリジナル曲のコード進行においてもそれらの特徴的なベースラインを作成し演奏することができるようになる。また各国の民族音楽に特徴的なコード進行、リズムパターン等を学習して既存の曲等のアレンジメントに活かすことができるようになる。オリジナルのコード進行を作成し演奏する。 【講師プロフィール】 2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。 2011～2013 年横浜ジャズプロムナードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016 に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017 に出演。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等の CF にてベースの演奏を担当。2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。2011～2013 年横浜ジャズプロムナードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016 に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017 に出演。2023年韓国蔚山ジャズフェスティバルに出演予定。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等の CF にてベースの演奏を担当。							
【到達目標】 各国の民族音楽のリズムの特徴とベースラインの音使いの特徴を譜面でできるようになる。基本的なコード進行を想定し各国の民族音楽風にベースラインを作成できる。作成した音源に合わせてベースラインを録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。既存の曲を各国の民族音楽風にアレンジしてベースラインを作成し音源に合わせて録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							

授業計画・内容	
1回目	ボサノバの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
2回目	サンバの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
3回目	ショーロの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
4回目	ルンバの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
5回目	マンボの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
6回目	チャチャチャの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
7回目	レゲエの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
8回目	タンゴの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
9回目	スウィングの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
10回目	ロックの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
11回目	ロックバラードの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
12回目	ヒップホップの曲を聴きベースラインを聴き取ることができる。そのベースラインの特徴を学習し他のコード進行上でもベースラインが構築できるようになる。構築できたベースラインを音源に合わせて演奏できる。演奏を録音し自己評価を行う。
13回目	学期末テスト
14回目	振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	"授業へ取り組み姿勢（60%） 各課題曲での目標の達成度、実戦度（20%） 自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（20%）"□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽の力(グループ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4～8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	ベースラインコンセプトⅥ Bassline ConceptsⅥ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜1限
【授業の学習内容】 既存の曲(60～00')を聴いて曲の構成、コード進行及びベースラインを書き留めコード進行の分析及びベースラインの分析を行う。分析を基に各年代の曲の特徴を捉えたコード進行を作成し演奏・録音する。 【講師プロフィール】 2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。 2011～2013 年横浜ジャズブロードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016」に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017」に出演。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等の CFにてベースの演奏を担当。2010 年リーダーアルバム「THE SONG OF STRINGS」発表2013 年3月知多半島音楽祭にリーダーユニット「ザ・ソング・オブ・ストリングス」で出演。2011～2013 年横浜ジャズブロードに出演。2015 年大阪高槻ジャズストリート、韓国の Chilpo 国際ジャズフェスティバルに出演。2016 年にNHK-FM Session 2016」に出演。2017 年にNHK-FM Session 2017」に出演。2023年韓国蔚山ジャズフェスティバルに出演予定。また多くの CD のレコーディングにも参加。ほっともっと、黒白波等のCFにてベースの演奏を担当。							
【到達目標】 各年代の既存の曲の構成、コード進行、ベースラインを書き留めることができる。コード進行及びベースラインについてこれまで学習した理論等を用いて分析ができる。これらに基づいて各年代の既存の曲の特徴を捉えたコード進行を作成できる。作成したコード進行にベースラインを作成し録音しプレイバックを聴いて自己評価を行う。							

授業計画・内容	
1回目	60年代の既存の曲を聴きコード進行、ベースラインを書き留める。そしてコード進行を分析する。それらを基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。
2回目	前回の分析結果を基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。録音して自己評価を行う。
3回目	70年代の既存の曲を聴きコード進行、ベースラインを書き留める。そしてコード進行を分析する。それらを基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。
4回目	前回の分析結果を基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。録音して自己評価を行う。
5回目	80年代の既存の曲を聴きコード進行、ベースラインを書き留める。そしてコード進行を分析する。それらを基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。
6回目	前回の分析結果を基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。録音して自己評価を行う。
7回目	90年代の既存の曲を聴きコード進行、ベースラインを書き留める。そしてコード進行を分析する。それらを基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。
8回目	前回の分析結果を基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。録音して自己評価を行う。
9回目	00年代の既存の曲を聴きコード進行、ベースラインを書き留める。そしてコード進行を分析する。それらを基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。
10回目	前回の分析結果を基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。録音して自己評価を行う。
11回目	10年代の既存の曲を聴きコード進行、ベースラインを書き留める。そしてコード進行を分析する。それらを基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。
12回目	前回の分析結果を基に曲の特徴を捉えたコード進行を作成しベースラインを作成し演奏する。録音して自己評価を行う。
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	基本的に準備不要で授業に参加します。フレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。 授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	"授業へ取り組む姿勢（60%） 各課題曲での目標の達成度、実戦度（20%） 自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（20%）"□
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニックや表現、人を感動させる音楽の力(グループ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンなどでYoutubeを検索。 テキスト(4～8小節程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布。	

科目名 (英)	グループアナライズ I Groove Analyze I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜2限
【授業の学習内容】 ダイアトニックコード、ドミナントコード、Key内、key外でのコードに対して使用可能なアルペジオとスケールを学習し、アレンジ能力やアドリブ時のフレーズに幅を広げることを目的とした授業になります。 (講師プロフィール) 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせ、コントラバスとエレキベースを使い分けている。							
【到達目標】 前期の期間で指板上の音の位置を覚え、譜面上のRoot音(+5th)を即座に演奏可能になること。							

授業計画・内容	
1回目	楽器(ベース)についての基礎知識とフォームについて
2回目	8ビート(8beat)のルート弾き①
3回目	8ビート(8beat)のルート弾き②
4回目	8ビート(8beat)のRoot+5thによるベースライン①(上の5thのみ)
5回目	8ビート(8beat)のRoot+5thによるベースライン②(上の5thのみ)
6回目	8ビート(8beat)のRoot+5thによるベースライン③(上の5thのみ)
7回目	8ビート(8beat)のRoot+5thによるベースライン①②③(上の5th+下の5th)
8回目	8ビート(8beat)のRoot+5thによるベースライン①②③(上の5th+下の5th)
9回目	8ビート(8beat)のRoot+3rd+5thによるベースライン①
10回目	8ビート(8beat)のRoot+3rd+6thによるベースライン②
11回目	8ビート(8beat)のRoot+3rd+7thによるベースライン③
12回目	8ビート(8beat)のRoot+3rd+5thによるベースライン①②③(ワンポジション)
13回目	振り返り
14回目	テスト
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	テキストの「グループアナライズ・ドリル」を基に予習と復習（授業内での説明も多くあるので復習をしっかりとしてもらいたい）。
評価方法	期末テスト(60%) 出席、態度(40%)
受講生への メッセージ	ベースをしっかり弾く為の基礎を作る授業になります。 一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad、もしくはPCでテキストを開くので必ずどちらかを持参してください。	

科目名 (英)	グループアナライズ I Groove Analyze I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜2限
【授業の学習内容】 ダイアトニックコード、ドミナントコード、Key内、key外でのコードに対して使用可能なアルペジオとスケールを学習し、アレンジ能力やアドリブ時のフレーズに幅を広げることを目的とした授業になります。 (講師プロフィール) 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせ、コントラバスとエレキベースを使い分けている。							
【到達目標】 前期に続き後期ではコードの3rd、7thをプラスした演奏を可能になること。 また16beatにも触れ、より細かいリズムの中での安定した演奏、グルーブを生み出す。							

授業計画・内容	
1回目	16ビート (16beat) のRoot+3rd+5th+7thによるベースライン①
2回目	16ビート (16beat) のRoot+3rd+5th+7thによるベースライン②
3回目	16ビート (16beat) のRoot+3rd+5th+7thによるベースライン③
4回目	16ビート (16beat) のRoot+3rd+5th+7thによるベースライン①②③ (ワンポジション)
5回目	16ビート (16beat) のRoot+3rd+5th+7thによるベースライン①②③ (ワンポジション)
6回目	Sample song1-① Root+3rd+5thを基本とした8beatのベースラインを弾こう
7回目	Sample song1-② Root+3rd+5thを基本とした8beatのベースラインを弾こう
8回目	Sample song2-① Root+3rd+5thを基本とした8beatのベースラインを弾こう
9回目	Sample song2-② Root+3rd+5thを基本とした8beatのベースラインを弾こう
10回目	Sample song3-① Root+3rd+5thを基本とした8beatのベースラインを弾こう
11回目	Sample song3-② Root+3rd+5thを基本とした8beatのベースラインを弾こう
12回目	まとめ
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学習	テキストの「グループアナライズ・ドリル」を基に予習と復習 (授業内での説明も多くあるので復習をしっかりとしてもらいたい)。
評価方法	期末テスト (60%) 出席、態度 (40%)
受講生への メッセージ	ベースを弾く上での基礎的な運指や姿勢、体作りを行い安定したリズムやグルーブを一緒に生み出していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad、もしくはPCでテキストを開くので必ずどちらかを持参してください。	

科目名 (英)	グループアナライズⅢ Groove AnalyzeⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜1限
【授業の学習内容】 ダイアトニックコード、ドミナントコード、Key内、Key外のコードに対しての使用可能なアルペジオとスケールを学習し、アレンジ能力やアドリブ時のフレーズに幅を持たせることと、様々なリズムパターンを用いてのグループ鍛錬を目的とした授業になります。 (講師プロフィール) 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせ、コントラバスとエレキベースを使い分けている。							
【到達目標】 前期でアルペジオの理解やジャンルごとのリズムパターンに沿ったフレーズの構築ができる。							

授業計画・内容	
1回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ①と符割感覚トレーニング
2回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ②とゴーストノート
3回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ③と16裏トレーニング
4回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ③と16裏トレーニング
5回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ⑤とポリリズム
6回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ⑥と変拍子フレーズ
7回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ⑦とハーモニクス
8回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのアルペジオ⑧と速い弦跳び
9回目	アルペジオ復習
10回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール①とBluesフレーズ
11回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール④[ワンポジション]とR&Rフレーズ
12回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール④[ワンポジション]とR&Rフレーズ
13回目	振り返り
14回目	テスト
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	テキストの「グループアナライズ・ドリル」を基に予習と復習（授業内での説明も多くあるので復習をしっかりとしてもらいたい）。
評価方法	期末テスト（60%） 出席、態度(40%)
受講生への メッセージ	ベースをしっかり弾く為の基礎を作る授業になります。 一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad、もしくはPCでテキストを開くので必ずどちらかを持参してください。	

科目名 (英)	グループアナライズⅣ Groove AnalyzeⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜1限
【授業の学習内容】 ダイアトニックコード、ドミナントコード、Key内、Key外のコードに対しての使用可能なアルペジオとスケールを学習し、アレンジ能力やアドリブ時のフレーズに幅を持たせることと、様々なリズムパターンを用いてのグループ鍛錬を目的とした授業になります。 (講師プロフィール) 福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・J-Pop・ラテン・ジャズ・ゴスペル R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌など、様々な音楽スタイルを演奏する。それらスタイルや 楽曲に合わせ、コントラバスとエレキベースを使い分けている。							
【到達目標】 曲中に使えるリックの作り方、ウォーキングベース等のベースラインの構成を即座に作る知識と演奏できる技術、アドリブ演奏時の対応力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール②[ワンポジション]とFUNKSlapフレーズ
2回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール③と高速Slapフレーズ[サムダウン、ロータリー奏法]
3回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール③[ワンポジション]とMetalリフ
4回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール④と高速Metalリフ
5回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール④[ワンポジション]とコード弾き
6回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール⑤とコード弾き
7回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール⑤[ワンポジション]とコード弾き
8回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール⑥とソロベースについて
9回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール⑥[ワンポジション]とソロベースについて
10回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール⑦とベースアンサンブル
11回目	ダイアトニックコード、セカンダリドミナント及びリレイテッドⅡ m7、Ⅱ m7[b 5]を含む参考曲でのスケール⑦[ワンポジション]とベースアンサンブル
12回目	まとめ
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学習	テキストの「グループアナライズ・ドリル」を基に予習と復習（授業内での説明も多くあるので復習をしっかりとしてもらいたい）。
評価方法	期末テスト（60%） 出席、態度(40%)
受講生への メッセージ	ベースを弾く上での基礎的な運指や姿勢、体作りを行い安定したリズムやグループと一緒に生み出していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad、もしくはPCでテキストを開くので必ずどちらかを持参してください。	

科目名 (英)	グループアナライズⅤ Groove Analyze Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜2限
【授業の学習内容】 世の中に多種ある音楽ジャンルやスタイルのグルーブ(ノリ)を分析(アナライズ)し、自分の表現する音楽に応用できる力を養います。 教材からは、国内外のレジェンドベーシストの紹介と研究・サウンドメイク・コード・スケール・グルーブ・テクニクが学べます。ベーシスト(広くはミュージシャンとして)に必要なリズム(グルーブ)と、音楽知識と技術を習得する授業です。 【講師プロフィール】福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・ラテン・ジャズ・ゴスペル・R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌などを演奏する。それらスタイルや楽曲に合わせてコントラバスとエレキベースを使い分けている。							
【到達目標】 ①コードネームから構成される音が理解できるようになる。 ②世の中の音楽を聴いてリズムのスタイル(Rock, Jazz, Funkといったジャンルと8beat, 16beatといったリズムの細かさ)を判別できるようになる。 ③歴史的・世界的に有名なベーシストたちを知ること。 ④その特徴となる奏法技術やグルーブを経験・習得する。 ⑤演奏する楽器の種類(プレジジョンベースやジャズベースなど)のコントロールや、エフェクターの知識と操作を学ぶ。							

授業計画・内容	
1回目	Donald" Duck" Dunn Cコード1発・6thへ繋ぐスライドテクニク・ブルーススタイルグルーブ。
2回目	Donald" Duck" Dunn C7コード1発・テンポ速めの8beat。
3回目	Adam Clayton Rock 8beatスタイル。コードチェンジのとき、少し下の音からスライドさせるグルーブ。
4回目	Adam Clayton Rock 8beatスタイル。左手で休符。休符でノリを作る。ピック弾き。
5回目	指板ポジション把握テキスト・エレキベースの指板にあるすべての音の位置を理解把握する① メジャースケール
6回目	指板ポジション把握テキスト・エレキベースの指板にあるすべての音の位置を理解把握する② ストレッチポジション
7回目	指板ポジション把握テキスト・エレキベースの指板にあるすべての音の位置を理解把握する③ 音使いとグルーブの関係
8回目	Tom Hamilton(Aero Smith) 8beatロックンロール。開放弦を混じえたライン。左手と右手のコンビネーション。
9回目	Tom Hamilton(Aero Smith) シャッフルビート。ブルースロックのウォーキングベース。メトロノームと合わせられる技術。
10回目	Robert"Kool" Bell ディスコグルーブ。16分音符を混じえた定番リズム。音の止め方。ミュート。音価コントロール。
11回目	Robert"Kool" Bell ディスコ風ライン。マンネリ化したベースラインにアイデアを。マイナーペンタトニックスケール。
12回目	Bernard Edwards ディスコ系ベースライン。
13回目	Bernard Edwards ディスコ系ベースライン。オクターブライン。弦跳び。オクターブ上の音のスタッカート他。
14回目	Francis Rocco Prestia 2フィンガー16beatファンク①。左手ミュート。2フィンガーの強化。
15回目	Francis Rocco Prestia 2フィンガー16beatファンク②。左手ミュート。2フィンガーの強化。
準備学習 時間外学 習	基本的に準備不要で授業に参加します。ただし、次週にわたって同内容の復習が必要となる場合は準備して参加します。 教材資料のフレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。習得のために練習が必要です。 授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実践度(20%) 自己実現力と演奏力の向上度(20%)
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニクや表現、人を感動させる音楽のノリ(グルーブ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンでYoutubeを検索。 テキスト(4-8小節の程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布	

科目名 (英)	グループアナライズⅥ Groove AnalyzeⅥ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 世の中に多種ある音楽ジャンルやスタイルのグループ(ノリ)を分析(アナライズ)し、自分の表現する音楽に応用できる力を養います。 教材からは、国内外のレジェンドベーシストの紹介と研究・サウンドメイク・コード・スケール・グループ・テクニクが学べます。ベーシスト(広くはミュージシャンとして)に必要なリズム(グループ)と、音楽知識と技術を習得する授業です。 【講師プロフィール】福岡を中心に活動するセッション・スタジオミュージシャン。その演奏ジャンルとスタイルは幅広く、クラシック・ロック・ポップス・ラテン・ジャズ・ゴスペル・R&B・フュージョン・ソウル・ファンク・演歌などを演奏する。それらスタイルや楽曲に合わせてコントラバスとエレキベースを使い分けている。							
【到達目標】 ①コードネームから構成される音が理解できるようになる。 ②世の中の音楽を聴いてリズムのスタイル(Rock, Jazz, Funkといったジャンルと8beat, 16beatといったリズムの細かさ)を判別できるようになる。 ③歴史的・世界的に有名なベーシストたちを知ること。 ④その特徴となる奏法技術やグループを経験・習得する。 ⑤演奏する楽器の種類(プレジジョンベースやジャズベースなど)のコントロールや、エフェクターの知識と操作を学ぶ。							

授業計画・内容	
1回目	Roscoe Beck ファンキーなR&Bグループ。ドラムとのコンビネーション。休符・16分音符の引っ掛け。
2回目	Roscoe Beck 4beat風ブルース。
3回目	Darryl Jones Cm1発コードリフ。ミディアムテンポの16th。
4回目	Darryl Jones ブルース系シャッフルパターン。ブルース12小節コード進行の確認。
5回目	サウンドメイクとグループの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ①
6回目	サウンドメイクとグループの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ②
7回目	サウンドメイクとグループの関係。エフェクター操作・知識。プリアンプ・EQ・コンプ③
8回目	Paul McCartney ロックンロールリフ。Day Tripper。
9回目	Paul McCartney ロックブルースリフ。I Saw Her Standing There
10回目	グループとサウンドメイク(音色)、技術の関係。②
11回目	Tommy Shannon 7th系シャッフルビート。
12回目	Tommy Shannon 8beatファンクブルース。
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学 習	基本的に準備不要で授業に参加します。ただし、次週にわたって同内容の復習が必要となる場合は準備して参加します。 教材資料のフレーズが4小節や8小節と短く覚えやすいため、反復練習に向いています。習得のために練習が必要です。 授業終了後も個人練習を積んでいくことで、その解釈や学びがより強くなります。
評価方法	授業へ取り組む姿勢(60%) 各課題曲での目標の達成度、実践度(20%) 自己実現力と演奏力の向上度(20%)
受講生への メッセージ	国内外の有名ベーシストのフレーズを扱います。自分の音楽の幅を広げ、新しい表現の世界がきっと見つかります。 世界に認められたテクニクや表現、人を感動させる音楽のノリ(グループ)について学び、習得していきます。 それら学んだことを、皆さんのやりたい音楽表現に応用できるようにしていく授業です。 楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 iPadやスマートフォンでYoutubeを検索。 テキスト(4-8小節の程度のエクササイズを2種類)。 その他、資料配布	

科目名 (英)	グルーブメイク I Groove Making I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜 3 限
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックにおいて必要なグルーブの中で代表的な「8beat」、「16Beat」、「Shuffle Beat」においてそれぞれのBPM120を目標とする。 基本的なドラム譜面の読み書き							

授業計画・内容	
1回目	基本となるリズム（4分音符、8分音符等）の考え方 譜面の読み方
2回目	8BeatのBasicパターン BPM=60～90 (High 120)
3回目	8BeatのAdvanceパターン BPM=90～120 (High 140)
4回目	8分音符のシンコペーションを使ったパターン、リズムキープ方法 左足でのテンポキープ
5回目	3連符の説明、リズム感の習得
6回目	Shuffle Beatの説明、右手のダウンアップ奏法の習得
7回目	Shuffle BeatのBasicパターン BPM=90 (High 120)
8回目	Shuffle BeatのAdvanceパターン BPM=120 (High 140) ブルースシャッフルの習得
9回目	3連符系のFill In、及び2拍3連の説明
10回目	2拍3連の習得、2拍3連を使ったパターンやFill In
11回目	16分音符の説明、16BeatのBasicパターン BPM=60～90 (High 120)
12回目	16BeatのAdvanceパターンとFill In BPM=90～120 (High 140)
13回目	期末テスト
14回目	振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の理解とスティックコントロール 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習
評価方法	12週目に行う実技テスト (50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)
受講生への メッセージ	ドラムの演奏において必要不可欠なパターンなど みなさんが聴いている楽曲はもちろん、様々な音楽が演奏できるようになるためのクラスです。 ドラムキッドでの演奏ですのでリアルなサウンドメイクや表現方法を習得してください。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：Drum Groove Making 1：滋慶出版	

科目名 (英)	グルーブメイクⅡ Groove Making Ⅱ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜 3 限
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックにおいて必要なグルーブの中で代表的な「8beat」、「16Beat」、「Shuffle Beat」をさらに発展させたグルーブの習得 「Halftime Shuffle」BPM=70、「6/8拍子」BPM=60、「12/8拍子」BPM=75 パーカッションの基本的な演奏方法							

授業計画・内容	
1回目	16Beatにおけるゴーストノートについて (4つのストローク (Tap,Down,Up,Full) の確認と習得)
2回目	ゴーストノートを使ったパターン、Fill In BPM=75 (High 90)
3回目	Halftime ShuffleのBasicパターン BPM=60 (High 75)
4回目	Halftime ShuffleのAdvanceパターンとFill In BPM=70 (Hgh 85)
5回目	Halftime Shuffleと4拍3連
6回目	6/8拍子について カウンティング、基本的なリーディング
7回目	6/8拍子のパターン、Fill In BPM=60 (High 75)
8回目	12/8拍子について カウンティング、リーディング
9回目	12/8拍子のパターン、Fill in BPM=75 (High 90)
10回目	Percussion Cajon
11回目	Percussion Conga,Bongo
12回目	Percussion Shaker,Tambalineなど
13回目	卒業進級展準備
14回目	卒業進級展準備
15回目	卒業進級展準備
準備学習 時間外 学習	BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の理解とスティックコントロール、裏クリックでのリズムトレーニング 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習
評価方法	12週目に行う実技テスト (50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)
受講生への メッセージ	"前期に引き続きドラムの演奏において必要不可欠なパターンなど みなさんが聴いている楽曲はもちろん、様々な音楽が演奏できるようになるためのクラスです。 後半ではパーカッションなども演奏できるようにしましょう。"
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2：滋慶出版	

科目名 (英)	グルーブメイクⅢ Groove Making Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜 4 限
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックだけではなく、JAZZやLATINなど幅広いグルーブの習得 Bossa Nova BPM=120、Samba BPM=105、4Beat Swin BPM=120、Reggae BPM=90 基本的なドラム譜面の読み書き ランバークッションの奏法の習得							

授業計画・内容	
1回目	Bossa Novaについて説明
2回目	Bossa Nova Basicパターン BPM=110 (High 140)
3回目	Bossa Nova Advanceパターン BPM=120 (High 140)
4回目	Sambaについて説明 Samba Kickの練習法
5回目	Samba Basicパターン BPM=90 (High 105)
6回目	Samba Advanceパターン BPM=105 (High 120)
7回目	4Beat Swing についての説明
8回目	4beat Swing Basicパターン BPM=90 (High 120)
9回目	4Beat Swing Advanceパターン BPM=120
10回目	4Beat Swingでの4way インディペンデンス
11回目	Reggae についての説明
12回目	Reggae Basicパターン BPM=70 (High 85)
13回目	期末テスト
14回目	振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学 習	BPMに合わせて正確な 4 分音符、8 分音符、3連符、1 6 分音符の理解とスティックコントロール 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習
評価方法	12週目に行う実技テスト (50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)"
受講生への メッセージ	"今までに習得したグルーブ以外の様々な演奏スタイルを習得して さらに幅広い技術、知識を身につけるクラスです。 まずは色々な音楽に触れてください。"
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2：滋慶出版	

科目名 (英)	グルーブメイクIV Groove Making IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜 4 限
【授業の学習内容】 様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。 (講師プロフィール) スタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している。							
【到達目標】 ポピュラーミュージックにおける代表的なグルーブに加え JAZZやLATINなどさらにジャンル、スタイルを広げたグルーブの習得 また、Odd Meter (変拍子) やポリリズム、リニアパターンでのグルーブの構築。 SPDなどサンプリングパッドの使い方、アナログとデジタルの混合パターンの習得							

授業計画・内容	
1回目	Aflo Cubanについて説明
2回目	Afro Cuban Basicパターン BPM=60 (High 85)
3回目	Afro Cuban Advance 6/8パターン BPM=60 (High 75)
4回目	ポリリズムを使ったBasicパターン BPM=90 (High 120)
5回目	ポリリズム Advanceパターン BPM=120 (High 135)
6回目	メトリック モジュレーション Basicパターン
7回目	メトリック モジュレーション Advanceパターン
8回目	サンプリングパッドの使い方
9回目	サンプリングパッドとアコースティックドラムとの混合パターン
10回目	リニアパターン Basic
11回目	Odd Meterの説明とカウンティング
12回目	5/8拍子、7/8拍子のBasicパターンとFill In BPM=120 (High 135)
13回目	卒業進級展準備
14回目	卒業進級展準備
15回目	卒業進級展準備
準備学習 時間外 学習	"BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、3連符、16分音符の理解とスティックコントロール 体の重心の安定と4wayインディペンデンスの確立 テキスト及び授業内容の復習"
評価方法	12週目に行う実技テスト (50%) 各授業内で行うミニ実技テスト(20%) 動画撮影と譜面製作(30%)
受講生への メッセージ	前期に引き続きドラムの演奏において必要不可欠なパターンなど みなさんが聴いている楽曲はもちろん、様々な音楽が演奏できるようになるためのクラスです。 後半では リズムの変形パターンや変拍子も演奏できるようにしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2：滋慶出版 Drum Groove Making 2：滋慶出版	

科目名 (英)	グルーブメイクV Groove Making V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限

【授業の学習内容】 FSM創設時よりドラム講師として20年以上の経験、またスタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している伊藤公了。 様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、 テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。 その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。
【到達目標】 ポピュラーミュージックだけではなく、JAZZやLATINなど幅広いグルーブの習得 Bossa Nova BPM=120 Samba BPM=105 4Beat Swin BPM=120 Reggae BPM=90 基本的なドラム譜面の読み書き

授業計画・内容	
1回目	Bossa Novaについての説明
2回目	Bossa Nova Basicパターン BPM=110 (High 140)
3回目	Bossa Nova Advanceパターン BPM=120 (High 140)
4回目	Bossa Nova Song1
5回目	Sambaについて説明 Samba Kickの練習法
6回目	Samba Basicパターン BPM=90 (High 105)
7回目	Samba Advanceパターン BPM=105 (High 120)
8回目	Samba Song1
9回目	Reggae についての説明
10回目	Reggae Basicパターン BPM=70 (High 85)
11回目	Reggae Advanceパターン BPM=70 (High 85)
12回目	Reggae Song1
13回目	Afro Cubanについて説明
14回目	Afro Cuban Basicパターン BPM=60 (High 85)
15回目	Afro Cuban Advance 6/8パターン BPM=60 (High 75)
準備学習 時間外学 習	BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、16分音符に加え3連符、6連符の理解とスティックコントロール テキスト及び授業内容の復習
評価方法	授業態度 参考楽曲等による習得度の確認
受講生への メッセージ	ポピュラーミュージック以外にもJazzなどよく使われるグルーブです。 ドラムセットだけではなくアコースティックスタイルの演奏方法も身につけて表現の幅を広げていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2：滋慶出版	

科目名 (英)	グループメイクVI Groove Making VI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
【授業の学習内容】		FSM創設時よりドラム講師として20年以上の経験、またスタジオミュージシャンとして九州はじめ全国でレコーディング、ライブサポートをしている。 また、(株)KISS・MUSICのチーフプロデューサーとしても活動している伊藤公了。					
		様々な楽曲の核となる「グルーブ」、「リズムパターン」の習得を目的とし、 テキスト、及び参考楽曲による基本的なドラムパターンスタイル、リズムスタイルの分析と習得。 その中でドラマーとして必要なテクニック、表現方法などを身につけさせる。					
【到達目標】		ポピュラーミュージックにおける代表的なグルーブに加え JAZZやLATINなどさらにジャンル、スタイルを広げたグルーブの習得 また、Odd Meter (変拍子) やポリリズム、リニアパターンでのグルーブの構築など					

授業計画・内容	
1回目	ポリリズムについて
2回目	ポリリズムを使ったBasicパターン BPM=90 (High 120)
3回目	ポリリズム Advanceパターン BPM=120 (High 135)
4回目	ポリリズム Song1
5回目	メトリック モジュレーションについて
6回目	メトリック モジュレーション Basicパターン
7回目	メトリック モジュレーション Advanceパターン
8回目	メトリック モジュレーション Song1
9回目	リニアパターン Basic
10回目	Odd Meterの説明とカウンティング
11回目	5/8拍子、7/8拍子のBasicパターンとFill In BPM=120 (High 135)
12回目	変拍子 Song1
13回目	卒業進級展準備
14回目	卒業進級展準備
15回目	卒業進級展準備
準備学習 時間外学習	BPMに合わせて正確な4分音符、8分音符、16分音符に加え3連符、6連符の理解とスティックコントロール テキスト及び授業内容の復習
評価方法	授業態度 参考楽曲等による習得度の確認
受講生への メッセージ	Jazz、Fusion、Latinなどポピュラーミュージック以外のスタイルを勉強することによって 幅広い音楽性を身につけていきましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書：The Drummer Handbook Drum Groove Making 1、2：滋慶出版	

科目名 (英)	コントロールセオリー I Control Theory I	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 ①ルーデメンツをドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。							
【到達目標】 ①それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールを身につける。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	グリップ&フォーム、フィンガーコントロール
3回目	フットワーク
4回目	中間チェック。
5回目	アクセレーションコントロール16分音符 3種類
6回目	各自実践、フィードバック。
7回目	アクセレーションコントロール3連符 2種類
8回目	各自実践、フィードバック。
9回目	中間チェック。
10回目	ダブルストロークロール
11回目	5.7.9.11.13ストロークロール
12回目	バズ、バズ5、バズ7
13回目	前期の振り返り
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習時間 外学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	期末試験 (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 コントロールセオリーテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリー II Control Theory II	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 ①ルーデメンツをドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。							
【到達目標】 ①それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールを身につける。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	シングルパラディドル
3回目	実践練習とフィードバック。
4回目	ダブルパラディドル
5回目	実践練習とフィードバック。
6回目	トリプルパラディドル
7回目	実践練習とフィードバック。
8回目	中間チェック。
9回目	フラム、フラムアクセント16分&3連符
10回目	フラムパラディドル
11回目	フラムタップ、ラタマキュー
12回目	後期の振り返り
13回目	卒業進級展制作 準備
14回目	卒業進級展制作 準備
15回目	卒業進級展制作 準備
準備学習時間 外学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	期末試験 (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 コントロールセオリーテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリーⅢ Control TheoryⅢ	選択 必修	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 ①ルーディメンツを通してドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。連符感をやしない楽曲やソロでの自由度を身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中での自由度を広げて欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。							
【到達目標】 ①それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールと連符感を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	ラフ、4.5ストロークラフ
3回目	ドラッグ
4回目	シングルドラッグ
5回目	ダブルドラッグ
6回目	中間チェック。到達度・理解度チェック。
7回目	ドラッグパラダイドルNo.1.2
8回目	ラタマキュー
9回目	シングルラタマキュー
10回目	ダブルラタマキュー
11回目	トリプルラタマキュー
12回目	ルーディメンツ小テスト
13回目	チェンジアップ
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習時間 外学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 コントロールセオリーテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリーⅣ Control TheoryⅣ	選択 必修	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 ①ルーディメンツを通してドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。連符感をやしない楽曲やソロでの自由度を身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中での自由度を広げて欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、 ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。							
【到達目標】 ①それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールと連符感を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	2拍3連、カウント、コンビネーション
3回目	課題の提示・実践練習。
4回目	実践発表とフィードバック。
5回目	4拍3連、カウント、コンビネーション
6回目	課題の提示・実践練習。
7回目	実践発表とフィードバック。
8回目	3拍4連、カウント、コンビネーション
9回目	実践発表とフィードバック。
10回目	3拍4連on4/4
11回目	実践発表とフィードバック。
12回目	5拍4連、カウント、コンビネーション・7拍フレーズの紹介
13回目	卒業進級展制作 準備
14回目	卒業進級展制作 準備
15回目	卒業進級展制作 準備
準備学習時間 外学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 コントロールセオリーテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリー V Control Theory VI	選択 必修	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 ①ルーディメンツのドラムセットへのオーケストレーション。ポリリズムのドラムセットへの応用。各ルーディメンツのマーチングとしての応用。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。 楽曲の中で自由度を更に広げて欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、 ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。							
【到達目標】 ①それぞれのエクササイズを丁寧に練習しハイレベルなドラミングに挑戦する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	シングルストロークコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.1
3回目	実践発表とフィードバック。
4回目	ダブルストロークコンビネーション・オールアメリカンドラマーNo.2
5回目	実践発表とフィードバック。
6回目	シングルパラディドルコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.3
7回目	実践発表とフィードバック。
8回目	ダブルストロークコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.4
9回目	実践発表とフィードバック。
10回目	トリプルパラディドルコンビネーション、オールアメリカンドラマーNo.5
11回目	実践発表とフィードバック。
12回目	ダブルパラディドルバリエーション・オールアメリカンドラマーNo.6
13回目	実践発表とフィードバック。
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習時間 外学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	期末試験 (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 コントロールセオリーテキスト・All American Drummerテキスト	

科目名 (英)	コントロールセオリー VI Control Theory VI	選択 必修	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 ①ルーディメンツのドラムセットへのオーケストレーション。ポリリズムのドラムセットへの応用。各ルーディメンツのマーチングとしての応用。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。 楽曲の中ででの自由度を更に広げて欲しい。 (講師プロフィール) メジャーアーティストのレコーディング・ライブサポートを行う他、ミュージカルライオンキングでのパーカッション演奏、 ベースドラムに関する教則DVDを販売するなど国内屈指のテクニシャンとして知られている。							
【到達目標】 ①それぞれのエクササイズを丁寧に練習しハイレベルなドラミングに挑戦する。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	トリプルパラディドルバリエーション、オールアメリカンドラマーNo.7
3回目	実践発表とフィードバック。
4回目	フラムダブルパラディドルバリエーション、オールアメリカンドラマーNo.8
5回目	実践発表とフィードバック。
6回目	フラムトリプルパラディドルバリエーション、オールアメリカンドラマーNo.9
7回目	実践発表とフィードバック。
8回目	2拍3連応用、オールアメリカンドラマーNo.10
9回目	実践発表とフィードバック。
10回目	2拍3連メトリックモジュレーション、オールアメリカンドラマー復習
11回目	4拍3連応用、オールアメリカンドラマーNo.11
12回目	実践発表とフィードバック。
13回目	卒業進級展制作 準備
14回目	卒業進級展制作 準備
15回目	卒業進級展制作 準備
準備学習時間 外学習	理想的な達成レベル・全てのエクササイズを習得し更に自分のアイデアを加え実践応用出来る事。 標準的な達成レベル・全てのエクササイズを習得する事。
評価方法	期末試験 (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	ドラミングを豊かにするために必要な技術を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 コントロールセオリーテキスト・All American Drummerテキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプト I Melodic Concepts I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜 3限
【授業の学習内容】 現代音楽におけるリードギターのフレージング、メロディの作り方、インプロビゼーションをオリジナルテキストを使用し習得する。 (講師プロフィール) 20歳で全国ギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 メジャースケール、マイナースケール、ペンタトニックスケール、ブルーススケールを使用し様々なコード進行でのソロを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	6弦ルートのメジャーペンタトニックスケール
3回目	6弦ルートのマイナーペンタトニックスケール
4回目	5弦ルートのメジャーペンタトニックスケール
5回目	5弦ルートのマイナーペンタトニックスケール
6回目	中間チェック。到達度・理解度チェック。
7回目	5,6弦ルートのペンタトニックスケールの復習、両サイドへの派生①
8回目	5,6弦ルートのペンタトニックスケールの復習、両サイドへの派生②
9回目	ペンタトニックスケールの派生、ブルーススケール、ブルーノート①
10回目	ペンタトニックスケールの派生、ブルーススケール、ブルーノート②
11回目	ペンタトニックスケールの派生、ブルーススケール、ブルーノート
12回目	ペンタトニック、ブルーススケールを使用したリックの実演
13回目	前期の振り返り。
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	様々なジャンルの楽曲でメロディやソロを作れるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプト II Melodic Concepts II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜 3限
【授業の学習内容】 現代音楽におけるリードギターのフレージング、メロディの作り方、インプロビゼーションをオリジナルテキストを使用し習得する。 (講師プロフィール) 20歳で全国ギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 メジャースケール、マイナースケール、ペントニックスケール、ブルーススケールを使用し様々なコード進行でのソロを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	メジャースケール(5,6弦 人差し指、中指スタート)①
3回目	メジャースケール(5,6弦 人差し指、中指スタート)②
4回目	メジャースケール(5,6弦 小指スタート)①
5回目	メジャースケール(5,6弦 小指スタート)②
6回目	メジャースケール(3 Note Per String、複合パターン)①
7回目	メジャースケール(3 Note Per String、複合パターン)②
8回目	中間チェック。到達度・理解度チェック。
9回目	ナチュラルマイナースケール 1 (5,6弦 人差し指、中指スタート)
10回目	ナチュラルマイナースケール 2 (5,6弦 小指スタート)
11回目	ナチュラルマイナースケール 3 (3 Note Per String、複合パターン)
12回目	後期の振り返り。
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	様々なジャンルの楽曲でメロディやソロを作れるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプトⅢ Melodic Concepts Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜 3限
【授業の学習内容】 現代音楽におけるリードギターのフレージング、メロディの作り方、インプロビゼーションをオリジナルテキストを使用し習得する。 (講師プロフィール) 20歳で全国ギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 メジャースケール、マイナースケール、ペントニックスケール、ブルーススケールを使用し様々なコード進行でのソロを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	メジャートライアド
3回目	マイナートライアド
4回目	オーギュメント、ディミニッシュトライアド
5回目	中間チェック。到達度・理解度チェック。
6回目	4音のコードアルペジオ導入
7回目	課題曲での実践。
8回目	発表とフィードバック。
9回目	M7アルペジオ
10回目	7アルペジオ
11回目	課題曲での実践。
12回目	発表とフィードバック。
13回目	前期の振り返り。
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	様々なジャンルの楽曲でメロディやソロを作れるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプトⅣ Melodic ConceptsⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜 3限
【授業の学習内容】 現代音楽におけるリードギターのフレージング、メロディの作り方、インプロビゼーションをオリジナルテキストを使用し習得する。 (講師プロフィール) 20歳で全国ギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 メジャースケール、マイナースケール、ペントニックスケール、ブルーススケールを使用し様々なコード進行でのソロを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	m7アルペジオ
3回目	実践とフィードバック。
4回目	m7b5アルペジオ
5回目	実践とフィードバック。
6回目	dim7アルペジオ
7回目	実践とフィードバック。
8回目	代理のアルペジオ
9回目	実践とフィードバック。
10回目	3,4和音のコードトーンアルペジオを使用したフレージング。
11回目	実践とフィードバック。
12回目	後期の振り返り。
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	様々なジャンルの楽曲でメロディやソロを作れるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプトⅤ Harmonic Concept Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜 4限
【授業の学習内容】 メジャースケールから派生する各種スケールを学ぶ。 メロディラインの作り方、ギターソロの作り方。 (講師プロフィール) 20歳で全国ギターコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞ+A11:L16れのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	Major Mode Scaleの導入と使用方法、Ionian Scale(IM7)
3回目	Aeolian Scale(VIm7)
4回目	実践練習とフィードバック。
5回目	Dorian Scale(IIm7)
6回目	実践練習とフィードバック。
7回目	Mixolydian Scale(V7)
8回目	実践練習とフィードバック。
9回目	Lydian Scale(IVM7)
10回目	実践練習とフィードバック。
11回目	Phrygian Scale(IIIm7)
12回目	実践練習とフィードバック。
13回目	Locrian Scale(VIIm7b5)
14回目	実践練習とフィードバック。
15回目	まとめ
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	スケールの理解やメロディワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。 この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	メロディックコンセプトVI Harmonic ConceptVI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜 4限
【授業の学習内容】 メジャースケールから派生する各種スケールを学ぶ。 メロディラインの作り方、ギターソロの作り方。 (講師プロフィール) 20歳で全国のカギコンテストにて準グランプリを獲得し、その後はJazzClubを中心にプロフェッショナルとして活動							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞ+A11:L16れのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	ソロ構築についての解説
3回目	IIm7-V7進行を用いてのソロ構築 (Dorian,Mixolydian)
4回目	課題曲のレクチャー。
5回目	実践と各自フィードバック。
6回目	中間チェック。
7回目	Jazz Blues進行でのソロ構築(Mixolydian,Dorian)
8回目	課題曲のレクチャー。
9回目	実践と各自フィードバック。
10回目	IM7-bIIIM7進行でのソロ構築(Ionian,Lydian)
11回目	課題曲のレクチャー。
12回目	実践と各自フィードバック。
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学 習	予習。与えたテキストを使用し復習。
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	スケールの理解やメロディワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。 この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 オリジナルPDFテキスト、iReal Pro、YouTube、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプト I Harmonic Concept I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 2限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイディアも加え応用する。 〈講師プロフィール〉 これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレイヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	指板上の音名・ポジション
3回目	オクターブの位置関係
4回目	ルートだけコード進行を追う
5回目	中間チェック。理解度・到達度のチェック。
6回目	パワーコードの仕組み
7回目	ルートの位置と5thの位置関係
8回目	パワーコードで楽曲を演奏①
9回目	パワーコードで楽曲を演奏②
10回目	中間チェック。理解度・到達度のチェック。
11回目	インターバル、メジャーとマイナーの違い
12回目	トライアドの仕組み1
13回目	トライアドの仕組み2
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握 時間外学習
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。 この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro 、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプト II Harmonic Concept II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 2限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイディアも加え応用する。 〈講師プロフィール〉 これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレイヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	3コードの理解①
3回目	3コードの理解②
4回目	3コードで楽曲演奏の解説。□
5回目	3コードで楽曲演奏の指導①
6回目	3コードで楽曲演奏の指導②
7回目	実践と発表、フィードバック。
8回目	中間チェック。
9回目	コードの機能(ファンクション)、代理コード①
10回目	コードの機能(ファンクション)、代理コード②
11回目	3和音のダイアトニックコード①
12回目	3和音のダイアトニックコード②
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握 時間外学習
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。 この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro 、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプト Ⅲ Harmonic Concept Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜 2限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイディアも加え応用する。 〈講師プロフィール〉 これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレーヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	3和音のダイアトニックコードの復習。
3回目	4和音・7thコードの理解①
4回目	4和音・7thコードの理解②
5回目	中間チェック。到達度・理解度チェック。
6回目	4和音のダイアトニックコード①
7回目	4和音のダイアトニックコード②
8回目	楽曲演奏・課題曲①
9回目	楽曲演奏・課題曲①の発表。
10回目	前回のフィードバックと次回に向けて。
11回目	楽曲演奏・課題曲②
12回目	楽曲演奏・課題曲②の発表。
13回目	その他のコード(sus・6th・add9など)
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプト IV Harmonic Concept IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 2限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイディアも加え応用する。 〈講師プロフィール〉 これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレイヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	楽曲演奏・課題曲③
3回目	楽曲演奏・課題曲③の発表。
4回目	前回のフィードバックと次回に向けて。
5回目	楽曲演奏・課題曲④
6回目	楽曲演奏・課題曲④の発表。
7回目	前回のフィードバックと中間テストについて。
8回目	中間チェック。
9回目	ナチュラルマイナーのダイアトニックコード①
10回目	ナチュラルマイナーのダイアトニックコード②
11回目	その他（平行調など）
12回目	その他（平行調など）
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプト V Harmonic Concept V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜 1限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイディアも加え応用する。 〈講師プロフィール〉 これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレーヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。レベルチェック。
2回目	4和音・7thコードの理解①
3回目	4和音・7thコードの理解②
4回目	4和音のダイアトニックコード①
5回目	4和音のダイアトニックコード②
6回目	中間チェック。到達度・理解度チェック。
7回目	4和音のマイナーダイアトニックコード①
8回目	4和音のマイナーダイアトニックコード②
9回目	カッティングパターン①
10回目	カッティングパターン②
11回目	中間チェック。到達度・理解度チェック。
12回目	アルペジオ奏法①
13回目	アルペジオ奏法②
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro 、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	ハーモニックコンセプト VI Harmonic Concept VI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 1限
【授業の学習内容】 音楽を作る・表現する上で欠かせないハーモニーを、基礎から実際のギターという楽器で演奏するところまで学びます。 様々なジャンルのスタイルを分析・理解し、吸収することにより応用力を習得する。バックিং・作曲及びアレンジに 必要なコードの仕組みやダイアトニックコード等を理解し、それを構成する様々なコードフォームを習得しリズムのアイディアも加え応用する。 〈講師プロフィール〉 これまでにNYのミュージシャンと2枚のリーダーアルバムを制作、九州のみならず全国的に活動を行うJazzプレーヤー							
【到達目標】 初見でコード譜を追えるようになる。それぞれのジャンルに適応したコードワークができるようになる。 元のコード譜に対しアレンジした対応ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度・理解度チェック。
2回目	コード進行に沿ったバックিং①
3回目	課題曲の指導
4回目	課題曲での実践①
5回目	中間チェック。
6回目	コード進行に沿ったバックিং②
7回目	課題曲の指導
8回目	課題曲での実践②
9回目	ナチュラルテンションコード①
10回目	ナチュラルテンションコード②
11回目	オルタードテンションコード①
12回目	オルタードテンションコード②
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	三和音の理解・ダイアトニックコードの配列を覚える・指板上の音名の把握・オクターブの位置の把握
評価方法	中間(小)テスト / 期末テスト
受講生への メッセージ	ハーモニーの理解やコードワークはギターにとって最も重要な事役割の一つです。この授業を受講することにより、より深く広く音楽・ギターに対して必要なことを身に付けてください。
【使用教科書・教材・参考書】 I-real pro 、ギタリストハンドブック(クリス・ジャーガンセン)	

科目名 (英)	プレイングテクニック I Playing Techniques I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 火曜3限
【授業の学習内容】 1年を通していろいろなスタンダード音楽を学ぶ。 音楽的テクニックの向上や感性を伸ばす。 指の故障がない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続する。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
1年間キーボードという楽器を通していろいろなスタンダード音楽を理解し、音楽的感性の役に立てる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。自己紹介および授業内容の理解。
2回目	指の故障がない様、ストレッチエクササイズの仕方を指導。
3回目	ダイアトニックコードの仕組みを理解する①
4回目	ダイアトニックコードの仕組みを理解する②
5回目	中間チェック
6回目	基本的な譜面の書き方を指導しコードの仕組みを理解させる①
7回目	基本的な譜面の書き方を指導しコードの仕組みを理解させる②
8回目	復習とまとめ
9回目	一段譜を用いてコードを弾き分ける①
10回目	一段譜を用いてコードを弾き分ける②
11回目	復習とまとめ
12回目	音程の違いを理解し五線紙に完成させる。
13回目	全音符から16音符までを聴き分け、五線紙に完成させる。
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	宿題が出た時は、できる範囲でいいので挑戦してみてください。
評価方法	12週目に行う実技テスト (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	コードの性質を理解する事により、1年間で曲を幅広く学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ポピュラーのすべて、ハノン、クラシック集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックⅡ Playing Techniques II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 火曜3限
【授業の学習内容】 1年を通していろいろなスタンダード音楽を学ぶ。 音楽的テクニックの向上や感性を伸ばす。 指の故障がない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続する。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
1年間キーボードという楽器を通していろいろなスタンダード音楽を理解し、音楽的感性の役に立てる。							

授業計画・内容	
1回目	ソロピアノ曲をレクチャー。
2回目	実演してもらい、チェックとフィードバック。
3回目	実演の最終チェック。
4回目	ダイナミックレンジを意識し、強・中・弱音を身につける①
5回目	ダイナミックレンジを意識し、強・中・弱音を身につける②
6回目	表現力を意識し、コードの特性を理解する①
7回目	表現力を意識し、コードの特性を理解する②
8回目	デュオのバックイングについて理解する②
9回目	デュオのバックイングについて理解する②
10回目	1年間を通しての復習。
11回目	学年末チェック。
12回目	まとめ
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学 習	宿題が出た時は、できる範囲でいいので挑戦してみてください。
評価方法	12週目に行う実技テスト (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	コードの性質を理解する事により、1年間で曲を幅広く学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ポピュラーのすべて、ハノン、クラシック集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックⅢ Playing TechniquesⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 火曜3限
【授業の学習内容】 1年を通していろいろなスタンダード音楽を学ぶ。 音楽的テクニックの向上や感性を伸ばす。 指の故障がない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続する。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
【到達目標】 1年間キーボードという楽器を通していろいろなスタンダード音楽を理解し、音楽的感性の役に立てる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。自己紹介および授業内容の理解。
2回目	それぞれの到達度及び理解度チェックとフィードバック。
3回目	ペントニックを理解する①
4回目	ペントニックを理解する②
5回目	実演と理解度チェック。
6回目	ブルーノートとブルーススケールを理解する①
7回目	ブルーノートとブルーススケールを理解する②
8回目	実演と理解度チェック。
9回目	ブルーススケールを使ったフレーズの耳コピー①
10回目	ブルーススケールを使ったフレーズの耳コピー②
11回目	実演と理解度チェック。
12回目	前期の復習①
13回目	前期の復習②
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	復習をできれば、たくさん行う事で理解力の向上がより期待できると思います。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	授業以外、プライベートでいろいろな曲を研究してみましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ポピュラーのすべて、ハノン、クラシック集、スタンダードジャズ集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックⅣ Playing TechniquesⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜3限
【授業の学習内容】 1年を通していろいろなスタンダード音楽を学ぶ。 音楽的テクニックの向上や感性を伸ばす。 指の故障がない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続する。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの共演などを行っている。							
【到達目標】 1年間キーボードという楽器を通していろいろなスタンダード音楽を理解し、音楽的感性の役に立てる。							

授業計画・内容	
1回目	それぞれの到達度及び理解度チェックとフィードバック。
2回目	ブルースを理解する①
3回目	ブルースを理解する②
4回目	独奏でブルースソロを完成させる①
5回目	独奏でブルースソロを完成させる②
6回目	実践とフィードバック。
7回目	ソロピアノ曲をレクチャー。
8回目	実演してもらい、チェックとフィードバック。
9回目	実演の最終チェック。
10回目	今までの総合復習①
11回目	今までの総合復習②□
12回目	学年末チェック
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	復習をできれば、たくさん行う事で理解力の向上がより期待できると思います。
評価方法	12週目に行う実技テスト (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	授業以外、プライベートでいろいろな曲を研究してみましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ポピュラーのすべて、ハノン、クラシック集、スタンダードジャズ集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックⅤ Playing Techniques V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 木曜3限
【授業の学習内容】 ソロピアニストにとって必要なテクニック、表現力の向上、対応力を身につける。 指の故障のない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
【到達目標】 テクニックや表現も含め、人の前で心打つ演奏、独奏を目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション。自己紹介および授業内容の理解。
2回目	指の故障がない様、全部のキーでストレッチエクササイズを行う。
3回目	ダイナミックレンジを意識し、強・中・弱音を身につける。
4回目	ダイナミックマークの付いた楽譜を用いて指定されたとおりに実践する①
5回目	ダイナミックマークの付いた楽譜を用いて指定されたとおりに実践する②
6回目	楽曲の奏法をアナライズ。
7回目	楽曲の演奏と実践。
8回目	スタッカートとテヌートの違いを理解し弾き分ける①
9回目	スタッカートとテヌートの違いを理解し弾き分ける②
10回目	音を採譜し、五線紙上に完成させる①
11回目	音を採譜し、五線紙上に完成させる②
12回目	振り返り①
13回目	振り返り②
14回目	学期末チェック
15回目	まとめ
準備学習 時間外学 習	人の前で、心打つ演奏する事をこの1年間で意識する。
評価方法	12週目に行う実技テスト (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	心打つ演奏とは何なのかを自らよく、この1年間考えてください。
【使用教科書・教材・参考書】 スタンダード曲集、ハノン、クラシック集、スタンダードジャズ集、プリント等	

科目名 (英)	プレイングテクニックVI Playing Techniques VI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 木曜3限
【授業の学習内容】 ソロピアニストにとって必要なテクニック、表現力の向上、対応力を身につける。 指の故障のない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
【到達目標】 テクニックや表現も含め、人の前で心打つ演奏、独奏を目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り。到達度チェック。
2回目	コードの特性を理解し、いろいろなパターンでリハーモナイズを行う①
3回目	コードの特性を理解し、いろいろなパターンでリハーモナイズを行う②
4回目	ソロピアノ曲をアナライズとレクチャー。
5回目	ソロピアノ曲を指導とフィードバック。
6回目	ソロピアノ曲を完成。
7回目	ソロピアノ曲の実践と発表。
8回目	初見力を充実させ初心者の指導できる様、指導する①
9回目	初見力を充実させ初心者の指導できる様、指導する②
10回目	初見力を充実させ初心者の指導できる様、指導する③
11回目	今までの総合復習
12回目	実技テスト
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学 習	人の前で、心打つ演奏する事をこの1年間で意識する。
評価方法	12週目に行う実技テスト (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	心打つ演奏とは何なのかを自らよく、この1年間考えてください。
【使用教科書・教材・参考書】 スタンダード曲集、ハノン、クラシック集、スタンダードジャズ集、プリント等	

科目名 (英)	ダンスベーシック I Dance Basic I	必修 選択	選択 必修	年次	1年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜1限
【授業の学習内容】 まず、身体を動かす上で大切な「解剖学」身体はどこにどの様についているのかを必要なポイントだけを選択し理解していただきその中で実際に筋トレやボディーケアに繋げていきたいと思います。ただ身体を動かす事と理解して身体を動かす事でコンディショニング、パフォーマンスが大きく左右されます。この授業では上記の内容をしっかり学びながらダンスなどの動きに繋げてれるように進めていきます。その他にも外見の面ボディースタイルや食事栄養管理の面も学びます。 (講師) 熊本県小国中学校柔道部指導・スポーツクラブ、ジムにてトレーニング指導。							
【到達目標】 ①セルフストレッチ、コンディショニングをしっかり理解し日頃から行う知識、技術を習得する。 ②ダンスなどに必要な筋肉などを理解して自分だけでなく他の学生などに説明できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（これからボディコンディショニング）について
2回目	姿勢のチェック改善について、自分の身体について理解しよう①
3回目	上半身の筋肉について理解し学びトレーニング・ストレッチを学ぶ①基礎編
4回目	上半身の筋肉について理解し学びトレーニング・ストレッチを学ぶ②応用編～まとめ～
5回目	下半身の筋肉について理解し学びトレーニング・ストレッチを学ぶ①基礎編
6回目	下半身の筋肉について理解し学びトレーニング・ストレッチを学ぶ②応用編～まとめ～
7回目	適切なストレッチの種類とその目的を学ぶ スタティックストレッチとバリスティックストレッチ
8回目	トレーニングを行う前になぜ、柔軟性をつける？可動域を先につけることの理由についてメリット&デメリット
9回目	コンディショニング！！身体を動かす前には必ずやるべき動きを習得する
10回目	実は見逃しがち。足の裏（足底）が身体の姿勢の鍵を握っているケアとトレーニング
11回目	体幹は腹筋だけでは不可欠？アウターマッスルとインナーマッスルについて
12回目	自分に適したトレーニングとストレッチでメニュー作成をしよう①
13回目	前期まとめ
14回目	実技試験・評価
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	・授業で学んだトレーニングやストレッチなどはボディコンディショニングの授業以外の日常から実践して頂き常にベストコレクションで学校生活を過ごして頂きたい。
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	筋トレ、トレーニングと聞くと「きつい」などが頭に浮かぶと思いますがまずは、今の皆さんの身体がどうなっているのかを理解した上でストレッチなどからスタートして後半にトレーニングなどを取り入れたいと思います。中にはきついトレーニングもありますが今後の自分のために思い頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスベーシックⅡ Dance Basic Ⅱ	必修 選択	選択 必修	年次	1年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜1限
【授業の学習内容】 後期では前期で習得した（セルフストレッチ・コンディショニング）の他に怪我をしない身体作り（予防医学）に方向を向けて授業を進めます。 特に中心になってくるのが食事・栄養の管理の授業が入ってきます。ここはトレーニング、ストレッチはもちろん大切な事ですが皆さんの身体を支えているのは食事になりますので中心的に学んでいきます。それを踏まえてダイエットやスタイル維持などに繋げていきましょう。							
【到達目標】 ①食事・栄養管理など自分には何が必要なのか理解し自分自身の健康を管理できる。 ②ダンスなどに必要な（トレーニング・セルフストレッチ）を習得し実践できるスキルを身に着ける。							

授業計画・内容	
1回目	習得したトレーニング・ストレッチの見直し復習～考え直し～
2回目	食事・栄養について学び理解しよう①～比率は運動3割食事7割～
3回目	食事・栄養について学び理解しよう②～食事とトレーニングを組み合わせよう～
4回目	姿勢のチェック改善について、自分の身体について理解しよう②～前期との評価～
5回目	セルフストレッチとペアストレッチの違い効果についてとメリット・デメリット
6回目	ペアトレーニングで効果＋強度upできる！注意すべき点とメリット・デメリット
7回目	ジャンプや切り返しなど動きの中でのトレーニングについて
8回目	睡眠について学び理解しよう～皆さんの睡眠時間は1日どれくらいですか？～
9回目	運動・食事・睡眠について～この3つはどれも欠けてはいけない～
10回目	自分に適したトレーニングとストレッチでメニュー作成をしよう②～全体を通しての組みなおし～
11回目	トレーニング・ストレッチの復習・食事栄養管理について見直し
12回目	実技試験・評価
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	後期では、トレーニング・セルフストレッチはもちろん学びますが、食事・栄養管理も勉強します。日頃の食事などを見直して少しでも意識をして取り入れてみてください。
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	後期はミュージカルや発表に向けて怪我などをしないような身体作りを考えて授業を進めていきます。怪我でできない、出られないようにならないようにトレーニング・セルフストレッチはもちろん食事・栄養の授業も行いますのでスタイル維持などにも繋げてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスベーシックⅢ Dance BasicⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜2限
【授業の学習内容】 1年次に学んだ内容を復習し今後、業界で必要とされるダンサーとしてのスキル（持久力・柔軟性・筋力）を中心に強化しパフォーマンスUPはもちろん怪我をしない身体作りを行い、自主的にできるように繰り返し行いながらスキルを身につけていく。その他にもボディスタイルを整える、維持するための知識なども同時に身につける。							
【到達目標】 ・前期の授業が終了するまでにダンサーとしてのスキル（持久力・柔軟性・筋力）を80%理解し実践できるようになる。 ・ボディスタイルなども自己管理することができオーディションなどで必要とされる身体作りの知識を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	目標設定と今後の授業の進め方について
2回目	スキルチェック①（持久力・柔軟性・筋力・コンディション）
3回目	上半身のストレッチ・トレーニング基礎（個人で行うメニュー）
4回目	下半身のストレッチ・トレーニング基礎（個人で行うメニュー）
5回目	上半身のストレッチ・トレーニング基礎（ペア・グループで行うメニュー）
6回目	下半身のストレッチ・トレーニング基礎（ペア・グループで行うメニュー）
7回目	食事の管理を行う①（現在食べている食事について見直そう）
8回目	スキルチェック②（持久力・柔軟性・筋力・コンディション）
9回目	現在のコンディションスキルに合ったストレッチ・トレーニングを考える①
10回目	現在のコンディションスキルに合ったストレッチ・トレーニングを考える②
11回目	睡眠の管理を行う①（現在の睡眠はどれくらいかそれが今後のコンディションにどう繋がるのか）
12回目	前期最終スキルチェックに向けての応用
13回目	スキルチェック③（持久力・柔軟性・筋力・コンディション）
14回目	後期に向けて前期の振り返り～どう成長したか今後の目標について～
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	・パフォーマンスUPするには見えない所での自分に対して、ケアやリラクゼーションにどれだけの時間を使えるかだと思います。 授業で学んだ事はまず一度、自分に合うものが復習する。
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	いよいよ2年生の授業がスタートです！この1年でたくさんのスキルを身につけて業界で活躍できるダンサー・アーティストを目指そう！！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスアドバンス I Dance Advance I	必修 選択	選択必修	年次	3年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜3限
【授業の学習内容】 ファンデーションをメインにしたルーティンや作品制作。同時にフィジカルやミュージカリティが身につく筋トレ、リズム遊び、音楽知識を学ぶ。 (講師) 19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレヴューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i xさせたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 ダンサーとして行きて行ける知識、技術、モラルなどを習得。ダンスが上手でも行きていけない世界なのを生き抜く術を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	アイソレーションを丁寧に。分解、反復の理論
2回目	リズムの解説。右脳と左脳で理解できるように
3回目	ベーシックステップのいくつかをレクチャー
4回目	ベーシックステップのいくつかをレクチャー
5回目	体重移動の基礎。バランスの取り方
6回目	ヒップホップで使われるステップと90年代の曲
7回目	ウェーブの分解と練習方法
8回目	ストップ、ヒット、エアーのニュアンスと使いどころ
9回目	フリースタイル発表
10回目	ハイテンポの曲にたいするステップの運び方
11回目	ターンを数種類じっくり
12回目	自主制作コンテスト
13回目	コンテスト発表
14回目	実技試験
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	好きという気持ちを忘れないために反復の楽しさを覚えましょう。それをわかりやすく教えるので安心してください！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスアドバンスⅡ Dance AdvanceⅡ	必修 選択	選択必修	年次	3年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜3限
【授業の学習内容】 オールドスクールを中心とした半年間。またダンスの関わり方の可能性を伝えます。 (講師) 19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレヴューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i xさせたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 ダンサーとして行きて行ける知識、技術、モラルなどを習得。ダンスが上手でも行きていけない世界なのを生き抜く術を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	ブーガルーの基礎
2回目	ヒットとブーガルーをリズムに合わせて踊れるように
3回目	ロックダンスのファンデーション 1
4回目	ロックダンスのファンデーション 2
5回目	ロックダンスのファンデーション 3
6回目	7 0 年代の曲とロックダンスの関係、歴史
7回目	waackの基礎
8回目	waackのバリエーション
9回目	soulダンスのイロハ
10回目	soulダンスと現代音楽との混ぜ方
11回目	邦楽をかつこよく振付する方法
12回目	まとめテスト
13回目	テスト実施
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	知らない事は当たり前なので、知ろうとしてください。分からないものを分からないままにしない。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスアドバンスⅢ Dance AdvanceⅢ	必修 選択	選択必 修	年次	4年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜2限目
【授業の学習内容】							
ストレッチ、筋力トレーニング、クロスフロア、ターンコンビネーション、コンビネーションを継続的に行う。							
【到達目標】							
現時点の自分と比べて、柔軟性が増し怪我をしにくい身体になる、体幹が鍛えられ軸のある動きが出来るようになる、手足を大きく使い踊れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、ストレッチ、筋力トレーニング
2回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア
3回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア
4回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット
5回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット
6回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット
7回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット
8回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット、コンビネーション
9回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット、コンビネーション
10回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット、コンビネーション
11回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット、コンビネーション
12回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット、コンビネーション
13回目	ストレッチ、筋力トレーニング、プリエ、クロスフロア、ピルエット、コンビネーション
14回目	まとめ・前期試験
15回目	特別授業
準備学習 時間外学 習	授業内で次回までの課題を出します。
評価方法	出席率(50%)授業態度(50%)
受講生への メッセージ	ジャズダンスというジャンルの基礎技術力を身に付けるのはもちろんですが、この授業では同じことを繰り返し行い積み重ねて習得していく事が多い為、継続力もつけてほしいです。一人ではないので、一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	マルチパフォーマンス I	必修 選択	選択必修	年次	1		
	Multi Performance I	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜2限
【授業の学習内容】							
自分の理想の歌声や目標に向けて、ヴォイストレーニングの基本部分を学んでいく。楽曲歌唱も取り入れ、実際の歌唱にも結びつける。							
((講師プロフィール))							
福岡を拠点に、海外での歌唱や、国内の商業施設、中学・高校への芸術鑑賞会や九州各地でのゴスペルワークショップやブライダルなど、幅広く活動している。							
【到達目標】							
自分の理想の歌声に向かって、なぜヴォイストレーニングをする必要なのかを理解し、発声の基本項目を習得し、なおかつ習慣化し行う出来る。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、自己紹介、自分の理想の歌声や到達目標を考えてみよう、発声レベルチェック、発声①（姿勢、呼吸、リップロール）
2回目	発声①＋課題曲①レクチャー
3回目	発声①復習＆チェック＋課題曲①復習
4回目	発声①復習＆チェック＋課題曲①復習
5回目	発声①②（表情筋）＋課題曲②レクチャー
6回目	発声①②復習＆チェック＋課題曲②復習
7回目	発声①②復習＆チェック＋課題曲②復習
8回目	発声①②③（前に響かせる低音、後ろに響かせる低音）＋課題曲③レクチャー
9回目	発声①②③復習＆チェック＋課題曲③復習
10回目	発声①②③復習＆チェック＋課題曲③復習
11回目	発声①②③④（声帯周りの筋肉をストレッチする）、課題曲④レクチャー
12回目	発声①②③④復習＆チェック＋課題曲④復習
13回目	発声①②③④復習＆チェック＋課題曲④復習
14回目	発声総復習（疑問点確認）
15回目	発声レベルチェックテスト、前期振り返り（自分自身での到達度・進捗度を評価してみよう）
準備学習 時間外学習	各発声方法、楽曲の復習
評価方法	■出席率 40% ■授業へ取り組む姿勢 30% ■発声レベルの達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	取り組みれば取り組むほど、夢や目標に確実に近づきます！ぜひ一緒に沢山トライしていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
歌詞、課題音源、iPad、録音機材（ボイスレコーダーや携帯に録音機能など）、筆記用具	

科目名 (英)	マルチパフォーマンスⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
	Multi Performance Ⅱ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜2限
【授業の学習内容】							
自分の理想の歌声や目標に向けて、ヴォイストレーニングの基本部分を学んでいく。楽曲歌唱も取り入れ、実際の歌唱にも結びつける。 ((講師プロフィール)) 福岡を拠点に、海外での歌唱や、国内の商業施設、中学・高校への芸術鑑賞会や九州各地でのゴスペルワークショップやブライダルなど、幅広く活動している。							
【到達目標】							
発声の基本項目＋新しいアプローチ方法を習得し、なおかつ習慣化し行う出来る。							

授業計画・内容	
1回目	発声①②③④⑤（共鳴）、課題曲⑤レクチャー
2回目	発声①②③④⑤復習＆チェック＋課題曲⑤復習
3回目	発声①②③④⑤復習＆チェック＋課題曲⑤復習
4回目	発声①②③④⑤⑥（裏声）＋課題曲⑥復習
5回目	発声①②③④⑤⑥復習＆チェック＋課題曲⑥復習
6回目	発声①②③④⑤⑥復習＆チェック＋課題曲⑥復習
7回目	発声①復習＆様々なスケール＋課題曲⑦レクチャー
8回目	発声①復習＆チェック＋課題曲⑦復習
9回目	発声①復習＆チェック＋課題曲⑦復習
10回目	発声①②③④⑤⑥総復習、発表会に向けて選曲してみよう
11回目	発声レベルチェックテスト＋発表会に向けて
12回目	発表会、後期振り返り（自分自身での到達度・進捗度を評価してみよう）
13回目	実技試験
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	各発声方法、楽曲の復習
評価方法	■出席率 40% ■授業へ取り組む姿勢 30% ■発声レベルの達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	取り組みば取り組みほど、夢や目標に確実に近づきます！ぜひ一緒に沢山トライしていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
歌詞、課題音源、iPad、録音機材（ボイスレコーダーや携帯に録音機能など）、筆記用具	

科目名 (英)	マルチパフォーマンスⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2		
	Multi Performance Ⅲ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】							
自分の理想の歌声や目標に向けて、ヴォイストレーニングの基本部分のアプローチ方法を増やし、より細かく学んでいく。楽曲歌唱も取り入れ、実際の歌唱にも結びつける。 ((講師プロフィール)) 福岡を拠点に、海外での歌唱や、国内の商業施設、中学・高校への芸術鑑賞会や九州各地でのゴスペルワークショップやブライダルなど、幅広く活動している。							
【到達目標】							
基本的な発声＋アプローチ方法を取得し、より深い発声力を身につけて習慣にして取り組む事が出来る。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、自己紹介、自分の理想の歌声や到達目標を考えてみよう、発声レベルチェック、発声①（姿勢、呼吸、リップロール、表情筋）
2回目	発声①（姿勢、呼吸、リップロール、表情筋）＋課題曲①レクチャー
3回目	発声①復習＆チェック＋課題曲①復習
4回目	発声①復習＆チェック＋課題曲①復習
5回目	発声①②（前に響かせる低音、後ろに響かせる低音）＋課題曲②レクチャー
6回目	発声①②復習＆チェック＋課題曲②復習
7回目	発声①②復習＆チェック＋課題曲②復習
8回目	発声①②③（声帯周りの筋肉をストレッチする）＋課題曲③レクチャー
9回目	発声①②③復習＆チェック＋課題曲③復習
10回目	発声①②③復習＆チェック＋課題曲③復習
11回目	発声①②③④（共鳴）、課題曲④レクチャー
12回目	発声①②③④復習＆チェック＋課題曲④復習
13回目	発声①②③④復習＆チェック＋課題曲④復習
14回目	発声総復習（疑問点確認）
15回目	発声レベルチェックテスト、前期振り返り（自分自身での到達度・進捗度を評価してみよう）
準備学習 時間外学習	各発声方法、楽曲の復習
評価方法	■出席率 40% ■授業へ取り組む姿勢 30% ■発声レベルの達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	取り組みば取り組むほど、夢や目標に確実に近づきます！ぜひ一緒に沢山トライしていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
歌詞、課題音源、iPad、録音機材（ボイスレコーダーや携帯に録音機能など）、筆記用具	

科目名 (英)	マルチパフォーマンスⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2		
	Multi Performance Ⅳ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】							
自分の理想の歌声や目標に向けて、前期で学んだ基本の発声方法 4 項目をベースに、様々なスケールやアプローチ方法を使い、より深掘りしていく。楽曲歌唱も取り入れ、実際の歌唱にも結びつける。 ((講師プロフィール)) 福岡を拠点に、海外での歌唱や、国内の商業施設、中学・高校への芸術鑑賞会や九州各地でのゴスペルワークショップやブライダルなど、幅広く活動している。							
【到達目標】							
基本的な発声＋様々なスケール感の中で実践する事ができ、より深い発声力を身につけて習慣にして取り組む事が出来る。							

授業計画・内容	
1回目	発声①②③④⑤（裏声）、課題曲⑤レクチャー
2回目	発声①②③④⑤復習＆チェック、課題曲⑤レクチャー
3回目	発声①②③④⑤復習＆チェック、課題曲⑤レクチャー
4回目	発声①復習＆様々なスケール＋課題曲⑥レクチャー
5回目	発声①復習＆チェック＋課題曲⑥復習
6回目	発声②復習＆様々なスケール＋課題曲⑦レクチャー
7回目	発声②復習＆チェック＋課題曲⑦レクチャー
8回目	発声③復習＆母音を変えてみよう＋課題曲⑧レクチャー
9回目	発声③復習＆チェック＋課題曲⑧復習
10回目	発声復習＆チェック＋課題曲⑧復習
11回目	発声レベルチェックテスト＋発表会に向けて
12回目	発表会、後期振り返り（自分自身での到達度・進捗度を評価してみよう）
13回目	実技試験
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	各発声方法、楽曲の復習
評価方法	■出席率 40% ■授業へ取り組む姿勢 30% ■発声レベルの達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	取り組みば取り組むほど、夢や目標に確実に近づきます！ぜひ一緒に沢山トライしていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
歌詞、課題音源、iPad、録音機材（ボイスレコーダーや携帯に録音機能など）、筆記用具	

科目名 (英)	マルチパフォーマンスⅤ	必修 選択	選択必修	年次	3		
	Multi Performance Ⅵ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】							
自分の理想の歌声や目標に向けて、様々なスケールやアプローチ方法を使い、より発声の質をあげていく。楽曲歌唱も取り入れ、実際の歌唱にも結びつける。							
((講師プロフィール))							
福岡を拠点に、海外での歌唱や、国内の商業施設、中学・高校への芸術鑑賞会や九州各地でのゴスペルワークショップやブライダルなど、幅広く活動している。							
【到達目標】							
新しいスケールを増やし、基本的な発声とともに質を上げて実践する事が出来る。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、自己紹介、自分の理想の歌声や到達目標を考えてみよう、発声レベルチェック、発声①（姿勢、呼吸、リップロール、表情筋）
2回目	発声①（姿勢、呼吸、リップロール、表情筋：マイナースケール）＋課題曲①レクチャー
3回目	発声①復習＆チェック＋課題曲①復習
4回目	発声①復習＆チェック＋課題曲①復習
5回目	発声①②（前に響かせる低音、後ろに響かせる低音：マイナースケール）＋課題曲②レクチャー
6回目	発声①②復習＆チェック＋課題曲②復習
7回目	発声①②復習＆チェック＋課題曲②復習
8回目	発声①②③（声帯周りの筋肉をストレッチする：母音を変えて）＋課題曲③レクチャー
9回目	発声①②③復習＆チェック＋課題曲③復習
10回目	発声①②③復習＆チェック＋課題曲③復習
11回目	発声①②③④（共鳴：マイナースケール）、課題曲④レクチャー
12回目	発声①②③④復習＆チェック＋課題曲④復習
13回目	発声①②③④復習＆チェック＋課題曲④復習
14回目	発声総復習（疑問点確認）
15回目	発声レベルチェックテスト、前期振り返り（自分自身での到達度・進捗度を評価してみよう）
準備学習 時間外学習	各発声方法、楽曲の復習
評価方法	■出席率 40% ■授業へ取り組む姿勢 30% ■発声レベルの達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	取り組みば取り組むほど、夢や目標に確実に近づきます！ぜひ一緒に沢山トライしていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
歌詞、課題音源、iPad、録音機材（ボイスレコーダーや携帯に録音機能など）、筆記用具	

科目名 (英)	マルチパフォーマンスⅥ	必修 選択	選択必修	年次	3		
	Multi Performance IV	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】							
自分の理想の歌声や目標に向けて、前期で学んだ基本の発声方法 4 項目をベースに、様々なスケールやアプローチ方法を使い、より深掘りしていく。楽曲歌唱も取り入れ、実際の歌唱にも結びつける。 ((講師プロフィール)) 福岡を拠点に、海外での歌唱や、国内の商業施設、中学・高校への芸術鑑賞会や九州各地でのゴスペルワークショップやブライダルなど、幅広く活動している。							
【到達目標】							
新しいスケールを増やし、基本的な発声とともに質を上げて実践する事が出来、シンプルなスケールから発声＋ピアノを演奏しながら実践することが出来る。							

授業計画・内容	
1回目	発声①②③④⑤（裏声：母音を変えて）、課題曲⑤レクチャー
2回目	発声①②③④⑤復習＆チェック、課題曲⑤レクチャー
3回目	発声①②③④⑤復習＆チェック、課題曲⑤レクチャー
4回目	発声①復習＆ピアノを自分で弾いてみよう＋課題曲⑥レクチャー
5回目	発声①復習＆チェック＋課題曲⑥復習
6回目	発声②復習＆ピアノを自分で弾いてみよう＋課題曲⑦レクチャー
7回目	発声②復習＆チェック＋課題曲⑦レクチャー
8回目	発声③④復習＆ピアノを自分で弾いてみよう＋課題曲⑧レクチャー
9回目	発声③④復習＆チェック＋課題曲⑧復習
10回目	発声⑤復習＆チェック＋課題曲⑧復習
11回目	発声レベルチェックテスト＋発表会に向けて
12回目	発表会、後期振り返り（自分自身での到達度・進捗度を評価してみよう）
13回目	実技試験
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	各発声方法、楽曲の復習
評価方法	■出席率 40% ■授業へ取り組む姿勢 30% ■発声レベルの達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	取り組みば取り組むほど、夢や目標に確実に近づきます！ぜひ一緒に沢山トライしていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
歌詞、課題音源、iPad、録音機材（ボイスレコーダーや携帯に録音機能など）、筆記用具	

科目名 (英)	ダンススタイル I Dance Style I	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜4限
【授業の学習内容】 ストレッチ、体感トレーニング。フロアトレーニング。 ブレイキンに必要なフットワーク&スキルトレーニング。 振り付け（ブレイキン） （講師）USJ振付担当 【到達目標】 フロアでのボディーコントロール習得。 ブレイキンに必要なステップ&フットワーク&フリーズ習得 ステップ、フットワーク、フリーズを自由に組み立てて、ソロが踊れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	体幹トレーニング、フロアトレーニングでブレイキンに必要な体を作る 振り付け
2回目	体幹トレーニング、フロアトレーニングでブレイキンに必要な体を作る 振り付け
3回目	体幹トレーニング、フロアトレーニングでブレイキンに必要な体を作る 振り付け
4回目	体幹トレーニング、フロアトレーニングでブレイキンに必要な体を作る 振り付け
5回目	フロアトレーニング、ステップ、フットワーク ① 振り付け
6回目	フロアトレーニング、ステップ、フットワーク ② 振り付け
7回目	フロアトレーニング、ステップ、フットワーク ③ 振り付け
8回目	フットワーク、フリーズ ① 振り付け
9回目	フットワーク、フリーズ ② 振り付け
10回目	フットワーク、フリーズ ③ 振り付け
11回目	フットワーク組み立て ① 振り付け
12回目	フットワーク組み立て ② 振り付け
13回目	フットワーク組み立て ③ 振り付け
14回目	まとめ
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	フロアでのボディーコントロール能力、フロアスキルをUPさせて、一緒にレベルUPを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 動きやすい服装。動きやすいスニーカー。	

科目名 (英)	ダンススタイルⅡ Dance StyleⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜4限
【授業の学習内容】 ストレッチ、体感トレーニング。フロアトレーニング。 プレイキンに必要なフットワーク&スキルトレーニング。 振り付け（プレイキン） （講師）USJ振付担当							
【到達目標】 フロアでのボディーコントロール習得。 プレイキンに必要なステップ&フットワーク&フリーズ習得 ステップ、フットワーク、フリーズを自由に組み立てて、ソロが踊れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	フロアトレーニング、スキルトレーニング ①
2回目	フロアトレーニング、スキルトレーニング ②
3回目	フロアトレーニング、スキルトレーニング ③
4回目	ステップ、フットワーク、フリーズ組み立て ① 振り付け
5回目	ステップ、フットワーク、フリーズ組み立て ② 振り付け
6回目	ステップ、フットワーク、フリーズ組み立て ③ 振り付け
7回目	ステップ、フットワーク、フリーズ組み立て ④ 振り付け
8回目	即興でソロで踊るトレーニング
9回目	即興でソロで踊るトレーニング
10回目	即興でソロで踊るトレーニング
11回目	即興でソロで踊るトレーニング
12回目	まとめ
13回目	実技試験
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	フロアでのボディーコントロール能力、フロアスキルをUPさせて、一緒にレベルUPを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 動きやすい服装、動きやすいスニーカー	

科目名 (英)	ダンススタイルⅢ Dance StyleⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜2限
【授業の学習内容】 ストリートの基礎と応用を身につける。 (講師) クラブ等show出演の他、sunsetliveなどの野外フェス出演、インストラクター、ダンスコンテスト審査員、振付等、福岡を拠点に幅広い分野でダンサーとして活躍中。							
【到達目標】 1人で踊る感覚を身につけ、自己表現力を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け①
2回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け②
3回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け③
4回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け④
5回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け⑤
6回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け⑥
7回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け⑦
8回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け⑧
9回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け⑨
10回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け⑩
11回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け⑪
12回目	実技試験
13回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、セッション
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学 習	リズム、アイソレーション、振り付けの復習。
評価方法	実技試験
受講生への メッセージ	自己表現がしっかりできるダンサーを目指して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 レッスン着・シューズ・タオル	

科目名 (英)	ダンススタイルⅣ Dance StyleⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜2限
【授業の学習内容】 ストリートの基礎と応用を身につける。 (講師) クラブ等show出演の他、sunsetliveなどの野外フェス出演、インストラクター、ダンスコンテスト審査員、振付等、福岡を拠点に幅広い分野でダンサーとして活躍中。							
【到達目標】 1人で踊る感覚を身につけ、自己表現力を習得する。 振り付けとソロの違いを理解する。 自分で振付を作る。							

授業計画・内容	
1回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け、セッション①
2回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け、セッション②
3回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け、セッション③
4回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け、セッション④
5回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け、セッション⑤
6回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け、セッション⑥
7回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、振り付け、セッション⑦
8回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、セッション①
9回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、セッション②
10回目	ストレッチ、リズム、アイソレーション、ステップ、セッション③
11回目	後期まとめ
12回目	実技試験
13回目	実技試験
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	リズム、アイソレーション、振り付けの復習。
評価方法	実技試験
受講生への メッセージ	自己表現がしっかりできるダンサーを目指して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 レッスン着・シューズ・タオル	

科目名 (英)	ダンススタイルⅤ Dance Style V	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜4限
【授業の学習内容】 ウォーミングUP、ストレッチ、アイソレーション、クロスフロア（テクニック）を準備運動として実施し、それを使ってJAZZ、JAZZ HOPHOPコンビネーションを2～3週を目標に実施する。 （講師）アメリカで単身レッスンを受け、ラスベガスで数々の日本人初となるイベント出演を果たす。最新のLAスタイルジャズを主体とした自身のジャズファンクを確立。現在、「福岡から世界へ」をベースに日本はもとよりアメリカラスベガスにもレギュラーイベントを持つダンスパフォーマンスユニット「ソウル・スプラッシュ・クルー」として活躍中。							
【到達目標】 いろんな種類のダンスを実習していき、それをこなせる陽にしていく。1年間でダンスの基礎を学ぶ。							

授業計画・内容	
1回目	ダンサーとは！の講義を前半に行い、後半4～6×8の振付を覚え、踊る。
2回目	JAZZHIPHOPを踊る。上記のウォーミングUPの後に6～8×8の振付を踊る。
3回目	前半ストレッチやアイソレーションの仕方を覚え、後半8～12×8の振付を踊る。
4回目	クロスフロアで使ったテクニックを振付の中に入れ練習をし、習得する。
5回目	クロスフロアで使ったテクニックを振付の中に入れ練習をし、習得する。
6回目	グループ分けをし、課題を与え、自分たちで振付をし、それを発表し、意見交換を行う。
7回目	フォーメーションダンスを踊る。前後左右の動きを取り入れたダンスを踊り、協調性を養う。
8回目	フォーメーションダンスを踊る。前後左右の動きを取り入れたダンスを踊り、協調性を養う。
9回目	JAZZダンスを踊る。身体の使い方や動きの流れ方の練習し、4×8のJAZZを踊る。
10回目	JAZZダンスを踊る。身体の使い方や動きの流れ方の練習し、4×8のJAZZを踊る。
11回目	グループ分けをし、課題を与え自分たちで振付をし、それを発表し、意見交換を行う。
12回目	前期の評価。4～6×8の振付を覚え、3～4人に分け、踊り、評価する。
13回目	前期まとめ
14回目	前期まとめ
15回目	特別授業
準備学習 時間 外 学習	なし
評価方法	主席率50%、技術向上率20%、授業の取り組み態度30%
受講生へのメッセージ	基本的にはJAZZスタイルで進めていきます。JAZZが得意ではない人も多くいますが、それぞれの持っている個性を出し、いろんな自分の可能性を見つけ出して視野を広げてもらえればと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 なし	

科目名 (英)	ダンススタイルVI Dance StyleVI	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜4限
【授業の学習内容】 ウォーミングUP、ストレッチ、体幹トレーニング（タンジェ、バランスなど）、クロスフロア（テクニック）を準備運動として実施し、それを使ってJAZZ、JAZZ HOPHOPコンビネーションを2～3週を目途に実施する。 （講師）アメリカで単身レッスンを受け、ラスベガスで数々の日本人初となるイベント出演を果たす。最新のLAスタイルジャズを主体とした自身のジャズファンクを確立。現在、「福岡から世界へ」をベースに日本はもとよりアメリカラスベガスにもレギュラーイベントを持つダンスパフォーマンスユニット「ソウル・スプラッシュ・クルー」として活躍中。							
【到達目標】 基礎体力を付け、ダンステクニックを習得させ、あらゆるジャンルのダンスに対応できる能力を身に付け、社会に出たときに率先力となる様にする。							

授業計画・内容	
1回目	JAZZダンスを踊る。JAZZの基礎を取り入れたダンスを覚え、それを実習していく。
2回目	JAZZダンスを踊る。JAZZの基礎を取り入れたダンスを覚え、それを実習していく。
3回目	テクニック、スキルUPの強化。ターンやジャンプを取り入れたダンスコンビを踊る。
4回目	テクニック、スキルUPの強化。ターンやジャンプを取り入れたダンスコンビを踊る。
5回目	リズムの取り方を覚える。HIPHOP系のダンスを踊り、ニュアンス等を学ぶ。
6回目	グループ分けをし、課題を与え、自分たちで振付をし、それを発表する。
7回目	リズムの取り方を覚える。HIPHOP系のダンスを踊り、ニュアンス等を学ぶ。
8回目	フロアテクニックを身に付ける。フロアへの導入の仕方や動かし方、体重移動を学ぶ。
9回目	2つのグループに分ける。1つの曲で2つの違う振付を踊る。又、それを交代する。
10回目	小道具（帽子）を使う。帽子を使った振付を踊り、シアターダンスを学ぶ。
11回目	グループ分けをし、課題を与え、自分たちで振付をし、それを発表する。
12回目	前期の評価。4～6×8の振付を覚え、3～4人に分け、踊り、評価する。
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	なし
評価方法	主席率50%、技術向上率20%、授業の取り組み態度30%
受講生へのメッセージ	1年間の中で、自分は何をしたいのか？を模索し、考え、最終的なビジョンを作り、そこに向かって、自分らしさを見つけて欲しいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 なし	

科目名 (英)	ヴォイスサンプル I Voice Sample	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜3限
【授業の学習内容】 声の演技に必要な感性を磨き、台本の理解力を伸ばし、表現方法の向上、キャラクターの確立を促します。ヴォイスサンプル収録に必要な演技と表現力、感情表現の基礎を中心に学びます。収録に関するテクニカル要素についても学び、声の演技の基礎を徹底的に習得します。 ※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。							
【到達目標】 ヴォイスサンプル収録におけるキャラクターヴォイスの演技の基礎と表現力トレーニング、収録テクニカルを身につけます。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル録音スタジオ環境、マイクの使い方、マイクテクニック）①
3回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル録音スタジオ環境、マイクの使い方、マイクテクニック）②
4回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル録音スタジオセッション）
5回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル演技と言葉のクリアさと聞き取りやすさの向上）①
6回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル演技と言葉のクリアさと聞き取りやすさの向上）②
7回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル演技と鼻濁音、無声音、変形滑舌練習）
8回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル演技と台本解析、キャラクター演技）①
9回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル演技と台本解析、キャラクター演技）②
10回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル演技とキャラクター声の演技、感情表現）①
11回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル演技とキャラクター声の演技、感情表現）②
12回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル声の特徴と表現力のトレーニング）①
13回目	キャラクターヴォイス演技基礎（ヴォイスサンプル声の特徴と表現力のトレーニング）②
14回目	実技試験
15回目	振り返り
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ&外画台本	

科目名 (英)	ヴォイスサンプルⅡ Voice Sample	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜3限
【授業の学習内容】 声の演技に必要な感性を磨き、台本の理解力を伸ばし、表現方法の向上、キャラクターの確立を促します。ヴォイスサンプル収録に必要な演技と表現力、感情表現の基礎を中心に学びます。収録に関するテクニカル要素についても学び、声の演技の基礎を徹底的に習得します。 ※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。							
【到達目標】 ヴォイスサンプル収録におけるキャラクターヴォイスの演技の基礎と表現力トレーニング、収録テクニカルを身につけます。							

授業計画・内容	
1回目	キャラクターボイス演技応用（アニメ：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）①
2回目	キャラクターボイス演技応用（アニメ：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）②
3回目	キャラクターボイス演技応用（アニメ：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）③
4回目	キャラクターボイス演技応用（外画：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）①
5回目	キャラクターボイス演技応用（外画：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）②
6回目	キャラクターボイス演技応用（外画：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）③
7回目	キャラクターボイス演技応用（ゲーム：キャラクターやシーンに応じた演技の実践、アクション・バトルシーン）①
8回目	キャラクターボイス演技応用（ゲーム：キャラクターやシーンに応じた演技の実践、アクション・バトルシーン）②
9回目	キャラクターボイス演技応用（ゲーム：キャラクターやシーンに応じた演技の実践、アクション・バトルシーン）③
10回目	キャラクターボイス演技応用（ラジオドラマ・オーディオブック：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）①
11回目	キャラクターボイス演技応用（ラジオドラマ・オーディオブック：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）②
12回目	キャラクターボイス演技応用（ラジオドラマ・オーディオブック：キャラクターやシーンに応じた演技の実践）③
13回目	ボイスサンプル収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学 習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方 法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ&外画台本	

科目名 (英)	ヴォイスサンプルⅢ Voice Sample	必修 選択	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜3限
【授業の学習内容】 声の演技に必要な感性を磨き、台本の理解力を伸ばし、表現方法の向上、キャラクターの確立を促します。ヴォイスサンプル収録に必要な演技と表現力、感情表現の基礎を中心に学びます。収録に関するテクニカル要素についても学び、声の演技の基礎を徹底的に習得します。 ※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。							
【到達目標】 ヴォイスサンプル収録におけるヴォイスアクティングの演技の基礎と表現力トレーニング、収録テクニカルを身につけます。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	ヴォイスアクティング基礎（ヴォイスサンプル収録、音質、テクニカル）
3回目	ヴォイスアクティング基礎（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）①
4回目	ヴォイスアクティング基礎（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）②
5回目	ヴォイスアクティング基礎（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）③
6回目	ヴォイスアクティング基礎（ヴォイスサンプル収録：課題Ⅰ）
7回目	ヴォイスアクティング基礎（ヴォイスサンプル収録：課題Ⅱ）
8回目	ヴォイスアクティング基礎（ヴォイスサンプル収録：課題Ⅲ）
9回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
10回目	ヴォイスアクティング基礎（ヴォイスサンプル収録：課題Ⅳ）
11回目	ヴォイスアクティング基礎（ヴォイスサンプル収録：課題Ⅴ）
12回目	ヴォイスアクティング基礎（ヴォイスサンプル収録：課題Ⅵ）
13回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
14回目	実技試験
15回目	振り返り
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ&外画台本	

科目名 (英)	ヴォイスサンプルⅣ Voice Sample	必修 選択	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜3限
【授業の学習内容】 声の演技に必要な感性を磨き、台本の理解力を伸ばし、表現方法の向上、キャラクターの確立を促します。ヴォイスサンプル収録に必要な演技と表現力、感情表現の基礎を中心に学びます。収録に関するテクニカル要素についても学び、声の演技の基礎を徹底的に習得します。 ※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。							
【到達目標】 ヴォイスサンプル収録におけるヴォイスアクティングの演技の基礎と表現力トレーニング、収録テクニカルを身につけます。							

授業計画・内容	
1回目	ヴォイスアクティング応用（音響監督実習）①
2回目	ヴォイスアクティング応用（音響監督実習）②
3回目	ヴォイスアクティング応用（音響監督実習）③
4回目	ヴォイスアクティング応用（ヴォイスサンプル収録：各ジャンル課題Ⅰ）
5回目	ヴォイスアクティング応用（ヴォイスサンプル収録：各ジャンル課題Ⅱ）
6回目	ヴォイスアクティング応用（ヴォイスサンプル収録：各ジャンル課題Ⅲ）
7回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
8回目	ヴォイスアクティング応用（ヴォイスサンプル収録：各ジャンル課題Ⅳ）
9回目	ヴォイスアクティング応用（ヴォイスサンプル収録：各ジャンル課題Ⅴ）
10回目	ヴォイスアクティング応用（ヴォイスサンプル収録：各ジャンル課題Ⅵ）
11回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
12回目	オーディション対策（プロダクション研究、ヴォイスサンプル制作）①
13回目	オーディション対策（プロダクション研究、ヴォイスサンプル制作）②
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学 習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方 法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ&外画台本	

科目名 (英)	ヴォイスサンプルV Voice Sample	必修 選択	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜3限
【授業の学習内容】 声の演技に必要な感性を磨き、台本の理解力を伸ばし、表現方法の向上、キャラクターの確立を促します。ヴォイスサンプル収録に必要な演技と表現力、感情表現の基礎を中心に学びます。収録に関するテクニカル要素についても学び、声の演技の基礎を徹底的に習得します。 ※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。							
【到達目標】 ヴォイスサンプル収録におけるヴォイスアクティングの演技の基礎と表現力トレーニング、収録テクニカルを身につけます。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	ヴォイスサンプル収録基礎（作品キャスティング研究）①
3回目	ヴォイスサンプル収録基礎（作品キャスティング研究）②
4回目	ヴォイスサンプル収録基礎（作品キャスティング、キャラクターボイス研究）③
5回目	ヴォイスサンプル収録基礎（アニメジャンルとキャラクターボイス研究）④
6回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
7回目	ヴォイスサンプル収録基礎（各ジャンルとキャラクターボイス）①
8回目	ヴォイスサンプル収録基礎（各ジャンルとキャラクターボイス）②
9回目	ヴォイスサンプル収録基礎（各ジャンルとキャラクターボイス）③
10回目	ヴォイスサンプル収録基礎（各ジャンルとキャラクターボイス）④
11回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
12回目	オーディション制作（プロダクション研究、ヴォイスサンプル模擬オーディション）①
13回目	オーディション制作（プロダクション研究、ヴォイスサンプル模擬オーディション）②
14回目	実技試験
15回目	振り返り
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ&外画台本	

科目名 (英)	ヴォイスサンプルVI Voice Sample	必修 選択	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜3限
【授業の学習内容】 声の演技に必要な感性を磨き、台本の理解力を伸ばし、表現方法の向上、キャラクターの確立を促します。ヴォイスサンプル収録に必要な演技と表現力、感情表現の基礎を中心に学びます。収録に関するテクニカル要素についても学び、声の演技の基礎を徹底的に習得します。 ※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。							
【到達目標】 ヴォイスサンプル収録におけるヴォイスアクティングの演技の基礎と表現力トレーニング、収録テクニカルを身につけます。							

授業計画・内容	
1回目	オーディションサンプル制作（ヴォイスワーク研究、模擬審査）①
2回目	オーディションサンプル制作（ヴォイスワーク研究、模擬審査）②
3回目	オーディションサンプル制作（ヴォイスワーク研究、模擬審査）③
4回目	ヴォイスサンプル収録応用（スタジオセッションのプロフェッショナルな進行各ジャンルアニメ作品、企業課題他）①
5回目	ヴォイスサンプル収録応用（スタジオセッションのプロフェッショナルな進行各ジャンルアニメ作品、企業課題他）②
6回目	ヴォイスサンプル収録応用（リモートワーク録音制作、音質、各ジャンルアニメ作品、企業課題他）③
7回目	ヴォイスサンプル収録応用（リモートワーク録音制作、音質、各ジャンルアニメ作品、企業課題他）④
8回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
9回目	ヴォイスサンプル収録応用（音響監督スタジオセッション）①
10回目	ヴォイスサンプル収録応用（音響監督スタジオセッション）②
11回目	ヴォイスサンプル収録応用（企業課題収録）①
12回目	ヴォイスサンプル収録応用（企業課題収録）②
13回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ&外画台本	

科目名 (英)	表現基礎 I Basis of Expression	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜1限
【授業の学習内容】 呼吸法、発声、発音、あいうえおの歌、外郎売等、役者の基本は勿論であるが、感情より刺激され生み出される情念的動作を徹底的に行い今後の役者道を貫けるよう指導していく。また、インプロ、セルフプロデュース、トークも授業の中に取り入れ、卒業後に最も大切である実技、トーク、セルフプロデュースの3本柱を徹底的に行う。実技に置いては、エチュードを行い、映画、ドラマ、舞台で必要な役作りを学んで頂き世界に通じる役者育成を目指す。 <講師プロフィール> 15歳より芝居を始め、TV、映画、ドラマに多数出演する中、ライブ活動も積極的におこなう。2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。全作品の作/演出を手掛け、2007年には、150万部のベストセラー小説「ハッピーバースデー」を全国で初めて舞台化、話題を呼んだ。現在、若手の育成と市民参加型ミュージカルの取り組みに力を入れ、全国に演出家として招かれている。 【到達目標】 即戦力の育成。映画、ドラマ、舞台で活躍できる事は勿論であるが、人としてのマナー教育も行い、人や業界に愛される役者としての資質を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	演技基礎：感情解放
2回目	基礎とヴォイトレ
3回目	基礎/情念的動作：驚き
4回目	基礎/情念的動作：恐れ
5回目	基礎/情念的動作：恐れのインプロ
6回目	基礎/情念的動作：怒り
7回目	基礎/情念的動作：怒りのインプロ
8回目	基礎/情念的動作：苦しみ
9回目	基礎/情念的動作：苦しみのインプロ
10回目	基礎/情念的動作：悲しみ
11回目	基礎/情念的動作：悲しみのインプロ
12回目	基礎/情念的動作：喜び
13回目	実技試験
14回目	振り返り
15回目	特別講義
準備学習 時間外 学習	
評価方法	外郎売：65点＋全日程授業数＋皆勤＝80点より外郎売20点（暗記テスト）
受講生への メッセージ	演技とは楽しいものである。だが、一流はもがき苦しみの中より生み出される。だから芝居とは、楽しく作り狂って創る。
【使用教科書・教材・参考書】 発声、発音/あいうえおの歌/外郎売	

科目名 (英)	表現基礎Ⅱ Basis of Expression	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜1限
【授業の学習内容】 より実践に近い、インプロ、セルフプロデュース、トークも授業の中に取り入れ、卒業後に最も大切である実技、トーク、セルフプロデュースの3本柱を徹底的に行う。実技に置いては、エチュードを行い、映画、ドラマ、舞台に必要な役作りを学んで頂き世界に通じる役者育成を目指す。 <講師プロフィール> 15歳より芝居を始め、TV、映画、ドラマに多数出演する中、ライブ活動も積極的におこなう。2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。全作品の作/演出を手掛け、2007年には、150万部のベストセラー小説「ハッピーバースデー」を全国で初めて舞台化、話題を呼んだ。現在、若手の育成と市民参加型ミュージカルの取り組みに力を入れ、全国に演出家として招かれている。							
【到達目標】 即戦力の育成。映画、ドラマ、舞台で活躍できる事は勿論であるが、人としてのマナー教育も行い、人や業界に愛される役者としての資質を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	映画とドラマの違い インプロ
2回目	舞台と映像の違い インプロ
3回目	映画：エチュード
4回目	ドラマエチュード
5回目	舞台現代エチュード
6回目	舞台古典エチュード
7回目	映像古典エチュード
8回目	映像現代エチュード
9回目	映像演技 インプロ
10回目	映像演技 インプロ
11回目	トーク術・セルフプロデュース術（基礎）
12回目	応用トレーニング：これまでの授業成果のまとめ①
13回目	応用トレーニング：これまでの授業成果のまとめ②
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	外郎売：65点＋全日程授業数＋皆勤＝80点より外郎売20点（暗記テスト）
受講生への メッセージ	演技とは楽しいものである。だが、一流はもがき苦しみの中より生み出される。だから芝居とは、楽しく作り狂って創る。
【使用教科書・教材・参考書】 エチュード資料	

科目名 (英)	表現基礎ⅢⅣ Basis of Expression	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 より実践に近い、インプロ、セルフプロデュース、トークも授業の中に取り入れ、卒業後に最も大切である実技、トーク、セルフプロデュースの3本柱を徹底的に行う。実技に置いては、エチュードを行い、映画、ドラマ、舞台に必要な役作りを学んで頂き世界に通じる役者育成を目指す。 <講師プロフィール> 15歳より芝居を始め、TV、映画、ドラマに多数出演する中、ライブ活動も積極的におこなう。2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。全作品の作/演出を手掛け、2007年には、150万部のベストセラー小説「ハッピーバースデー」を全国で初めて舞台化、話題を呼んだ。現在、若手の育成と市民参加型ミュージカルの取り組みに力を入れ、全国に演出家として招かれている。							
【到達目標】 即戦力の育成。映画、ドラマ、舞台で活躍できる事は勿論であるが、人としてのマナー教育も行い、人や業界に愛される役者としての資質を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	映画とドラマの違い インプロ（基礎）
2回目	舞台と映像の違い インプロ（基礎）
3回目	映画：エチュード（基礎）
4回目	ドラマエチュード（基礎）
5回目	舞台現代エチュード（基礎）
6回目	舞台古典エチュード（基礎）
7回目	映像古典エチュード（基礎）
8回目	映像現代エチュード（基礎）
9回目	映像演技 インプロ（基礎①）
10回目	映像演技 インプロ（基礎②）
11回目	トーク術（基礎）
12回目	セルフプロデュース術（基礎）
13回目	実技試験
14回目	振り返り
15回目	特別講義
準備学習 時間外学習	
評価方法	外郎売：65点＋全日程授業数＋皆勤＝80点より外郎売20点（暗記テスト）
受講生への メッセージ	演技とは楽しいものである。だが、一流はもがき苦しみの中より生み出される。だから芝居とは、楽しく作り狂って創る。
【使用教科書・教材・参考書】 エチュード資料	

科目名 (英)	表現基礎ⅢⅣ Basis of Expression	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 より実践に近い、インプロ、セルフプロデュース、トークも授業の中に取り入れ、卒業後に最も大切である実技、トーク、セルフプロデュースの3本柱を徹底的に行う。実技に置いては、エチュードを行い、映画、ドラマ、舞台で必要な役作りを学んで頂き世界に通じる役者育成を目指す。 <講師プロフィール> 15歳より芝居を始め、TV、映画、ドラマに多数出演する中、ライブ活動も積極的におこなう。2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。全作品の作/演出を手掛け、2007年には、150万部のベストセラー小説「ハッピーバースデー」を全国で初めて舞台化、話題を呼んだ。現在、若手の育成と市民参加型ミュージカルの取り組みに力を入れ、全国に演出家として招かれている。							
【到達目標】 即戦力の育成。映画、ドラマ、舞台で活躍できる事は勿論であるが、人としてのマナー教育も行い、人や業界に愛される役者としての資質を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	映画とドラマの違い インプロ（応用）
2回目	舞台と映像の違い インプロ（応用）
3回目	映画：エチュード（応用）
4回目	ドラマエチュード（応用）
5回目	舞台現代エチュード（応用）
6回目	舞台古典エチュード（応用）
7回目	映像古典エチュード（応用）
8回目	映像現代エチュード（応用）
9回目	映像演技 インプロ（応用①）
10回目	映像演技 インプロ（応用②）
11回目	トーク術・セルフプロデュース術（応用実践）
12回目	応用トレーニング：これまでの授業成果のまとめ①
13回目	応用トレーニング：これまでの授業成果のまとめ②
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	
評価方法	外郎売：65点＋全日程授業数＋皆勤＝80点より外郎売20点（暗記テスト）
受講生への メッセージ	演技とは楽しいものである。だが、一流はもがき苦しみの中より生み出される。だから芝居とは、楽しく作り狂って創る。
【使用教科書・教材・参考書】 エチュード資料	

科目名 (英)	表現基礎 V VI Basis of Expression	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	木曜 3 限
【授業の学習内容】 インプロ、セルフプロデュース、トークも授業の中に取り入れ、卒業後に最も大切である実技、トーク、セルフプロデュースの3本柱を徹底的に行う。実技に置いては、エチュードを行い、映画、ドラマ、舞台に必要な役作りを学んで頂き世界に通じる役者育成を目指す。 <講師プロフィール> 15歳より芝居を始め、TV、映画、ドラマに多数出演する中、ライブ活動も積極的におこなう。2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。全作品の作/演出を手掛け、2007年には、150万部のベストセラー小説「ハッピーバースデー」を全国で初めて舞台化、話題を呼んだ。現在、若手の育成と市民参加型ミュージカルの取り組みに力を入れ、全国に演出家として招かれている。							
【到達目標】 即戦力の育成。映画、ドラマ、舞台で活躍できる事は勿論であるが、人としてのマナー教育も行い、人や業界に愛される役者としての資質を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	演劇的ゲーム
2回目	セルフプロデュース術①
3回目	セルフプロデュース術②
4回目	基礎トレーニング：感情解放
5回目	基礎トレーニング：エチュード1
6回目	基礎トレーニング：エチュード2
7回目	基礎トレーニング：エチュード3
8回目	基礎トレーニング：エチュード4
9回目	基礎トレーニング：エチュード5
10回目	基礎トレーニング：エチュード6
11回目	基礎トレーニング：エチュード7
12回目	基礎トレーニング：これまでの授業成果のまとめ①
13回目	実技試験
14回目	振り返り
15回目	特別講義
準備学習 時間外 学習	
評価方法	外郎売：65点＋全日程授業数＋皆勤＝80点より外郎売20点（暗記テスト）
受講生への メッセージ	自分の夢と向き合い、どこまで信じて出来るか・・・自分の可能性を信じてください
【使用教科書・教材・参考書】 エチュード資料	

科目名 (英)	表現基礎 V VI Basis of Expression	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	木曜 3 限
【授業の学習内容】 インプロ、セルフプロデュース、トークも授業の中に取り入れ、卒業後に最も大切である実技、トーク、セルフプロデュースの3本柱を徹底的に行う。実技に置いては、エチュードを行い、映画、ドラマ、舞台に必要な役作りを学んで頂き世界に通じる役者育成を目指す。 <講師プロフィール> 15歳より芝居を始め、TV、映画、ドラマに多数出演する中、ライブ活動も積極的におこなう。2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。全作品の作/演出を手掛け、2007年には、150万部のベストセラー小説「ハッピーバースデー」を全国で初めて舞台化、話題を呼んだ。現在、若手の育成と市民参加型ミュージカルの取り組みに力を入れ、全国に演出家として招かれている。							
【到達目標】 即戦力の育成。映画、ドラマ、舞台で活躍できる事は勿論であるが、人としてのマナー教育も行い、人や業界に愛される役者としての資質を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	演劇的ゲーム
2回目	セルフプロデュース術①
3回目	セルフプロデュース術②
4回目	実践トレーニング：感情解放
5回目	実践トレーニング：エチュード1
6回目	実践トレーニング：エチュード2
7回目	実践トレーニング：エチュード3
8回目	実践トレーニング：エチュード4
9回目	実践トレーニング：エチュード5
10回目	実践トレーニング：エチュード6
11回目	実践トレーニング：エチュード7
12回目	応用トレーニング：これまでの授業成果のまとめ①
13回目	応用トレーニング：これまでの授業成果のまとめ②
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	外郎売：65点＋全日程授業数＋皆勤＝80点より外郎売20点（暗記テスト）
受講生への メッセージ	自分の夢と向き合い、どこまで信じて出来るか・・・自分の可能性を信じてください
【使用教科書・教材・参考書】 エチュード資料	

科目名 (英)	動画撮影制作 I Video shooting production	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 動画撮影制作は動画クリエイターとして、Youtuber、SNSで活動続ける為にセルフマネジメントを身につけるためにも、創造力、アイデア、自由な発想を身につけます。ブレインストーミングから自由な発想を得て具体的に活動展開する力を習得します。SNSマーケティング、セルフマネジメント、セルフマーケティングを中心に学びます。※実務経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとして活動、ライバー活動など多彩に活動中							
【到達目標】 クリエイターとして必要な基本的考え方からアイデアの作り方、クリエイティブなコンテンツ制作の基礎を徹底的に習得します。創造力、アイデア、自由な発想を身につけ、SNSマーケティング、セルフマネジメント、セルフマーケティングを学び、具体的な活動展開できる基礎力を目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	クリエイティブデザイン基礎(自由な発想と創造的思考、ブレインストーミング) ①
3回目	クリエイティブデザイン基礎(アイデア思考、プランニングの基本)②
4回目	クリエイティブデザイン基礎(デザイン思考、クリティカルシンキングの基本)③
5回目	SNSマーケティング基礎(法的な問題点、SNSメディアの倫理と社会的責任)①
6回目	SNSマーケティング基礎(コンテンツマーケティングの基本原則、データ管理)②
7回目	SNSマーケティング基礎(SNSプラットフォーム、コミュニティマネジメント)③
8回目	セルフマーケティング基礎(キャラクター設定、個性、強みと特徴) ①
9回目	セルフマーケティング基礎(キャラクター設定、個性、強みと特徴) ②
10回目	セルフマーケティング基礎(キャラクター設定、インフルエンサーの強みと特徴)③
11回目	コンテンツデザイン基礎(コンテンツの種類とフォーマット)①
12回目	コンテンツデザイン基礎(クリエイティブなコンテンツの構成と編集)②
13回目	コンテンツデザイン基礎(コンテンツのクオリティ、メディア比較)③
14回目	期末テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生へのメッセージ	差別化された独自のコンテンツを作る為に、自身の個性やアイデアをカタチにするために様々な経験と多くのことに興味を持ち、好奇心を大切に過ごしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Mac	

科目名 (英)	動画撮影制作Ⅱ Video shooting production	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜2限
【授業の学習内容】 撮影機材の扱い方、カメラ、ライティング、画面デザインなど動画撮影に関する基本的な知識を学び、再生数の多いコンテンツの特徴をビジュアル的に研究し、動画編集、コンテンツ制作を行う。※実務経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとして活動、ライバー活動など多彩に活動中							
【到達目標】 機材の扱い方を知り、活用できるようになること、効果的な画面デザインで視認性の高い動画を制作できるようになること、セルフマーケティングにより自らの強みと特徴を考え、キャラクター設定ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	動画制作の基礎（動画制作の概要と制作の流れ、スケジュール管理）①
2回目	動画制作の基礎（ロケハン、進行台本、構成）②
3回目	動画制作の基礎（ライティング、音声収録、ナレーション）③
4回目	動画制作の基礎（ライティング、音声収録、ナレーション）④
5回目	撮影方法の基礎（機材・機能の理解、構成とフレーミングの基本）①
6回目	撮影方法の基礎（撮影技術、レンズの選択と効果、カメラアングル）②
7回目	撮影方法の基礎（映像編集、ビジュアルコンテンツ、キャプション）③
8回目	撮影方法の基礎（映像編集、ビジュアルコンテンツ、キャプション）④
9回目	制作課題に対するフィードバック評価
10回目	コンテンツ制作基礎（画面デザイン、サムネイル、編集、調査）①
11回目	コンテンツ制作基礎（画面デザイン、サムネイル、編集、調査）②
12回目	コンテンツ制作基礎（作品制作、課題フィードバック）③
13回目	コンテンツ制作基礎（作品制作、課題フィードバック）④
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	多くのコンテンツを研究し、作品制作に向けて機材の使い方、目を引くサムネイルとタイトルなども研究し、動画をクリックしたくなるような魅力的な要素が何かを学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Mac	

科目名 (英)	動画撮影制作Ⅲ Video shooting production	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜2限
【授業の学習内容】 動画クリエイターとしてのクオリティアップを目標にデザインソフトを中心に学びます。デザインセンスを磨き、画面デザイン、サムネイル制作を習得します。※実務経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとして活動、ライバー活動など多彩に活動中							
【到達目標】 動画クリエイターとしてのクオリティアップを目標に魅力的なデザイン、視認性の高いデザインセンスを身につけ、コンテンツ制作に取り組みます。画面デザイン、サムネイル制作能力の向上を目指します。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	コンテンツデザイン基礎（カラー・色が与える影響・色彩感覚Ⅰ）①
3回目	コンテンツデザイン基礎（カラー・色が与える影響・色彩感覚Ⅱ）②
4回目	コンテンツデザイン基礎（画面デザイン、サムネイル編Ⅰ）①
5回目	コンテンツデザイン基礎（PhotoshopⅠ・Ⅱ）①
6回目	コンテンツデザイン基礎（PhotoshopⅢ・Ⅳ）②
7回目	コンテンツデザイン基礎（illustratorⅠ・Ⅱ）③
8回目	コンテンツデザイン基礎（illustratorⅢ・Ⅳ）④
9回目	コンテンツデザイン基礎（画面デザイン、サムネイル編Ⅱ）②
10回目	コンテンツデザイン基礎（AfterEffectsⅠ・Ⅱ）①
11回目	コンテンツデザイン基礎（AfterEffectsⅢ・Ⅳ）②
12回目	コンテンツデザイン基礎（画面デザイン、サムネイル編Ⅲ）③
13回目	制作課題に対するフィードバック評価
14回目	期末テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	視認性の高いデザイン、映画、MV、写真など動画・静止画問わず多くのコンテンツに触れることが重要です。様々な目的に合わせたデザインセンスを身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Mac	

科目名 (英)	動画撮影制作Ⅳ Video shooting production	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜2限
【授業の学習内容】 動画制作コンテンツの質を技術面でも高め、コンスタントに制作、反復投稿し、SNSマーケティングとも連動し、クリエイターとしての活動の質を高めます。※実務経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとして活動、ライバー活動など多彩に活動中							
【到達目標】 動画制作コンテンツのテクニカル面でのクオリティアップ、投稿のスケジュール管理、SNSマーケティング、セルフマーケティングの連動を積極的に展開できる能力を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	映像演出（様々な演出方法、アイデアとビジョン）①
2回目	映像演出（様々な演出方法、アイデアとビジョン）②
3回目	映像演出（様々な演出方法、アイデアとビジョン）③
4回目	セルフマーケティング応用（SNS効果測定、マーケティング）①
5回目	作品制作（テキストとタイトルのデザイン）①
6回目	作品制作（ビジュアルエフェクト効果）②
7回目	制作課題に対するフィードバック評価
8回目	セルフマーケティング応用（SNS効果測定、マーケティング）②
9回目	作品制作（サウンドミキシングとバランスの調整）③
10回目	作品制作（音楽の選択と編集）④
11回目	作品制作（ファイルフォーマットと圧縮、配信）⑤
12回目	制作課題に対するフィードバック評価
13回目	セルフマーケティング応用（SNS効果測定、マーケティング）③
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	各SNSの特徴について知り、SNSマーケティング、セルフマーケティングを学び、習慣的に投稿するスケジュール管理を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Mac	

科目名 (英)	動画撮影制作Ⅴ Video shooting production	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜2限
【授業の学習内容】 グループワーク、企業・外部とのコラボレーション制作課題の取り組み、投稿コンテンツがより注目されるSNSマーケティングの分析やコミュニティマネジメントのしくみを学び、実践的に展開する力を身につけます。本格的に質の高い動画制作と動画アップを反復して行います。 ※ 実務経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとして活動、ライバー活動など多彩に活動中							
【到達目標】 質の高い動画制作と動画のアップをコンスタントに行い、コミュニティマネジメントの知識を学び、グループワークにおいて共同で作業するコミュニケーション能力を身につけ、セルフマネジメントを習慣化します。各SNSの特徴について知り、セルフマーケティングを学ぶことでリスクを減少させながら適切にSNSを運営する力を身につけます。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、各SNS特性、セルフマネジメント）①
3回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、各SNS特性、セルフマネジメント）②
4回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、各SNS特性、セルフマネジメント）③
5回目	制作課題に対するフィードバック評価
6回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、グループワーク課題）①
7回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、グループワーク課題）②
8回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、グループワーク課題）③
9回目	制作課題に対するフィードバック評価
10回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、コミュニティマネジメント）①
11回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、コミュニティマネジメント）②
12回目	SNSマーケティングプロジェクト制作（作品制作、コミュニティマネジメント）③
13回目	制作課題に対するフィードバック評価
14回目	期末テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	SNSマーケティングの分析、コミュニティマネジメントのしくみを徹底的に学び、注目される動画コンテンツを制作を目指しましょう。
Mac	

科目名 (英)	動画撮影制作VI Video shooting production	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 他のYouTuberやインフルエンサーとのコラボレーションワークや外部の協力を活用し、積極的にSNSプロモーションを展開し、セルフマネジメントを駆使し、注目度の高いコンテンツ制作、投稿を反復して行います。※実務経験：電子コミック編集部を経てフリーのイラストレーター・ライター・Live2Dクリエイターとして活動、ライバー活動など多彩に活動中							
【到達目標】 外部（企業やインフルエンサー等）とのコラボレーションワークを積極的に活用できる、動画クリエイターとしてクオリティ、注目度の高いコンテンツを制作できる、SNSをマーケティング、セルフマネジメントを習得し高いレベルで活用できることを目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)①
2回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)②
3回目	コミュニティマネジメント（視聴者とのコミュニケーション、SNSプロモーション）①
4回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)③
5回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)④
6回目	コミュニティマネジメント（視聴者とのコミュニケーション、SNSプロモーション）②
7回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)⑤
8回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)⑥
9回目	コミュニティマネジメント（視聴者とのコミュニケーション、SNSプロモーション）③
10回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)⑦
11回目	コンテンツコラボレーション制作(企業、YouTuber、インフルエンサー)⑧
12回目	コミュニティマネジメント（視聴者とのコミュニケーション、SNSプロモーション）④
13回目	制作課題に対するフィードバック評価
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	継続的な努力と創造力を持ってコンテンツを制作し続けましょう。忍耐力や根気も必要です。高いクオリティを目指していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Mac	

科目名 (英)	演技論基礎 I Fundamentals of Acting Theory	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 ・お芝居に無くてはならない「心」の流れ、それは日常でも無意識的に使われているが、まず、心を扱う仕事である役者として、一般的に人間の心の流れがどのように生じているのかを理解することが必要である。 ・演技論（主にスタニスラフスキー・システム）を通じて、心を無意識下ではなく意識的にコントロールする方法を知り、無理やり作り出す形としての心ではなく、役の人物としてその空間に存在し生きることによって、自然に生じてくる心を扱うための手法を習得する。 ※実務経験：アニメ、外画吹き替え、ボイスオーバー、ナレーション、ゲームなど幅広いジャンル、作品に出演実績があり、現在も活躍中。							
【到達目標】 ・役の人物として立つべき大地である架空の世界。創造するための想像力を強化、脳内のイメージーションを外界に具現化することができる。 ・役者が役の人物として生きる際にしなければならないことに、相手との会話がある。日常的な会話を見直すことで、会話が成立する条件やその手法を知り、実際にお芝居の世界の中で役の人物同士で会話ができるようになる。 ・ただ綺麗に喋ることがお芝居ではない。整ったものだけでなく乱れの中にこそ美しさがあることを知り、音や動きを整えるだけの形の芝居ではなく、役の人物として生きた芝居ができるようになる。 ・一人ではお芝居ができないことを身体で理解し、演者全員で協力して、その作品の世界を創造していくことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	演技論基礎概要（スタニスラフスキー・システム等）①
3回目	演技論基礎概要（スタニスラフスキー・システム等）②
4回目	演技論基礎概要（メソッド演技・感情表現）③
5回目	演技論基礎概要（メソッド演技・感情表現）④
6回目	身体表現基礎（身体表現の役割、姿勢、動作、ジェスチャー）①
7回目	身体表現基礎（身体表現の役割、姿勢、動作、ジェスチャー）②
8回目	身体と感情の表現基礎（脱力、腹式呼吸、自意識のコントロール、会話）①
9回目	身体と感情の表現基礎（脱力、腹式呼吸、自意識のコントロール、会話）②
10回目	身体と感情の表現基礎（自意識のコントロール、集中とリラックス、感情コントロール）①
11回目	身体と感情の表現基礎（自意識のコントロール、集中とリラックス、感情コントロール）②
12回目	感情表現とイメージーション（コントロールされた自意識と脳内イメージーションの具現化）①
13回目	感情表現とイメージーション（コントロールされた自意識と脳内イメージーションの具現化）②
14回目	期末試験
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	以下、全て日常的に継続してもらいたいこと。 ・肉体訓練と基礎訓練全般（ストレッチ、体幹トレーニング、脱力、腹式呼吸等） ・感性を磨くために、良い作品をたくさん観る。（想像力の引き出しを増やすために、ジャンルや形態に偏りなく） ・心の流れを内向きではなく外向きにするため、また、会話力向上のため、身近な自然と触れ合う。 （道端に咲いている花、満月等で構わない）
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	お芝居には正解などと言うものではありませんし、また、この世に失敗などというものは存在しません。 そして、お芝居に上手さは必要ありません。なぜならお客様が観たいのは「いい」お芝居だからです。 皆さんが「いい」お芝居ができる役者になっていくためにも、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをこの先ずっと続けられるように、前に一歩踏み出す勇氣を持って講義に臨んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	演技論基礎Ⅱ Fundamentals of Acting Theory	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 ・お芝居に無くてはならない「心」の流れ、それは日常でも無意識的に使われているが、まず、心を扱う仕事である役者として、一般的に人間の心の流れがどのように生じているのかを理解することが必要である。 ・演技論（主にスタニスラフスキー・システム）を通じて、心を無意識下ではなく意識的にコントロールする方法を知り、無理やり作り出す形としての心ではなく、役の人物としてその空間に存在し生きることによって、自然に生じてくる心を扱うための手法を習得する。 ※実務経験：アニメ、外画吹き替え、ボイスオーバー、ナレーション、ゲームなど幅広いジャンル、作品に出演実績があり、現在も活躍中。							
【到達目標】 ・役の人物として立つべき大地である架空の世界。創造するための想像力を強化、脳内のイメージーションを外界に具現化することができる。 ・役者が役の人物として生きる際にしなければならないことに、相手との会話がある。日常的な会話を見直すことで、会話が成立する条件やその手法を知り、実際にお芝居の世界の中で役の人物同士で会話ができるようになる。 ・ただ綺麗に喋ることがお芝居ではない。整ったものだけでなく乱れの中にこそ美しさがあることを知り、音や動きを整えるだけの形の芝居ではなく、役の人物として生きた芝居ができるようになる。 ・一人ではお芝居ができないことを身体で理解し、演者全員で協力して、その作品の世界を創造していくことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	声の使い方と表現基礎（発声の基本とトレーニング、ボイスコントロール）①
2回目	声の使い方と表現基礎（発声の基本とトレーニング、ボイスコントロール）②
3回目	声の使い方と表現基礎（発声の基本とトレーニング、ボイスコントロール）③
4回目	対話演習（意志疎通、体験理解、会話の基本トレーニング）①
5回目	対話演習（意志疎通、体験理解、会話の基本トレーニング）②
6回目	対話演習（発声自己認識、相手に認識されやすい発声）①
7回目	対話演習（発声自己認識、相手に認識されやすい発声）②
8回目	対話演習（相互理解コミュニケーション、自己のクセと正確な会話）①
9回目	対話演習（相互理解コミュニケーション、自己のクセと正確な会話）②
10回目	対話演習（相互理解コミュニケーション、自己のクセと正確な会話）③
11回目	対話演習（心の相互理解コミュニケーション、相手と心をつなぐ実践トレーニング）①
12回目	対話演習（心の相互理解コミュニケーション、相手と心をつなぐ実践トレーニング）②
13回目	対話演習（心の相互理解コミュニケーション、相手と心をつなぐ実践トレーニング）③
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	以下、全て日常的に継続してもらいたいこと。 ・肉体訓練と基礎訓練全般（ストレッチ、体幹トレーニング、脱力、腹式呼吸等） ・感性を磨くために、良い作品をたくさん観る。（想像力の引き出しを増やすために、ジャンルや形態に偏りなく） ・心の流れを内向きではなく外向きにするため、また、会話力向上のため、身近な自然と触れ合う。 （道端に咲いている花、満月等で構わない）
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	お芝居には正解などと言うものではありませんし、また、この世に失敗などというものは存在しません。 そして、お芝居に上手さは必要ありません。なぜならお客様が観たいのは「いい」お芝居だからです。 皆さんが「いい」お芝居ができる役者になっていくためにも、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをこの先ずっと続けられるように、前に一歩踏み出す勇気を持って講義に臨んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	演技論基礎Ⅲ Fundamentals of Acting Theory	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 ・お芝居に無くてはならない「心」の流れ、それは日常でも無意識的に使われているが、まず、心を扱う仕事である役者として、一般的に人間の心の流れがどのように生じているのかを理解することが必要である。 ・演技論（主にスタニスラフスキー・システム）を通じて、心を無意識下ではなく意識的にコントロールする方法を知り、無理やり作り出す形としての心ではなく、役の人物としてその空間に存在し生きることによって、自然に生じてくる心を扱うための手法を習得する。 ※実務経験：アニメ、外画吹き替え、ボイスオーバー、ナレーション、ゲームなど幅広いジャンル、作品に出演実績があり、現在も活躍中。							
【到達目標】 ・役の人物として立つべき大地である架空の世界。創造するための想像力を強化、脳内のイメージーションを外界に具現化することができる。 ・役者が役の人物として生きる際にしなければならないことに、相手との会話がある。日常的な会話を見直すことで、会話が成立する条件やその手法を知り、実際にお芝居の世界の中で役の人物同士で会話ができるようになる。 ・ただ綺麗に喋ることがお芝居ではない。整ったものだけでなく乱れの中にこそ美しさがあることを知り、音や動きを整えるだけの形の芝居ではなく、役の人物として生きた芝居ができるようになる。 ・一人ではお芝居ができないことを身体で理解し、演者全員で協力して、その作品の世界を創造していくことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明、自己紹介）
2回目	モノローグの演技と構成（役作り、テキスト分析）①
3回目	モノローグの演技と構成（役作り、テキスト分析）②
4回目	対話の演技と構成（役作り、テキスト分析）①
5回目	対話の演技と構成（役作り、テキスト分析）②
6回目	読解カトレーニング実習（台本使用し物語の構造理解、台本読解力）①
7回目	読解カトレーニング実習（台本使用し物語の構造理解、台本読解力）②
8回目	台本実習（空間創造と状況整理、心の動きを理解する）①
9回目	台本実習（空間創造と状況整理、心の動きを理解する）②
10回目	台本実習（台詞、「気づき」と「きっかけ」概念理解、心の動きを理解する）①
11回目	台本実習（台詞、「気づき」と「きっかけ」概念理解、心の動きを理解する）②
12回目	課題評価（課題台本を本番として発表、フィードバック評価）
13回目	特別授業
14回目	期末試験
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	以下、全て日常的に継続してもらいたいこと。 ・肉体訓練と基礎訓練全般（ストレッチ、体幹トレーニング、脱力、腹式呼吸等） ・感性を磨くために、良い作品をたくさん観る。（想像力の引き出しを増やすために、ジャンルや形態に偏りなく） ・心の流れを内向きではなく外向きにするため、また、会話力向上のため、身近な自然と触れ合う。 （道端に咲いている花、満月等で構わない）
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	お芝居には正解などと言うものではありませんし、また、この世に失敗などというものは存在しません。 そして、お芝居に上手さは必要ありません。なぜならお客様が観たいのは「いい」お芝居だからです。 皆さんが「いい」お芝居ができる役者になっていくためにも、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをこの先ずっと続けられるように、前に一歩踏み出す勇気を持って講義に臨んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	演技論基礎Ⅳ Fundamentals of Acting Theory	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 ・お芝居に無くてはならない「心」の流れ、それは日常でも無意識的に使われているが、まず、心を扱う仕事である役者として、一般的に人間の心の流れがどのように生じているのかを理解することが必要である。 ・演技論（主にスタニスラフスキー・システム）を通じて、心を無意識下ではなく意識的にコントロールする方法を知り、無理やり作り出す形としての心ではなく、役の人物としてその空間に存在し生きることによって、自然に生じてくる心を扱うための手法を習得する。 ※実務経験：アニメ、外画吹き替え、ボイスオーバー、ナレーション、ゲームなど幅広いジャンル、作品に出演実績があり、現在も活躍中。							
【到達目標】 ・役の人物として立つべき大地である架空の世界。創造するための想像力を強化、脳内のイメージーションを外界に具現化することができる。 ・役者が役の人物として生きる際にしなければならないことに、相手との会話がある。日常的な会話を見直すことで、会話が成立する条件やその手法を知り、実際にお芝居の世界の中で役の人物同士で会話ができるようになる。 ・ただ綺麗に喋ることがお芝居ではない。整ったものだけでなく乱れの中にこそ美しさがあることを知り、音や動きを整えるだけの形の芝居ではなく、役の人物として生きた芝居ができるようになる。 ・一人ではお芝居ができないことを身体で理解し、演者全員で協力して、その作品の世界を創造していくことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	役作りの基礎（役作りの目的とプロセス、役柄の分析）①
2回目	役作りの基礎（役作りの目的とプロセス、役柄の分析）②
3回目	舞台演出基礎（演出の役割と演技のプロセス）①
4回目	舞台演出基礎（演出の役割と演技のプロセス）②
5回目	ユーモア演技基礎（自己の個性を発揮する方法）①
6回目	ユーモア演技基礎（自己の個性を発揮する方法）②
7回目	作品制作トレーニング（企画、台本選定、演出、演じるキャラクター及び会話の整理）①
8回目	作品制作トレーニング（企画、台本選定、演出、演じるキャラクター及び会話の整理）②
9回目	作品制作トレーニング（企画、台本選定、演出、演じるキャラクター及び会話の整理）③
10回目	作品制作トレーニング振り返り（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
11回目	舞台演技基礎演習（企画、台本制作、自己の個性を発揮する）①
12回目	舞台演技基礎演習（企画、台本制作、自己の個性を発揮する）②
13回目	舞台演技基礎演習（企画、台本制作、自己の個性を発揮する）③
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	以下、全て日常的に継続してもらいたいこと。 ・肉体訓練と基礎訓練全般（ストレッチ、体幹トレーニング、脱力、腹式呼吸等） ・感性を磨くために、良い作品をたくさん観る。（想像力の引き出しを増やすために、ジャンルや形態に偏りなく） ・心の流れを内向きではなく外向きにするため、また、会話力向上のため、身近な自然と触れ合う。 （道端に咲いている花、満月等で構わない）
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	お芝居には正解など言うものはありませんし、また、この世に失敗などというものは存在しません。 そして、お芝居に上手さは必要ありません。なぜならお客様が観たいのは「いい」お芝居だからです。 皆さんが「いい」お芝居ができる役者になっていくためにも、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをこの先ずっと続けられるように、前に一歩踏み出す勇気を持って講義に臨んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	演技論基礎Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
	Fundamentals of Acting Theory	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 ・お芝居に無くてはならない「心」の流れ、それは日常でも無意識的に使われているが、まず、心を扱う仕事である役者として、一般的に人間の心の流れがどのように生じているのかを理解することが必要である。 ・演技論（主にスタニスラフスキー・システム）を通じて、心を無意識下ではなく意識的にコントロールする方法を知り、無理やり作り出す形としての心ではなく、役の人物としてその空間に存在し生きることによって、自然に生じてくる心を扱うための手法を習得する。 ※実務経験：アニメ、外画吹き替え、ボイスオーバー、ナレーション、ゲームなど幅広いジャンル、作品に出演実績があり、現在も活躍中。							
【到達目標】 ・役の人物として立つべき大地である架空の世界。創造するための想像力を強化、脳内のイメージーションを外界に具現化することができる。 ・役者が役の人物として生きる際にしなければならないこと、相手との会話がある。日常的な会話を見直すことで、会話が成立する条件やその手法を知り、実際にお芝居の世界の中で役の人物同士で会話ができるようになる。 ・ただ綺麗に喋ることがお芝居ではない。整ったものだけでなく乱れの中にこそ美しさがあることを知り、音や動きを整えるだけの形の芝居ではなく、役の人物として生きた芝居ができるようになる。 ・一人ではお芝居ができないことを身体で理解し、演者全員で協力して、その作品の世界を創造していくことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	舞台作品制作（演出概論、演出家と俳優の関係性）①
3回目	舞台作品制作（舞台美術、デザイン、空間、セット、小道具と演出）②
4回目	舞台作品制作（舞台音響の基本、SE/BGM選曲、音楽と情感表現）③
5回目	舞台作品制作（舞台照明の基本、色彩と照明情感表現）④
6回目	舞台作品制作（衣装の役割とキャラクター表現）⑤
7回目	舞台作品制作（企画～本番までの制作プロセス、スケジュール管理、セクションの役割）⑥
8回目	舞台演技応用演習（舞台演技、企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）①
9回目	舞台演技応用演習（舞台演技、企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）②
10回目	舞台演技応用演習（舞台演技、企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）③
11回目	舞台演技応用演習（舞台演技、企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）④
12回目	舞台演技課題フィードバック（制作課題に対するフィードバック評価）
13回目	特別授業
14回目	期末試験
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	以下、全て日常的に継続してもらいたいこと。 ・肉体訓練と基礎訓練全般（ストレッチ、体幹トレーニング、脱力、腹式呼吸等） ・感性を磨くために、良い作品をたくさん観る。（想像力の引き出しを増やすために、ジャンルや形態に偏りなく） ・心の流れを内向きではなく外向きにするため、また、会話力向上のため、身近な自然と触れ合う。 （道端に咲いている花、満月等で構わない）
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	お芝居には正解など言うものではありませんし、また、この世に失敗などというものは存在しません。 そして、お芝居に上手さは必要ありません。なぜならお客様が観たいのは「いい」お芝居だからです。 皆さんが「いい」お芝居ができる役者になっていくためにも、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをこの先ずっと続けられるように、前に一歩踏み出す勇気を持って講義に臨んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	演技論基礎Ⅵ Fundamentals of Acting Theory	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 ・お芝居に無くてはならない「心」の流れ、それは日常でも無意識的に使われているが、まず、心を扱う仕事である役者として、一般的に人間の心の流れがどのように生じているのかを理解することが必要である。 ・演技論（主にスタニスラフスキー・システム）を通じて、心を無意識下ではなく意識的にコントロールする方法を知り、無理やり作り出す形としての心ではなく、役の人物としてその空間に存在し生きることによって、自然に生じてくる心を扱うための手法を習得する。 ※実務経験：アニメ、外画吹き替え、ボイスオーバー、ナレーション、ゲームなど幅広いジャンル、作品に出演実績があり、現在も活躍中。							
【到達目標】 ・役の人物として立つべき大地である架空の世界。創造するための想像力を強化、脳内のイメージーションを外界に具現化することができる。 ・役者が役の人物として生きる際にしなければならないことに、相手との会話がある。日常的な会話を見直すことで、会話が成立する条件やその手法を知り、実際にお芝居の世界の中で役の人物同士で会話ができるようになる。 ・ただ綺麗に喋ることがお芝居ではない。整ったものだけでなく乱れの中にこそ美しさがあることを知り、音や動きを整えるだけの形の芝居ではなく、役の人物として生きた芝居ができるようになる。 ・一人ではお芝居ができないことを身体で理解し、演者全員で協力して、その作品の世界を創造していくことができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	舞台演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）①
2回目	舞台演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）②
3回目	舞台演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）③
4回目	舞台演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション）④
5回目	舞台演技課題フィードバック（制作課題に対するフィードバック評価）
6回目	映像演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション、完パケ）①
7回目	映像演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション、完パケ）②
8回目	映像演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション、完パケ）③
9回目	映像演技演習（企画、台本制作、舞台美術、演出、テクニカル、プロモーション、完パケ）④
10回目	映像演技課題フィードバック（制作課題に対するフィードバック評価）
11回目	バーチャル演技・オンライン演技演習
12回目	オーディション対策（セルフプロモーション）①
13回目	オーディション対策（セルフプロモーション）②
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	以下、全て日常的に継続してもらいたいこと。 ・肉体訓練と基礎訓練全般（ストレッチ、体幹トレーニング、脱力、腹式呼吸等） ・感性を磨くために、良い作品をたくさん観る。（想像力の引き出しを増やすために、ジャンルや形態に偏りなく） ・心の流れを内向きではなく外向きにするため、また、会話力向上のため、身近な自然と触れ合う。 （道端に咲いている花、満月等で構わない）
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	お芝居には正解などと言うものではありませんし、また、この世に失敗などというものは存在しません。 そして、お芝居に上手さは必要ありません。なぜならお客様が観たいのは「いい」お芝居だからです。 皆さんが「いい」お芝居ができる役者になっていくためにも、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをこの先ずっと続けられるように、前に一歩踏み出す勇気を持って講義に臨んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	発声滑舌 I Vocalization Practice	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 呼吸法の基本と正しい呼吸の習得、クリアに発声するための母音から腹式呼吸、口の動きなどを理解し、プロとして通用する基本的な発声と滑舌を習得できるようにする。※実務者経験:テレビ番組キャスター、イベントMC、ナレーションなど豊富な実績を持つフリーアナウンサーとして活動中							
【到達目標】 腹式呼吸のトレーニング、母音、子音の練習、アクセント、鼻濁音、無声音のしくみを理解し、声優・俳優として通用する発声・滑舌ができるようになるスキル取得を目指す。発声・滑舌が良くなった上で、基本的な声の出し方を各自チェックし、現場で求められる様々なタイプのセリフ、原稿などに対応できる能力を身につけることを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明、講義のポイント）
2回目	呼吸法の基本と正しい呼吸の基礎を習得する（発声器官のしくみと機能について）
3回目	呼吸法の基本と正しい呼吸の基礎を習得する（腹式呼吸、正しい発声の仕方を学ぶ）
4回目	呼吸法の基本と正しい呼吸の基礎を習得する（口の動きと表情のクリアさの重要性）
5回目	上半身、顔、舌ストレッチ。腹式呼吸、ロングトーン、基本＆変形滑舌練習。鼻濁音を習得する。
6回目	上半身、顔、舌ストレッチ。腹式呼吸、ロングトーン、基本＆変形滑舌練習。無声音のしくみ学ぶ。
7回目	上半身、顔、舌ストレッチ。腹式呼吸、ロングトーン、基本＆変形滑舌練習。胸振発声法で自分のベストヴォイスを見つける。
8回目	上半身、顔、舌ストレッチ。腹式呼吸、ロングトーン、基本＆変形滑舌練習。（個別滑舌チェック）
9回目	クリアな話し方のためのトレーニング①
10回目	クリアな話し方のためのトレーニング②
11回目	アクセントとイントネーション（アクセントの役割と重要性）
12回目	アクセントとイントネーション（文章のリズムとイントネーション）
13回目	特別授業
14回目	期末試験
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	日頃から姿勢、呼吸法に気を配り、上半身、顔、舌のストレッチをするなどトレーニングを日々行うようにしましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	セリフやトークで、基本の発声・滑舌が大切であるか理解できると思います。授業以外での反復練習を欠かさずしましょう。日常生活でも発声が褒められることを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	発声滑舌Ⅱ Vocalization Practice	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 呼吸法の基本と正しい呼吸の習得、クリアに発声するための母音から腹式呼吸、口の動きなどを理解し、プロとして通用する基本的な発声と滑舌を習得できるようにする。※実務者経験:テレビ番組キャスター、イベントMC、ナレーションなど豊富な実績を持つフリーアナウンサーとして活動中							
【到達目標】 腹式呼吸のトレーニング、母音、子音の練習、アクセント、鼻濁音、無声音のしぐみを理解し、声優・俳優として通用する発声・滑舌ができるようになるスキル取得を目指す。発声・滑舌が良くなった上で、基本的な声の出し方を各自チェックし、現場で求められる様々なタイプのセリフ、原稿などに対応できる能力を身につけることを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	言葉の速度とリズムの制御について（話しの速度とリズムの効果）
2回目	リズムカルな話し方の練習とトレーニング①
3回目	リズムカルな話し方の練習とトレーニング②
4回目	ウォーミングアップ、ニュースの読み方（書き言葉と読み言葉の違い）①
5回目	ウォーミングアップ、ニュースの読み方（書き言葉と読み言葉の違い）②
6回目	テンポと音節の制御のトレーニング①
7回目	テンポと音節の制御のトレーニング②
8回目	ウォーミングアップ、ナレーション（CM、FSM学校紹介など）①
9回目	ウォーミングアップ、ナレーション（CM、FSM学校紹介など）②
10回目	リスニングスキルの重要性とトレーニング①
11回目	リスニングスキルの重要性とトレーニング②
12回目	ウォーミングアップ、ナレーション（企業VP、番組など）①
13回目	ウォーミングアップ、ナレーション（企業VP、番組など）②
14回目	卒業進級制作準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	日頃から姿勢、呼吸法に気を配り、上半身、顔、舌のストレッチをするなどトレーニングを日々行うようにしましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	セリフやトークで、基本の発声・滑舌が大切であるか理解できると思います。授業以外での反復練習を欠かさずしましょう。日常生活でも発声が褒められることを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	発声滑舌Ⅲ Vocalization Practice	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 呼吸法の基本と正しい呼吸の習得、クリアに発声するための母音から腹式呼吸、口の動きなどを理解し、プロとして通用する基本的な発声と滑舌を習得できるようにする。※実務者経験:テレビ番組キャスター、イベントMC、ナレーションなど豊富な実績を持つフリーアナウンサーとして活動中							
【到達目標】 腹式呼吸のトレーニング、母音、子音の練習、アクセント、鼻濁音、無声音のしくみを理解し、声優・俳優として通用する発声・滑舌ができるようになるスキル取得を目指す。発声・滑舌が良くなった上で、基本的な声の出し方を各自チェックし、現場で求められる様々なタイプのセリフ、原稿などに対応できる能力を身につけることを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	強勢と弱勢の役割と意味の変化を理解する
2回目	文章やフレーズ内の強勢の位置のトレーニング①
3回目	文章やフレーズ内の強勢の位置のトレーニング②
4回目	言葉の連結のルールとトレーニング①
5回目	言葉の連結のルールとトレーニング②
6回目	ウォーミングアップ、1 分間スピーチ（話の構成方法）テーマ、サブテーマ、柱、まとめ
7回目	ウォーミングアップ、1 分間スピーチ（話のポイントまとめ）6 W 3 H 1 N、五感など
8回目	ウォーミングアップ、1 分間スピーチ（結論主導型）
9回目	ウォーミングアップ、言葉のエネルギーを強く表現（伝える力：ナンバリング法、ギャップ法、リピート法、クライマックス法）①
10回目	ウォーミングアップ、言葉のエネルギーを強く表現（伝える力：ナンバリング法、ギャップ法、リピート法、クライマックス法）②
11回目	ウォーミングアップ、要約力を鍛える（書き言葉を口頭表現に変え要約する）①
12回目	ウォーミングアップ、要約力を鍛える（書き言葉を口頭表現に変え要約する）②
13回目	特別授業
14回目	期末試験
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	日頃から姿勢、呼吸法に気を配り、上半身、顔、舌のストレッチをするなどトレーニングを日々行うようにしましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	セリフやトークで、基本の発声・滑舌が大切であるか理解できると思います。授業以外での反復練習を欠かさずしましょう。日常生活でも発声が褒められることを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	発声滑舌Ⅳ Vocalization Practice	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜1限
【授業の学習内容】 呼吸法の基本と正しい呼吸の習得、クリアに発声するための母音から腹式呼吸、口の動きなどを理解し、プロとして通用する基本的な発声と滑舌を習得できるようにする。※実務者経験:テレビ番組キャスター、イベントMC、ナレーションなど豊富な実績を持つフリーアナウンサーとして活動中							
【到達目標】 腹式呼吸のトレーニング、母音、子音の練習、アクセント、鼻濁音、無声音のしぐみを理解し、声優・俳優として通用する発声・滑舌ができるようになるスキル取得を目指す。発声・滑舌が良くなった上で、基本的な声の出し方を各自チェックし、現場で求められる様々なタイプのセリフ、原稿などに対応できる能力を身につけることを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	リズムカルな話し方の応用演習とトレーニング（話し方の速度とリズムの効果）①
2回目	リズムカルな話し方の応用演習とトレーニング（話し方の速度とリズムの効果）②
3回目	アクセントとイントネーション応用演習（アクセントの役割と重要性）①
4回目	アクセントとイントネーション応用演習（アクセントの役割と重要性）②
5回目	アクセントとイントネーション応用演習（文章のリズムとイントネーション）①
6回目	アクセントとイントネーション応用演習（文章のリズムとイントネーション）②
7回目	ナレーション発声滑舌応用演習（文章やフレーズ内の強勢の位置のトレーニング）①
8回目	ナレーション発声滑舌応用演習（文章やフレーズ内の強勢の位置のトレーニング）②
9回目	発声滑舌応用演習（言葉の連結のルールとトレーニング）①
10回目	発声滑舌応用演習（言葉の連結のルールとトレーニング）②
11回目	発声滑舌応用演習（テンポと音節の制御のトレーニング）①
12回目	発声滑舌応用演習（テンポと音節の制御のトレーニング）②
13回目	9月特別授業
14回目	卒業進級制作準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	日頃から姿勢、呼吸法に気を配り、上半身、顔、舌のストレッチをするなどトレーニングを日々行うようにしましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	セリフやトークで、基本の発声・滑舌が大切であるか理解できると思います。授業以外での反復練習を欠かさずしましょう。日常生活でも発声が褒められることを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	発声滑舌 V Vocalization Practice	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 呼吸法の基本と正しい呼吸の習得、クリアに発声するための母音から腹式呼吸、口の動きなどを理解し、プロとして通用する基本的な発声と滑舌を習得できるようにする。※実務者経験:テレビ番組キャスター、イベントMC、ナレーションなど豊富な実績を持つフリーアナウンサーとして活動中							
【到達目標】 腹式呼吸のトレーニング、母音、子音の練習、アクセント、鼻濁音、無声音のしくみを理解し、声優・俳優として通用する発声・滑舌ができるようになるスキル取得を目指す。発声・滑舌が良くなった上で、基本的な声の出し方を各自チェックし、現場で求められる様々なタイプのセリフ、原稿などに対応できる能力を身につけることを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	言葉の連結のルールと練習方法①
2回目	言葉の連結のルールと練習方法②
3回目	流暢な話し方の習得と実践①
4回目	流暢な話し方の習得と実践②
5回目	句読点や休止の使い方と効果
6回目	ウォーミングアップ、コミュニケーション能力アップ「聴く力」、インタビューの基本①
7回目	ウォーミングアップ、コミュニケーション能力アップ「聴く力」、インタビューの基本②
8回目	ウォーミングアップ、コミュニケーション能力アップ「聴く力」、インタビューの基本③
9回目	ウォーミングアップ、司会の基本①
10回目	ウォーミングアップ、司会の基本②
11回目	ウォーミングアップ、リポーターの基本①
12回目	ウォーミングアップ、リポーターの基本②
13回目	特別授業
14回目	期末試験
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	日頃から姿勢、呼吸法に気を配り、上半身、顔、舌のストレッチをするなどトレーニングを日々行うようにしましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	セリフやトークで、基本の発声・滑舌が大切であるか理解できると思います。授業以外での反復練習を欠かさずしましょう。日常生活でも発声が褒められることを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	発声滑舌 VI Vocalization Practice	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 呼吸法の基本と正しい呼吸の習得、クリアに発声するための母音から腹式呼吸、口の動きなどを理解し、プロとして通用する基本的な発声と滑舌を習得できるようにする。※実務者経験:テレビ番組キャスター、イベントMC、ナレーションなど豊富な実績を持つフリーアナウンサーとして活動中							
【到達目標】 腹式呼吸のトレーニング、母音、子音の練習、アクセント、鼻濁音、無声音のしくみを理解し、声優・俳優として通用する発声・滑舌ができるようになるスキル取得を目指す。発声・滑舌が良くなった上で、基本的な声の出し方を各自チェックし、現場で求められる様々なタイプのセリフ、原稿などに対応できる能力を身につけることを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	流暢な話し方の習得と実践トレーニング①
2回目	流暢な話し方の習得と実践トレーニング②
3回目	ナレーション課題①（ニュース）
4回目	ナレーション課題②（CM）
5回目	ナレーション課題③（詩）
6回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
7回目	ラジオ番組制作課題①（パーソナリティトーク）
8回目	ラジオ番組制作課題②（パーソナリティトーク）
9回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
10回目	朗読演習課題①
11回目	朗読演習課題②
12回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
13回目	オーディション対策
14回目	卒業進級制作準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	日頃から姿勢、呼吸法に気を配り、上半身、顔、舌のストレッチをするなどトレーニングを日々行うようにしましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	セリフやトークで、基本の発声・滑舌が大切であるか理解できると思います。授業以外での反復練習を欠かさずしましょう。日常生活でも発声が褒められることを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	ライバー基礎 I Fundamentals of LiveStreamer I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 Vtuber,配信ライバーの基礎知識を学び、基礎力を高めます。配信に向けての企画・台本制作、企画をもとに収録、編集、画像編集全般を学び、様々なプラットフォーム対応の動画編集、サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン、歌ってみた収録などVtuber、ライバーとしての配信技術の習得を目標とします。配信活動と収益化の仕組みを本格的に学び、集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての企画プレゼンテーションなどを経て即戦力人材を目指します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber,配信ライバーの基礎知識をベースに配信活動プラットフォーム、配信機材、ネットリテラシー、メンタルトレーニングを学び、基礎力を高めます。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	Vtuber・配信業界の基礎知識①
3回目	Vtuber・配信業界の基礎知識②
4回目	Vtuberジャンルと配信活動研究①
5回目	Vtuberジャンルと配信活動研究②
6回目	配信プラットフォーム研究①
7回目	配信プラットフォーム研究②
8回目	配信機材と設定方法①
9回目	配信機材と設定方法②
10回目	ネットリテラシーと著作権
11回目	メンタルトレーニング（コメント、トラブル対応方法）①
12回目	メンタルトレーニング（コメント、トラブル対応方法）②
13回目	イベントを通して前期で学んだことの実践
14回目	イベントを通して前期で学んだことの実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバー基礎Ⅱ Fundamentals of LiveStreamerⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 Vtuber,配信ライバーの基礎知識を学び、基礎力を高めます。配信に向けての企画・台本制作、企画をもとに収録、編集、画像編集全般を学び、様々なプラットフォーム対応の動画編集、サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン、歌ってみた収録などVtuber、ライバーとしての配信技術の習得を目標とします。配信活動と収益化の仕組みを本格的に学び、集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての企画プレゼンテーションなどを経て即戦力人材を目指します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 配信を具体的に進めるためのセルフプロデュース・トークスキル、企画・台本制作、企画をもとに収録、編集、配信にともなう画像編集全般を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	セルフプロデュースとトークスキル①
3回目	セルフプロデュースとトークスキル②
4回目	セルフプロデュースとトークスキル③
5回目	企画・台本制作①
6回目	企画・台本制作①
7回目	動画収録①
8回目	動画収録②
9回目	画像編集①（サムネ・アイコン・バナー制作）
10回目	画像編集②（サムネ・アイコン・バナー制作）
11回目	画像編集③（サムネ・アイコン・バナー制作）
12回目	動画編集基礎①
13回目	動画編集基礎②
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバー基礎Ⅲ Fundamentals of LiveStreamerⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 Vtuber,配信ライバーの基礎知識を学び、基礎力を高めます。配信に向けての企画・台本制作、企画をもとに収録、編集、画像編集全般を学び、様々なプラットフォーム対応の動画編集、サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン、歌ってみた収録などVtuber、ライバーとしての配信技術の習得を目標とします。配信活動と収益化の仕組みを本格的に学び、集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての企画プレゼンテーションなどを経て即戦力人材を目指します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 様々なプラットフォーム対応の動画編集、サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン、歌ってみた収録などVtuber、ライバーとしての配信技術の習得を目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	動画編集応用①
3回目	動画編集応用②
4回目	動画編集応用③
5回目	サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン制作①
6回目	サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン制作②
7回目	サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン制作③
8回目	歌ってみた収録技術①
9回目	歌ってみた収録技術②
10回目	歌ってみた収録技術③
11回目	動画編集音声完パケ①（BGM効果音と著作権管理）
12回目	動画編集音声完パケ②（BGM効果音と著作権管理）
13回目	イベントを通して前期で学んだことの実践
14回目	イベントを通して前期で学んだことの実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバー基礎Ⅳ Fundamentals of LiveStreamerⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 Vtuber,配信ライバーの基礎知識を学び、基礎力を高めます。配信に向けての企画・台本制作、企画をもとに収録、編集、画像編集全般を学び、様々なプラットフォーム対応の動画編集、サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン、歌ってみた収録などVtuber、ライバーとしての配信技術の習得を目標とします。配信活動と収益化の仕組みを本格的に学び、集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての企画プレゼンテーションなどを経て即戦力人材を目指します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 オリジナル配信企画（基礎）に向けての企画立案、アバター・キャラクター設定およびデザインを学び、配信計画の実施を目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	アバター作成の基礎①
3回目	アバター作成の基礎②
4回目	キャラクター設定の基礎①
5回目	キャラクター設定の基礎②
6回目	キャラクターデザインの基礎①
7回目	キャラクターデザインの基礎②
8回目	キャラクターデザインの基礎③
9回目	配信 オリジナル配信企画制作①基礎
10回目	配信 オリジナル配信企画制作②基礎
11回目	配信 オリジナル配信企画制作③基礎
12回目	配信 オリジナル配信企画制作④基礎
13回目	配信 オリジナル配信企画制作⑤基礎
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバー基礎Ⅴ Fundamentals of LiveStreamerⅤ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuber,配信ライバーの基礎知識を学び、基礎力を高めます。配信に向けての企画・台本制作、企画をもとに収録、編集、画像編集全般を学び、様々なプラットフォーム対応の動画編集、サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン、歌ってみた収録などVtuber、ライバーとしての配信技術の習得を目標とします。配信活動と収益化の仕組みを本格的に学び、集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての企画プレゼンテーションなどを経て即戦力人材を目指します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 配信活動と収益化の仕組みを本格的に学び、Vtuber、ライバーとしての活動を発展的に行うための業界研究、プレゼンテーションを実施し活動を活性化することを目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	配信とセルフブランディング①
3回目	配信とセルフブランディング②
4回目	配信とセルフブランディング③
5回目	SNS運用とプロモーション活動①
6回目	SNS運用とプロモーション活動②
7回目	業界研究企画プレゼンテーション①
8回目	業界研究企画プレゼンテーション②
9回目	業界研究企画プレゼンテーション③
10回目	配信活動と収益化の仕組み①
11回目	配信活動と収益化の仕組み②
12回目	配信活動と収益化の仕組み③
13回目	イベントを通して前期で学んだことの実践
14回目	イベントを通して前期で学んだことの実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバー基礎VI Fundamentals of LiveStreamerVI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuber,配信ライバーの基礎知識を学び、基礎力を高めます。配信に向けての企画・台本制作、企画をもとに収録、編集、画像編集全般を学び、様々なプラットフォーム対応の動画編集、サムネイル・ロゴ・配信画面のデザイン、歌ってみた収録などVtuber、ライバーとしての配信技術の習得を目標とします。配信活動と収益化の仕組みを本格的に学び、集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての企画プレゼンテーションなどを経て即戦力人材を目指します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての準備を本格的に行い、企画プレゼンテーション、オーディション対策 などを経て活動に向けての即戦力人材になることを目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	配信 配信企画立案と構成①
3回目	配信 配信企画立案と構成②
4回目	配信 配信企画立案と構成③
5回目	オーディション対策①
6回目	オーディション対策②
7回目	配信 配信企画プレゼンテーション①
8回目	配信 配信企画プレゼンテーション②
9回目	配信 オリジナル配信企画制作①応用（産学連携企画）
10回目	配信 オリジナル配信企画制作②応用（産学連携企画）
11回目	配信 オリジナル配信企画制作③応用（産学連携企画）
12回目	配信 オリジナル配信企画制作④応用（産学連携企画）
13回目	配信 オリジナル配信企画制作⑤応用（産学連携企画）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デザイン I Design I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuberに必要なデザインに対する基礎的知識を徹底的に学びます。デザインテクニカルツールでイラスト制作、キャラクターデザイン、サムネイル、ロゴ制作の基礎を習得し、配信とセルフブランディング、収益化を目指したオリジナルグッズデザイン制作、産学連携プロジェクトを通じて、Vtuber、ライバー配信活動に向けて即戦力人材になることを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuberに必要なデザインに対する基礎的知識を徹底的に学びます。色彩理論から構図、心理的効果、フォントの種類などデザインに対するセンスや捉え方を身に付けます。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	デザインの基礎①デザインとは？視覚伝達
3回目	デザインの基礎②色彩理論
4回目	デザインの基礎③心理効果
5回目	デザインの基礎④フォントの種類
6回目	デザインの基礎⑤構図のテクニック
7回目	デザインの基礎⑥デザインツールの紹介
8回目	デザインの基礎⑦タイトル文字
9回目	デザインの基礎⑧人物・キャラ
10回目	デザインの基礎⑨背景
11回目	デザインの基礎⑩色使い
12回目	デザインの基礎⑪構図
13回目	イベントを通して学んだことの実践
14回目	イベントを通して学んだことの実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デザインⅡ DesignⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuberに必要なデザインに対する基礎的知識を徹底的に学びます。デザインテクニカルツールでイラスト制作、キャラクターデザイン、サムネイル、ロゴ制作の基礎を習得し、配信とセルフブランディング、収益化を目指したオリジナルグッズデザイン制作、産学連携プロジェクトを通じて、Vtuber、ライバー配信活動に向けて即戦力人材になることを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber、ライブ配信に必要なデザインツールを使いながら、実践的に学びます。イラスト制作、キャラクターデザインの基礎習得を目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	デザインテクニカルツール①デッサン（人体理解）
3回目	デザインテクニカルツール②デッサン（人体理解）
4回目	デザインテクニカルツール③イラスト制作
5回目	デザインテクニカルツール④イラスト制作
6回目	デザインテクニカルツール⑤イラスト制作
7回目	実践課題 基礎
8回目	デザインテクニカルツール⑥キャラクターデザイン基礎
9回目	デザインテクニカルツール⑦キャラクターデザイン基礎
10回目	デザインテクニカルツール⑧キャラクターデザイン基礎
11回目	デザインテクニカルツール⑨キャラクターデザイン（素体・パーツ）
12回目	デザインテクニカルツール⑩キャラクターデザイン（素体・パーツ）
13回目	実践課題 基礎
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デザインⅢ DesignⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuberに必要なデザインに対する基礎的知識を徹底的に学びます。デザインテクニカルツールでイラスト制作、キャラクターデザイン、サムネイル、ロゴ制作の基礎を習得し、配信とセルフブランディング、収益化を目指したオリジナルグッズデザイン制作、産学連携プロジェクトを通じて、Vtuber、ライバー配信活動に向けて即戦力人材になることを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber,配信ライバーに必要なデザインツールを使用し、デザイン的クオリティの高さを目標に、実践的にサムネイル、ロゴ制作を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	サムネイル制作基礎①トレンド分析
3回目	サムネイル制作基礎②タイトル、人物、背景
4回目	サムネイル制作基礎③タイトル、人物、背景
5回目	サムネイル制作応用①配信ジャンル別研究
6回目	サムネイル制作応用②配信ジャンル別研究
7回目	実践課題 基礎
8回目	ロゴデザイン制作基礎①ロゴの種類
9回目	ロゴデザイン制作基礎②アイデア発想
10回目	ロゴデザイン制作応用①ロゴを起こす
11回目	ロゴデザイン制作応用②完成
12回目	実践課題 基礎
13回目	イベントを通して学んだことの実践
14回目	イベントを通して学んだことの実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デザインⅣ DesignⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuberに必要なデザインに対する基礎的知識を徹底的に学びます。デザインテクニカルツールでイラスト制作、キャラクターデザイン、サムネイル、ロゴ制作の基礎を習得し、配信とセルフブランディング、収益化を目指したオリジナルグッズデザイン制作、産学連携プロジェクトを通じて、Vtuber、ライバー配信活動に向けて即戦力人材になることを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber,配信ライバーの配信活動プラットフォームごとに発信用イラスト、ロゴの制作、キャラクターデザイン制作を実践的に学びます。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	デザインテクニカルツール①SNS発信用イラスト、ロゴ
3回目	デザインテクニカルツール②SNS発信用イラスト、ロゴ
4回目	デザインテクニカルツール③SNS発信用イラスト、ロゴ
5回目	デザインテクニカルツール④SNS発信用イラスト、ロゴ
6回目	デザインテクニカルツール⑤SNS発信用イラスト、ロゴ
7回目	実践課題 応用
8回目	デザインテクニカルツール⑥キャラクターデザイン応用
9回目	デザインテクニカルツール⑦キャラクターデザイン応用
10回目	デザインテクニカルツール⑧キャラクターデザイン応用
11回目	デザインテクニカルツール⑨キャラクターデザイン応用
12回目	デザインテクニカルツール⑩キャラクターデザイン応用
13回目	実践課題 応用
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デザインV Design V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuberに必要なデザインに対する基礎的知識を徹底的に学びます。デザインテクニカルツールでイラスト制作、キャラクターデザイン、サムネイル、ロゴ制作の基礎を習得し、配信とセルフブランディング、収益化を目指したオリジナルグッズデザイン制作、産学連携プロジェクトを通じて、Vtuber、ライバー配信活動に向けて即戦力人材になることを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber,配信ライバーとしての配信とセルフブランディング、収益化を目指したオリジナルグッズデザイン制作を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	配信とセルフブランディング①配信活動と収益化の仕組み
3回目	配信とセルフブランディング②マーチャライジング基礎
4回目	配信とセルフブランディング③配信準備とブランディング
5回目	オリジナルグッズデザイン制作①
6回目	オリジナルグッズデザイン制作②
7回目	実践課題 応用
8回目	オリジナルグッズデザイン制作③ジャンル別
9回目	オリジナルグッズデザイン制作④ジャンル別
10回目	オリジナルグッズデザイン制作⑤ジャンル別
11回目	実践課題 応用①
12回目	実践課題 応用②
13回目	イベントを通して学んだことの実践
14回目	イベントを通して学んだことの実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デザインVI DesignVI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 Vtuberに必要なデザインに対する基礎的知識を徹底的に学びます。デザインテクニカルツールでイラスト制作、キャラクターデザイン、サムネイル、ロゴ制作の基礎を習得し、配信とセルフブランディング、収益化を目指したオリジナルグッズデザイン制作、産学連携プロジェクトを通じて、Vtuber、ライバー配信活動に向けて即戦力人材になることを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 集大成として産学連携企業課題によるオリジナル配信企画の企画実施に向けての準備を本格的に行い、クオリティの高いデザインをプレゼンテーション、Vtuber、ライバー配信活動に向けて即戦力人材になることを目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	配信 配信企画立案と構成①配信デザイン全般の企画
3回目	配信 配信企画立案と構成②配信デザイン全般の企画
4回目	配信 グッズデザイン企画立案と収益化①
5回目	配信 グッズデザイン企画立案と収益化②
6回目	配信 グッズデザイン企画立案と収益化③
7回目	配信 配信企画プレゼンテーション①デザイン
8回目	配信 配信企画プレゼンテーション②デザイン
9回目	配信 オリジナル配信企画制作①応用（産学連携企画）
10回目	配信 オリジナル配信企画制作②応用（産学連携企画）
11回目	配信 オリジナル配信企画制作③応用（産学連携企画）
12回目	配信 オリジナル配信企画制作④応用（産学連携企画）
13回目	配信 オリジナル配信企画制作⑤応用（産学連携企画）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	楽器演奏基礎 I Basic Instrumental Technique I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜3限
【授業の学習内容】 ヒット曲にも多い基本のコード進行を使い、アレンジやリズムパターンのレパートリーも増やしていきます。 Logicを使いながら、作曲やアレンジに必要なコードの基礎やピアノの役割をしっかりと学びます。 この1年間で作曲、アレンジに必要な引き出しを増やします。 (講師プロフィール) アーティストの楽曲アレンジやバンドサポート、又CMロゴサウンドや校歌のアレンジ作成、ピアノのBGM演奏など様々なシーンで活躍している講師が、作曲やアレンジに必要なコードやフレーズなどを基礎から教えます。							
【到達目標】 曲やメロディーをより引き立てるヴォイシングを使うことが出来る 基本のコード進行の中でも更にオリジナリティーのコードアレンジをすることが出来る。 効果的にピアノの音色やフレーズを取り入れることができる。 サンプルフレーズを作ることが出来る。							

授業計画・内容	
1回目	ダイアトニックスケールと3和音のダイアトニックコードを習得できる。メジャーコードとマイナーコードを理解できる。
2回目	key=Cの3コードを転回形で演奏できる。音符の長さや拍子を理解しリズム伴奏できる。
3回目	3コードを使って楽曲に伴奏スタイルを打ち込むことができる。また楽譜を読み書きすることができる。
4回目	【3コード+1】の進行で流行りの曲を演奏できる。4156進行key=C
5回目	【3コード+1】4156進行を使い、key=Fとkey=Gで伴奏を作ることができる。
6回目	【3コード+1】1564進行と162(4)5進行をkey=B♭とkey=Dで転回形を取り入れて8ビートで伴奏できる。
7回目	【3コード+1】※課題→6451進行を使い決められたサイズの楽曲を作ることができる。及び提出。
8回目	【6254進行】あらゆるヒット曲に多用される6254進行を理解し、key=E♭の第一転回形スタートで8ビートの両手伴奏ができる。
9回目	【6254進行】6254進行をkey=Aの第二転回形スタートで16ビートのバックアップができる。
10回目	【6254進行】6254進行をkey=Eの3連符のハネのリズムで伴奏し、課題曲に合ったヴォイシングを作ることができる。
11回目	4和音のダイアトニックコードで7thコードを習得することができる。
12回目	【4321進行】4和音のヴォイシングの作り方と両手でのハーモニーを習得することができる
13回目	テスト→筆記&実技
14回目	学期末特別授業
15回目	学期末特別授業
準備学習 時間外学習	ヒットランキング上位に入った楽曲のコードを使いながら学んでいきます。 また、好きなジャンルだけでなく、ジャンルは問わず幅広く音楽を聴いてください。 学んだことは自分で使うこと！
評価方法	筆記と実技とアレンジ音源提出
受講生への メッセージ	ピアノの授業は1年間しかありません。作曲をする上で鍵盤は必須となりますので、頑張って1年間続けましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Logicが入ったPCと五線譜は毎回持ってきてください。	

科目名 (英)	楽器演奏基礎Ⅱ Basic Instrumental TechniqueⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 後期は引き続きヒット曲の参考曲を使用し、ピアノ以外の音色も取り入れながら、さらに自分らしいアレンジができるような伴奏スタイルとハーモニーアレンジを身につけます。 (講師プロフィール) アーティストの楽曲アレンジやバンドサポート、又CMロゴサウンドや校歌のアレンジ作成、ピアノのBGM演奏など様々なシーンで活躍している講師が、作曲やアレンジに必要なコードやフレーズなどを基礎から教えます。							
【到達目標】 曲やメロディーをより引き立てる伴奏パターンやアレンジをすることが出来る。 効果的にピアノの音色やフレーズを取り入れることができる。 ピアノ以外の鍵盤の音色やその楽器に合ったフレーズを作ることが出来る。 テンションノートも取り入れることができる。							

授業計画・内容	
1回目	【456進行】add、sus、dimなどを理解できる。また指定曲にaddやsusを使いシンコペーションで演奏することができる
2回目	【456進行】オルガンの音色で音を繋ぐ奏法や、グリスなどの様々な奏法を習得できる
3回目	【カノンコード】key-Cでカノンコードを習得することができる
4回目	【カノンコード】分数コードを理解できる。トニックベダルやクリシェを理解し演奏することができる
5回目	【カノンコード課題】stringsで伸ばした音やピッチカートのフレーズを作ることができる→課題提出
6回目	ペンタトニックやマイナーペンタトニックスケールを使いシンセでリフを作ることができる
7回目	【Just the two of us進行】key=Cで基本的な進行とヴォイシングを身に付けることができる
8回目	【Just the two of us進行】key=E♭で課題曲に合ったヴォイシングとバックিংができる
9回目	【Just the two of us進行】同じ曲サイズで違うアレンジを作ることができる
10回目	独立した旋律でカルテットのハーモニーを作ることができる
11回目	テストと楽曲提出
12回目	授業振り返り
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	音楽の聴き方が変わって来たと思います。 後期はピアノ以外の音色も取り入れて、その楽器に合う伴奏パターンやハーモニーのアレンジなども扱っていきますので、普段から音楽を聴く際に耳を鍛えておいて下さい。
評価方法	アレンジ音源提出
受講生への メッセージ	いよいよ後期になりました。他人と比べる前にしっかり【自分】を活かして、自分にしかできない楽曲を世界に届けていけるよう、後期も学ぶことの楽しさを忘れずに！！ 曲を作るのは0から物を作ること。いつでも多様な材料を出せるように引き出しを沢山準備しておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 PCと五線譜は毎回持ってきてください。	

科目名 (英)	楽器演奏基礎 Ⅲ Basic Instrumental Technique Ⅲ	選択 必修	選択 必修	年次	2	担当教員	平原 壽子
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日3限目(Aクラス)・4限(Bクラス)
【授業の学習内容】 鍵盤楽器の基礎知識を身につける。鍵盤に慣れることによって、音楽理論、イヤートレーニング等の理解度を向上させ、理論と実習という並行学習の効果を学ぶ。弾き語りの技術習得。 〈講師プロフィール〉 総合音楽教室、Sound Voice Space Jacaranda代表。音、色、香りをテーマとして、音楽全般(楽器、ボイストレーニング、作編曲、音楽療法、ニューマエクササイズ)の指導活動、演奏活動、各種セミナー、教室運営、専門学校講師等、国籍、性別、年齢を問わず、指導活動を行っている。							
【到達目標】 弾き語り及び両手奏演奏を通し音楽の表現力を向上させる。 音楽活動をする上で必要な感性、技術等を専攻以外の分野からも学び、修得することによって自分の可能性や向上に活用、応用できる能力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	鍵盤に慣れる(英音名、Scale、運指)長音階、半音階の理解、CMajorScale上の和音について
2回目	DmajorとTonic 弾き語りの準備(コード奏とスケール奏)
3回目	EmajorとTonic コード進行譜の作成 読譜力を強化
4回目	FmajorとTonic コードとコードネームの徹底
5回目	GmajorとTonic 一段符を見ながら伴奏形を考える(2～3曲)
6回目	AmajorとTonic 一段符を見ながら伴奏形を考える(2～3曲)
7回目	BmajorとTonic 中間テスト Scale、コードネームとPositionMajorコード、minorコード
8回目	D ♭ majorとTonic ジャズのフィーリングに慣れる為、既成の曲をCDに合わせて弾く
9回目	E ♭ majorとTonic CDに合わせて弾くことでアンサンブルの感覚を養う(各自のレベルに合わせる)
10回目	G ♭ majorとTonic 弾き語りの為の伴奏形、変奏、コードの理解を深める
11回目	A ♭ majorとTonic 弾き語り曲、Pianosolo曲の弾き込み
12回目	B ♭ majorとTonic 発声練習を各自でできる様に12のKeyTonic半音上行形を習得する
13回目	9月特別授業
14回目	9月特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	授業内容の復習および個人練習
評価方法	実技テスト(Piano演奏力と理解度)
受講生への メッセージ	1日1小節を目指し、ゆっくり確実に自分の力をつけて行きましょう
【使用教科書・教材・参考書】 譜面	

科目名 (英)	楽器演奏基礎 IV Basic Instrumental Technique IV	選択 必修	選択 必修	年次	2	担当教員	平原 壽子
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日3限目(Aクラス)・4限(Bクラス)
【授業の学習内容】 鍵盤楽器の基礎知識を身につける。鍵盤に慣れることによって、音楽理論、イヤートレーニング等の理解度を向上させ、理論と実習という並行学習の効果を学ぶ。弾き語りの技術習得。 〈講師プロフィール〉 総合音楽教室、Sound Voice Space Jacaranda代表。音、色、香りをテーマとして、音楽全般(楽器、ボイストレーニング、作編曲、音楽療法、ニューマエクササイズ)の指導活動、演奏活動、各種セミナー、教室運営、専門学校講師等、国籍、性別、年齢を問わず、指導活動を行っている。							
【到達目標】 ・弾き語り、及びPianosoloの技術を修得し、音楽表現の幅を広げる ・「曲にする」ということを認識し、演奏力を修得する							

授業計画・内容	
1回目	新曲の曲想、構成、演奏スタイルを知る。(ドレミ唱、CD鑑賞)オーホーリーナイト
2回目	歌詞(英語)の発音及びフレージング、アーティキュレーションをマスターする。コード譜作成
3回目	日本の童謡を英語歌詞で弾き語りする。移調も考える。T,S,Dの移調
4回目	「オーホーリーナイト」のコード進行、構成をマスターする・伴奏形及びKeyを自分の声に合わせてみる
5回目	長音階、短音階以外の音階を知る。「かえるの合唱」CDで様々な音階の特徴を知る
6回目	弾き語り曲及びPianosolo曲を弾き込む。メロディー奏、両手奏、コード奏
7回目	弾き語り曲のコードを基本形、転回形のできる様にする。12のKeyのT,S,Dを完全にマスターする
8回目	中間テスト「かえるの合唱」「オーホーリーナイト」「故郷」
9回目	「オーホーリーナイト」を自分の好きなアレンジのできる様に考えマスターする
10回目	「ロクリアモード さくらさくら」チャーチモードの説明、モードについて知る
11回目	自分の苦手なところを理解し、上達を目指す
12回目	期末テスト、Pianosolo,弾き語り
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	授業内容の復習および個人練習
評価方法	実技テスト(Piano演奏力と理解度)
受講生への メッセージ	入学時を思い出し自分の成長を評価し、自信につなげましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 譜面	

科目名 (英)	楽器演奏基礎Ⅴ Basic Instrumental TechniqueⅤ	選択 必修	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期 木曜3限
【授業の学習内容】 ソロピアニストにとって必要なテクニック、表現力の向上、対応力を身につける。 指の故障のない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
【到達目標】 テクニックや表現も含め、人の前で心打つ演奏、独奏を目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	指の故障がない様、全部のキーでストレッチエクササイズを行う。
2回目	ダイナミックレンジを意識し、強・中・弱音を身につける。
3回目	ダイナミックマークの付いた楽譜を用いて指定されたとおりに実践する。
4回目	曲を完成する。
5回目	スタッカートとテヌートの違いを理解し弾き分ける。
6回目	音を採譜し、五線紙上に完成させる。
7回目	コードの特性を理解し、いろいろなパターンでリハーモナイズを行う。
8回目	ソロピアノ曲を指導する。
9回目	指導した曲を発表する。
10回目	初見力を充実させ初心者の指導できる様、指導する。
11回目	今までの総合復習
12回目	実技テスト
13回目	期末テスト
14回目	学期末特別授業
15回目	学期末特別授業
準備学習 時間外学 習	人の前で、心打つ演奏する事をこの1年間で意識する。
評価方法	12週目に行う実技テスト(60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	心打つ演奏とは何なのかを自らよく、この1年間考えてください。
【使用教科書・教材・参考書】 スタンダード曲集、ハノン、クラシック集、スタンダードジャズ集、プリント等	

科目名 (英)	楽器演奏基礎VI Basic Instrumental TechniqueVI	選択 必修	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 木曜3限
【授業の学習内容】 ソロピアニストにとって必要なテクニック、表現力の向上、対応力を身につける。 指の故障のない様、全部のキーを使ったエクササイズを継続。 (講師プロフィール) 式展やホテルでのソロピアニストとしての活動の他、海外アーティストとの競演などを行っている。							
【到達目標】 テクニックや表現も含め、人の前で心打つ演奏、独奏がたくさんできる事を目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	夏休み期間の課題を発表。
2回目	今までの復習テスト、理解できなかった箇所を確認する。
3回目	ロングトーンアルペジオのエクササイズを指導。
4回目	ジャンルによるバックギングを理解する。
5回目	ジャンルによるバックギングを実践する。
6回目	ボーカルとのデュオの実践を希望する。
7回目	ソロピアノ曲を指導。
8回目	指導した曲を発表。
9回目	初心者指導の実習を希望する。
10回目	今までの総合復習①
11回目	今までの総合復習②□
12回目	実技テスト
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学 習	授業以外、プライベートでいろいろな曲の研究を希望します。
評価方法	12週目に行う実技テスト (60%) 各授業内で行うミニ実技テスト(40%)
受講生への メッセージ	できれば人の前で発表できる曲をたくさん集めて暗譜する事を希望します。
【使用教科書・教材・参考書】 スタンダード曲集、ハノン、クラシック曲集、プリント等	

科目名 (英)	DTM I	必修 選択	必修 選択	年次	1年		
	Desktop Music I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜1限
学科・コース	音楽プロデュース科						
【授業の学習内容】 楽曲制作を行う為に必要なLogic Proの操作方法を学びます。 ＜実務者経験＞ 「ももち浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。							
【到達目標】 ■コピー＆ペーストなどのLogicの基本操作を理解できるようになる ■オーディオインターフェイスを使用、レコーディングができるようになる ■MIDIでのレコーディングができるようになる ■Spliceの使用方法を理解できるようになる							
授業計画・内容							
1回目	■シラバス及び到達目標の確認 ■プロジェクトの立ち上げ、保存 ■バウンス						
2回目	■ LogicやSpliceの操作方法を学びながら、オーディオ素材を組み合わせ、短い曲を作る						
3回目	■ LogicやSpliceの操作方法を学びながら、ソフトウェア音源で短い曲を作る						
4回目	■ MIDIとオーディオについて ■オーディオインターフェース、MIDIキーボードでのレコーディング						
5回目	■ コード進行&Session Player（1／3）丸サ進行打ち込み Keyboard Player						
6回目	■ コード進行&Session Player（2／3）Bass Player Drummer 演奏						
7回目	■ コード進行&Session Player（3／3）AIでサビの制作						
8回目	■データの送受信（AirDrop、ギガファイル便） ■パラアウト						
9回目	■キーコマンドの変更方法 ■ソロツール、ミュートツールなど						
10回目	■ インストゥルメンツのプリセットについて						
11回目	■Logicの詳細なウィンドウ ■コントロールバーとディスプレイのカスタマイズ ■トラックスタック ■テンプレート						
12回目	■エフェクト初級① イコライザー_既存楽曲編						
13回目	■エフェクト初級① イコライザー_ローカット編						
14回目	■エフェクト初級① イコライザー_カット&ブースト編						
15回目	■総括						
準備学習 時間外学習	DAWは音楽を皆さんのやりたい音楽を形にするためのツールです。そのために音楽の3大要素である「メロディ」「リズム」「ハーモニー」を他の授業でしっかりと学んできてください。また、DAW＝楽器です。毎日触らないと腕が落ちてしまうので、自宅でも毎日触る時間を作ってください。						
評価方法	■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に制作する作品の完成度 ■受講態度（主に出席・遅刻など）						
受講生への メッセージ	スポーツでいうと基礎体力を作るための「筋トレ」や「走り込み」に当たるフェーズです。ここで勉強したことは、これから先自分がやりたい音楽の制作に必ず応えてくれるので、一緒に頑張りましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
Macbook.Logic Pro X							

科目名 (英)	DTMⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	1年		
	Desktop MusicⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科				(2)		

【授業の学習内容】

楽曲制作を行う為に必要なLogic Proの操作方法を学びます。

<実務者経験>

「もち浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。

【到達目標】
■ 下半期を通して簡単なオリジナル曲を作ることが目標です。最後の授業ではオリジナル曲をみんなの前で発表してもらいます。
■ シンセサイザーで簡単な音色を作ることができる
■ サンプリングや逆再生など、オーディオ素材をより扱えるようになる
■ 積極的な音作りができるエフェクトを扱えるようになる

授業計画・内容	
1回目	■シラバス及び到達目標の確認
2回目	■シンセサイザーの基本について理解できる（1／3） ■基本の波形の種類、音色の違い、ADSRについて
3回目	■シンセサイザーの基本について理解できる（2／3） ■好みのプリセットを選び、さらに自分好みの音色に加工する
4回目	■シンセサイザーの基本について理解できる（3／3） ■LF0等について
5回目	■サンプリング（Sampler & Quick Sampler）や逆再生など、オーディオに関するテクニックを用いてトラック制作
6回目	■FX系のサンプルを使用し、緩急のあるトラック制作
7回目	■音色変化が効果的なエフェクトを使用したトラック制作
8回目	■エフェクトのオートメーション
9回目	■サイドチェーン（サイドチェーンコンプ、ボコーダー）を使用しトラック制作
10回目	■Logic付属のインストゥルメンツについて ■即戦力になる音源の紹介 ■テンプレートの作り方
11回目	■フリープラグインをインストールし、トラック制作
12回目	■ループ素材を耳コピし、一つ一つのトラックをより理解する（1／3）
13回目	■ループ素材を耳コピし、一つ一つのトラックをより理解する（2／3）
14回目	■ループ素材を耳コピし、一つ一つのトラックをより理解する（3／3）
15回目	■総括
準備学習 時間外学習	DAWは音楽を皆さんのやりたい音楽を形にするためのツールです。そのために音楽の3大要素である「メロディ」「リズム」「ハーモニー」を他の授業でしっかりと学んできてください。また、DAW＝楽器です。毎日触らないと腕が落ちてしまうので、自宅でも毎日触る時間を作ってください。
評価方法	■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に制作する作品の完成度 ■受講態度（主に出席・遅刻など）
受講生への メッセージ	スポーツでいうと基礎体力を作るための「筋トレ」や「走り込み」に当たるフェーズです。ここで勉強したことは、これから先自分がやりたい音楽の制作に必ず応えてくれるので、一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
Macbook.Logic Pro X	

科目名 (英)	DTMⅢ	必修 選択	必修	年次	2		
	Desktop MusicⅢ	授業 形態	対面	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 Apple Logicを使用し、トレンド感のある音色作りの手法の習得。ソフトウェアの使用法、およびシンセサイザーの使用法。							
＜実務者経験＞ 「ももち浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。							
【到達目標】 ■ リリースカットピアノの音色を作れるようになる ■ ボーカルチョップを作れるようになる ■ トレンド感のある音色作りの手法の習得							

授業計画・内容	
1回目	■ シラバス及び到達目標の確認
2回目	■ ボリュームフェーダー、パンのみを使用したミキシング①
3回目	■ ボリュームフェーダー、パンのみを使用したミキシング②
4回目	■ リリースカットピアノを使用したトラック制作①
5回目	■ リリースカットピアノを使用したトラック制作②
6回目	■ ボーカルチョップの作り方①
7回目	■ ボーカルチョップの作り方②
8回目	■ レイヤー、音の高さ①
9回目	■ レイヤー、音の高さ②
10回目	■ サンプルを使ったフィルインや展開の制作①
11回目	■ サンプルを使ったフィルインや展開の制作②
12回目	■ 作曲スピードを高めるための効率の上げ方
13回目	■ MIDIエフェクトを用いたトラック制作
14回目	■ 独自性のある音色の制作（グラニューラシンセシス）
15回目	■ 総括
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 40% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	シンセサイザーは現代の音楽で必ずと言っていいほど使われる楽器になります。正解がない音色をどのように作り出すのが学習しましょう。
Logic Pro X、Noise Maker、Vital、Serum	

科目名 (英)	メロディーメイキングⅠ	必修 選択	必修 選択	年次	1年		
	Melody Making I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	水曜 3 限
【授業の学習内容】							
メロディの役割や作曲におけるメロディラインの作り方を学びます。各ジャンルでの違いや、コードやスケールとの兼ね合いも合わせて学習します。							
<実務者経験> テレビCM・ドラマ・お芝居などの楽曲制作、吹奏楽コンクールや様々なコンサートで依頼を受け作曲し演奏を行っている。							
【到達目標】							
コードやスケールとの兼ね合いを理解し、ディスコードなくメロディが作れる。又、そのジャンルにおけるメロディの特徴を作品に組み込むことができる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認、音楽の三大要素を理解し、作ったメロディをボイスメモを使って残すことができる。
2回目	調とメロディの役割を理解し、調とあったメロディを作れるようになる
3回目	コードとメロディの関係を理解し、メロディに適切なコードを選択できるようになる(メジャーダイアトニックコード) ※コードプレイヤーを使用
4回目	コードとメロディの関係を理解し、メロディに適切なコードを選択できるようになる(マイナーダイアトニックコード) ※コードプレイヤーを使用
5回目	コードとメロディの関係を理解し、コードに沿ったメロディが作れるようになる(メジャー・マイナー) ※コードプレイヤーを使用
6回目	一曲を通しての構成を理解し、聴き取ることができるようになる。
7回目	一曲を通しての構成を理解し、メロディが作れるようになる ※シンセサイザーVを使用
8回目	歌物とinst物の違いを理解し、音域通りのメロディが作れるようになる(歌物)
9回目	チャート上位の楽曲を聴き、メロディの動きを分析する①
10回目	チャート上位の楽曲を聴き、メロディの動きを分析する②
11回目	分析をふまえ、耳に残るメロディの動きと構成を考える
12回目	作詞について 実技テスト
13回目	テストを終えて、後期への課題の明確化と実践
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	楽曲制作をしながら講義の復習を積極的におこなってください。
評価方法	■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度(主に出席・遅刻など)
受講生への メッセージ	メロディは作曲をするにあたって最も大切な要素と言っても過言ではありません。耳に残るメロディを目指し、作れるように学習しましょう。
Macbook.Logic Pro X メモを取れる準備をお願いします。又、保存用のHDDやUSBメモリも持参してください。	

科目名 (英)	メロディーメイキングⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	1年		
	Melody MakingⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	水曜 3 限
【授業の学習内容】							
メロディの役割や作曲におけるメロディラインの作り方を学びます。後期では各楽器についての知識を得て、より高度で演奏する楽器や声に沿ったメロディを作れるように学習します。							
<実務者経験> テレビCM・ドラマ・お芝居などの楽曲制作、吹奏楽コンクールや様々なコンサートで依頼を受け作曲し演奏を行っている。							
【到達目標】							
各楽器や声の音域や可能な動きに沿ったメロディを作れるようになる。又、裏メロディを作れるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認、楽器知識① (その他) 移調楽器、奏法など
2回目	楽器知識② (弦楽器)
3回目	楽器知識③ (木管)
4回目	楽器知識④ (打楽器)
5回目	楽器知識⑤ (金管)
6回目	楽器知識⑥ (スコア読解) ※打ち込み
7回目	楽器知識⑦ (まとめテスト)
8回目	裏メロディの作り方① (あかとんぼ)
9回目	裏メロディの作り方② (ふるさと)
10回目	メロディ・コードの聴き取り、調の性格について 実技テスト
11回目	BGM制作について① (ゲーム音楽の試聴会)
12回目	BGM制作について② (楽器の特性を生かしたメロディ作り) プレスタイミング アーティキレーションについて
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	楽曲制作をしながら講義の復習を積極的におこなってください。
評価方法	■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度 (主に出欠席・遅刻など)
受講生への メッセージ	様々な楽器について知り、触れることはかけがえない経験と知識となります。積極的に取り組んでください。
Macbook.Logic Pro X メモを取れる準備をお願いします。又、保存用のHDDやUSBメモリも持参してください。	

科目名 (英)	メロディー メイキングⅢ	必修 選択	必修 選択	年次	2年		
	Melody MakingⅢ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】							
自身が作るメロディを客観的に見れるスキルを養います。各ジャンルの楽曲のメロディ譜やスコアを読む・書くという視点から情報を読み解き、さらに自身の楽曲に対しても譜面とDAW上の打ち込みの音の両方で同じ情報になるように学習します。又、仕事で必要なクライアントとのやりとりなども実習の中で習得を目指します。 ＜実務者経験＞ テレビCM・ドラマ・お芝居などの楽曲制作、吹奏楽コンクールや様々なコンサートで依頼を受け作曲し演奏を行っている。							
【到達目標】							
自身が作曲した楽曲のメロディやコード、各パートの動きを譜面に書くことができ、その譜面の情報とDAW上で打ち込んだ音が同じになるようにプログラミングできる。又、クライアントとのやりとりを円滑にするためのスキル(文章・連絡・相談)を実際に使用できる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認。譜面についての基本的な知識の確認。
2回目	POP'sの楽曲の進行を聴き取り、曲の尺通りに進行譜を書けるようになる。
3回目	POP'sの楽曲のコードを聴き取り、コード譜を書けるようになる。
4回目	コード譜にリズムの指示を書き込めるようになる。※提出課題
5回目	POP'sの楽曲を音符や休符を使ったメロディ譜で写譜できるようになる。
6回目	自分で制作したメロディを譜面に書くことができる。
7回目	奏法記号や曲想記号の意味を理解し、譜面に書けるようになる。又、前講義で自身が制作したメロディをDAW上で同じように表現できるようになる。
8回目	ドラム譜の基礎を理解し、写譜できるようになる。
9回目	8ビート・16ビートのリズムを聴き取り、ドラム譜を書けるようになる。
10回目	自分で制作したメロディに8ビートもしくは16ビートのドラムを入れてDAW上で表現できるようになる。
11回目	前講義で制作した曲をメロディ譜、コード譜(進行譜)、ドラム譜を書けるようになる。
12回目	まとめ試験。当日指定するメロディ譜を制限時間内に写譜する。又、クライアントとのやりとりを想定したやり方で納品(提出)できるようになる。※実習課題
13回目	前期の実習を終えて、後期への課題の明確化と実践
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	講義内で学習した内容の復習と反復をお願いします。
評価方法	■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度（主に出欠席・遅刻など）
受講生への メッセージ	DAW上での表現と同時に譜面での表現ができると自身の楽曲を客観的に見ることができ、更にコミュニケーションが円滑にできるようになります。譜面が苦手な方もいますが、ゆっくりと進めていきますので頑張りましょう。
Macbook.Logic Pro X メモを取れる準備と五線譜の持参をお願いします。又、保存用のHDDやUSBメモリも持参してください。	

科目名 (英)	メロディーメイキングⅣ	必修 選択	必修 選択	年次	2年		
	Melody MakingⅣ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】							
自身が作るメロディを客観的に見れるスキルを養います。各ジャンルの楽曲のメロディ譜やスコアを読む・書くという視点から情報を読み解き、さらに自身の楽曲に対しても譜面とDAW上の打ち込みの音の両方で同じ情報になるように学習します。又、仕事に必要なクライアントとのやりとりなども実習の中で習得を目指します。 ＜実務者経験＞ テレビCM・ドラマ・お芝居などの楽曲制作、吹奏楽コンクールや様々なコンサートで依頼を受け作曲し演奏を行っている。							
【到達目標】							
自身が作曲した楽曲のメロディやコード、各パートの動きを譜面に書くことができ、その譜面の情報とDAW上で打ち込んだ音と同じになるようにプログラミングできる。 又、クライアントとのやりとりを円滑にするためのスキル(文章・連絡・相談)を実際に使用できる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認。弦楽器の譜面についての基礎知識を理解し、譜面通りにDAWに打ち込むことができる。※提出課題
2回目	自分で弦楽器パートを制作し、DAWに打ち込むことができる。
3回目	前講義でDAW上で作った弦楽器のパートを譜面におこすことができるようになる。
4回目	ピアノの譜面についての基礎知識を理解し、譜面通りにDAWに打ち込むことができる。※提出課題
5回目	自分でピアノパートを制作し、DAWに打ち込むことができる。
6回目	前講義でDAW上で作ったピアノのパートを譜面におこすことができるようになる。
7回目	金管楽器の譜面についての基礎知識を理解し、譜面通りにDAWに打ち込むことができる。※提出課題
8回目	自分でブラスパートを制作し、DAWに打ち込むことができる。
9回目	前講義でDAW上で作ったブラスのパートを譜面におこすことができるようになる。
10回目	木管楽器の譜面についての基礎知識を理解し、譜面通りにDAWに打ち込むことができる。※提出課題
11回目	自分でウインドブラスパートを制作し、DAWに打ち込むことができる。
12回目	前講義でDAW上で作ったウインドブラスのパートを譜面におこすことができるようになる。
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	講義内で学習した内容の復習と反復をお願いします。
評価方法	■毎週の課題内容の理解と実践度 ■定期的に行う作品の完成度 ■受講態度（主に出欠席・遅刻など）
受講生への メッセージ	DAW上での表現と同時に譜面での表現ができると自身の楽曲を客観的に見ることができ、更にコミュニケーションが円滑にできるようになります。譜面が苦手な方もいると思いますが、ゆっくりと進めていきますので頑張りましょう。
Macbook.Logic Pro X メモを取れる準備と五線譜の持参をお願いします。又、保存用のHDDやUSBメモリも持参してください。	

科目名 (英)	Pro Tools I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
	(Pro Tools I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 音源制作のユニバーサルツールであるProToolsを使用したレコーディング・音源編集・ミックスダウン技術を習得します。 <講師プロフィール> 世界屈指のライブハウス「ブルーノート」にて音響のチーフエンジニアとして活躍。またコンポーザー、ドラマーでもあり、「天晴ニッポン」は全国のよさこいイベントで使用される。							
【到達目標】 自作楽曲の音源制作やインターネットを活用したプロモーションツールの作成を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	実習室のシステム説明、DTMとPro Toolsの概要
2回目	Pro Tools基本操作①:立ち上げ方、周辺機器設定、基本操作
3回目	Pro Tools基本操作②:音素材を使用したバランス調整
4回目	Pro Tools基本操作③:バランス調整からパウンスまで
5回目	トラック作成(オーディオ、インスト、クリック等)、In/Out設定
6回目	プラグイン①ー①:EQの基本操作とインサート方法
7回目	プラグイン①ー②:EQ(ドラム)
8回目	プラグイン①ー③:EQ(ベース・ギター)
9回目	プラグイン①ー④:EQ(キーボード・声)
10回目	プラグイン②:コンプレッサー・ゲートの使用(実践)
11回目	プラグイン③ー①:リバーブのSend/Returnと特徴
12回目	プラグイン③ー②:ディレイのSend/Returnと音作り
13回目	プラグイン④ー①:Instトラックへの音源アサインと打ち込み
14回目	プラグイン④ー②:Instトラックでの打ち込み・パウンス
15回目	テスト
準備学習 時間外 学習	いろいろな音楽を聴き、いろいろな芸術作品を鑑賞することで、オリジナル作品の幅が広がります。
評価方法	実技テスト 課題提出
受講生への メッセージ	現代の作品発表の場は様々です。いろいろな媒体に対応出来る人になりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ProTools.各種プラグイン	

科目名 (英)	Pro Tools II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
	(Pro Tools II)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 音源制作のユニバーサルツールであるProToolsを使用したレコーディング・音源編集・ミックスダウン技術を習得します。 <講師プロフィール> 世界屈指のライブハウス「ブルーノート」にて音響のチーフエンジニアとして活躍。またコンポーザー、ドラマーでもあり、「天晴ニッポン」は全国のよさこいイベントで使用される。							
【到達目標】 自作楽曲の音源制作やインターネットを活用したプロモーションツールの作成を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	【課題制作】基本機能を使った2mix制作①
2回目	【課題制作】基本機能を使った2mix制作②
3回目	【中間確認】音源提出とフィードバック①
4回目	【中間確認】音源提出とフィードバック②
5回目	ボーカル録音の基本:マイクセッティングと録音フロー
6回目	ボーカル録音実習①:実際に録音を行う
7回目	ボーカル録音実習②:編集とノイズ除去
8回目	フェード、クロスフェード、リージョン編集の実践
9回目	ボーカルチューニング (Melodyne等紹介含む)
10回目	サンプラーの使い方 (Structure/XPand!2等)
11回目	ドラム打ち込み応用:パターン構築とアレンジ
12回目	パラアウト処理とステムの考え方
13回目	ミキシングの基本 (バス、AUX、マスターの使い方)
14回目	【総合演習】録音～編集～ミックスまでの一連作業①
15回目	【総合演習】録音～編集～ミックスまでの一連作業②
準備学習 時間外 学習	いろいろな音楽を聴き、いろいろな芸術作品を鑑賞することで、オリジナル作品の幅が広がります。
評価方法	実技テスト 課題提出
受講生への メッセージ	現代の作品発表の場は様々です。いろいろな媒体に対応出来る人になりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ProTools.各種プラグイン	

科目名 (英)	ProToolsⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
	(ProToolsⅢ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 音源制作のユニバーサルツールであるProToolsを使用したレコーディング・音源編集・ミックスダウン技術を習得します。							
<講師プロフィール> イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響＆ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 録音やミックスダウンなどのスタジオワークや、MAがある程度できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	ボーカルミックス基礎:EQ、コンプ、リバーブの組み合わせ
2回目	ボーカルミックス応用:ダブリング、ステレオ処理、オートメーション
3回目	ベースミックス基礎:音域処理、サイドチェインの基礎
4回目	ギターミックス基礎:空間処理と定位調整
5回目	ドラムミックス基礎①:キック、スネアの音作り
6回目	ドラムミックス基礎②:ハイハット、タム、シンバルの処理
7回目	ドラムミックス応用:バスコンプ、パラレル処理
8回目	キーボード&シンセミックス:広がりと空間の作り方
9回目	Instトラックでのシンセプログラミング
10回目	エフェクトデザイン:フィルター、モジュレーション、SFX制作
11回目	BGM制作①:シーンに応じたBGMの作り方(例:CM、映像用)
12回目	BGM制作②:ループ処理、テンポ設定、尺合わせの技術
13回目	BGM制作③:ミックスとマスタリングまでの流れ
14回目	テスト①
15回目	テスト②
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席日数。授業態度。作品の完成度。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ProTools IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
	(ProTools IV)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 音源制作のユニバーサルツールであるProToolsを使用したレコーディング・音源編集・ミックスダウン技術を習得します。							
<講師プロフィール> イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響＆ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 録音やミックスダウンなどのスタジオワークや、MAがある程度できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	オートメーション基礎:ボリューム、パン、エフェクト操作
2回目	オートメーション応用:シーン展開に応じた演出
3回目	レコーディング実習①:バンド形式の録音(ガイドトラック含む)
4回目	レコーディング実習②:各パートの録音(ドラム、ベース等)
5回目	レコーディング実習③:ボーカル・コーラス録音
6回目	レコーディング実習④:ナレーション録音と整音
7回目	録音音源の整理とマーカ、グルーピング活用
8回目	編集テクニック:タイミング修正、ピッチ補正、ノイズ処理
9回目	素材の管理方法:ファイル整理、セッションフォルダの構成
10回目	セッションデータの共有とバージョン管理
11回目	簡易マスタリング基礎①:音圧調整、EQ、リミッターの使い方
12回目	簡易マスタリング基礎②:複数曲の音量バランスと統一感
13回目	楽曲完成までの流れ:プリプロ〜録音〜ミックス〜マスター
14回目	【課題制作】1曲を最初から完成させる
15回目	【発表・フィードバック】音源プレゼンと意図説明
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席日数。授業態度。作品の完成度。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名(英)	レコーディングセオリー I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
	(Recording Theory I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜1限
【授業の学習内容】 あらゆる録音形態を駆使したレコーディング実習を通して、音楽制作・スタジオエンジニアの実務応用技術を習得します。							
＜講師プロフィール＞ レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。							
【到達目標】 レコーディングスタジオで使用される機材(SSLコンソール、マイクロフォン、アウトボード類)に慣れ、使用出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	スタジオワークについて
2回目	コンソールの知識①
3回目	コンソールの知識②
4回目	マイク知識①
5回目	マイク知識②
6回目	ステレオマイキング
7回目	エフェクター(EQ)
8回目	エフェクター(Comp)
9回目	エフェクター(Gate)
10回目	エフェクター(リバーブ)
11回目	エフェクター(ディレイ)
12回目	エフェクター(モジュレーション)
13回目	エフェクター(モジュレーション)
14回目	テスト①
15回目	テスト②
準備学習 時間外学習	Pro Tools 知識。
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディングを行うための基礎知識から学びます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名(英)	レコーディングセオリーⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
	(Recording TheoryⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 あらゆる録音形態を駆使したレコーディング実習を通して、音楽制作・スタジオエンジニアの実務応用技術を習得します。 ＜講師プロフィール＞ レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。							
【到達目標】 レコーディングスタジオで使用される機材(SSLコンソール、マイクロフォン、アウトボード類)に慣れ、使用出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	Protools基本① Protoolsとコンソール等のつながり
2回目	Protools基本② レコーディング1
3回目	Protools基本③ レコーディング2
4回目	Protools基本④ エディット1
5回目	Protools基本⑤ エディット2
6回目	Protools基本⑥ Plug-In Effect1
7回目	Protools基本⑦ Plug-In Effect2
8回目	Protools基本⑧ ミックス1
9回目	Protools基本⑨ ミックス2
10回目	素材を使つてのミックス①
11回目	素材を使つてのミックス②
12回目	年間まとめ 実技テスト
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	Pro Tools 知識。
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディングを行うための基礎知識から学びます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	レコーディングセオリーⅢ (Recording TheoryⅢ)	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜1限
【授業の学習内容】 レコーディング技術を学ぶとともに、音や楽器に関する様々な知識を知り、より良い音を再現できる技術を学びます。 <講師プロフィール> イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響 & ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 様々な音響機器の使用方法を理解した上で、ミュージシャン自身で楽曲を録音・編集出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	レコーディングスタジオの使用法について その1 (電源の入れ方やミキサーの使い方など)
2回目	レコーディングスタジオの使用法について その2 (実際にマイクを立てて録音)
3回目	レコーディングスタジオの使用法について その3 (録音した音源の編集)
4回目	楽器のレコーディング その1 (ドラム)
5回目	楽器のレコーディング その2 (キーボード、ベース)
6回目	楽器のレコーディング その3 (ボーカル、ギター)
7回目	楽器のレコーディング その4 (その他)
8回目	楽曲のミックスダウン (今まで録音したものの編集)
9回目	半田ごてを使用したケーブル作り
10回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
11回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
12回目	楽曲のミックスダウン (今まで録音したものの編集)
13回目	実技テスト1
14回目	実技テスト2
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	Pro Tools 知識
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディング知識を学び、多方面で活躍できるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	レコーディングセオリーⅣ (Recording TheoryⅣ)	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 レコーディング技術を学ぶとともに、音や楽器に関する様々な知識を知り、より良い音を再現できる技術を学びます。 <講師プロフィール> イナズマ戦隊、ぱってん少女隊などのライブレコーディングでエンジニアを務める。福岡のテレビ局で音響効果、MAエンジニアとしても活躍。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響＆ライブレコーディングを行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 様々な音響機器の使用方法を理解した上で、ミュージシャン自身で楽曲を録音・編集出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
2回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
3回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その3
4回目	楽曲のミックスダウン（今まで録音したものの編集）
5回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
6回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
7回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その3
8回目	楽曲のミックスダウン（今まで録音したものの編集）
9回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その1
10回目	学生のオリジナル楽曲を実際に録音、ディレクション その2
11回目	楽曲のミックスダウン（今まで録音したものの編集）
12回目	実技テスト
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	Pro Tools 知識
評価方法	実技テスト
受講生への メッセージ	レコーディング知識を学び、多方面で活躍できるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	DAW I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
	Digital Audio Workstation I	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜 1限
【授業の学習内容】 DAWソフトの基本操作、オーディオ録音と編集、MIDI入力と打ち込みを学びます。 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。 【到達目標】 DAWの基本構成（オーディオ/MIDIトラック、ミキサー、プラグイン）の理解。 簡単な録音、編集、MIDI打ち込みによる1曲の制作ができる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：DAWとは何か、授業概要
2回目	DAWの基本構造（トラック、ミキサー、タイムライン）
3回目	音の基本（波形、周波数、音量、パン）
4回目	オーディオインターフェースと接続
5回目	録音の基礎（マイク収録・インプット設定）
6回目	オーディオ編集①（切り貼り・フェード）
7回目	オーディオ編集②（ピッチ調整・タイムストレッチ）
8回目	MIDIの基礎（ノート、ベロシティ）
9回目	ソフト音源とMIDI打ち込み①（ドラム）
10回目	ソフト音源とMIDI打ち込み②（ベース、コード）
11回目	ソフト音源とMIDI打ち込み③（メロディ）
12回目	プラグインエフェクト基礎（EQ、リバーブなど）
13回目	簡単な1曲の構成（イントロ～アウトロ）
14回目	アレンジと構成法の基礎（8小節ルールなど）
15回目	中間課題：8小節ループ制作と発表
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	音楽制作の現場では、アイデアを形にするスピードと柔軟性が求められます。 DAW（Digital Audio Workstation）を活用し、自分の思い描く音を形にしていくスキルを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac Book (ProTools)	

科目名 (英)	DAW II Digital Audio Workstation II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜1限
【授業の学習内容】 ソフト音源の利用と基本音作り、EQ・コンプ・リバーブなど基本エフェクト、簡単な楽曲制作を学びます。 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。 【到達目標】 EQやリバーブなどの基本的なプラグイン操作が行える。 基本的な作曲理論（コード進行・リズム構造）を使って音楽を組み立てられる。							

授業計画・内容	
1回目	自作ドラムパターン制作
2回目	ベースラインの作り方とMIDI実演
3回目	コード進行の基本（I-IV-Vなど）
4回目	メロディ制作の演習（短旋律の創作）
5回目	ボーカル録音の基礎
6回目	オートメーションの基礎（音量、パン）
7回目	ミックス入門①（バランスのとり方）
8回目	ミックス入門②（EQとリバーブの活用）
9回目	ミックス入門③（ステレオ感と奥行き）
10回目	マスタリングとは何か（基礎解説）
11回目	自由制作①：1曲完成に向けたワーク
12回目	自由制作②：1曲完成に向けたワーク
13回目	自由制作③：1曲完成に向けたワーク
14回目	自由制作④：1曲完成に向けたワーク
15回目	期末発表⑤：1年のまとめ・作品発表会
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	音楽制作の現場では、アイデアを形にするスピードと柔軟性が求められます。 DAW（Digital Audio Workstation）を活用し、自分の思い描く音を形にしていけるスキルを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac Book (ProTools)	

科目名 (英)	DAW Ⅲ Digital Audio Workstation Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜2限
【授業の学習内容】 作曲構成とアレンジ技法、楽器ごとの打ち込み表現の工夫などを学びます。 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。 【到達目標】 複数ジャンル（J-POP、EDM、HIPHOP、BGMなど）に対応したアレンジ・ミックスができる。 ボーカルピッチ補正やコンプレッション、マスタリングなどを使い、クオリティの高い音源が制作できる。							

授業計画・内容	
1回目	1年の復習と自己分析
2回目	各DAWの比較（Logic, Cubase, Live, FLなど）
3回目	ジャンル分析①：J-POPのアレンジ構造
4回目	ジャンル分析②：EDMのビルドアップとドロップ
5回目	ジャンル分析③：HIPHOP／TRAPのリズムとループ
6回目	ジャンル分析④：BGM・劇伴の展開法
7回目	ジャンル分析⑤：その他口
8回目	ボーカルピッチ補正（Melodyne、Auto-Tuneなど）
9回目	サイドチェインコンプレッションの活用
10回目	セッション録音・編集（バンド素材の取り扱い）
11回目	ミックス応用①（マルチバンド、空間処理）
12回目	ミックス応用②（マルチバンド、空間処理）
13回目	ミックス応用③（ジャンルごとの仕上げ）
14回目	ミックス応用④（ジャンルごとの仕上げ）
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	音楽制作の現場では、アイデアを形にするスピードと柔軟性が求められます。 DAW（Digital Audio Workstation）を活用し、自分の思い描く音を形にしていけるスキルを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac Book (ProTools)	

科目名 (英)	DAW IV Digital Audio Workstation IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜2限
【授業の学習内容】 オートメーションの活用、ボーカル編集、ミックス基礎、複数トラックの構成と整理を学びます。 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。 【到達目標】 映像に合わせた効果音・BGM制作が行える（映像音響）。 チームで役割分担しながら音楽・音響作品を共同制作できる。							

授業計画・内容	
1回目	Foley & 環境音編集
2回目	映像と音楽①（映像にBGMをつける演習）
3回目	映像と音楽②（効果音・SEのタイミング演習）
4回目	ジャンル別楽曲制作①（個人課題）
5回目	ジャンル別楽曲制作②（個人課題）
6回目	ジャンル別楽曲制作③（個人課題）
7回目	ジャンル別楽曲制作④（個人課題）
8回目	ジャンル別楽曲制作⑤（個人課題）
9回目	ジャンル別楽曲制作⑥（個人課題）
10回目	チーム制作プロジェクト①（映像・展示等）
11回目	チーム制作プロジェクト②（映像・展示等）
12回目	チーム制作プロジェクト③（映像・展示等）
13回目	チーム制作プロジェクト④（映像・展示等）
14回目	チーム制作プロジェクト⑤（映像・展示等）
15回目	成果発表（映像付きサウンド作品の発表・講評）
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	音楽制作の現場では、アイデアを形にするスピードと柔軟性が求められます。 DAW（Digital Audio Workstation）を活用し、自分の思い描く音を形にしていけるスキルを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac Book (ProTools)	

科目名 (英)	DAW V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
	Digital Audio Workstation V	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 マスタリング基礎、サウンドロゴやジングルの設計を学びます。 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。 【到達目標】 自らの企画に基づき、構想から制作・ミックス・完成までを一貫して行える。 プロ仕様の音源フォーマットや納品形式に対応できる。							

授業計画・内容	
1回目	自主制作企画の立案（作品の方向性決定）
2回目	業界研究：音楽制作の現場（ゲーム、映像、舞台）
3回目	個人プロジェクト制作①（楽曲 or 映像音楽）
4回目	個人プロジェクト制作②（楽曲 or 映像音楽）
5回目	個人プロジェクト制作③（楽曲 or 映像音楽）
6回目	個人プロジェクト制作④（楽曲 or 映像音楽）
7回目	個人プロジェクト制作⑤（楽曲 or 映像音楽）
8回目	個人プロジェクト制作①（最終仕上げ）
9回目	個人プロジェクト制作②（最終仕上げ）
10回目	個人プロジェクト制作③（最終仕上げ）
11回目	個人プロジェクト制作④（最終仕上げ）
12回目	個人プロジェクト制作⑤最終仕上げ）
13回目	個人プロジェクト制作⑥（最終仕上げ）
14回目	個人プロジェクト制作⑦（最終仕上げ）
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	音楽制作の現場では、アイデアを形にするスピードと柔軟性が求められます。 DAW（Digital Audio Workstation）を活用し、自分の思い描く音を形にしていけるスキルを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac Book (ProTools)	

科目名 (英)	DAW VI Digital Audio Workstation VI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜3限
【授業の学習内容】 複数人での共同制作・分業フロー、クライアント（想定）とのやりとりと修正対応、ポートフォリオ制作と発表会を学びます。 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。 【到達目標】 SNSや配信サービスを活用し、自作品を公開・発信できる。 映像・ゲーム・舞台など他メディアとの連携にも柔軟に対応できる。							

授業計画・内容	
1回目	プロモーションとSNS発信①（SoundCloud、YouTubeなど）
2回目	プロモーションとSNS発信②（SoundCloud、YouTubeなど）
3回目	プロモーションとSNS発信③（SoundCloud、YouTubeなど）
4回目	業界仕様のポートフォリオ作成①
5回目	業界仕様のポートフォリオ作成②
6回目	業界仕様のポートフォリオ作成③
7回目	業界仕様のポートフォリオ作成④
8回目	業界仕様のポートフォリオ作成⑤
9回目	模擬案件制作①（仮クライアントとのやりとり）
10回目	模擬案件制作②（仮クライアントとのやりとり）
11回目	模擬案件制作③（仮クライアントとのやりとり）
12回目	模擬案件制作④（仮クライアントとのやりとり）
13回目	模擬案件制作⑤（仮クライアントとのやりとり）
14回目	テスト①
15回目	テスト②
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト ： 40% ○課題提出 ： 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 ： 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 ： 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	音楽制作の現場では、アイデアを形にするスピードと柔軟性が求められます。 DAW（Digital Audio Workstation）を活用し、自分の思い描く音を形にしていけるスキルを目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・Mac Book (ProTools)	

科目名 (英)	CAD I Computer Aided Design I	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜1・2限
【授業の学習内容】 いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD／Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で完成した作品をCAD／Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。 <講師プロフィール> ※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。							
【到達目標】 CAD／Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。立体表現や空間表現のシミュレーションタディとしてイメージを膨らませ、Vector Worksの理解を促すと同時に、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。Vector Works (2D&3Dの表現)・Illustrator (プレゼンシートの作成)・Photoshop (画像表現の加工)の互換性を理解し応用ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	○「テーブルセットをつくる」 VWの基本操作_インターフェイス・初期設定・環境設定・2Dツールパレット ● 提出
2回目	○「3面図からアイソメ図を描く」手描きの3面図とアイソメ図からVWの3D入力／VWの3Dシステムの理解_3Dツールパレット ● 提出
3回目	1.「リートフェルトの椅子_R&B」 VWの3D入力から3Dモデルのレンダリング表現演習_投影図法 ● 2方向からのパースの提出
4回目	2.「リートフェルトの椅子_R&B」 3Dモデルから2D表現へ_3面図の作成とレイアウト／3面図 + アイソメ図 + 記述事項 ● 3面図の提出
5回目	3.「リートフェルトの椅子_R&B」 レイヤー設定の理解_多面図の作成 ● 多面図の提出
6回目	1.「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_プロセススケッチの作成 (舞台ワークショップの授業課題と連動)
7回目	2.「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_3Dモデルからレンダリング表現 (舞台ワークショップの授業課題と連動)
8回目	3.「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_3Dモデルから3面図の作成 (舞台ワークショップの授業課題と連動)
9回目	4.「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_プレゼンシートの作成／VectorWorksとPhotoshop & Illustlatorとの互換性の理解
10回目	5.「立方体の解体と再構築」 立体モデル表現への応用_プレゼンシートの作成／3面図+アイソメ図+模型写真+記述事項 ● プレゼンシートの提出
11回目	1. 回転体の課題「椅子とグラス」 Vector Works の多機能な性格を知る_3D入力からtexture表現へ
12回目	2. 回転体の課題「椅子とグラス」 Vector Works の多機能な性格を知る_プレゼンシートの作成 ● プレゼンシートの提出
13回目	1.「舞台背景パネルを設計する」簡単な舞台美術構造物の設計演習を通じて、平面／立面／断面の図面化と構造理解を深める
14回目	2.「舞台背景パネルを設計する」設計した背景パネルを3Dモデリングし、立体としての構造・バランスを確認
15回目	「プレゼン用A3シートをつくる (まとめ)」1年前期の総まとめとして、制作した図面をレイアウト・記述付きで1枚に整理
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustlatorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	CAD II Computer Aided Design II	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
【授業の学習内容】		いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD／Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で完成した作品をCAD／Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。 <講師プロフィール> ※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。					
【到達目標】		CAD／Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。立体表現や空間表現のシミュレーションスタディとしてイメージを膨らませ、Vector Worksの理解を促すと同時に、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。Vector Works (2D&3Dの表現)・Illustrator (プレゼンシートの作成)・Photoshop (画像表現の加工)の互換性を理解し応用ができるようになる。					

授業計画・内容	
1回目	1.「箱馬の3面図を描く」 配布された2D図面を読み3D入力 ● アクソメ図の提出
2回目	2.「箱馬の3面図を描く」 3DデータからViewport機能を使い3面図を作成・寸法を表記する ● 3面図の提出
3回目	1.「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 初期設定・環境設定＋レイヤー設定＋2Dツール・建築ツール
4回目	2.「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 2Dツールと建築ツールを使い平面図を作成する
5回目	3.「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 2Dツールと建築ツールを使い平面図を作成する
6回目	4.「建築平面図の製図_SCALE 1:100」 寸法と表記を記入する／リソースパレットを活用する ● 建築平面図の提出
7回目	5.「建築図面と外観3D表現のプレゼンシートをつくる」 Illustratorに加工した素材をレイアウトする ● プレゼンシートの完成と提出
8回目	1.「福岡市民会館／FSM Hospital & Miracle_SCALE 1:100」 本格的な舞台図面をトレースする／舞台の機能・設備と配置・ボタン ● 出力A3
9回目	2.「福岡市民会館／FSM Hospital & Miracle_SCALE 1:100」 舞台大道具のレイアウトと寸法記入 ● 出力A3
10回目	3.「福岡市民会館／FSM Hospital & Miracle_SCALE 1:100」 舞台照明の仕込み図を作成する／Stage_Lighting Plot ● 出力A3
11回目	4.「福岡市民会館／FSM Hospital & Miracle_SCALE 1:100」 舞台照明の仕込み図を作成する／StageからSuspensionへ
12回目	5.「福岡市民会館／FSM Hospital & Miracle_SCALE 1:100」 舞台照明の仕込み図を作成する／Suspension_Lighting Plot ● 出力A3
13回目	1.「舞台空間デザインの分析①」 実在の舞台美術（商業舞台、劇団作品など）を取り上げ、2D/3D的視点から空間構成を読み解く
14回目	2.「舞台空間デザインの分析②」 前回の考察をもとに簡易な舞台平面図と3DパースをVectorWorksで試作
15回目	「総まとめと応用演習」
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	CAD Ⅲ Computer Aided Design Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜1・2限
学科・コース	音楽プロデュース科						
【授業の学習内容】							
いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD／Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で完成した作品をCAD／Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。							
<講師プロフィール>							
※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。							
【到達目標】							
CAD／Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。立体表現や空間表現のシミュレーションスタディとしてイメージを膨らませ、Vector Worksの理解を促すと同時に、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。Vector Works (2D&3Dの表現)・Illustrator (プレゼンシートの作成)・Photoshop (画像表現の加工)の互換性を理解し応用ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	1.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 各自の階段のプロジェクト3Dモデルの入力（舞台ワークショップの1年後期の授業課題と連動）
2回目	2.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 各自の階段のプロジェクト3Dモデルの入力（舞台ワークショップの1年後期の授業課題と連動）
3回目	3.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 3Dモデルの入力から5面図を作成する
4回目	4.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 3Dモデルの入力からパース表現とアイソメ図を作成する
5回目	5.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 CAD／Render Worksにて陰影表現や照明を活用しメインイメージを作成する
6回目	6.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 Photoshopを活用しメインイメージの背景を作成する
7回目	7.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 Photoshopを活用しメインイメージに挿入する人物シルエットを作成する
8回目	8.「階段のプロジェクトの2D図面と3D表現」 Photoshopを活用し模型写真を選択・適切に画像加工する
9回目	1.「階段のプロジェクトのプレゼンシート」 CAD表現からの2D図面と3Dイメージファイルを取り出す
10回目	2.「階段のプロジェクトのプレゼンシート」 タイトル・コンセプト・メインイメージ・2D図面・3D表現・模型写真・記述事項など
11回目	3.「階段のプロジェクトのプレゼンシート」 Illustratorの有効なレイアウト機能を活用しプレゼンシートAを作成する
12回目	4.「階段のプロジェクトのプレゼンシート」 Illustratorの有効なレイアウト機能を活用しプレゼンシートBを作成する ● 完成と提出
13回目	「舞台装置構造図の読み取りと再現」 再現図面を作成（スケール・構造・図面記号の理解）
14回目	「素材・構造を考慮した3Dモデリング」 照明条件による視認性チェック（レンダリング）
15回目	「舞台構造図を含む設計資料の出力」 舞台装置構造図（A3出力）
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustlatorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	CADIV Computer Aided DesignIV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜1・2限
【授業の学習内容】							
いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD／Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で完成した作品をCAD／Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。							
<講師プロフィール>							
※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。							
【到達目標】							
CAD／Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。立体表現や空間表現のシミュレーションスタディとしてイメージを膨らませ、Vector Worksの理解を促すと同時に、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。Vector Works (2D&3Dの表現)・Illustrator (プレゼンシートの作成)・Photoshop (画像表現の加工)の互換性を理解し応用ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	1.「プロセシウム舞台美術の表現」 舞台美術の基本空間2D図面の表現：平面図と正面図・立面図／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
2回目	2.「プロセシウム舞台美術の表現」 舞台美術の基本空間2D図面の表現：平面図と正面図・立面図
3回目	3.「プロセシウム舞台美術の表現」 舞台美術の基本空間2D図面の表現：寸法表記と記述事項 ● 完成と提出
4回目	1.「提案舞台美術の表現」 舞台2D図面の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
5回目	2.「提案舞台美術の表現」 舞台2D図面の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
6回目	3.「提案舞台美術の表現」 舞台3D空間の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
7回目	4.「提案舞台美術の表現」 舞台3D空間の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
8回目	5.「提案舞台美術の表現」 舞台3D空間の表現（舞台ワークショップの授業課題と連動）
9回目	6.「提案舞台美術の表現」 舞台3D／幕の挿入（舞台ワークショップの授業課題と連動）
10回目	7.「提案舞台美術の表現」 プレゼンシートの作成／舞台図面と3D表現＋舞台模型写真
11回目	8.「提案舞台美術の表現」 プレゼンシートの作成／舞台図面と3D表現＋舞台模型写真 ● 完成と提出
12回目	○「ポートフォリオをつくる」 授業課題の制作およびイベント参加など授業外の制作_作品を整理する
13回目	1.「架空舞台作品のシーン設計」 平面・正面図を作図（2D）
14回目	2.「架空舞台作品のシーン設計」 3Dレンダリング・照明角度の調整
15回目	「架空舞台作品の設計資料まとめ」 A3まとめ資料（PDF or 印刷）
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustlatorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	CAD V Computer Aided Design V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜1・2限
【授業の学習内容】 いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD／Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で完成した作品をCAD／Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。 <講師プロフィール> ※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。							
【到達目標】 CAD／Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。立体表現や空間表現のシミュレーションスタディとしてイメージを膨らませ、Vector Worksの理解を促すと同時に、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。Vector Works (2D&3Dの表現)・Illustrator (プレゼンシートの作成)・Photoshop (画像表現の加工)の互換性を理解し応用ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	導入：「実在劇場と既存演目の分析」 舞台美術の空間要素／図面・資料の読み取り
2回目	図面の構造分析と寸法スケッチ 平面図・断面図・舞台機構の理解 劇場舞台図面トレース開始
3回目	図面トレースと再構築 2Dツール／スケール管理／寸法表記 劇場図面の完成
4回目	1.舞台空間の3D化 3Dモデル基礎／壁面・舞台面・迫り・盆など 舞台3Dモデル初期版
5回目	2.舞台空間の3D化 プロセシウム・照明・バトンの追加 モデル調整
6回目	照明配置と空間効果の演出 照明・影・テクスチャ設定 演出視点でのライティング試作
7回目	1.演出に基づく空間設計スケッチ イメージボード作成・演出コンセプト確定 スケッチと模型ラフ
8回目	2.演出に基づく空間設計スケッチ 2D図面と3D融合の構想設計 図面&パース案提出
9回目	1.舞台美術設計図の作成 平面図・立面図・断面図／図面記号の整理 設計図初稿（A3）
10回目	2.舞台美術設計図の作成 注釈・寸法／レイヤー活用 図面最終版（A3）提出
11回目	3Dレンダリングと仕上げ マテリアル・照明表現／カメラアングル調整 レンダリング画像（複数）
12回目	模型写真の加工と挿入 Photoshopで模型写真調整／図面と統合 加工済み画像
13回目	1.プレゼンシート制作 Illustratorでレイアウト構成 プレゼン案A
14回目	2.プレゼンシート制作 タイトル・図面・レンダ・模型写真整理 プレゼン案B
15回目	最終提出&講評（展示可）A3まとめ／PDF化 完成版プレゼンシート（提出・展示）
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格 否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	CAD VI Computer Aided DesignVI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜1・2限
【授業の学習内容】 いくつかの操作マニュアルのテキスト課題において、CAD／Vector Worksの基本操作および2D&3D機能のシステムを可能な限り短期間で簡単かつ明解に理解する。舞台ワークショップの授業課題と連動し、授業課題で完成した作品をCAD／Vector Worksにて、2D図面あるいは3D表現へと、各自が実践的な応用を試みる。 <講師プロフィール> ※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。							
【到達目標】 CAD／Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。立体表現や空間表現のシミュレーションスタディとしてイメージを膨らませ、Vector Worksの理解を促すと同時に、平面図・立面図・透視図による空間表現あるいは写真などを統合したプレゼンテーション表現ができるようになる。Vector Works (2D&3Dの表現)・Illustrator (プレゼンシートの作成)・Photoshop (画像表現の加工)の互換性を理解し応用ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	卒業制作テーマの図面素材整理と2D図面の再描画 再設計ベースの平面図・立面図
2回目	舞台構造図面のブラッシュアップ（寸法・注釈の整理） 平面＋断面の完成稿
3回目	1.3Dモデリング実技：基礎構造の立ち上げ 舞台構造モデル初期段階
4回目	2.3Dモデリング実技：背景・階段・備品の造形 細部の造形追加
5回目	3.3Dモデリング実技：質感・カラー素材設定 表面処理済みモデル
6回目	1.ライティング実技：基礎照明の設置と視覚検証 照明設定済みモデル
7回目	2.ライティング実技：演出効果とレンダリング検証 カラーパレット別イメージ2種
8回目	カメラアングル設定・多視点レンダリング実技 各視点からの画像セット
9回目	1.プレゼンシート作成実技：レイアウト設計 A3サイズ構成ラフ
10回目	2.プレゼンシート作成実技：レンダ画像・図面配置 プレゼンシート草稿
11回目	自主設計課題①：テーマ設定と舞台アイデア出し アイデアスケッチ＋構想図
12回目	自主設計課題②：図面・3Dモデル化実技 自由設計課題の試作
13回目	ポートフォリオ実技①：構成ラフ・作品配置 ラフポートフォリオ
14回目	ポートフォリオ実技②：印刷データ仕上げ・統一感調整 PDF完全データ
15回目	最終講評＋展示実技：印刷・プレゼン準備・展示セットアップ プレゼン／展示形式発表
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格 否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	ビジュアルミキシング I Visual Mixing I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 映像の基礎知識（解像度・信号・フォーマットなど）、映像ミキサーやVJソフトの操作（Resolume など） <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 映像の基礎知識（解像度・フレームレート・信号規格）を理解している。 映像ミキサーやVJソフトの構造・機能を理解して説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション - 授業の概要とゴール、VJとは何か
2回目	映像の基本知識 - 解像度、フレームレート、コーデック
3回目	ビジュアルミキシングとは - 用途・歴史・業界事例紹介
4回目	機材の基礎知識① - 映像ミキサー、スイッチャーの基本
5回目	機材の基礎知識② - プロジェクター・ディスプレイ出力
6回目	入出力と接続 - HDMI・SDI・VGAなどケーブルの基礎
7回目	映像ソースの種類 - カメラ・PC・映像ファイルなど
8回目	ビジュアルミキサー実習① - 基本操作と切替
9回目	ビジュアルミキサー実習② - 基本操作と切替
10回目	ビジュアルミキサー実習③ - 基本操作と切替
11回目	ミックスとフェードの理解 - 切替効果の種類と演出意図
12回目	VJソフト①：概要と導入 - Resolume/Arena/VDMXなど
13回目	VJソフト②：基本操作 - レイヤー、クリップ再生、エフェクト
14回目	VJソフト③：基本操作 - レイヤー、クリップ再生、エフェクト
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	映像視聴やVJパフォーマンスに関心を持つこと。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	最初は機材やソフトに戸惑うかもしれませんが、発想と工夫で表現の幅は無限に広がります。 ライブや舞台、展示など、あなたの映像が“場の空気”を変える瞬間を一緒に作っていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ビジュアルミキシング II Visual Mixing II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 映像の基礎知識（解像度・信号・フォーマットなど）、映像ミキサーやVJソフトの操作（Resolume など） <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 映像の基礎知識（解像度・フレームレート・信号規格）を理解している。 映像ミキサーやVJソフトの構造・機能を理解して説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	ループ素材の扱い - 映像素材の選定とループ設定
2回目	テキスト・ロゴの表示 - タイトルや演出文字の配置①
3回目	テキスト・ロゴの表示 - タイトルや演出文字の配置②
4回目	簡単な演出づくり - 音に合わせた映像切替練習①
5回目	簡単な演出づくり - 音に合わせた映像切替練習②
6回目	中間制作① - ショートVJパフォーマンス
7回目	中間制作② - ショートVJパフォーマンス
8回目	中間制作③ - ショートVJパフォーマンス
9回目	実習・課題演習① - 素材収集・VJセッション・個人制作
10回目	実習・課題演習② - 素材収集・VJセッション・個人制作
11回目	実習・課題演習③ - 素材収集・VJセッション・個人制作
12回目	実習・課題演習④ - 素材収集・VJセッション・個人制作
13回目	実習・課題演習⑤ - 素材収集・VJセッション・個人制作
14回目	実習・課題演習⑥ - 素材収集・VJセッション・個人制作
15回目	後期まとめ
準備学習 時間外学 習	映像視聴やVJパフォーマンスに関心を持つこと。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	最初は機材やソフトに戸惑うかもしれませんが、発想と工夫で表現の幅は無限に広がります。 ライブや舞台、展示など、あなたの映像が“場の空気”を変える瞬間を一緒に作っていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ビジュアルミキシング Ⅲ Visual Mixing Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜5限
【授業の学習内容】 映像素材の編集・加工・活用方法、音と映像の同期演出（BPM・MIDI・エフェクト） <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 ビジュアル演出の役割・歴史・業界動向を把握している。 音と映像の連携に関する技術（MIDI/OSC/BPM同期）を理解している。							

授業計画・内容	
1回目	1年次の復習 - 基本操作とソフト設定の確認
2回目	レイヤーとコンポジット - 映像の重ね合わせと演出技法
3回目	映像と音の同期 - BPM、オーディオトリガー
4回目	MIDI/OSC連携 - 外部機器との制御連携
5回目	エフェクト応用① - 色調補正、ブラー、グリッチ
6回目	エフェクト応用② - 色調補正、ブラー、グリッチ
7回目	エフェクト応用③ - モーション・フィードバック効果
8回目	エフェクト応用④ - モーション・フィードバック効果
9回目	カスタム映像素材制作① - AfterEffects/Photoshop活用
10回目	カスタム映像素材制作② - AfterEffects/Photoshop活用
11回目	カスタム映像素材制作③ - AfterEffects/Photoshop活用
12回目	カスタム映像素材制作④ - AfterEffects/Photoshop活用
13回目	カスタム映像素材制作⑤ - AfterEffects/Photoshop活用
14回目	カスタム映像素材制作⑥ - AfterEffects/Photoshop活用
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	映像視聴やVJパフォーマンスに関心を持つこと。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	最初は機材やソフトに戸惑うかもしれませんが、発想と工夫で表現の幅は無限に広がります。 ライブや舞台、展示など、あなたの映像が“場の空気”を変える瞬間を一緒に作っていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ビジュアルミキシング IV Visual Mixing IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜5限
【授業の学習内容】 映像素材の編集・加工・活用方法、音と映像の同期演出（BPM・MIDI・エフェクト） <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。 【到達目標】 ビジュアル演出の役割・歴史・業界動向を把握している。 音と映像の連携に関する技術（MIDI/OSC/BPM同期）を理解している。							

授業計画・内容	
1回目	マッピングの基礎 - プロジェクションマッピング概要
2回目	解像度と出力設計 - 複数出力・マルチディスプレイ対応
3回目	ライブ演出の構成 - セットリストとVJパートの設計
4回目	グループ演習① - テーマ別VJ演出プラン制作
5回目	グループ演習② - テーマ別VJ演出プラン制作
6回目	グループ演習③ - テーマ別VJ演出プラン制作
7回目	グループ演習④ - テーマ別VJ演出プラン制作
8回目	グループ演習⑤ - テーマ別VJ演出プラン制作
9回目	実践演習① - イベントシミュレーション・VJ実技
10回目	実践演習② - イベントシミュレーション・VJ実技
11回目	実践演習③ - イベントシミュレーション・VJ実技
12回目	実践演習④ - イベントシミュレーション・VJ実技
13回目	実践演習⑤ - イベントシミュレーション・VJ実技
14回目	成果発表と講評 - グループ作品発表・フィードバック
15回目	後期まとめ
準備学習 時間外学 習	映像視聴やVJパフォーマンスに関心を持つこと。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	最初は機材やソフトに戸惑うかもしれませんが、発想と工夫で表現の幅は無限に広がります。 ライブや舞台、展示など、あなたの映像が“場の空気”を変える瞬間を一緒に作っていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ビジュアルミキシング V Visual Mixing V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 プロジェクションマッピングと複数出力の設計、舞台・ライブ現場における映像演出の構成と実践 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 プロジェクションマッピングや複数出力の基礎概念を理解している。							

授業計画・内容	
1回目	プロフェッショナルのVJ事例分析① - 海外・国内の先進的事例研究
2回目	プロフェッショナルのVJ事例分析② - 海外・国内の先進的事例研究
3回目	プロフェッショナルのVJ事例分析③ - 海外・国内の先進的事例研究
4回目	イベント現場の流れ - 音響・照明・VJの連携理解
5回目	システム構築① - 実際のセッティングとチェック
6回目	システム構築② - 実際のセッティングとチェック
7回目	システム構築③ - 実際のセッティングとチェック
8回目	システム構築④ - 実際のセッティングとチェック
9回目	システム構築⑤ - 実際のセッティングとチェック
10回目	実践トラブル対策① - 映像出力トラブルの対応練習
11回目	実践トラブル対策② - 映像出力トラブルの対応練習
12回目	実践トラブル対策③ - 映像出力トラブルの対応練習
13回目	実践トラブル対策④ - 映像出力トラブルの対応練習
14回目	実践トラブル対策⑤ - 映像出力トラブルの対応練習
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	映像視聴やVJパフォーマンスに関心を持つこと。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	最初は機材やソフトに戸惑うかもしれませんが、発想と工夫で表現の幅は無限に広がります。 ライブや舞台、展示など、あなたの映像が“場の空気”を変える瞬間を一緒に作っていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ビジュアルミキシング VI Visual Mixing VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 グループ制作・卒業制作による映像パフォーマンスの実施 <講師プロフィール> 大物アーティストのライブレコーディングでエンジニアを務める。また、九州最大級のクラブ、Bijouのハウスエンジニアとして音響を行うなどPAエンジニア業も精力的に行う。							
【到達目標】 プロジェクションマッピングや複数出力の基礎概念を理解している。							

授業計画・内容	
1回目	個人演出プラン設計① - コンセプト作りから演出構成まで
2回目	個人演出プラン設計② - コンセプト作りから演出構成まで
3回目	個人演出プラン設計③ - コンセプト作りから演出構成まで
4回目	個人演出プラン設計④ - コンセプト作りから演出構成まで
5回目	個人演出プラン設計⑤ - コンセプト作りから演出構成まで□
6回目	卒業制作① - 個人またはグループによるVJ演出作品制作
7回目	卒業制作② - 個人またはグループによるVJ演出作品制作
8回目	卒業制作③ - 個人またはグループによるVJ演出作品制作
9回目	卒業制作④ - 個人またはグループによるVJ演出作品制作
10回目	卒業制作⑤ - 個人またはグループによるVJ演出作品制作
11回目	リハーサルと修正① - 発表会に向けた最終調整と練習
12回目	リハーサルと修正② - 発表会に向けた最終調整と練習
13回目	リハーサルと修正③ - 発表会に向けた最終調整と練習
14回目	卒業制作発表 - パフォーマンス発表会・講評
15回目	ポートフォリオ制作 - 映像記録・作品紹介資料作成・進路支援
準備学習 時間外学 習	映像視聴やVJパフォーマンスに関心を持つこと。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	最初は機材やソフトに戸惑うかもしれませんが、発想と工夫で表現の幅は無限に広がります。 ライブや舞台、展示など、あなたの映像が“場の空気”を変える瞬間を一緒に作っていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	電気・ネットワーク知識 I Electricity・Network knowledge I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜2限
【授業の学習内容】 電気の基本（電圧・電流・抵抗・オームの法則）、回路図の読み方と基本配線 LANの基礎、IPアドレス、機器の接続方法 <講師プロフィール> ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 電気の基本（電圧・電流・抵抗・電力）の概念を理解できる。 舞台・スタジオで使われるAC電源・ケーブルの種類や接続方法が分かる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション - 授業の目的、概要、評価基準
2回目	電気の基礎①：電気とは - 電気の性質、電圧・電流・抵抗の基本
3回目	電気の基礎②：オームの法則 - 電力計算と電気回路の基本計算
4回目	回路図の読み方① - 回路記号、基本回路の構造
5回目	回路図の読み方② - 実用的な回路例の解析
6回目	回路図の読み方③ - 実用的な回路例の解析
7回目	配線と接続の基本 - ケーブル種別、色分け、結線技術
8回目	安全と工具の使い方 - 安全対策、基本工具の使い方
9回目	電気設備の種類 - コンセント、分電盤、照明等の構成
10回目	電力供給の仕組み - 商用電源、UPS、バッテリーの役割
11回目	照明と電気の関係 - 舞台・設備照明における電気管理
12回目	ネットワークの基礎① - ネットワークの構造と用語
13回目	ネットワークの基礎② - IPアドレス、MACアドレス、LAN/WAN
14回目	ネットワークの基礎③ - IPアドレス、MACアドレス、LAN/WAN
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。各種メディア（4K-TV、インターネット等）での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA照明舞台用語辞典 ・公立文化施設 舞台技術ハンドブック	

科目名 (英)	電気・ネットワーク知識 II Electricity・Network knowledge II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 電気の基本（電圧・電流・抵抗・オームの法則）、回路図の読み方と基本配線 LANの基礎、IPアドレス、機器の接続方法 <講師プロフィール> ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 コンセント、分電盤、ブレーカー等の構造と安全な使用法が分かる。 感電・火災などの電気事故を防ぐための基礎的安全知識を理解する。							

授業計画・内容	
1回目	ネットワーク機器① - ルーター、スイッチ、HUBの役割
2回目	ネットワーク機器② - 実際の配線と接続手順
3回目	ネットワーク機器③ - 実際の配線と接続手順
4回目	ネットワーク機器④ - 実際の配線と接続手順
5回目	ネットワーク機器⑤ - 実際の配線と接続手順
6回目	中間確認テスト - 理論確認と理解度テスト
7回目	実習課題（電気・ネットワーク）① - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
8回目	実習課題（電気・ネットワーク）② - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
9回目	実習課題（電気・ネットワーク）③ - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
10回目	実習課題（電気・ネットワーク）④ - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
11回目	実習課題（電気・ネットワーク）⑤ - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
12回目	実習課題（電気・ネットワーク）⑥ - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
13回目	実習課題（電気・ネットワーク）⑦ - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
14回目	実習課題（電気・ネットワーク）⑧ - 模擬配線・簡易ネットワーク構築・トラブル対応演習
15回目	振り返りとまとめ - 1年次の復習と理解度の確認
準備学習 時間外学 習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。各種メディア（4K-TV、インターネット等）での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA照明舞台用語辞典 ・公立文化施設 舞台技術ハンドブック	

科目名 (英)	電気・ネットワーク知識 Ⅲ Electricity・Network knowledge Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜3限
【授業の学習内容】 分電盤・コンセント・電源設計、トラブル対応（断線・漏電・通信不良） DHCPや固定IP設定などネットワーク実践、DMX・ArtNet等の業務用ネットワークの理解 <講師プロフィール> ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 舞台・音響・映像機器の電源管理方法（容量計算、分岐方法）を理解する。 映像・音響・照明ネットワークの基礎構造（LAN、IP、スイッチ、VLAN）を理解する。							

授業計画・内容	
1回目	電源管理の実践 - 電源容量・分配・電源スケジュール管理
2回目	コンセント・分電盤の配線計画 - 機材に合わせた電源設計
3回目	アースと安全設計 - 接地・漏電対策・ブレーカーの仕組み
4回目	電圧変換と機材保護 - トランス・変圧器の使い方
5回目	DMX・ArtNetなど照明系ネットワーク - 舞台・照明系のネットワーク基礎
6回目	IPアドレッシングとDHCP - 固定IPと動的IPの仕組み
7回目	ネットワーク構築演習① - 小規模ネットワークの設計と構築
8回目	ネットワーク構築演習② - 実践的な配線とトポロジー設計
9回目	ネットワーク構築演習③ - 実践的な配線とトポロジー設計□
10回目	ネットワーク構築演習④ - 実践的な配線とトポロジー設計
11回目	ネットワーク構築演習⑤ - 実践的な配線とトポロジー設計□
12回目	ネットワーク監視とログ - ping、traceroute、ログ閲覧
13回目	トラブル対応① - 電気トラブル（断線・漏電）
14回目	トラブル対応② - ネットワークトラブル（通信不良・設定ミス）
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。各種メディア（4K-TV、インターネット等）での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA照明舞台用語辞典 ・公立文化施設 舞台技術ハンドブック	

科目名 (英)	電気・ネットワーク知識 IV Electricity・Network knowledge IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 分電盤・コンセント・電源設計、トラブル対応（断線・漏電・通信不良） DHCPや固定IP設定などネットワーク実践、DMX・ArtNet等の業務用ネットワークの理解 <講師プロフィール> ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 CAT5e・CAT6ケーブル、光ファイバーなどの特性と用途を使い分けられる。 Dante、Art-Net、sACNなど業界標準プロトコルの基礎が説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	Wi-Fiと電波の知識 - 無線LANの基礎とセキュリティ
2回目	ネットワークとセキュリティ - パスワード管理、ファイアウォール
3回目	実習：簡易舞台電源設計 - 計画から結線までの実践
4回目	中間課題提出 - 応用設計レポート or 実習作品
5回目	プロジェクト課題演習① - グループによる設計・施工・動作確認
6回目	プロジェクト課題演習② - グループによる設計・施工・動作確認
7回目	プロジェクト課題演習③ - グループによる設計・施工・動作確認
8回目	プロジェクト課題演習④ - グループによる設計・施工・動作確認
9回目	プロジェクト課題演習⑤ - グループによる設計・施工・動作確認
10回目	プロジェクト課題演習⑥ - グループによる設計・施工・動作確認
11回目	プロジェクト課題演習⑦ - グループによる設計・施工・動作確認
12回目	プロジェクト課題演習⑧ - グループによる設計・施工・動作確認
13回目	プレゼンと講評① - 成果発表・質疑応答・フィードバック
14回目	プレゼンと講評② - 成果発表・質疑応答・フィードバック
15回目	後期まとめ
準備学習 時間外学 習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。各種メディア（4K-TV、インターネット等）での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA照明舞台用語辞典 ・公立文化施設 舞台技術ハンドブック	

科目名 (英)	電気・ネットワーク知識 V Electricity・Network knowledge V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜4限
【授業の学習内容】 現場での電源・LAN設計と施工、配線図・ネットワーク構成図の作成 複雑な電源・ネットワーク構成の統合管理、トラブルシューティング演習 <講師プロフィール> ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 大規模な舞台・イベント等の電源・通信ネットワーク構成を自ら設計できる。 複数の電源回路を分散・統合し、安全かつ効率的に配線できる。							

授業計画・内容	
1回目	現場対応の心得 - 現場での立ち回りと連携
2回目	イベント電源計画 - 電力量・同時使用・ブレーカー容量計算
3回目	配線図と施工図作成 - 専用CADや手書き図面の作成演習
4回目	ネットワーク構成図作成 - サーバー・クライアント構成の可視化
5回目	実習：複合電源・LAN設計演習① - 現場設定想定の特ータル設計
6回目	実習：複合電源・LAN設計演習② - 現場設定想定の特ータル設計
7回目	実習：複合電源・LAN設計演習③ - 現場設定想定の特ータル設計
8回目	実習：複合電源・LAN設計演習④ - 現場設定想定の特ータル設計
9回目	実習：複合電源・LAN設計演習⑤ - 現場設定想定の特ータル設計
10回目	実習：構築・動作チェック① - 全体配線・機器設定・テスト実施
11回目	実習：構築・動作チェック② - 全体配線・機器設定・テスト実施
12回目	実習：構築・動作チェック③ - 全体配線・機器設定・テスト実施
13回目	実習：構築・動作チェック④ - 全体配線・機器設定・テスト実施
14回目	実習：構築・動作チェック⑤ - 全体配線・機器設定・テスト実施
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。各種メディア（4K-TV、インターネット等）での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA照明舞台用語辞典 ・公立文化施設 舞台技術ハンドブック	

科目名 (英)	電気・ネットワーク知識 VI Electricity・Network knowledge VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 現場での電源・LAN設計と施工、配線図・ネットワーク構成図の作成 複雑な電源・ネットワーク構成の統合管理、トラブルシューティング演習 <講師プロフィール> ステージオフィスヤマダ代表。コンサートや日本舞踊、バレエなどの多くの公演に携わる。クロスエフエム開局に携わり、博多駅スタジオのシステム担当、ユニバーシアード福岡大会コミュニティラジオシステム担当の他、九州各県のコミュニティ放送設立に際してシステム設計から立ち上げに関わっている。							
【到達目標】 ネットワーク障害（接続不良、IP重複、スループット不足）を診断し対応できる。 UPS（無停電電源装置）やリモート制御機器を適切に運用できる。							

授業計画・内容	
1回目	トラブル対応シナリオ演習① - 想定トラブルへの即時対応訓練
2回目	トラブル対応シナリオ演習② - 想定トラブルへの即時対応訓練
3回目	トラブル対応シナリオ演習③ - 想定トラブルへの即時対応訓練
4回目	トラブル対応シナリオ演習④ - 想定トラブルへの即時対応訓練
5回目	トラブル対応シナリオ演習⑤ - 想定トラブルへの即時対応訓練
6回目	ネットワーク拡張・中継技術① - VLAN、PoE、中継器、仮想ネットワーク
7回目	ネットワーク拡張・中継技術② - VLAN、PoE、中継器、仮想ネットワーク
8回目	ネットワーク拡張・中継技術③ - VLAN、PoE、中継器、仮想ネットワーク
9回目	卒業制作プロジェクト① - 実案件に近い電源・ネットワーク統合設計実施
10回目	卒業制作プロジェクト② - 実案件に近い電源・ネットワーク統合設計実施
11回目	卒業制作プロジェクト③ - 実案件に近い電源・ネットワーク統合設計実施
12回目	卒業制作プロジェクト④ - 実案件に近い電源・ネットワーク統合設計実施
13回目	卒業制作プロジェクト⑤ - 実案件に近い電源・ネットワーク統合設計実施
14回目	発表準備・資料制作 - プレゼン資料・技術資料作成
15回目	最終プレゼン・講評 - 成果発表・評価・総括・進路相談
準備学習 時間外学 習	学内外において開催されている各種催事・イベントを見学することで、あらゆる場面を見ることができるので積極的に触れるように努力する。各種メディア（4K-TV、インターネット等）での劇場上演映像等を、聴取することで多くの舞台に触れる事ができるので、機会があれば聴取するように努める。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	判らない事は、なんでも質問して可能な限り疑問の解消に努めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA照明舞台用語辞典 ・公立文化施設 舞台技術ハンドブック	

科目名 (英)	音響学 I Acoustics Knowledge I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜1限
【授業の学習内容】 音響の基本知識と機材操作の基礎を学ぶ。 <講師プロフィール> 株式会社総合舞台 音響部 東京本社にて、南こうせつ等の全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。1999年よりZepp Fukuokaの音響管理業務、ゴダイゴの全国ツアーなどを務める。現在は株式会社SLIにて様々なLIVE、コンサート、イベントの音響を手掛ける福岡を代表するPAエンジニア。 【到達目標】 音の基本的性質（音波・周波数・デシベルなど）を理解し、音響の基礎理論を正しく説明できる。 マイク・スピーカー・ミキサーなど基本機材の名称と機能を理解し、安全に取り扱いができる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション - 音響学とは何か
2回目	音の正体 - 振動と波動
3回目	音波の性質 - 周波数・振幅・波長
4回目	音速と媒質
5回目	音の伝播 - 空気中・水中・固体中
6回目	単純な正弦波と複雑な音
7回目	音の三要素 - 高さ・大きさ・音色
8回目	デシベルとは何か
9回目	音の可視化 - オシロスコープ演習
10回目	まとめと基礎確認テスト
11回目	聴覚の仕組み
12回目	音の知覚：音像定位とマスキング
13回目	騒音とその影響
14回目	音と心理：サイココースティクス
15回目	聴覚の特性（ラウドネス曲線など）
準備学習 時間外学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】 ・舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	音響学 II Acoustics Knowledge II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜1限
【授業の学習内容】 音響の基本知識と機材操作の基礎を学ぶ。 <講師プロフィール> 株式会社総合舞台 音響部 東京本社にて、南こうせつ等の全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。1999年よりZepp Fukuokaの音響管理業務、ゴダイゴの全国ツアーなどを務める。現在は株式会社SLIにて様々なLIVE、コンサート、イベントの音響を手掛ける福岡を代表するPAエンジニア。 【到達目標】 音響システムの簡易な接続・設定が自分の力で行える。 小規模なPA操作や録音実習において、基本的な音量調整・バランス調整ができる。							

授業計画・内容	
1回目	耳の保護と音環境
2回目	環境音の記録と分析演習
3回目	音響測定機器の基本操作
4回目	音と健康 - WHOガイドラインなど
5回目	マイクロフォンの原理と種類
6回目	スピーカーの仕組みと設計
7回目	録音・再生の基本
8回目	デジタルとアナログ音声の違い
9回目	信号とノイズ
10回目	音響機器の接続基礎演習
11回目	シグナルフロー入門
12回目	簡単な収録・再生実習①
13回目	簡単な収録・再生実習②
14回目	まとめと発表準備
15回目	まとめと発表
準備学習 時間外学 習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】 ・舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	音響学 Ⅲ Acoustics Knowledge Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 実践的なセッティング・ミキシング技術を学ぶ。 <講師プロフィール> 株式会社総合舞台 音響部 東京本社にて、南こうせつ等の全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。1999年よりZepp Fukuokaの音響管理業務、ゴダイゴの全国ツアーなどを務める。現在は株式会社SLIにて様々なLIVE、コンサート、イベントの音響を手掛ける福岡を代表するPAエンジニア。 【到達目標】 音響信号の流れ（Signal Flow）を正確に把握し、ルーティングやトラブルシューティングができる。 ライブ音響や演劇音響における現場の流れを理解し、リハーサル・本番に対応できる。							

授業計画・内容	
1回目	建築音響とは（響きのデザイン）
2回目	反射・吸音・遮音の理論
3回目	音の拡がりと残響時間
4回目	音響設計の基礎と実例
5回目	ホール・スタジオの音響特性
6回目	シミュレーションソフトの紹介
7回目	音響素材の研究と調査
8回目	簡単な吸音パネルの設計演習
9回目	現場見学 - ホール or スタジオ
10回目	音場設計レポート
11回目	PAとは何か
12回目	ミキサーの仕組みと信号経路
13回目	エフェクターとプロセッサ
14回目	ラウドスピーカー配置と設計
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】 ・舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	音響学 IV Acoustics Knowledge IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 実践的なセッティング・ミキシング技術を学ぶ。 <講師プロフィール> 株式会社総合舞台 音響部 東京本社にて、南こうせつ等の全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。1999年よりZepp Fukuokaの音響管理業務、ゴダイゴの全国ツアーなどを務める。現在は株式会社SLIにて様々なLIVE、コンサート、イベントの音響を手掛ける福岡を代表するPAエンジニア。 【到達目標】 デジタルミキサーやマルチチャンネル録音機器など、中規模以上のシステムを使った実習に対応できる。 音響効果（SE・BGM）の選定や演出意図の共有を通して、演出家や他部署とのコミュニケーションが取れる。							

授業計画・内容	
1回目	イコライジングとフィルタ
2回目	フィードバックの対策
3回目	モニターシステム
4回目	小規模PA実習（バンド等）
5回目	ライブ音響の役割とマナー
6回目	中間発表：小規模PA設計
7回目	フィールドレコーディング演習
8回目	ノイズ除去と音声クリーニング
9回目	DAW基礎（Pro Tools, Audacity等）
10回目	トラック編集・タイミング補正
11回目	エフェクト処理実践
12回目	音響効果（SE, Foley）の作成
13回目	ナレーション録音と整音
14回目	簡易サウンドデザイン
15回目	編集作品の試聴・講評
準備学習 時間外学 習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】 ・舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	音響学 V Acoustics Knowledge V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜3限
【授業の学習内容】 自主企画・運営を通じて実務力を養う。 <講師プロフィール> 株式会社総合舞台 音響部 東京本社にて、南こうせつ等の全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。1999年よりZepp Fukuokaの音響管理業務、ゴダイゴの全国ツアーなどを務める。現在は株式会社SLIにて様々なLIVE、コンサート、イベントの音響を手掛ける福岡を代表するPAエンジニア。 【到達目標】 自主企画または指定された演出内容に基づき、音響プランを作成し、実装・運用までを一貫して行える。 フェーダーオートメーション、EQ・コンプレッサーなどの音響処理技術を演出に応じて活用できる。							

授業計画・内容	
1回目	総合音響設計の考え方
2回目	顧客ニーズと仕様の整理
3回目	実際の案件例から学ぶ
4回目	チーム分けと課題発表
5回目	コンセプトプランの立案
6回目	必要機器と構成案作成
7回目	システム図・配線図の作成
8回目	プレゼン準備
9回目	フィードバックと改善案検討
10回目	実践的な収録企画の立案
11回目	会場や対象に合わせた音響設計
12回目	機材手配・準備・ロジスティクス
13回目	リハーサル実施
14回目	本番音響オペレーション
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】 ・舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	音響学 VI Acoustics Knowledge VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜3限
【授業の学習内容】 自主企画・運営を通じて実務力を養う。 <講師プロフィール> 株式会社総合舞台 音響部 東京本社にて、南こうせつ等の全国ツアーを始め、様々なライブ、コンサート、イベントに携わる。1999年よりZepp Fukuokaの音響管理業務、ゴダイゴの全国ツアーなどを務める。現在は株式会社SLIにて様々なLIVE、コンサート、イベントの音響を手掛ける福岡を代表するPAエンジニア。 【到達目標】 舞台・映像・展示など複数分野との連携において、音の役割を自立的に設計・提案できる。 公演や作品発表を通して、音響技術者としての責任感と創造性、そして問題解決能力を発揮できる。							

授業計画・内容	
1回目	トラブル対応演習
2回目	ポストプロダクション工程
3回目	音響記録・報告作成
4回目	チーム内レビュー
5回目	卒業制作テーマ決定
6回目	音響技術・理論の再確認
7回目	実験・実証と記録
8回目	制作進行チェック
9回目	作品仕上げ
10回目	発表会準備
11回目	発表会(学内または公開)
12回目	振り返りと改善点
13回目	最終講評
14回目	卒業制作①
15回目	卒業制作②
準備学習 時間外学習	基本的な知識になるので普段からの積み重ねになって行くので普段からの復習が大切です。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	普段からの積み重ねなのでわからないときはどんどん聞いて欲しいです
【使用教科書・教材・参考書】 ・舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	

科目名 (英)	照明概論 I Lighting Overview I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜1限
【授業の学習内容】 照明の基本原理・機材・用語と簡単な操作とデザインを学ぶ。 <講師プロフィール> 福岡県内のさまざまなホールで管理・保守業務に携わる。主にイイツカコスモスモン・嘉穂劇場で舞台・音響・照明の各オペレーターを担当。FSM卒業生。 【到達目標】 光の基本原理を理解し、視覚的・心理的な影響を説明できる。 照明機材の名称・特徴・使い方を理解している。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／照明概論とは何か
2回目	照明の役割と機能
3回目	光の正体（物理的性質）
4回目	色温度・演色性・照度とは
5回目	光源の種類（白熱灯・蛍光灯・LEDなど）
6回目	照明の歴史（舞台・映画・建築）
7回目	照明デザイナーの仕事
8回目	実際の照明作品の鑑賞と分析
9回目	照明と視覚・心理効果
10回目	照明器具の構造（スポット・フレネルなど）
11回目	光の性質と器具ごとの特徴
12回目	照明スタンド・吊り・配線の基本
13回目	調光器のしくみ
14回目	照明卓（アナログ）の基本操作
15回目	基礎理解テストと復習
準備学習 時間外学 習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト ： 40% ○課題提出 ： 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 ： 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 ： 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明概論 II Lighting Overview II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜1限
【授業の学習内容】 照明の基本原理・機材・用語と簡単な操作とデザインを学ぶ。 <講師プロフィール> 福岡県内のさまざまなホールで管理・保守業務に携わる。主にイヅカコスモスモン・嘉穂劇場で舞台・音響・照明の各オペレーターを担当。FSM卒業生。 【到達目標】 舞台や映像における照明演出の基本的な役割を説明できる。 簡単なライティングプラン（明暗・色・方向など）を考案できる。							

授業計画・内容	
1回目	照明卓（デジタル）の基本操作
2回目	色フィルターとゲルの使い方
3回目	リフレクターとディフューザー
4回目	シンプルな照明プラン体験
5回目	グループによる基本照明演習
6回目	中間プレゼン：基本ライティング分析
7回目	明暗・コントラストとドラマ性
8回目	時間・季節・感情の表現
9回目	影の使い方
10回目	色と心理効果
11回目	舞台照明の基本演出例
12回目	ワークショップ：短いシーンの照明演出
13回目	自由照明課題の設計と準備
14回目	成果発表
15回目	全体講評
準備学習 時間外学 習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明概論 Ⅲ Lighting Overview Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 作品の意図の読み取り、演出意図に合わせた照明設計・操作を学ぶ。 <講師プロフィール> 福岡県内のさまざまなホールで管理・保守業務に携わる。主にイヅカコスモスモン・嘉穂劇場で舞台・音響・照明の各オペレータを担当。FSM卒業生。							
【到達目標】 脚本や演出意図をもとに照明プランを提案できる。 DMXなど基本的な照明制御技術を扱える。							

授業計画・内容	
1回目	照明プランとは何か
2回目	舞台台本の読み解き方
3回目	舞台空間と光の関係
4回目	デザインコンセプトの立て方
5回目	演出意図と照明の整合
6回目	コンテ図・照明プロットの作成
7回目	色の選定と光の流れ（Cue設計）
8回目	建築照明と舞台照明の違い
9回目	映像用ライティングの基本（カメラと光）
10回目	演出意図に応じた照明デザイン演習
11回目	インテリジェントライト（ムービングライト）
12回目	LED照明の特徴と制御
13回目	DMX信号の仕組みとアドレス設定
14回目	ワイヤレス照明とバッテリー運用
15回目	スモーク・ミストと光の相互作用
準備学習 時間外学 習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明概論 IV Lighting Overview IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜2限
【授業の学習内容】 作品の意図の読み取り、演出意図に合わせた照明設計・操作を学ぶ。 <講師プロフィール> 福岡県内のさまざまなホールで管理・保守業務に携わる。主にイイヅカコスモス・嘉穂劇場で舞台・音響・照明の各オペレーターを担当。FSM卒業生。							
【到達目標】 色と空間を用いた表現意図を設計できる。 分野ごとの照明手法の違いと目的を説明できる。 シーンに応じた最適な照明構成を提案できる。							

授業計画・内容	
1回目	プロジェクションと光の融合
2回目	ソフトウェアを使った照明制御（例：MA2 onPC）
3回目	シーンごとの照明設計演習
4回目	現場事例の研究（公演記録分析）
5回目	中間プレゼン：照明プラン発表
6回目	演劇照明の応用と演出バリエーション
7回目	コンサート照明とタイムコード演出
8回目	映像・撮影照明の実践
9回目	展示照明の設計（アート／商品）
10回目	建築照明と都市空間の光
11回目	屋外イベントの照明安全対策
12回目	各分野を比較した総合考察
13回目	チームごとの自由課題企画
14回目	企画発表と講評
15回目	学年末まとめと進路視野化
準備学習 時間外学 習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明概論 V Lighting Overview V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜3限
【授業の学習内容】 オリジナルの照明プランの構想・設計を学ぶ。 <講師プロフィール> 福岡県内のさまざまなホールで管理・保守業務に携わる。主にイヅカコスモスコン・嘉穂劇場で舞台・音響・照明の各オペレータを担当。FSM卒業生。							
【到達目標】 実践的な照明プランを立案・設計・実装できる。 現場での照明仕込み・操作・撤去を安全に遂行できる。 技術資料を作成し、照明意図をチーム内外に説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	プロジェクトテーマの選定
2回目	チーム分けと役割分担
3回目	実在するシーン・作品を想定した照明計画
4回目	ロケハン・図面・リサーチの進行
5回目	デザインコンセプトの立案
6回目	予算・機材選定・制限の理解
7回目	本番を想定したテクニカル設計
8回目	プレゼン用資料作成
9回目	中間発表と講評
10回目	フィードバックを受けた再設計
11回目	現場での仕込みと配線
12回目	本番を想定したリハーサル演習
13回目	トラブル対応と安全管理
14回目	プログラム制作（Cue入力）
15回目	映像記録の撮影補助と照明調整
準備学習 時間外学 習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	照明概論 VI Lighting Overview VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜3限
【授業の学習内容】 オリジナルの照明プランの構想・設計を学ぶ。 <講師プロフィール> 福岡県内のさまざまなホールで管理・保守業務に携わる。主にイヅカコスモスモン・嘉穂劇場で舞台・音響・照明の各オペレーターを担当。FSM卒業生。							
【到達目標】 自らの照明作品をプレゼンし、他者の意見を反映して改善できる。 卒業制作を通じて、自身の照明観・スタイルを確立できる。							

授業計画・内容	
1回目	実技審査的演習（短時間照明設計）
2回目	チーム内レビューと改善
3回目	ステージまたは展示照明の公開リハ
4回目	リハーサルと運営訓練
5回目	中間発表と成果共有
6回目	最終制作テーマの決定
7回目	デザインと構想の再構築
8回目	個人またはチームでの制作開始
9回目	技術記録の作成
10回目	成果物の仕上げ
11回目	プレゼン準備と練習
12回目	発表会
13回目	ポートフォリオ制作講座
14回目	振り返りと今後のキャリア設計
15回目	最終講評・終了式
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	美術デザイン基礎 I Art Design Basic I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース (音楽プロデュース科)		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日・3～4限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。 我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力を高めさせる。 前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に着ける ・ミュージカルの成功を前期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする							

授業計画・内容	
1回目	舞台の基礎知識①～ガイダンス・舞台全般知識・入学式の進行と美術を確認する
2回目	舞台の基礎知識②～舞台機構・舞台名称などの舞台知識
3回目	舞台の基礎知識③～寸法、図面、タイムスケジュール
4回目	舞台の基礎知識④～木工製作、木材知識、工具知識
5回目	基礎製作Ⅰ①～学園祭対応製作、木工作品製作
6回目	基礎製作Ⅰ②～学園祭対応製作、木工作品製作
7回目	基礎製作Ⅰ③～学園祭対応製作、木工作品製作
8回目	基礎製作Ⅰ④～学園祭対応製作、木工作品製作
9回目	基礎製作Ⅱ①～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
10回目	基礎製作Ⅱ②～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
11回目	基礎製作Ⅱ③～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
12回目	基礎製作Ⅱ④～TV美術製作、デザイン、放送機器展対応
13回目	イベントを通して実践
14回目	イベントを通して実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に着けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	美術デザイン基礎Ⅱ	選択 必修	選択必 修	年次	1		
	Art Design BasicⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	(音楽プロデュース科)					曜日・時限	火曜日・3～4限

【授業の学習内容】

舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。
我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。
前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。

【到達目標】

- ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける
- ・We are FSM 卒業進級制作の成功を後期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする

授業計画・内容	
1回目	舞台の基礎知識①～ガイダンス・舞台全般知識・入学式の進行と美術を確認する
2回目	基礎製作Ⅳ②～小道具製作(発泡スチロール造形)
3回目	基礎製作Ⅳ③～小道具製作(発泡スチロール造形)
4回目	基礎製作Ⅳ④～小道具製作(発泡スチロール造形)
5回目	基礎製作Ⅳ⑤～小道具製作(発泡スチロール造形)
6回目	基礎製作Ⅳ⑥～小道具製作(発泡スチロール造形)
7回目	応用製作①～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
8回目	応用製作②～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
9回目	応用製作③～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
10回目	応用製作④～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
11回目	応用製作⑤～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
12回目	応用製作⑥～We are対応製作、進級・卒業制作作品製作
13回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に着けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	美術デザイン基礎Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
	Art Design BasicⅢ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	(音楽プロデュース科)					曜日・時限	火曜日・3～4限

【授業の学習内容】

舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。
我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力を高めさせる。
前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。

【到達目標】

- ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける
- ・ミュージカルの成功を前期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする
- ・より高度な実制作技術を習得し、舞台美術に必要な多様な素材・表現を扱えるようにする

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・1年次の振り返りと今期の制作スケジュール確認
2回目	木工応用①:大型構造物の設計と組み立て(図面読み解き)
3回目	木工応用②:大型構造物製作実習(骨組み制作)
4回目	木工応用③:大型構造物製作実習(表面処理・塗装)
5回目	塗装技法①:刷毛・ローラー・スプレー技法の実習
6回目	塗装技法②:フェイク仕上げ(木目・大理石などの模様表現)
7回目	舞台背景画①:ベニヤに描く背景画制作(スケッチ・構図)
8回目	舞台背景画②:ベニヤに描く背景画制作(彩色・完成)
9回目	発泡スチロール造形応用①:大型装飾物の設計
10回目	発泡スチロール造形応用②:削り出し・下地処理
11回目	発泡スチロール造形応用③:着色と仕上げ
12回目	イベント制作①:学内イベントや撮影向け小道具制作
13回目	イベント制作②:実制作(チームでの分担)
14回目	イベント制作③:完成と設置作業
15回目	まとめと講評・次期へ向けた課題の整理
準備学習 時間外学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に着けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	美術デザイン基礎Ⅳ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
	Art Design BasicⅣ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	(音楽プロデュース科)					曜日・時限	火曜日・3～4限

【授業の学習内容】

舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。
我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力を高めさせる。
前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。

【到達目標】

- ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける
- ・We are FSM 卒業進級制作の成功を後期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする
- ・実際の公演や展示を想定した「演出効果のある舞台美術」の制作経験を積む。チーム制作の中で段取りや施工管理も学ぶ

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・前期制作の振り返りと後期計画の確認
2回目	舞台装置設計①:演出意図に基づく装置デザイン演習(スケッチ・模型設計)
3回目	舞台装置設計②:素材選定・強度・可搬性の検討(安全面の考慮)
4回目	装置制作①:舞台装置の骨組み制作(木工)
5回目	装置制作②:舞台装置の表面造形(発泡スチロール・布・紙など)
6回目	装置制作③:着色・質感処理(エイジング、フェイク加工)
7回目	舞台転換演習①:可動式装置や舞台転換の仕組みづくり(仕掛け)
8回目	舞台転換演習②:転換手順の実習・タイミング確認
9回目	チーム制作①:小規模舞台のセットをグループで設計・役割分担
10回目	チーム制作②:各班ごとの制作進行(演出要素の再現)
11回目	チーム制作③:制作作業の追い込み(仕上げ段階)
12回目	設営演習①:設置・撤去の手順確認、安全対策を含めた設営訓練
13回目	設営演習②:実際の設営と照明・音響との調整
14回目	成果発表:学内ミニ公演での展示・装置運用実演(非プレゼン形式)
15回目	総まとめ・反省会・3年次への技術継承の意識づけ
準備学習 時間外学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に付けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	美術デザイン基礎Ⅴ	選択 必修	選択必 修	年次	3		
	Art Design BasicⅤ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	(音楽プロデュース科)					曜日・時限	火曜日・3～4限
【授業の学習内容】							
舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。 我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力を高めさせる。 前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・2年次の振り返りと今期の技術・制作目標の共有
2回目	舞台演出分析：指定された脚本や演目から美術意図を読み取る演習
3回目	セットデザイン企画①：舞台サイズ・演出に合った美術セット構想
4回目	セットデザイン企画②：構造設計と素材計画（強度・安全性考慮）
5回目	模型制作：1/10～1/20スケールの空間模型を制作（木材・紙など）
6回目	本制作準備①：図面・スケジュール・チーム分担計画の策定
7回目	本制作準備②：資材調達、下地加工、仮組作業の実施
8回目	本制作①：構造物制作（チーム分担で大型装置を施工）
9回目	本制作②：表面処理・質感仕上げ（布・塗装・発泡素材併用）
10回目	本制作③：装飾要素・演出効果を組み込んだ仕上げ作業
11回目	装置仕掛け演習：可動部・転換ギミックの検証・調整
12回目	テクニカルリハーサル：照明・音響と美術装置の連携確認
13回目	公開制作準備①：展示・発表に向けた整備・最終調整
14回目	公開制作準備②：舞台美術展示・実演のリハーサル
15回目	公開制作実施または講評・反省会（次期卒業制作への課題整理）
準備学習 時間外学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に着けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	美術デザイン基礎Ⅵ	選択 必修	選択必 修	年次	3		
	Art Design BasicⅥ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	(音楽プロデュース科)					曜日・時限	火曜日・3～4限

【授業の学習内容】

舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に付ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に付けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。
我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に付ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。
前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。

【到達目標】

- ・基礎実習を通して美術製作・進行・資料作りなどの知識と感覚を身に付ける
- ・We are FSM 卒業進級制作の成功を後期最終課題とし、あらゆるイベントの本番を成功させる事を目標とする
- ・通常授業では専門技術の最終仕上げを行い、卒業制作(構想～本番)を完遂する

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・前期の振り返りと卒業制作に向けた課題確認
2回目	舞台装飾演習①: 壁面・柱・階段など立体構造の設計と試作
3回目	舞台装飾演習②: 布・紙・ロープなどの装飾素材の扱いと施工練習
4回目	塗装応用①: 特殊仕上げ(錆加工、エイジングなど)の技法演習
5回目	塗装応用②: グラデーション・影表現・透過演出の実習
6回目	舞台演出補助物①: 小道具・置き道具の演出的配置・演出意図に合わせた選定
7回目	舞台演出補助物②: 可動ギミック・トラップ仕掛けの制作演習
8回目	照明効果を考慮した美術設計(照明の当たりによる質感と色)
9回目	特殊素材実験①: 布+発泡スチロールなど異素材組み合わせ演習
10回目	特殊素材実験②: 構造強度と軽量性のバランスを考慮した設計演習
11回目	卒業制作計画最終確認: スケジュール・役割・使用素材の確認と準備
12回目	卒業制作①: 設計・構想・実寸図面作成、パーツ分担開始
13回目	卒業制作②: 本制作(構造物・装飾物の施工)
14回目	卒業制作③: 仕上げ・設営・リハーサル
15回目	卒業制作④: 発表・展示本番
準備学習 時間外学習	・継続して繰り返し行う事が大切である。デザインや製作の課題を提出する事で次の時間につなげる事ができる
評価方法	・製作課題を終了する事で実技試験を実施する事にする ・取り組み姿勢、取り組み結果にて総合評価
受講生への メッセージ	美術製作も進行も、本番を迎える事が大事。本番が成功するために学ぶ。成功する達成感は素晴らしい。そのためにコツコツと同じ事を何度でも繰り返し作業して身に付けよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デザインワークショップ I Design Workshop I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロシユース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	月3・4限
【授業の学習内容】 課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、アイソメ図あるいはアクソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。							
【到達目標】 固定観念や既存概念にとらわれない無意識の領域に及ぶ創造力を課題のテーマを通して活性化させ、画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	1.「1点透視図法と2点透視図法」 フリーハンドによる基礎演習
2回目	2.「1点透視図法と2点透視図法」 フリーハンドによる基礎演習 ● 完成と提出
3回目	1.「立方体の解体と再構築」 アクソメ図によるプロセススケッチ (CAD / Vector Works & Stage Design の授業と連動)
4回目	2.「立方体の解体と再構築」 アクソメ図によるプロセススケッチ (CAD / Vector Works & Stage Design の授業と連動)
5回目	3.「立方体の解体と再構築」 プロセススケッチの完成から3面図の作図 (CAD / Vector Works & Stage Design の授業と連動)
6回目	4.「立方体の解体と再構築」 2方向から2点透視図の下図を作成する
7回目	5.「立方体の解体と再構築」 ブラッシングによるパースの陰影表現と色彩表現を試みる
8回目	6.「立方体の解体と再構築」 オブジェ：立体モデルの制作／模型制作の基礎を学ぶ
9回目	7.「立方体の解体と再構築」 オブジェ：立体モデルの制作／模型制作の基礎を学ぶ
10回目	8.「立方体の解体と再構築」 オブジェ：立体モデルの制作／模型制作の基礎を学ぶ ● 完成と提出
11回目	1.「鉛筆デッサン／箱馬と2つの幾何学形態」 観察力と描写力／正確に物体を表現する技法を学ぶ
12回目	2.「鉛筆デッサン／箱馬と2つの幾何学形態」 観察力と描写力／正確に物体を表現する技法を学ぶ ● 完成と提出
13回目	「図法の実用演習①」●単体のモチーフ（箱・円柱など）を複合的に組み合わせて描く ●フリーハンドで空間認識を強化する
14回目	「図法の実用演習②」●点記構成に明暗・質感表現を加える ●構成力と完成度を高める
15回目	15回目：「成果物発表・講評」 ●作品プレゼン（1人3分）＋教員講評＋クラス内コメント ●ポートフォリオ用に記録撮影・ファイリング
準備学習 時間外学習	映画鑑賞・舞台観劇・美術展覧会の鑑賞・音楽や読書など、自分自身を豊かに育むこと。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格 否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業は、「モノづくり」プロセスの基本を学ぶと同時に、「モノづくり」の楽しさを体感し共有する大切な授業です。休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 課題プリントあるいは作図プリントの配布。 各課題に対応した参考作品および参考図書の提示と参考資料の配布。	

科目名 (英)	デザインワークショップⅡ Design Workshop II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロシユース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	月3・4限
【授業の学習内容】 課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、アイソメ図あるいはアクソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。							
【到達目標】 固定観念や既成概念にとらわれない無意識の領域に及ぶ創造力を課題のテーマを通して活性化させ、画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる							

授業計画・内容	
1回目	1.「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」モチーフをセッティングする・描く場所を決める・構図を決める・計り棒を使う
2回目	2.「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」鉛筆デッサンと着彩表現
3回目	3.「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」鉛筆デッサンと着彩表現
4回目	4.「水彩画法／面取り石膏像の置かれた静物モチーフ」鉛筆デッサンと着彩表現 ● 完成と提出
5回目	1.「階段のプロジェクト」アイソメ図によるデザイン／アイデアを考える（CAD／Vector Works & Stage Design 2年の授業に連動）
6回目	2.「階段のプロジェクト」アイソメ図によるデザイン／アイデアを考える（CAD／Vector Works & Stage Design 2年の授業に連動）
7回目	3.「階段のプロジェクト」空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
8回目	4.「階段のプロジェクト」空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
9回目	5.「階段のプロジェクト」空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
10回目	6.「階段のプロジェクト」空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
11回目	7.「階段のプロジェクト」空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
12回目	8.「階段のプロジェクト」空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする ● 完成と提出
13回目	「鉛筆デッサン補講」 ●デッサン技術向上のための個別指導 ●モチーフの追加提示（果物など）
14回目	「色彩構成入門」 ●色相・明度・彩度の基礎 ●画用紙上で抽象色面構成演習
15回目	「作品講評と講義：デザインとは何か」 ●作品講評と合わせて「エンタメ業界における造形表現の役割」をレクチャー形式で共有
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	デザインワークショップⅢ Design WorkshopⅢ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロシユース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	月3・4限
【授業の学習内容】 課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、アイソメ図あるいはアクソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。 ☐ ☐ ☐ 【到達目標】 固定観念や既成概念にとらわれない無意識の領域に及ぶ創造力を課題のテーマを通して活性化させ、画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる							

授業計画・内容	
1回目	1.「階段のプロジェクト」 アイソメ図によるデザイン／アイデアを考える (CAD／Vector Works & Stage Design 2年の授業に連動)
2回目	2.「階段のプロジェクト」 アイソメ図によるデザイン／アイデアを考える (CAD／Vector Works & Stage Design 2年の授業に連動)
3回目	3.「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
4回目	4.「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
5回目	5.「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
6回目	6.「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
7回目	7.「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする
8回目	8.「階段のプロジェクト」 空間モデルの制作と色彩表現・アイデアを形態にする ● 完成と提出
9回目	1.「舞台模型 SCALE 1 : 100」 基本空間モデルの制作／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
10回目	2.「舞台模型 SCALE 1 : 100」 基本空間モデルの制作／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
11回目	3.「舞台模型 SCALE 1 : 100」 基本空間モデルの制作／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
12回目	4.「舞台模型 SCALE 1 : 100」 幕の制作と記述事項の表記／参考舞台空間：福岡シンフォニーホール
13回目	「模型制作補講」 ●完成度が低い学生のための補助時間 ●教員が巡回し個別アドバイス
14回目	「色彩と素材の関係」 ●実際のマテリアル（布・木・プラスチックなど）と色の印象の違いについて実験
15回目	「作品プレゼンと講評」 ●階段プロジェクトの振り返りとプレゼン発表会
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	デザインワークショップⅣ Design WorkshopⅣ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロシユース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	月3・4限
【授業の学習内容】 課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、アイソメ図あるいはアクソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。□ □ □							
【到達目標】 固定観念や既成概念にとらわれない無意識の領域に及ぶ創造力を課題のテーマを通して活性化させ、画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる							

授業計画・内容	
1回目	1.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／構想とアイデア
2回目	2.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／スケッチ：2場
3回目	3.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台平面図：2場
4回目	4.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台立面図：2場
5回目	5.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
6回目	6.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
7回目	7.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
8回目	1.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
9回目	2.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
10回目	3.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
11回目	4.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 各自が選択した芝居・映画・ミュージカル・脚本をもとに舞台美術デザイン／舞台空間模型制作：2場
12回目	5.「舞台美術の提案 SCALE 1 : 100」 舞台空間模型制作：2場の完成とデジカメ撮影 ● 完成と提出
13回目	「舞台模型ディテール研究」 ● 参考舞台（福岡シンフォニーホール）の細部ディテール（階段、幕、バトンなど）を模型で表現
14回目	「他チームの舞台模型鑑賞・意見交換」 ● 他人のデザインから学ぶ時間（批評の訓練） ● 良い点・改善点を話し合う
15回目	「ドキュメンテーションと講評」 ● デジタル撮影→PDFポートフォリオの作成支援 ● 作品講評と次年度の目標共有
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	● 取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ● 課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：否：60点以上で合格 ● 成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	デザインワークショップⅤ	選択 必修	選択必 修	年次	3		
	Design Workshop V	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロシユース科					曜日・時限	月3・4限
【授業の学習内容】 課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、アイソメ図あるいはアクソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。 ☐ ☐ ☐							
【到達目標】 固定観念や既成概念にとらわれない無意識の領域に及ぶ創造力を課題のテーマを通して活性化させ、画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション+目標設定・スケッチブック・道具準備、個人目標の可視化
2回目	台本読み+場面スケッチ・各シーンの印象をスケッチし構成図を描く
3回目	美術的視点での場面分解・情景・感情を図解にするワーク（感情→形）
4回目	リサーチ・資料収集実習・美術資料を調べて「世界観マップ」を作る
5回目	アイデアスケッチ演習・舞台空間のラフ案を描いて比較・検討
6回目	美術設計（紙図面）・手描きでの平面図・立面図ラフ作成
7回目	VectorWorks入門（基礎）・ソフトを使った図面制作の実習①
8回目	VectorWorks実践（応用）・舞台図面の完成+印刷まで
9回目	素材・色彩のコラージュ制作・質感と配色を実験的に試すコラージュ制作
10回目	模型設計の構造理解・モックアップ試作／道具の扱い確認
11回目	模型制作①：土台～背面パネル・スチレンボード等で基本骨格を組み立て
12回目	模型制作②：空間構成と立体・高さ・奥行きをもたせた構造物制作
13回目	模型制作③：着色とテクスチャ表現・絵具・素材加工でリアル感を演出
14回目	模型プレゼン準備・実際に人に見せるレイアウト・展示法を試す
15回目	発表+作品展示会・模型+図面+資料のプレゼン+展示会形式
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	デザインワークショップVI Design Workshop VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロシユース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	月3・4限
【授業の学習内容】 課題で与えられたテーマに対応したスケッチから立体制作までの一連のプロセス、アイソメ図あるいはアクソメ図を活用したアイデアスケッチから制作図面の作成_平面図および立面図、制作図面から1点あるいは2点透視図の完成予想図の作成、最終的に立体モデルおよび空間モデル制作を行う。※主として空間インスタレーションを表現手段とする現代美術家であると同時に、建築デザイン事務所のスタッフとして空間デザインに従事する。 □ □ □							
【到達目標】 固定観念や既成概念にとらわれない無意識の領域に及ぶ創造力を課題のテーマを通して活性化させ、画一的ではない多様な価値観を前提とした発想のあり方と論理的なプロセスを重視しながら、平面作品および立体作品における表現が実践的にできるようになる							

授業計画・内容	
1回目	劇場理解と図面トレース ・実際の劇場図面をトレースし、縮尺に慣れる
2回目	演出コンセプトに基づく空間提案 ・空間スケッチを描き、演出意図を可視化
3回目	ストーリーボード制作 ・シーン展開を分割して1枚ずつ描き起こす
4回目	セット構成アイデアの立体化 ・折り紙・紙立体などで試作
5回目	図面制作 (VectorWorks応用) ・上下・側面・断面図を描き起こす
6回目	美術意図の文章化ワーク ・言語化する練習として、意図文を制作
7回目	模型設計図作成 ・模型を作るための図面・素材表を整理
8回目	模型制作①：基盤設計 ・舞台床・平台などの寸法に基づく工作
9回目	模型制作②：セット制作 ・柱・階段・壁面などの立体部分の制作
10回目	模型制作③：ディテール仕上げ ・装飾・小道具の追加と色付け
11回目	模型制作④：補強と組み立て ・可動部分や分解構造の工夫
12回目	プレゼン資料の整理 ・模型と図面を並列で説明できるように構成
13回目	プレゼンリハーサル ・言葉＋模型＋図面による実演練習
14回目	本番プレゼン (講師＋外部) ・本格的な形式で発表 (評価あり)
15回目	作品の記録・ポートフォリオ制作 ・撮影・記録・ポートフォリオ用に整理・収納
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	この授業では、CAD／Vector Worksを習得すると同時に、正しい図面の表現と表記やパース表現やアイソメ表現の仕方、あるいは、CAD dataからPhotoshop & Illustratorを活用したプレゼンシートの作成などを学ぶ大切な授業です。各課題の参考資料と配布資料を必ず携帯することを忘れず、休まずに出席して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	実践ビジネス基礎 I (Business Basic)	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】 2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。 【講師プロフィール】 経営管理学修士(MBA) キッサニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他							
【到達目標】 講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス、講義の目的や達成レベルを理解する
2回目	マーケティング基礎 その1 "4つのP"を学ぶ
3回目	マーケティング基礎 その2 "STP"を学ぶ
4回目	マーケティング基礎 その3 "3C分析"を学ぶ
5回目	戦略的情報発信 広報(PR)を学ぶ
6回目	イノベーションを起こす"デザイン思考"を身に着ける
7回目	飲食ビジネスの仕組みを理解する
8回目	成功企業の事例解説(ファッションブランド)
9回目	成功企業の事例解説(エンターテインメント企業)
10回目	成功企業の事例解説(興行ビジネス)
11回目	リモートコミュニケーションを使いこなす
12回目	試験・レポート課題
13回目	これまでの授業のまとめ、質問と回答
14回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
15回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または。次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。	

科目名 (英)	実践ビジネス基礎Ⅱ (Business Basic)	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】 2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。 【講師プロフィール】 経営管理学修士(MBA) キッザニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他							
【到達目標】 講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	デジタルマーケティングを学ぶ
2回目	パラダイムシフトにおける”アート思考”を理解する
3回目	情報爆発時代のメディアリテラシーを理解する
4回目	事例解説／アート系エンターテインメント施設の運営
5回目	商品開発のビジネスモデルを学ぶ
6回目	広告実務と広告代理店の機能を学ぶ
7回目	エンタメビジネスに必須のスポンサー制度を理解する
8回目	SDGsのビジネス展開を学ぶ
9回目	Society 5.0 未来社会の展望を学ぶ
10回目	企業研究の手法を事例で学ぶ(食品会社)
11回目	企業研究の手法を事例で学ぶ(アウトドアブランド)
12回目	試験・レポート課題
13回目	これまでの授業のまとめ、質問と回答
14回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
15回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または。次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張らしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	WEBデザイン I WEB Design I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月1限
【授業の学習内容】 WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。							
【到達目標】 webの制作時に必要となるイラストレーターの操作を中心に、名刺や広告等を印刷物として入稿できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	macとイラストレーターを触ってみるmacの初歩的な使用の仕方、コピー＆ペーストやfinderの操作の仕方、wan内でのファイルのやり取り仕方（課題の提出）等を学ぶ、イラストレータは新規ファイルの作成、ツールボックスの説明と機能の説明
2回目	イラストレータの基礎、パス編 まずはイラストレータの基礎で最も重要なパスをしっかりと学ぶ、波線やフリーハンドでの正円を描き、パスの使い方に慣れる
3回目	イラストレータの基礎、大きなカーブをパスで描く パスで感覚が掴みにくい、大きな円の切り替えしを学ぶ、ガイドラインを利用してパスでハートを描く
4回目	イラストレータの基礎、大きなカーブの連続を描く Sと言う文字を下絵にして、大きなカーブの連続のパスを丁寧に描く、アンカーポイント数を制限して丁寧にトレースを仕上げる。
5回目	イラストレータを利用してイラストを描く レイヤーとレイヤー内での上下の関係を意識しながら単純なイラスト描く、まずはライブペイントを使用せずに重なり付だけでイラスト描く。
6回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
7回目	複雑なイラストをイラストレーターで描く レイヤーや上下の関係を意識して複雑なイラストを仕上げる、同時にグラデーションや透明などの機能も学ぶ
8回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
9回目	複雑なイラストをイラストレーターで描く、ライブペイントツールとライブペイント選択ツールを使用してイラストを製作する。
10回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
11回目	ロゴマークのデザイン、仮想の店舗等のコンセプトを考え、ラフスケッチを描いてCI、VIをイラストレーターにて制作する。
12回目	制作したラフスケッチをスキャナーにてスキャンして、イラストレーターで清書する。
13回目	期末テスト
14回目	評価
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 30% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	イラストレータはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なものの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	WEB デザイン II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
	WEB Design II	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月1限
【授業の学習内容】 WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。							
【到達目標】 webの制作時に必要となるイラストレーターの操作を中心に、名刺や広告等を印刷物として入稿できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	名刺の制作、前回制作したCI,VIを使用して名刺のデザインを行う、印刷出来るようにトリムマークから制作して縦組み、横組みの名刺のレイアウトを考える。
2回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
3回目	広告のデザイン、写真を配置する、広告のレイアウトを考える。まずはPhotoshopにて配置する写真の切り抜きや加工を行う。
4回目	広告のデザイン、基本的な文字の組み方を覚え、前回加工した写真をレイアウトして広告のデザインを行う。
5回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
6回目	本の見開きページのレイアウトを考える。用意したパーツを使用して段組設定等を覚えて見開きページの作り方を覚える。
7回目	見開きページのレイアウトデザインの続き途中段階のチェック
8回目	見開きページのレイアウトデザインの提出と校正
9回目	グループワーク、三人一組でFSMをPRするグッズの制作、個人で企画案を3案提出する。
10回目	グループワーク、FSMグッズの制作。企画書の提出、9案の中から制作するグッズを三案選んで担当分けをして制作。
11回目	グループワーク、FSMグッズの制作。制作期間と途中経過のチェック
12回目	グループワーク、FSMグッズの制作。最終校正と課題の提出。
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	イラストレーターはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なものの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	WEB デザインⅢ WEB Design Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月2限
【授業の学習内容】 web制作に必要なPhotoshopの使用の仕方を学習し、ドリームウィーバーを使用してweb制作の基礎を学び最後にオリジナルでサイトを制作する。							
【到達目標】 web制作に必要なイラストレーター、phptpsnopを習得し、基本的なCSSを覚えて初歩的なレスポンスサイトをテキストエディターにて制作できるようになる							

授業計画・内容	
1回目	photoshopのツールの紹介と、photoshopの基本的な使い方の説明、自分の写真を加工してphotoshopの機能を知る。
2回目	Photoshopの初歩の使い方をサンプル画像を使用して、ツールボックスの説明も兼ねて使用してみる。
3回目	Photoshopの合成課題、画像解像度の理解とペンツールを使用しての合成の基礎を覚える、野菜のパーツを切り抜いて組み合わせサンプル通りに合成する。
4回目	photoshopの合成課題レイヤーを理解する、レイヤーの描画モード、レイヤースタイル等レイヤーの機能を使用して合成を行う、又グラデーションの作り方を覚える。
5回目	photoshopの色塗り、ブラシの使い方やレイヤーの描画モード、選択範囲を使用して下絵を元に乗算を使用して着色していく、又カスタムブラシの作り方も覚える。
6回目	photoshopのスタンプツール、スタンプツールを使用して画像の画像の修正作業を行う。修正の際に必要な歪みツールや変形ツールを覚える。
7回目	photoshopの影付け、用意した写真に影をつける、パスを引いて選択範囲を読み込み変形ツールを使用して、リアルなガウスのぼかしを使用して影付けを覚える。
8回目	photoshop合成と色合わせ、見本に合わせて、今までの技術を総合的に使用して合成と色合わせを行う、色合わせは調整レイヤーを使用して行う。
9回目	photoshopの合成課題、前回の課題に引き続き色合わせと合成課題、今回は更に複雑な合成に挑戦する。その際に効率のよい合成技術を身に付ける。
10回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
11回目	photoshop商品にロゴマークを入れる、変形ツールや選択範囲を上手く使い商品写真にロゴマークを入れ、商品の色を色相と彩度を利用して変更する。
12回目	前回の続きと作品のチェック、修正作業があれば修正を行う。
13回目	期末テスト
14回目	評価
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 30% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	現在、様々な事をWEBを通して出来るようになっていきます。WEB全般の基礎的な力は就職や実務の際にも必ず必要になって
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	WEBデザインⅣ WEB Design IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月2限
【授業の学習内容】 WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。							
【到達目標】 web制作に必須となるイラストレーター、phptpsopを習得し、基本的なCSSを覚えて初歩的なレスポンスサイトをテキストエディターにて制作できるようにする							

授業計画・内容	
1回目	インターネットの成り立ちとルール、WEBを制作するにあたって初歩的な知識とドリームウィーバーの使い方の説明
2回目	WEBを制作するにあたってのHTMLとCSSの説明と、ファイルの階層やリンクの考え方。HTMLを使用してリンクを張ってみる。
3回目	CSSを使用してWEBページを作ってみる。CSSの初歩的な1段組レイアウトを制作しながらCSSの基本を覚える。
4回目	CSSを使用して2段組のレイアウトを組み、ヘッダー/フッター/ナビゲーション等、各パーツをCSSにて制作する。
5回目	webの制作、3段組のレイアウトをソースの見本を見ながら制作して、ソースを書き換えて応用できる様にする。
6回目	webの制作、4段組レイアウト、画像のレイアウトを見ながらソースを書いてページを完成させる。CSSの応用
7回目	見本をもとにレスポンスサイトを制作する。レスポンスサイトを制作する際に必要な基礎知識の説明。
8回目	自分で用意できるコンテンツでオリジナルのサイトを制作する。材料集めと、最終的にネットアップする、FTPツールの仕様の仕方。
9回目	自分のサイトの企画書を制作する。企画書で合格したら自分のサイトの制作に入る。
10回目	前回の続きオリジナルサイトの制作
11回目	前回の続きオリジナルサイトの制作、途中段階のチェックと修正
12回目	オリジナルサイトの提出評価
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	現在、様々な事をWEBを通して出来るようになっていきます。WEB全般の基礎的な力は就職や実務の際にも必ず必要になって
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	WEBデザインⅤ WEB Design Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木2限
【授業の学習内容】 WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。							
【到達目標】 webの制作時に必要となるイラストレーターの操作を中心に、名刺や広告等を印刷物として入稿できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【Photoshop × Illustrator】バナー広告制作①：テーマを設定し、ターゲットを明確にしたバナーの設計図を考える。構成・サイズ・目的などを整理。
2回目	バナー広告制作②：素材集め、ラフ作成、メインビジュアルのデザイン構成。Photoshopで画像加工、Illustratorでレイアウト調整。
3回目	バナー広告制作③：サイズ違い（スマホ用、PC用など）の展開とデザイン整合性の確認。
4回目	制作バナーのチェックと修正：講評・フィードバックを受けてブラッシュアップ。
5回目	【グループワーク】仮想クライアントを設定し、簡易Webプロジェクトの企画立案（例：飲食店やイベント告知など）。企画書制作。
6回目	グループワーク：ワイヤーフレームと構成案の制作、担当分け（HTML/CSS/ビジュアルパーツ等）。
7回目	各自パーツ制作：バナー・ロゴ・アイコン等、IllustratorやPhotoshopで作成。
8回目	HTML/CSSでページ構築作業①：トップページ制作。
9回目	HTML/CSSでページ構築作業②：下層ページ制作。
10回目	レスポンス対応・検証作業、調整。
11回目	中間発表（プレゼン練習）、制作中のWebサイトの進捗発表。講評とアドバイス。
12回目	修正作業・ブラッシュアップ。
13回目	最終提出準備とプレゼン資料作成（PowerPoint or PDF）。
14回目	グループ発表・講評会①（発表＋質疑応答）。
15回目	グループ発表・講評会②（発表＋質疑応答）。
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	イラストレーターはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なものの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	WEBデザインⅡ WEB DesignⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木2限
【授業の学習内容】 WEB制作に必要なイラストレーター、フォトショップで基礎的なパーツの作り方や、イラストレーター、フォトショップを使用してチラシや名刺の制作、写真の補正等の応用も学習する。							
【到達目標】 webの制作時に必要となるイラストレーターの操作を中心に、名刺や広告等を印刷物として入稿できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【LP（ランディングページ）制作①】概要説明と成功するLPの構成要素について学ぶ。参考事例の分析。
2回目	LP制作②：商品・サービスの訴求ポイントを整理し、ワイヤーフレームを制作。
3回目	LP制作③：Photoshopでキービジュアル、見出し画像などのパーツ作成。
4回目	LP制作④：HTML/CSSコーディング。スクロール連動の効果なども含めた構成に。
5回目	LP制作⑤：レスポンス対応と検証。
6回目	LP制作⑥：CTA（Call To Action）とデザイン一貫性の確認・修正。
7回目	LP制作⑦：仕上げ・提出準備。
8回目	LP制作の講評とフィードバック。
9回目	【プレゼン演習①】Webポートフォリオ制作準備、自己紹介ページの構成案作成。
10回目	プレゼン演習②：ワイヤーフレームと内容の整理。どんな仕事を見せたいかを明確にする。
11回目	ポートフォリオサイト制作①：HTML/CSSで構築。
12回目	ポートフォリオサイト制作②：実績ページ・作品紹介ページの構成。
13回目	ポートフォリオサイト制作③：問い合わせページ・SNS連携など。
14回目	ポートフォリオサイト制作④：完成・提出準備。
15回目	中間発表：ポートフォリオサイトのプレゼン。
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	イラストレーターはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なものの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ビジネスマナー Preparatuon For Career	選択 必修	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜4限
【授業の学習内容】							
就職活動の内容は年々変化が激しい状況にある。その中で、遅すぎたと言われない就職対策を提供して行く。就活において初めの一步を踏み出すことがとても重要。初めの一步を踏み出す方法を具体的に解説。また、他授業ではあまり機会のないグループディスカッション、グループワークの機会を提供し、今般言われるチーム力を身に着ける内容となる。							
<講師プロフィール>							
大手人材企業で企業研修講師として6年間従事。独立後、大学・短大・専門学校で就職対策講座、実践講座を23年間勤める。また、中学・高校でキャリア形成教育を担当。企業においては新人教育、入社3年目までの社員に対するキャリアコンサルティングを行っている。							
【到達目標】							
1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。							
2. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。							
3. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し就職試験を受ける準備ができる。							
4. 就職活動の流れを把握し、有効なスケジュール管理ができる。インターンシップ等に参加する事ができる。							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション						
2回目	あなたが知らない就活の世界						
3回目	先輩の就活						
4回目	ビジョン型か価値観型か						
5回目	グループ学習の基本						
6回目	就職活動において必要な事						
7回目	グループディスカッション						
8回目	自己理解Ⅰ「強み」						
9回目	自己理解Ⅱ 価値観						
10回目	検索エンジンの使い方						
11回目	履歴書とEsⅠ						
12回目	履歴書とEsⅡ						
13回目	履歴書とEsⅢ						
14回目	企業研究						
15回目	インターンシップに参加しよう						
準備学習 時間 外学習	準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。 時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加（WEB含む）。インターンシップ等での自己研鑽。						
評価方法	●取組姿勢：20点（学習に対する取組姿勢とグループへの貢献） ●テスト評価：60点（課題提出状況） ●習熟度：20点（到達目標に対する成長具合や習熟度） ◇出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます。 ◇合否：60点以上で合格						
受講生への メッセージ	就職活動はゴールではない。一生涯使うことのできるスキルをともに発見しましょう。そして、社会に出て豊かに生きるために何が必要かを一緒に考えましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。							

科目名 (英)	ビジネスマナー Preparatuon For Career	選択 必修	選択 必修	年次	2年次		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜4限
【授業の学習内容】							
就職活動の内容は年々変化が激しい状況にある。その中で、遅すぎたと言われない就職対策を提供して行く。就活において初めの一步を踏み出すことがとても重要。初めの一步を踏み出す方法を具体的に解説。また、他授業ではあまり機会のないグループディスカッション、グループワークの機会を提供し、今般言われるチーム力を身に着ける内容となる。							
<講師プロフィール>							
大手人材企業で企業研修講師として6年間従事。独立後、大学・短大・専門学校で就職対策講座、実践講座を23年間勤める。また、中学・高校でキャリア形成教育を担当。企業においては新人教育、入社3年目までの社員に対するキャリアコンサルティングを行っている。							
【到達目標】							
1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。 2. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。 3. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し就職試験を受ける準備ができる。 4. 就職活動の流れを把握し、有効なスケジュール管理ができる。インターンシップ等に参加する事ができる。							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション						
2回目	面接官は何を重視しているのか						
3回目	オンライン面接						
4回目	面接演習の基礎						
5回目	面接演習Ⅰ						
6回目	面接演習Ⅱ						
7回目	面接演習Ⅲ						
8回目	心理的安全性と成果						
9回目	ビジネススキルⅠ						
10回目	ビジネススキルⅡ						
11回目	ビジネススキルⅢ						
12回目	ビジネスマナー敬語と応対						
13回目	ビジネスマナーⅡ						
14回目	ビジネスマナーⅢ						
15回目	学期末テスト						
準備学習 時間 外学習	準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。 時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加（WEB含む）。インターンシップ等での自己研鑽。						
評価方法	●取組姿勢：20点（学習に対する取組姿勢とグループへの貢献） ●テスト評価：60点（課題提出状況） ●習熟度：20点（到達目標に対する成長具合や習熟度） ◇出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます。 ◇合否：60点以上で合格						
受講生への メッセージ	就職活動は社会人としての初めの一步。就活を通じて社会人として大人の仲間入りをしよう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。							

科目名 (英)	ビジネスマナー Preparatuon For Career	選択 必修	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜4限

【授業の学習内容】

就職活動の内容は年々変化が激しい状況にある。その中で、遅すぎたと言われない就職対策を提供して行く。就活において初めの一步を踏み出すことがとても重要。初めの一步を踏み出す方法を具体的に解説。また、他授業ではあまり機会のないグループディスカッション、グループワークの機会を提供し、今般言われるチーム力を身に着ける内容となる。

<講師プロフィール>

大手人材企業で企業研修講師として6年間従事。独立後、大学・短大・専門学校で就職対策講座、実践講座を23年間勤める。また、中学・高校でキャリア形成教育を担当。企業においては新人教育、入社3年目までの社員に対するキャリアコンサルティングを行っている。

【到達目標】

1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。
2. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。
3. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し就職試験を受ける準備ができる。
4. 就職活動の流れを把握し、有効なスケジュール管理ができる。インターンシップ等に参加する事ができる。

授業計画・内容	
1回目	これまでの内容を振り返りながら、現時点までの各々の就職活動の進捗具合を振り返る。就活における情報や悩みをシェア。
2回目	ジョブカードの紹介（意義・目的）。シートを使って自己分析を行う。自己のエントリーシートに起こすために必要な部分を補足する。
3回目	各人のエントリー企業を確認。これからエントリーできる、またエントリーしたい企業の洗い出しを行い、情報収集について考える。
4回目	キャリア・プランを描くために大切な「興味・関心」「こだわり・価値観」「強み・能力」を精査しながらジョブカードの作成を進める。
5回目	ジョブカードを基に面接時に求められる応対内容の確認と、面接時のマナー・立ち居振る舞いを演習する。
6回目	面接演習 個人面接を中心にグループで面接演習を行なう。
7回目	面接演習 実際の企業での面接を出来る限り再現して演習を行う。
8回目	企業の社会的な役割と組織を学ぶ。
9回目	就業規則やコンプライアンス等、社会と企業のルールを学ぶ。
10回目	仕事のプライオリティの付け方、報告・連絡・相談等、仲間との連携について学ぶ。
11回目	名刺の受け渡し、来客応対、電話応対等ビジネスマナーの基本を身につける。
12回目	就職内定までの状況を再確認。演習予備日。
13回目	課題チェック
14回目	学期末特別授業
15回目	学期末特別授業

準備学習 時間 外学習	準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。 時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加（WEB含む）。インターンシップ等での自己研鑽。
評価方法	課題（課題提出、提出期限の厳守） 習熟度（到達目標に対する習熟度）
受講生への メッセージ	就職活動において最も大切なものはグリッド（熱意と継続力）。自分自身が納得できる就活を達成できるまで、諦めず粘り強く、取り組んで下さい。昨日の自分よりも今日の自分、未来の自分へ。自分で自分を超越して成長していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。

科目名 (英)	ビジネスマナー IV Preparatuon For Career	選択 必修	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜4限

【授業の学習内容】

就職活動の内容は年々変化が激しい状況にある。その中で、遅すぎたと言われない就職対策を提供して行く。就活において初めの一步を踏み出すことがとても重要。初めの一步を踏み出す方法を具体的に解説。また、他授業ではあまり機会のないグループディスカッション、グループワークの機会を提供し、今般言われるチーム力を身に着ける内容となる。

<講師プロフィール>

大手人材企業で企業研修講師として6年間従事。独立後、大学・短大・専門学校で就職対策講座、実践講座を23年間勤める。また、中学・高校でキャリア形成教育を担当。企業においては新人教育、入社3年目までの社員に対するキャリアコンサルティングを行っている。

【到達目標】

1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。
2. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。
3. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し就職試験を受ける準備ができる。
4. 就職活動の流れを把握し、有効なスケジュール管理ができる。インターンシップ等に参加する事ができる。

授業計画・内容	
1回目	自分の就職活動の進捗を言語化する
2回目	志望動機を深掘りする（講義＋演習）
3回目	業界研究Ⅰ（エンタメ・メディア系）
4回目	業界研究Ⅱ（IT・広告・制作系）
5回目	業界研究Ⅲ（サービス・小売・メーカー系）
6回目	履歴書再点検（改善とアップデート）
7回目	自己PRのブラッシュアップ
8回目	グループディスカッション演習Ⅰ
9回目	グループディスカッション演習Ⅱ
10回目	プレゼンテーション演習（就活の成果共有）
11回目	面接総まとめ（実技試験形式）
12回目	就活Q&A（よくある悩み解消）
13回目	エントリー前のチェックリスト
14回目	マナー・応対の最終確認
15回目	前半総まとめ・振り返り

準備学習 時間 外学習	準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。 時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加（WEB含む）。インターンシップ等での自己研鑽。
評価方法	●取組姿勢：20点（学習に対する取組姿勢とグループへの貢献） ●テスト評価：60点（課題提出状況） ●習熟度：20点（到達目標に対する成長具合や習熟度） ◇出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます。 ◇合否：60点以上で合格
受講生への メッセージ	就職活動はゴールではない。一生涯使うことのできるスキルをともに発見しましょう。そして、社会に出て豊かに生きるために何が必要かを一緒に考えましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。

科目名 (英)	ビジネスマナー Preparatuon For Career	選択 必修	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜4限

【授業の学習内容】

就職活動の内容は年々変化が激しい状況にある。その中で、遅すぎたと言われない就職対策を提供して行く。就活において初めの一步を踏み出すことがとても重要。初めの一步を踏み出す方法を具体的に解説。また、他授業ではあまり機会のないグループディスカッション、グループワークの機会を提供し、今般言われるチーム力を身に着ける内容となる。

<講師プロフィール>

大手人材企業で企業研修講師として6年間従事。独立後、大学・短大・専門学校で就職対策講座、実践講座を23年間勤める。また、中学・高校でキャリア形成教育を担当。企業においては新人教育、入社3年目までの社員に対するキャリアコンサルティングを行っている。

【到達目標】

1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。
2. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。
3. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し就職試験を受ける準備ができる。
4. 就職活動の流れを把握し、有効なスケジュール管理ができる。インターンシップ等に参加する事ができる。

授業計画・内容	
1回目	就活のトレンドと変化（最新情報共有）
2回目	内定者の声を聞く（ゲストスピーカー）
3回目	自己分析の再確認と深掘り
4回目	企業とのマッチングとは何か
5回目	志望動機の再点検（論理性と一貫性）
6回目	キャリア設計図を描くワーク①
7回目	キャリア設計図を描くワーク②
8回目	模擬面接（録画＋フィードバック）
9回目	就職活動のメンタルケア（モチベ維持）
10回目	OB・OG訪問の仕方（質問設計）
11回目	リファレンスチェックとは何か
12回目	エージェントとの付き合い方
13回目	説明会参加のマナーと質問力
14回目	会社見学の注意点と事後対応
15回目	中間テスト（面接・ES・マナー総合）

準備学習 時間 外学習	準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。 時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加（WEB含む）。インターンシップ等での自己研鑽。
評価方法	●取組姿勢：20点（学習に対する取組姿勢とグループへの貢献） ●テスト評価：60点（課題提出状況） ●習熟度：20点（到達目標に対する成長具合や習熟度） ◇出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます。 ◇合否：60点以上で合格
受講生へのメッセージ	就職活動は社会人としての初めの一步。就活を通じて社会人として大人の仲間入りをしよう。

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。

科目名 (英)	ビジネスマナー Preparatuon For Career	選択 必修	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜4限
【授業の学習内容】							
就職活動の内容は年々変化が激しい状況にある。その中で、遅すぎたと言われない就職対策を提供して行く。就活において初めの一步を踏み出すことがとても重要。初めの一步を踏み出す方法を具体的に解説。また、他授業ではあまり機会のないグループディスカッション、グループワークの機会を提供し、今般言われるチーム力を身に着ける内容となる。							
<講師プロフィール>							
大手人材企業で企業研修講師として6年間従事。独立後、大学・短大・専門学校で就職対策講座、実践講座を23年間勤める。また、中学・高校でキャリア形成教育を担当。企業においては新人教育、入社3年目までの社員に対するキャリアコンサルティングを行っている。							
【到達目標】							
1. 仕事観・人生観・職業観を持つことができる。							
2. 自己理解を深め、自分らしい職業選択ができる。							
3. 自己の選択した仕事・職について、企業が求める書類を提出し就職試験を受ける準備ができる。							
4. 就職活動の流れを把握し、有効なスケジュール管理ができる。インターンシップ等に参加する事ができる。							
授業計画・内容							
1回目	模擬グループ面接演習						
2回目	エントリー企業の最終確認						
3回目	入社後を見据えた準備（配属先の違い）						
4回目	インターン体験共有と学びの言語化						
5回目	社会人としてのセルフマネジメント						
6回目	就職先で求められる人物像とは						
7回目	社風を見抜くための質問力						
8回目	面接官が嫌がる言動・振る舞い						
9回目	メール・電話でのやりとり演習						
10回目	言葉づかいチェック（録音・分析）						
11回目	報連相ロールプレイ演習						
12回目	トラブル対応（ケーススタディ）						
13回目	失敗事例から学ぶ（面接・ES）						
14回目	就活のゴールを再定義する						
15回目	模擬面接ファイナル演習						
準備学習 時間 外学習	準備：自身の就活を自主的に進める。進める過程で発生する準備や疑問について、自己の課題として授業内で解決。 時間外学習：合同企業説明会等への積極的参加（WEB含む）。インターンシップ等での自己研鑽。						
評価方法	課題（課題提出、提出期限の厳守） 習熟度（到達目標に対する習熟度）						
受講生への メッセージ	就職活動において最も大切なものはグリッド（熱意と継続力）。自分自身が納得できる就活を達成できるまで、諦めず粘り強く、取り組んで下さい。昨日の自分よりも今日の自分、未来の自分へ。自分で自分を超越して成長していきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
講師が用意する冊子。プリント等。パワーポイントによる準備。							

科目名 (英)	キャリアデザインワークショップ Career Design Workshops	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 音楽・エンターテインメント業界における就職・デビューに必要な自己理解・業界理解・実践的プレゼンテーション力を段階的に育成する。							
【到達目標】 自己理解と業界知識の基礎を身につける							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／音楽業界とは何か
2回目	自己分析①：性格・興味の整理
3回目	自己分析②：価値観・ライフビジョン
4回目	仕事の種類①：演奏・制作系
5回目	仕事の種類②：マネジメント・技術系
6回目	先輩・卒業生の進路例紹介
7回目	将来に向けた自分史づくり
8回目	音楽業界の構造理解
9回目	自己PR文を書く①
10回目	自己PR文を書く②（ペアフィードバック）
11回目	グループディスカッション（職種について）
12回目	模擬面接体験（導入版）
13回目	自分を伝えるための文章構成
14回目	キャリアプラン入門
15回目	振り返りとポートフォリオ開始
準備学習 時間外学習	【準備学習】 自己分析ワーク/音楽業界やイベント業界の職種リサーチ 【時間外学習】 ・履歴書・エントリーシートの下書き・ブラッシュアップ/先生・外部ゲストからのフィードバックの整理
評価方法	自己PR文や、面接体験の評価
受講生への メッセージ	作品づくりやプレゼンのワークを通して、自分を知り、他者と対話しながら、自分らしい道を描いてください。うまくいかないこと、迷うこともあると思います。でも、それを言葉にし、仲間と共有しながら進めるのがこの授業の大きな魅力です。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	キャリアデザインワークショップ Career Design Workshops	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 音楽・エンターテインメント業界における就職・デビューに必要な自己理解・業界理解・実践的プレゼンテーション力を段階的に育成する。							
【到達目標】 自己理解と業界知識の基礎を身につける							

授業計画・内容	
1回目	キャリアの考え方を再確認
2回目	プロとアマの違いとは
3回目	表現者としての自分を語る
4回目	職種別ワーク①（例：PA/制作）
5回目	職種別ワーク②（例：演奏/教育）
6回目	フィールドワーク準備
7回目	フィールドワーク実施（校外orインタビュー）
8回目	フィードバック会（報告プレゼン）
9回目	仕事紹介スライドづくり
10回目	グループ制作発表①（制作準備）
11回目	グループ制作発表②（リハーサル）
12回目	グループ制作発表③（本番）
13回目	フィードバック会
14回目	1年のまとめと自己評価
15回目	成長の記録整理（ポートフォリオ）
準備学習 時間外学習	【準備学習】 自己分析ワーク/音楽業界やイベント業界の職種リサーチ 【時間外学習】 ・履歴書・エントリーシートの下書き・ブラッシュアップ/先生・外部ゲストからのフィードバックの整理
評価方法	報告プレゼン、グループ制作発表にて評価
受講生への メッセージ	作品づくりやプレゼンのワークを通して、自分を知り、他者と対話しながら、自分らしい道を描いてください。うまくいかないこと、迷うこともあると思います。でも、それを言葉にし、仲間と共有しながら進めるのがこの授業の大きな魅力です。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	キャリアデザインワークショップ Career Design Workshops	必修 選択	選択必修	年次	2		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 音楽・エンターテインメント業界における就職・デビューに必要な自己理解・業界理解・実践的プレゼンテーション力を段階的に育成する。							
【到達目標】 企画・発信・実践を通して応用力を養う							

授業計画・内容	
1回目	キャリアマップを描く
2回目	アーティストとしてのブランドを考える
3回目	企画の立て方①（テーマ・ターゲット）
4回目	企画の立て方②（内容・構成）
5回目	イベントとは何か（運営と現場）
6回目	イベントシミュレーションワーク①
7回目	イベントシミュレーションワーク②
8回目	発信方法①：SNSと戦略
9回目	発信方法②：資料と話し方
10回目	模擬プレゼン①（個人）
11回目	模擬プレゼン②（グループ）
12回目	フィードバック分析
13回目	企画資料の作成演習①
14回目	企画資料の作成演習②
15回目	中間成果発表会
準備学習 時間外学習	【準備学習】 自己分析ワーク/音楽業界やイベント業界の職種リサーチ 【時間外学習】 ・履歴書・エントリーシートの下書き・ブラッシュアップ/先生・外部ゲストからのフィードバックの整理
評価方法	中間成果発表会にて評価
受講生への メッセージ	作品づくりやプレゼンのワークを通して、自分を知り、他者と対話しながら、自分らしい道を描いてください。うまくいかないこと、迷うこともあると思います。でも、それを言葉にし、仲間と共有しながら進めるのがこの授業の大きな魅力です。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	キャリアデザインワークショップ Career Design Workshops	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 音楽・エンターテインメント業界における就職・デビューに必要な自己理解・業界理解・実践的プレゼンテーション力を段階的に育成する。							
【到達目標】 企画・発信・実践を通して応用力を養う							

授業計画・内容	
1回目	実習準備：何を誰に届けるか
2回目	イベント計画の立案
3回目	イベント制作の実務（予算・広報）
4回目	現場ロール分担
5回目	実習発表準備①
6回目	実習発表準備②
7回目	イベント実施（学内外）
8回目	振り返り（記録と評価）
9回目	業界研究プレゼン①
10回目	業界研究プレゼン②
11回目	応募書類の見直し
12回目	模擬オーディション体験
13回目	自己PRの再構築
14回目	映像・音源による発信演習
15回目	成果発表／フィードバック会
準備学習 時間外学習	【準備学習】 自己分析ワーク/音楽業界やイベント業界の職種リサーチ 【時間外学習】 ・履歴書・エントリーシートの下書き・ブラッシュアップ/先生・外部ゲストからのフィードバックの整理
評価方法	イベント実施、模擬オーディション、成果発表での評価
受講生への メッセージ	作品づくりやプレゼンのワークを通して、自分を知り、他者と対話しながら、自分らしい道を描いてください。うまくいかないこと、迷うこともあると思います。でも、それを言葉にし、仲間と共有しながら進めるのがこの授業の大きな魅力です。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	キャリアデザインワークショップ	必修 選択	選択必修	年次	3		
	Career Design Workshops	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 音楽・エンターテインメント業界における就職・デビューに必要な自己理解・業界理解・実践的プレゼンテーション力を段階的に育成する。							
【到達目標】 作品制作課題・イベント実習を通じて、デビュー・就職活動に必要な「プレゼン資料（企画書・ポートフォリオ・プロフィール・提案書など）」を制作するための知識とスキルを習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／キャリア設計の視点を持つ
2回目	自己分析・強みの整理ワーク①
3回目	自己分析・強みの整理ワーク②
4回目	ポートフォリオとは何か／成功事例紹介
5回目	作品コンセプトの立て方①（自己PR軸）
6回目	作品コンセプトの立て方②（市場との接点）
7回目	音源／映像／資料整理の方法
8回目	プレゼン資料の構成と文章表現の基本
9回目	ポートフォリオ草案制作①
10回目	イベント企画の立て方①（基本構成）
11回目	イベント企画の立て方②（予算・実施案）
12回目	企画書の書き方・表現の工夫
13回目	中間発表（プレゼン資料草案）
14回目	資料のブラッシュアップ
15回目	前期まとめ／個別面談
準備学習 時間外学習	【準備学習】 自己分析ワーク/音楽業界やイベント業界の職種リサーチ 【時間外学習】 ・履歴書・エントリーシートの下書き・ブラッシュアップ/先生・外部ゲストからのフィードバックの整理
評価方法	中間発表での評価 個人面談で理解度の確認
受講生への メッセージ	作品づくりやプレゼンのワークを通して、自分を知り、他者と対話しながら、自分らしい道を描いてください。うまくいかないこと、迷うこともあると思います。でも、それを言葉にし、仲間と共有しながら進めるのがこの授業の大きな魅力です。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	キャリアデザインワークショップ Career Design Workshops	必修 選択	選択必修	年次	3		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 音楽・エンターテインメント業界における就職・デビューに必要な自己理解・業界理解・実践的プレゼンテーション力を段階的に育成する。							
【到達目標】 作品制作課題・イベント実習を通じて、デビュー・就職活動に必要な「プレゼン資料（企画書・ポートフォリオ・プロフィール・提案書など）」を制作するための知識とスキルを習得する。							

授業計画・内容	
1回目	後期ガイダンス／到達目標の明確化
2回目	プレゼン技術の基本（話し方・構成）
3回目	企画・作品発表演習①（プレゼン練習）
4回目	就職・デビュー資料の実例研究
5回目	SNS・YouTubeなどの自己発信力
6回目	実習準備①：役割分担とスケジュール
7回目	実習準備②：チーム内ミーティングと制作進行
8回目	イベント・作品発表会
9回目	実施計画・最終調整
10回目	イベント実習（本番）
11回目	実習の振り返り・自己評価
12回目	応募資料仕上げ①（最終ポートフォリオ）
13回目	応募資料仕上げ②（プロフィール・志望書）
14回目	最終プレゼン発表会
15回目	総まとめ・講評・個別フィードバック
準備学習 時間外学習	【準備学習】 自己分析ワーク/音楽業界やイベント業界の職種リサーチ 【時間外学習】 ・履歴書・エントリーシートの下書き・ブラッシュアップ/先生・外部ゲストからのフィードバックの整理
評価方法	発表会を通して評価
受講生への メッセージ	作品づくりやプレゼンのワークを通して、自分を知り、他者と対話しながら、自分らしい道を描いてください。うまくいかないこと、迷うこともあると思います。 でも、それを言葉にし、仲間と共有しながら進めるのがこの授業の大きな魅力です。
【使用教科書・教材・参考書】 プリント、筆記用具	

科目名 (英)	ミュージックセオリーⅡ Music TheoryⅡ	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜1限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 コード理論を学ぶにあたって、楽曲分析や作曲など創作に必要な知識を得る。							

授業計画・内容	
1回目	<マイナースケール> マイナースケールの仕組み、5度圏を用いてナチュラルマイナーの説明
2回目	<マイナースケール> ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの説明
3回目	<近親調> 各調の関係を楽譜を用いて知る
4回目	<移調> 5線を用いて移調ができるようになる
5回目	<奏法> 省略記号、奏法記号、装飾記号を知る
6回目	確認テスト
7回目	復習・解説
8回目	<トライアド> コードの概念とトライアドの構造について知る
9回目	<7thコード> トライアドの知識を踏まえ7thコードに発展させる
10回目	<dim7と7thコードの復習> トライアドと7thコードの響きの違いを曲を用いて知る。dimコードの構造と響き
11回目	<その他のコード> add9,sus4,6thコードについて知る
12回目	テスト対策
13回目	期末予備テスト
14回目	期末テスト
15回目	復習・解説
準備学習 時間外 学習	コードについてのプリントで宿題がです。
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	コードについて学ぶことは全ての演奏者にとって大切なことです。頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック、プリント	

科目名 (英)	ミュージックセオリーⅢ Music TheoryⅢ	選択 必修	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜1限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 メジャーダイアニックコードからマイナーダイアニックコードまでと、マイナーキーにおけるケーデンスまで。							

授業計画・内容	
1回目	＜メジャーダイアニックコード＞ダイアトニックコードについて、コードネームとディグリーネームを書けるようにする
2回目	＜メジャーダイアニックコードの機能＞各機能の意味を知る、主要和音。代理和音について
3回目	＜ケーデンス＞終止形、ドミナントモーション、ⅡⅤ、セカンダリドミナント、偽終始について
4回目	＜転回形＞転回形の表記方法 ト音記号を用いた簡単なヴォイシング
5回目	＜ヴォイシング、複合拍子＞ケーデンスを実際に5線紙に書いてみる、8分の6拍子について詳しく学ぶ
6回目	中間テスト
7回目	復習・解説
8回目	＜マイナーダイアトニックコード＞マイナーダイアトニックコードの仕組み
9回目	＜マイナーダイアトニックコード＞ハーモニックマイナー、メロディックマイナーのダイアトニック
10回目	＜マイナーダイアトニックコードの機能＞マイナーコードが持つ機能について知る
11回目	＜ヴォイシング＞マイナーキーにおけるケーデンスについて知る
12回目	＜スコアリーディング＞楽譜と音源を用いて後半の総復習
13回目	予備テスト
14回目	期末テスト
15回目	復習・解説
準備学習 時間外学 習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	どんどん難しくなりますが、一緒に頑張りましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック、プリント	

科目名 (英)	ミュージックセオリーⅣ Music TheoryⅣ	選択 必修	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日1限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 テンションの入るコード・ノンダイアニックコードの入るコード進行の分析などが行えるようになる コード進行とスケールの関係を理解する							

授業計画・内容	
1回目	<ノンコードトーン> ノンコードトーン(経過音、刺繍音、掛留音、先取音、逸音)
2回目	<テンション> テンションの種類、コード使用可能テンション
3回目	<テンションリゾルブ> テンションの解決法、Omitの意味
4回目	<アベイラブルノートスケール> コードトーン、テンション、阿保井戸ノートについて、スケールの使い方について
5回目	<その他のスケール> マイナーのアベイラブルの紹介、ドミナントスケール、その他のスケール
6回目	中間テスト
7回目	復習・解説
8回目	<代理コード> メジャー、マイナーのダイアニックコードの代理コードを中心にダイアニック外の代理コードも知る
9回目	<代理コード> メジャー、マイナーのダイアニックコードの代理コードを中心にダイアニック外の代理コードも知る
10回目	<クリシェ、パッシング、定番コードパターン> クリシェ、パッシングコードの手法を学び、コードパターンを発展させる
11回目	<転調> 転調のパターンを知り、実践する
12回目	<アナライズ> 楽譜を用い、総復習を行う
13回目	テスト対策
14回目	期末テスト
15回目	復習・解説
準備学習 時間外 学習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	2年間の集大成です、頑張りましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】 ミュージックセオリー教科書、ワークブック、プリント	

科目名 (英)	イヤートレーニングⅡ Ear TrainingⅡ	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日2限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 コードを聞きとる力、メロディを書きとる力を養い、実践に生かすこと。							

授業計画・内容	
1回目	<マイナースケール> リス`ム総復習、マイナーメロディの視唱、音程ドリル、メジャー、マイナーの聞きわけ
2回目	<マイナースケール> リス`ム、3連譜の導入、メロディ復習C〜Gまで、Cマイナースケールのメロディ視唱、コードC,F,Gの聞きわけ
3回目	<近親調> リス`ムC,F,Gコード付け導入、後付け、メロディC〜Aまでの臨時記号後付け、マイナースケールのメロディ視唱、音程ドリル
4回目	<移調>リス`ム 1 6分8分1 6分の導入、メロディC〜Aまで臨時記号後付け、音程ドリル復習
5回目	<奏法> リス`ム符点8分1 6分の導入、タイの導入、後付け、メロディC〜Bまで臨時記号後付け、音程ドリル復習
6回目	<中間テスト>
7回目	<復習・解説>
8回目	<コード> リス`ム復習、メロディ低音部の書きとり、音程ドリル復習メジャーマイナーの聞きわけ
9回目	<コード4和音> リス`ム8分の6拍子、8分1 6分1 6分の導入、低音部の書きとり、音程ドリル復習
10回目	<Dim7と7thコード復習> リス`ム1 6分休符の導入、8分の6拍子、1 6、1 6、8分の導入、2声メロディ聞きとり
11回目	<その他のコード> 復習リス`ム打ち8分の6拍子、3連譜の導入、2声メロディ、音程ドリル復習
12回目	テスト対策
13回目	期末予備テスト
14回目	期末テスト
15回目	復習・解説
準備学習 時間外 学習	特にはなし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	慣れるとどんどんできます、お楽しみに！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	イヤートレーニングⅢ Ear TrainingⅢ	選択 必修	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日2限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 EtⅠ、Ⅱをふまえて2声メロディ、ハーモニー、1, 3, 4, 5, 6, 7, 8、度音程、コード進行、タイ、臨時記号付きなどより難易度が高い聴きとり、書きとりをできるようにすること。							

授業計画・内容	
1回目	リズム4分の4、4分の3拍子の聴きとり、8分の6拍子のリズム打ち。メロディ1オクターブと2声メロディ書きとり。
2回目	リズム打ち8分の6拍子、メロディは1オクターブ＋低音B、Cmの聴きとり、2声ハーモニーの導入、3度音程のハーモニー練習、ⅠⅣⅤの進行
3回目	リズム4分の4、4分の3のタイ付き、8分の6書きとり、2声ハーモニーと3度の音程、ⅠⅣⅤの進行その②
4回目	リズム4分の4、4分の3に16分音符の導入、メロディは1オクターブ＋低音A、Amでのメロディ聴きとり、トライトーンハーモニーの練習
5回目	リズム4分の4、4分の3に16分音符、タイの導入、メロディは2オクターブ＋低音A、Amでのメロディ聴きとり、2声ハーモニーの練習
6回目	中間テスト
7回目	復習・解説
8回目	リズム4分の4、4分の3、8分の6、メロディはKeyF、2声。ハーモニーの復習、コードⅡⅤⅠの聴きとり
9回目	8分の6、タイ付きリズム導入、メロディはKeyF,2声メロディ、ハーモニー復習
10回目	リズムはそれぞれにタイと符点付き、メロディは16分音符を導入、2声ハーモニーはオクターブとユニゾンの練習
11回目	タイ付きリズム書きとり、2声ハーモニーの復習
12回目	総合復習
13回目	予備テスト
14回目	期末テスト
15回目	復習・解説
準備学習 時間外学習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	より専門的な勉強です。基礎をしっかり学びましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	イヤートレーニングⅣ Ear TrainingⅣ	選択 必修	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日2限
【授業の学習内容】 譜面を読む、書く、歌うなど、こちらの課題プリントにて学習していきます。LMとリンクしているので、総合的に音楽の基礎を学びます。 ※実務者経験：株式会社国際エジュケーションズ所属、クラシック・ポピュラーミュージック業界での活動を10年以上続けるミュージシャン・音楽家たちが担当							
【到達目標】 スコアをみた段階で歌えたり、コード進行を考えたり、自分の音楽に対して有効な基礎を生分集大成。							

授業計画・内容	
1回目	リズム 4分の4、4分の3、8分の6 拍子復習、メロディはKEY=G。8分の6メロディ視唱、2声メロディは1 6分3連譜導入
2回目	リズム 4分の4、4分の3、8分4分8分の導入、この週から8分の6はメロディ問題と統合、2声メロディ、ハーモニー復習、コード聞き分け
3回目	リズム 4分の4、4分の3、メロディ聞き分け、視唱、コードⅡⅤⅠの聞き分け
4回目	リズム 4分の4、4分の3、1 6分、符点8分の導入、8分の6メロディ聞きとり、2声ハーモニー復習、コードⅥを含む聞き分け
5回目	リズム 4分の4、復習、4分の3、1 6分8分の6メロディ聞き分け、視唱、KEY=Gの聞き取り、コードⅡⅤⅠ聞き分け
6回目	中間テスト
7回目	復習・解説
8回目	タイ付きリズム導入、2拍程度の短いフレーズで8分の6拍子、KEY=Fメロディ、2声メロディ復習、2声ハーモニー復習
9回目	リズム 4分の4、4分の3、符点4分8分の導入、1 6分8分の6復習、視唱、KEY=F復習、オクターブとユニゾンのハーモニー練習
10回目	スコアリーディング①
11回目	スコアリーディング②
12回目	総合復習
13回目	予備テスト
14回目	期末テスト
15回目	復習・解説
準備学習 時間外 学習	基本的になし
評価方法	中間テストと期末テストの平均
受講生への メッセージ	2年間の集大成です。プロへの道としてしっかり学びましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】 プリント	

科目名 (英)	デジタルファンデーションⅢ Digital FoundationⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期
【授業の学習内容】							
Officeソフトの応用と実務的ICTスキルの習得							
【到達目標】							
文書・表計算・プレゼンテーションソフトを実務的に使いこなせる。							

授業計画・内容	
1回目	ファイル管理の応用 - フォルダ階層、圧縮・解凍
2回目	Word応用① - 表紙、ヘッダー・フッターの設定
3回目	Word応用② - 図・写真・キャプションの挿入
4回目	Word応用③ - セクション区切り、目次作成
5回目	Excel応用① - IF関数、AVERAGE、COUNTなど
6回目	Excel応用① - IF関数、AVERAGE、COUNTなど
7回目	Excel応用② - 複数シート、リンク・参照
8回目	Excel応用③ - 条件付き書式、データの並び替え
9回目	Excel応用④ - データベース的利用（表の整形）
10回目	PowerPoint応用① - テンプレートの活用とアニメーション
11回目	PowerPoint応用② - 発表用スライドの構成法
12回目	効率化ツールの活用 - ショートカット、辞書登録、拡張機能
13回目	タスク管理アプリ体験 - Google Keep、Trelloなど
14回目	オンライン会議の基本 - Zoom/Google Meet等の使い方
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デジタルファンデーションⅣ Digital FoundationⅣ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
Officeソフトの応用と実務的ICTスキルの習得							
【到達目標】							
クラウドツールやオンラインコラボレーションを体験的に理解する。 実務を意識した課題を通して、ICT活用力を高める。							

授業計画・内容	
1回目	共同作業の基礎 - Googleドキュメントでの共有編集
2回目	スケジュール管理 - カレンダーアプリの操作
3回目	フォーム作成 - Googleフォームやアンケート作成
4回目	SNSや動画での発信 - 情報発信の基礎と注意点
5回目	セキュリティの強化 - パスワード管理、2段階認証
6回目	フリーソフトの使い方 - 信頼性、安全な導入方法
7回目	デジタル著作権の理解 - 引用、転載、Creative Commons
8回目	実践課題① - 文書作成実務（案内文など）
9回目	実践課題② - データ整理と分析演習
10回目	実践課題③ - プレゼン資料の構成と制作
11回目	総合制作① - テーマ設定と資料作成
12回目	総合制作② - 発表練習とフィードバック
13回目	発表会① - スライド発表と質疑応答
14回目	発表会② - 他者発表の評価とふり返し
15回目	年間まとめ - 自己評価・成果確認・次年への展望
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デジタルファンデーションⅤ Digital FoundationⅤ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期
【授業の学習内容】							
実践・発展的ICT活用と社会接続							
【到達目標】							
ICTを使った課題解決能力と発信力を身につける。 実務レベルの文書作成・データ処理ができる。							

授業計画・内容	
1回目	デジタル課題解決入門 - 日常や仕事に役立つ活用法を探る
2回目	複数ツールの連携 - Word+Excel、Excel+PowerPoint連携
3回目	マクロの基本(Excel) - 簡単な自動化操作
4回目	よく使う関数総まとめ - VLOOKUP、IF、COUNTIFなど
5回目	データ整理と分析 - CSVの扱い、ピボットテーブル入門
6回目	実践文書制作① - 見積書、請求書などのフォーマット作成
7回目	実践文書制作② - 業務日報、報告書形式の文書
8回目	Webサービスの活用 - Canva、Notionなど
9回目	ITと職場スキル - ビジネスメール、報告・連絡・相談
10回目	ICT業界の基礎知識 - 職業研究、業種別IT活用例
11回目	就職活動とPC活用 - 履歴書・職務経歴書のデジタル作成
12回目	自己PRプレゼン① - ストーリー構成・資料準備
13回目	自己PRプレゼン② - プレゼン練習と改善
14回目	ITニュースとその理解 - 最新トレンドの調査と共有
15回目	社会と情報の関係 - AI・IoT・5Gの概要
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デジタルファンデーションVI Digital FoundationVI	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
実践・発展的ICT活用と社会接続							
【到達目標】							
プレゼンテーション・ポートフォリオ作成を通じて自己表現ができる。 就職・進学に向けた実践的なIT活用スキルを習得する。							

授業計画・内容	
1回目	総合制作① - 課題テーマ選定と計画
2回目	総合制作② - 分析・資料制作
3回目	総合制作③ - 発表用準備と練習
4回目	総合発表① - 実践プレゼンとフィードバック
5回目	総合発表② - 他者発表からの学び
6回目	社会人スキル強化① - タイムマネジメントとToDo管理
7回目	社会人スキル強化② - デジタルでの情報共有と調整
8回目	キャリア形成支援 - 自己分析と職業調査
9回目	デジタルポートフォリオ① - 成果整理と構成
10回目	デジタルポートフォリオ② - 公開・共有の方法と練習
11回目	学びの棚卸し - 習得スキルの可視化
12回目	模擬面接と実務演習① - プレゼン+質疑形式
13回目	模擬面接と実務演習② - プレゼン+質疑形式
14回目	ふり返りと自己評価① - 成果と成長の確認
15回目	ふり返りと自己評価② - 成果と成長の確認□
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	楽曲制作技法 I Songwriting Techniques I	必修 選択	選択必修	年次	1年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜3/火曜4限
【授業の学習内容】 作曲未経験者から作曲初学者を対象に、次年時の作編曲法Basicを履修する前提となる「メロディ作成の基本的作法」「メロディと和声の調和の基礎」を学び、抑揚のあるメロディとメロディを生かす効果的な和音を作れるようになる。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 「メロディを作る発想の仕方のコツを身に着ける」 「抑揚のある魅力的なメロディの作り方を会得する」 「メロディとそのメロディに合う簡単に効果的な和声を組み合わせる事が出来る」							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認 授業概要説明 授業準備説明 作編曲のスキル向上の仕方
2回目	音高による抑揚 全音符課題
3回目	全音符と2分音符のみでのメロディ作成・休符も含めたリズム緩急
4回目	4分音符迄のメロディ作成・密と疎・順次進行と跳躍進行
5回目	8分音符迄のメロディ作成・リズムの反復
6回目	16分音符迄を使った自由なメロディ作成・モチーフと反復を使ったメロディの効果的な構成の仕方を出来るようになる
7回目	起承転結と二部形式・唱歌課題
8回目	内音と外音・どうコードがメロと合うのか・協和音と不協和音
9回目	外音の使い方①・経過音と刺繍音を使いこなし、変化のあるメロディを作れるようになる
10回目	外音の使い方②・先取音と係留音を使いこなし、意外性のあるメロディを作れるようになる
11回目	外音の使い方③・倚音と逸音を使いこなし、インパクトのあるメロディを作れるようになる
12回目	協和音と不協和音・メロディと和音の関係・既存のメロディにコードを複数パターンつけれる様にする
13回目	前期まとめ・自由課題
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	時間外作成作品を譜面で持参する
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ抑揚のあるメロディと、それを効果的に生かす和声が付 けられているか、総合評価。
受講生への メッセージ	初心者者を脱するための基本的な作曲作法を身につけます
【使用教科書・教材・参考書】 音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具・ヘッドフォン又はイヤフォン	

科目名 (英)	楽曲制作技法Ⅱ Songwriting TechniquesⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜3/火曜4限
【授業の学習内容】 作曲未経験者から作曲初学者を対象に、次年時の作編曲法Basicを履修する前提となる「メロディ作成の基本的作法」「メロディと和声の調和の基礎」を学び、抑揚のあるメロディとメロディを生かす効果的な和音を作る様になる。 <実務者経験> 作曲編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 「メロディを作る発想の仕方のコツを身に着ける」 「抑揚のある魅力的なメロディの作り方を会得する」 「メロディとそのメロディに合う簡単に効果的な和声を組み合わせる事が出来る」							

授業計画・内容	
1回目	装飾としての外音の使い方・単純なメロディを外音を使って豊かなメロディにアレンジする
2回目	和音の種類・調の意味とTSDの役割・TSDT決め打ちの緩急のあるメロディ作成をする
3回目	ドミナントモーションと7thコード
4回目	四和音上での作曲と注意点
5回目	短音階上での作曲・ナチュラルマイナー
6回目	短音階上での作曲・ハーモニックマイナー
7回目	短音階上での作曲・メロディックマイナー
8回目	キーとは何か？キーの判別
9回目	sus4・sus2コードと解決
10回目	add9の使い方
11回目	6 t hコードの使い方
12回目	後期まとめ・自由課題
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	時間外作成作品を譜面で持参する
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ抑揚のあるメロディと、それを効果的に生かす和声が付 けられているか、総合評価。
受講生への メッセージ	初心者脱するための基本的な作曲作法を身につけます
【使用教科書・教材・参考書】 音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具・ヘッドフォン又はイヤフォン	

科目名 (英)	楽曲制作技法Ⅲ Songwriting TechniquesⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜1限/火曜2限
【授業の学習内容】 作曲初学者から作曲中級者を対象に、メロディを生かすより効果的で複雑な和音を、複数の選択肢から選び実践出来る様にする。時代に沿った効果的な転調と和音進行、それらの有機的な連結を出来る様になり、単純なメロディ作成だけではなく、転調やより複雑な和音進行前提のメロディ・対旋律を作る様にする。既存曲の分析をする事で、実践的なセオリーの使用法を学ぶ。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 部分転調・代理和音を効果的に使える様になる 本格転調をする引き出しを増やし、より多彩な作曲が行える様になる 一つのメロディにつける和音の引き出しを増やし、メロディの表情を和音でコントロール出来る様になる ベースラインも含めた、メロディに対する効果的な対旋律を作る様になる							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認 授業概要説明 アベイラブルノートスケールの意味・ミクソリディアンの意味とドミナントモーションとの関係
2回目	セカンダリドミナント①・近親調とは何か？・属和音へのセカンダリドミナントIメジャーキーII7
3回目	セカンダリドミナント②・メジャー・マイナーでの下屬和音へのセカンダリドミナントI7・ミクソリディアン b 6th
4回目	セカンダリドミナント③・平行調との行き来・IメジャーキーIII7・Hmp5
5回目	セカンダリドミナント④・メジャーキーVI7・マイナーキーI7
6回目	セカンダリドミナント⑤・メジャーキーVII7・マイナーキーII7
7回目	IIm7-V7・IIm7-5・ツーファイブモーション
8回目	テンション1_ドミナントV9&V b 9&V#9
9回目	テンション2_ドミナントV9sus4&V#11
10回目	テンション3_ドミナントV13sus4&V b 13
11回目	トニック・サブドミナントでのテンション
12回目	トライトーン・サブステitution
13回目	前期まとめ・自由課題
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	今週の課題が時間内に終わらなかった場合、次週の演習時間までに仕上げ、更に疑問点をリストアップしてくる
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ良いメロディと、それを効果的に生かす和声・展開を含めた編曲が出来ているかを総合評価。
受講生への メッセージ	ある程度和声や旋律を作る人が、更に完成度の高い作品制作が出来るように学習します
【使用教科書・教材・参考書】 DAW・音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具	

科目名 (英)	楽曲制作技法IV Songwriting TechniquesIV	必修 選択	選択必修	年次	2年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	半期 火曜1限/火曜2限
【授業の学習内容】 作曲初学者から作曲中級者を対象に、メロディを生かすより効果的で複雑な和音を、複数の選択肢から選び実践出来る様にする。時代に沿った効果的な転調と和音進行、それらの有機的な連結出来る様になり、単純なメロディ作成だけではなく、転調やより複雑な和音進行前提のメロディ・対旋律を作る様にする。既存曲の分析をする事で、実践的なセオリーの使用法を学ぶ。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 部分転調・代理和音を効果的に使える様になる 本格転調をする引き出しを増やし、より多彩な作曲が行える様になる 一つのメロディにつける和音の引き出しを増やし、メロディの表情を和音でコントロール出来る様になる ベースラインも含めた、メロディに対する効果的な対旋律を作る様になる							

授業計画・内容	
1回目	バッシング・ディミニッシュ
2回目	b II9 #11_ホールトーンスケール
3回目	ベース・ペダルポイント
4回目	モーダル・インターチェンジ-1
5回目	モーダル・インターチェンジ-2
6回目	モーダル・インターチェンジ-3
7回目	ソプラノ・ペダルポイント
8回目	ライン・クリシェ
9回目	Riffによる作曲実践
10回目	ドミナント転調・ピボットコード転調
11回目	dim7・augの読み替えによる転調
12回目	コモンノート転調・後期まとめ
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	今週の課題が時間内に終わらなかった場合、次週の演習時間までに仕上げ、更に疑問点をリストアップしてくる
評価方法	各演習時の課題作成評価75%・学期末の時間外制作作品提出25% 各講義時の課題、各講義時任意提出の時間外制作作品において、どれだけ良いメロディと、それを効果的に生かす和声・展開を含めた編曲が出来ているかを総合評価。
受講生への メッセージ	ある程度和声や旋律を作る人が、更に完成度の高い作品制作が出来るように学習します
【使用教科書・教材・参考書】 DAW・音が出せる鍵盤楽器・五線譜・筆記用具	

科目名 (英)	楽曲制作技法Ⅴ Songwriting TechniquesⅤ	必修 選択	選択必修	年次	3年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜5限
【授業の学習内容】 楽曲の中核、リズム隊と言われる「Drum/Bass」についてこれまでよりさらに深く学びます。 <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DAW上でLoop素材に頼ることのない「生感」のあるリズムを表現できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	リズムのバリエーション 1 フレーズ
2回目	リズムのバリエーション 2 タイミング・ハネ
3回目	リズムのバリエーション 3 アクセント
4回目	リズムのバリエーション 4 ゴーストノート
5回目	Bass Line 1 root音と音域 Bassの役割
6回目	Bass Line 2 Groove1 デイレーション
7回目	Bass Line 3 Groove 2 ゴーストノート
8回目	Bass Line 4 オクターブとアプローチノート
9回目	Bass Line 5 5thの使い方
10回目	Bass Line 6 7thと3rd
11回目	Bass Line 7 RiffとしてのBass
12回目	Bass Line 8 ジャンル毎の典型的なBass Line
13回目	リズム隊としてのBass 1 Drums と Bass のコンビネーション
14回目	リズム隊としてのBass 2 アクセントユニゾンと絡み合い
15回目	テスト・添削
準備学習 時間外学習	授業時間内では出来ない制作全般の実施
評価方法	締め切り毎の到達度合いと作品の総合的なクオリティを評価
受講生への メッセージ	音楽家の到達点の一つである「総合作品制作」を実施します。
【使用教科書・教材・参考書】 PC・DAW・その他音楽制作に必要なもの全般	

科目名 (英)	楽曲制作技法VI Songwriting TechniquesVI	必修 選択	選択必修	年次	3年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	半期 火曜5限
【授業の学習内容】 実際の楽曲制作やアレンジを通じてブラスセクション/ストリングスセクションについて学ぶ <実務者経験> 作編曲から、Re-Mix、Recording、Mix、Masteringまでデジタルとアナログの双方を駆使したトータルなサウンド・プロデュースを行う。これまで、小島麻由美、ICE、Fayray、広瀬香美、ゴスペラーズ等数多くの作品に携わる。							
【到達目標】 DAW上でLoop素材に囚われることのないブラスセクション/ストリングスセクションの構築ができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	Brass Section 1 ブラスアレンジ面での楽器編成・奏法
2回目	Brass Section 2 音域とユニゾン
3回目	Brass Section 3 アーティキレーション
4回目	Brass Section 4 クローズドボイスシングとTopLine
5回目	Brass Section 5 Drop2
6回目	Brass Section 6 Drop2&4
7回目	Brass Section 7 Drop3
8回目	Brass Section 8 バッキングのバリエーション
9回目	Strings Arrange 1 Stringsの役割・編成・奏法
10回目	Strings Arrange 2 ユニゾンのバリエーション
11回目	Strings Arrange 3 奏法とエクスプレッション
12回目	Strings Arrange 4 四声体とオープンボイスシング
13回目	Strings Arrange 5 対位法的アプローチ 1
14回目	Strings Arrange 5 対位法的アプローチ 2
15回目	テスト・添削
準備学習 時間外学習	授業時間内では出来ない制作全般の実施
評価方法	締め切り毎の到達度合いと作品の総合的なクオリティを評価
受講生への メッセージ	音楽家の到達点の一つである「総合作品制作」を実施します。
【使用教科書・教材・参考書】 PC・DAW・その他音楽制作に必要なもの全般	

科目名 (英)	トラックメイク I Track Make I	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜2限
【授業の学習内容】 音楽の三大要素「リズム、メロディー、ハーモニー」の中の「リズム」を学習し、適切なリズムを自身の楽曲制作に取り入れる。 <実務者経験> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 ・基礎的なリズムをDAW上で再現できるようになる ・各ジャンルごとのリズムパターンを学習し求められるジャンルを適切に制作できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認、トラックメイク実演
2回目	各種ドラムのキットを理解する 8ビート、16ビートの打ち込み
3回目	4つ打ちの打ち込み
4回目	シャッフルビートの打ち込み
5回目	スイングビートの打ち込み
6回目	打ち込みのリアルタイムレコーディング
7回目	音楽ジャンルについて
8回目	各ジャンル毎のビートの打ち込み方①
9回目	各ジャンル毎のビートの打ち込み方②
10回目	Spliceの使い方
11回目	無料プラグイン紹介
12回目	トラックメイクの便利な手法紹介
13回目	新しい音楽の探し方
14回目	自分の好きな曲プレゼン大会
15回目	前期テスト
準備学習 時間外学習	・Logicのインストール ・各種データダウンロード
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	現代の音楽はビートのパターンはメロディと同じくらい大事な要素です。リズムを徹底的に追い込みドラム打ち込みを極めましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook.Logic Pro X	

科目名 (英)	トラックメイクⅡ Track MakeⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日2限
【授業の学習内容】 前記に学習したリズムを更に発展させて、音色の加工について学習する <講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供、KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 ・各ジャンルに合った適切な音色を選択できるようになる ・商品にできるドラム音色の加工方法を習得する							

授業計画・内容	
1回目	生ドラムの音色について（3/10）
2回目	生ドラムの音色について（6/10）
3回目	生ドラムの音色について（10/10）
4回目	生ドラムの音色加工。エフェクターの使い方（3/10）
5回目	生ドラムの音色加工。エフェクターの使い方（6/10）
6回目	生ドラムの音色加工。エフェクターの使い方（10/10）
7回目	ドラummマシンの音色について（3/10）
8回目	ドラummマシンの音色について(6/10)
9回目	ドラummマシンの音色について(10/10)
10回目	ドラummマシンの音色加工。エフェクターの使い方（3/10）
11回目	ドラummマシンの音色加工。エフェクターの使い方（6/10）
12回目	ドラummマシンの音色加工。エフェクターの使い方（10/10）
13回目	テスト実施
14回目	特別授業/卒業進級制作 準備
15回目	特別授業/卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	・Logicのインストール ・学習用素材のダウンロード
評価方法	■ 出席率 40% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	ドラムの音色について学習して自身の楽曲に更に磨きをかけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Logic Pro X、Battery4	

科目名 (英)	トラックメイクⅢ Track MakeⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 Apple Logicを使用しダンスミュージックを主軸とした楽曲制作の手法の習得。ソフトウェアの使用手法、およびシンセサイザーの使用手法。 <実務者経験> 「もちろ浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。							
【到達目標】 シンセサイザーを用いて各ジャンルごとに適切な音色が作成できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(2/10)・オシレーターについて
3回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(4/10)・フィルターについて
4回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(8/10)・エンベロープについて
5回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(10/10)・LFOについて
6回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(3/10)2OSCシンセサイザーを用いてベース音色を作成
7回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(7/10)2OSCシンセサイザーを用いてリード音色を作成
8回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)2OSCシンセサイザーを用いてパッド音色を作成
9回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(3/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
10回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(7/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
11回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてリード、ブラック音色を作成
12回目	「Serum」を用いて指定した音色加工ができるようになる(5/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
13回目	「Serum」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてリード音色を作成
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	・NoiseMakerのインストール ・Vitalのインストール ・各種データダウンロード
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	シンセサイザーは現代の音楽で必ずと言っていいほど使われる楽器になります。正解がない音色をどのように作り出すのが学習しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Logic Pro X、Noise Maker、Vital、Serum	

科目名 (英)	トラックメイクIV Track MakeIV	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 Apple Logicを使用したダンスミュージックを主軸とした楽曲制作の手法の習得。ソフトウェアの使用法、およびシンセサイザーの使用法。 <実務者経験> 「ももち浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。							
【到達目標】 自身の設定したジャンルのオリジナルトラックが制作できるようになる							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	各々ジャンルを選択して課題制作
3回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
4回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
5回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
6回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
7回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
8回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
9回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
10回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
11回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
12回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
13回目	テスト実施
14回目	特別授業/進級制作 準備
15回目	特別授業/進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	・Logicのインストール ・学習用素材のダウンロード
評価方法	■ 出席率 40% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	ドラムの音色について学習して自身の楽曲に更に磨きをかけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Logic Pro X、Battery4	

科目名 (英)	トラックメイクV Track Make V	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜3限
【授業の学習内容】 Apple Logicを使用しダンスミュージックを主軸とした楽曲制作の手法の習得。ソフトウェアの使用手法、およびシンセサイザーの使用手法。 <実務者経験> 「もちろ浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。							
【到達目標】 シンセサイザーを用いて各ジャンルごとに適切な音色が作成できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(2/10)・オシレーターについて
3回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(4/10)・フィルターについて
4回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(8/10)・エンベロープについて
5回目	シンセサイザーについて説明を行い各部の名称、仕組みを学び、理解する(10/10)・LFOについて
6回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(3/10)2OSCシンセサイザーを用いてベース音色を作成
7回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(7/10)2OSCシンセサイザーを用いてリード音色を作成
8回目	フリーシンセ「Noise Maker」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)2OSCシンセサイザーを用いてパッド音色を作成
9回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(3/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
10回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(7/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
11回目	フリーシンセ「Vital」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてリード、ブラック音色を作成
12回目	「Serum」を用いて指定した音色加工ができるようになる(5/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてベース音色を作成
13回目	「Serum」を用いて指定した音色加工ができるようになる(10/10)ウェーブテーブルシンセサイザーを用いてリード音色を作成
14回目	テスト実施
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	・NoiseMakerのインストール ・Vitalのインストール ・各種データダウンロード
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	シンセサイザーは現代の音楽で必ずと言っていいほど使われる楽器になります。正解がない音色をどのように作り出すのが学習しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Logic Pro X、Noise Maker、Vital、Serum	

科目名 (英)	トラックメイクVI Track MakeVI	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜3限
【授業の学習内容】 Apple Logicを使用したダンスミュージックを主軸とした楽曲制作の手法の習得。ソフトウェアの使用法、およびシンセサイザーの使用法。 <実務者経験> 「ももち浜ストア」テーマソング、アニメーション劇伴、テレビCM曲、アーティストへの楽曲提供など。トラックメイカーとして活動中。							
【到達目標】 自身の設定したジャンルのオリジナルトラックが制作できるようになる							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	各々ジャンルを選択して課題制作
3回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
4回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
5回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
6回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
7回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
8回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
9回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
10回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
11回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
12回目	選択したジャンルに沿った課題制作、及びアドバイス
13回目	テスト実施
14回目	特別授業/卒業進級制作 準備
15回目	特別授業/卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	・Logicのインストール ・学習用素材のダウンロード
評価方法	■ 出席率 40% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	ドラムの音色について学習して自身の楽曲に更に磨きをかけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Logic Pro X、Battery4	

科目名 (英)	DAWオペレーション I DAW Operation I	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜1,2限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。 <講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 年代・ジャンル別のヒット曲を分析する力を養い、時代に即したトラックの作成や音色加工方法を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析①「課題曲はその時のチャートによります」
2回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析②「課題曲はその時のチャートによります」
3回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析③「課題曲はその時のチャートによります」
4回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析④「課題曲はその時のチャートによります」
5回目	リズムトラックとサウンド傾向・楽曲分析⑤「課題曲はその時のチャートによります」
6回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる①
7回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる②
8回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる③
9回目	ヒット曲をリファレンスとして楽曲制作とミックスを行ってみる④
10回目	シンセ系のサウンドを研究する①
11回目	シンセ系のサウンドを研究する②
12回目	シンセ系のサウンドを研究する③
13回目	課題制作
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	各授業内で行う実技チェック（ミニテスト）の期間中の平均評価
評価方法	各授業内で行う実技チェック（ミニテスト）の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	DAWオペレーションⅡ DAW Operation II	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜1,2限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。 <講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。							
【到達目標】 年代・ジャンル別のヒット曲を分析する力を養い、時代に即したトラックの作成や音色加工方法を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する①
2回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する②
3回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する③
4回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する④
5回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する⑤
6回目	海外のヒットチャートから最先端のサウンドを研究する⑥
7回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる①
8回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる②
9回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる③
10回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる④
11回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる⑤
12回目	ヒット曲のサウンドと自分のオリジナルサウンドを探ってみる⑥
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	各授業内で行う実技チェック（ミニテスト）の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	DAWオペレーションⅢ DAW OperationⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜3.4限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。 <講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。 【到達目標】 年代・ジャンル別のヒット曲を分析する力を養い、時代に即したトラックの作成や音色加工方法を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	70年代～80年代ポップスのサウンド分析①
2回目	70年代～80年代ポップスのサウンド分析②
3回目	70年代～80年代ポップスのサウンド分析③
4回目	90年代R&B・Hip-Hopのサウンド分析①
5回目	90年代R&B・Hip-Hopのサウンド分析②
6回目	90年代R&B・Hip-Hopのサウンド分析③
7回目	2000年代EDM/クラブミュージックのサウンド分析①
8回目	2000年代EDM/クラブミュージックのサウンド分析②
9回目	2000年代EDM/クラブミュージックのサウンド分析③
10回目	現代（2020年代）ポップ・トラップ・K-POPの分析①
11回目	現代（2020年代）ポップ・トラップ・K-POPの分析②
12回目	現代（2020年代）ポップ・トラップ・K-POPの分析③
13回目	課題制作
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外学習	各授業内で行う実技チェック（ミニテスト）の期間中の平均評価
評価方法	各授業内で行う実技チェック（ミニテスト）の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	DAWオペレーションⅣ DAW OperationⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜3,4限
【授業の学習内容】 最先端のサウンド作り出すための、リズムトラック制作・エフェクトを使った音色加工を学びます。 <講師プロフィール> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。 【到達目標】 年代・ジャンル別のヒット曲を分析する力を養い、時代に即したトラックの作成や音色加工方法を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	70～80年代ポップスの音色再現とリメイク実習①
2回目	70～80年代ポップスの音色再現とリメイク実習②
3回目	70～80年代ポップスの音色再現とリメイク実習③
4回目	90年代サウンドの再現実習①
5回目	90年代サウンドの再現実習②
6回目	90年代サウンドの再現実習③
7回目	2000年代EDMのトラックメイク実習①
8回目	2000年代EDMのトラックメイク実習②
9回目	2000年代EDMのトラックメイク実習③
10回目	自分で選んだジャンルを分析し、再現する①
11回目	自分で選んだジャンルを分析し、再現する②
12回目	自分で選んだジャンルを分析し、再現する③
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外学 習	課題曲の音源、譜面等の事前確認をしておく事
評価方法	各授業内で行う実技チェック（ミニテスト）の期間中の平均評価
受講生への メッセージ	皆さんの好きな音楽のルーツとなるアーティストや楽曲に触れ、音楽の感性を広げると共に、バンド・作曲活動で十分に役立ててください。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad . 課題曲の譜面や音源資料 譜面	

科目名 (英)	編集・ディレクション I Editing & Direction I	必修 選択	選択必修	年次	2年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年 金曜2,3限
【授業の学習内容】 主にボーカルミックスについて学びます。その他にもボーカルのディレクションや特殊なエフェクトの使い方等も同時に学びます。 <実務者経験> 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。 【到達目標】 ・ボーカルがしっかりと聞こえるようなミックスができるようになること ・製品レベルのミックスが行えるようになること							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	ボーカルディレクションの心構え、ボーカルミックスの考え方について
3回目	ボーカルテイク選出、テイクフォルダの使用方法
4回目	①ピッチ修正（メロダイン使用方法）
5回目	②ピッチ修正（ピッチ修正）
6回目	③ピッチ修正（リズム修正）
7回目	ボーカルに対するコンプレッサーの使用方法①
8回目	ボーカルに対するコンプレッサーの使用方法②
9回目	ボーカルに対するEQの使用方法①
10回目	ボーカルに対するEQの使用方法②
11回目	ボーカルに対するサチュレーションの使用方法①
12回目	ボーカルに対するサチュレーションの使用方法②
13回目	ボーカルに対しての空間系エフェクトの使用方法①
14回目	テスト実施
15回目	特別授業/卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	エフェクトの種類に対する理解
評価方法	■ 出席率 40% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	ボーカルというパートは今も昔も変わらず主役になるパートです。 その主役になる部分の音をしっかりと作れるようになり、自身の楽曲のレベルをあげていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook.Logic Pro X メロダイン	

科目名 (英)	編集・ディレクションⅡ Editing & DirectionⅡ	必修 選択	選択必修	年次	2年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年 金曜2,3限
【授業の学習内容】 主にボーカルミックスについて学びます。その他にもボーカルのディレクションや特殊なエフェクトの使い方等も同時に学びます。 ＜実務者経験＞ 黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。 【到達目標】 ・ボーカルがしっかりと聞こえるようなミックスができるようになること ・製品レベルのミックスが行えるようになること							

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	他パートとのバランスを考えたボーカル処理①（ドラム・ベース）
3回目	他パートとのバランスを考えたボーカル処理②（ギター・シンセ）
4回目	ボーカルとBGM全体のミックス調整①（ラウドネス・定位）
5回目	ボーカルとBGM全体のミックス調整②（帯域の整理）
6回目	ディエッサー・ノイズ除去・プレス処理
7回目	ボーカルのハーモニー処理と重ね録りのミックス
8回目	ボーカルのジャンル別ミックスアプローチ①（ポップス・バラード）
9回目	ボーカルのジャンル別ミックスアプローチ②（ロック・R&B）
10回目	ボーカルのジャンル別ミックスアプローチ③（EDM・K-POP）
11回目	マスタリング工程におけるボーカルの最終確認
12回目	作品制作①（ボーカルディレクションとミックス実践）
13回目	作品制作②（中間チェック・フィードバック）
14回目	テスト実施
15回目	特別授業/卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	エフェクトの種類に対する理解
評価方法	■出席率 40% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】30%
受講生への メッセージ	ボーカルというパートは今も昔も変わらず主役になるパートです。 その主役になる部分の音をしっかりと作れるようになり、自身の楽曲のレベルをあげていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 Macbook.Logic Pro X メロダイン	

科目名 (英)	編集・ディレクションⅢ・Ⅳ Editing & DirectionⅢ・Ⅳ	必修 選択	選択必修	年次	3年		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
【授業の学習内容】		I・II で学んだ基本エフェクトを基盤にして、ジャンルごとに沿ったエフェクトを掛けられるようになる。					
＜実務者経験＞		黒子のバスケ公式リミックス提供、『Key』20周年記念リミックスCD「Key Best Song Remix -to the Future-」公式リミックス提供。KONAMI『SOUND VOLTEX VIVIDWAVE』へ公式リミックス提供。					
【到達目標】		ジャンルに沿ったボーカルの音作りができるようになる。 特殊なエフェクト（ボコーダー等）が問題なく使用できるようになる。					

授業計画・内容	
1回目	シラバス及び到達目標の確認
2回目	I・II のおさらい ボーカルに対しての空間系エフェクトの使用方法②
3回目	ロック系楽曲に対してのボーカル処理について①
4回目	ロック系楽曲に対してのボーカル処理について②
5回目	ロック系楽曲に対してのボーカル処理について③
6回目	ダンス系楽曲に対してのボーカル処理について①
7回目	ダンス系楽曲に対してのボーカル処理について②
8回目	ダンス系楽曲に対してのボーカル処理について③
9回目	バラード系楽曲に対してのボーカル処理について①
10回目	バラード系楽曲に対してのボーカル処理について②
11回目	バラード系楽曲に対してのボーカル処理について③
12回目	テスト実施
13回目	特別授業/卒業進級制作 準備
14回目	特別授業/卒業進級制作 準備
15回目	特別授業/卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	歌モノの自作楽曲準備
評価方法	■ 出席率 40% ■ 受講態度 30% ■ 【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	ジャンルに沿ったボーカルの音作りについて学びます。自作楽曲で実際に"使える"ようなエフェクトを教えたいと考えていますので、今のうちに楽曲は作り貯めておいてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
Macbook.Logic Pro X	

科目名 (英)	作品制作ワークショップ Creation Seminar	必修 選択	選択必修	年次	1.2.3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜4.5限
【授業の学習内容】 本授業は学生自ら立案したプロジェクトを題材に作家／アーティストとしてのセルフプロデュース能力を高める為の授業である。プロジェクトの立案／企画／運営→作品制作→発表→検証 が一連の流れとなる。単に「楽曲を作る」のではなく、「その楽曲にどう価値を生むのか」までを現役で活躍する講師と一緒に考え、制作に取り組むことで、自身の業界における作家／アーティストとしての自立像を作っていく。 講師プロフィール：株式会社アミューズ所属アーティスト「ASTERISM」のプロデューサー・アレンジャーとして活動しながら、株式会社リブソンのプロデューサーとして福岡でメジャーに向けた新人発掘から音楽制作まで幅広く活躍中。							
【到達目標】 アーティスト、クリエイターとしての「音楽を職業にする」ために必要なスキル ・実践的なクリエイティブ能力 ・戦略的なセルフプロデュース能力 を向上させる。授業の中で自身の楽曲を収益化させることを最大の目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	オリジナル楽曲制作／オリエンテーション
2回目	オリジナル楽曲制作／講義：音楽のマネタイズについて
3回目	オリジナル楽曲制作／講義：音楽業界について
4回目	オリジナル楽曲制作／講義：作詞について
5回目	オリジナル楽曲制作／講義：ミックスダウンについて
6回目	オリジナル楽曲制作／講義：ルーツミュージックについて
7回目	オリジナル楽曲制作／講義：ヒット曲の分析法
8回目	オリジナル楽曲制作／講義：プラグインの考え方
9回目	オリジナル楽曲制作／講義：コンペの考え方
10回目	オリジナル楽曲制作／講義：SNS戦略について
11回目	オリジナル楽曲制作／講義：メタバースについて
12回目	オリジナル楽曲制作／講義：サブスクリプションサービスについて
13回目	オリジナル楽曲制作／講義：著作権について
14回目	配信リリースイベント
15回目	配信リリースイベント
準備学習 時間外学習	
評価方法	半期に最低 1 曲をアウトプットすることが最低限の評価基準とする
受講生への メッセージ	音楽業界はレーベル一強の時代から完全に個の時代に突入しています。アーティストも作家も、狭い偏った知識・技術だけでは仕事になりません。多角的な視点で自らの音楽を分析し、制作し、行動し、しっかりと結果を出すことがとても重要です。皆さんが各々に自分の新たな可能性を見出し、その音楽の世界を広げることを、本授業担当講師は目標にします。一緒に充実した楽しい授業にいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	作品制作ワークショップ Creation Seminar	必修 選択	選択必修	年次	1.2.3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	180 (12)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜4.5限
【授業の学習内容】 本授業は学生自ら立案したプロジェクトを題材に作家／アーティストとしてのセルフプロデュース能力を高める為の授業である。プロジェクトの立案／企画／運営→作品制作→発表→検証 が一連の流れとなる。単に「楽曲を作る」のではなく、「その楽曲にどう価値を生むのか」までを現役で活躍する講師と一緒に考え、制作に取り組むことで、自身の業界における作家／アーティストとしての自立像を作っていく。 講師プロフィール：株式会社アミューズ所属アーティスト「ASTERISM」のプロデューサー・アレンジャーとして活動しながら、株式会社リブソンのプロデューサーとして福岡でメジャーに向けた新人発掘から音楽制作まで幅広く活躍中。							
【到達目標】 アーティスト、クリエイターとしての「音楽を職業にする」ために必要なスキル ・実践的なクリエイティブ能力 ・戦略的なセルフプロデュース能力 を向上させる。授業の中で自身の楽曲を収益化させることを最大の目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	オリジナル楽曲制作／講義：JASRAC/Nextoneについて
2回目	オリジナル楽曲制作／講義：音楽出版社について
3回目	オリジナル楽曲制作／講義：NFTについて
4回目	オリジナル楽曲制作／講義：音響機材について
5回目	オリジナル楽曲制作／講義：セルフレコーディングについて
6回目	オリジナル楽曲制作／講義：コライティングについて
7回目	オリジナル楽曲制作／講義：音響機材について
8回目	オリジナル楽曲制作／講義：EQについて
9回目	オリジナル楽曲制作／講義：コンプレッサーについて
10回目	オリジナル楽曲制作／講義：マスタリングについて
11回目	オリジナル楽曲制作／講義：AIプラグインについて
12回目	オリジナル楽曲制作／講義：確定申告について
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	半期に最低 1 曲をアウトプットすることが最低限の評価基準とする
受講生への メッセージ	音楽業界はレーベル一強の時代から完全に個の時代に突入しています。アーティストも作家も、狭い偏った知識・技術だけでは仕事になりません。多角的な視点で自らの音楽を分析し、制作し、行動し、しっかりと結果を出すことがとても重要です。皆さんが各々に自分の新たな可能性を見出し、その音楽の世界を広げることを、本授業担当講師は目標にします。一緒に充実した楽しい授業にいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	アーティストディレクション I Artist Direction I	選択 必修	選択必修	年次	1		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	金曜 1・2時限目
【授業の学習内容】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる							
【到達目標】 【到達目標】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（目的・スケジュール・自己紹介）
2回目	プレゼンテーション：自己紹介
3回目	プレゼンテーション：アーティスト・楽曲紹介
4回目	AIトラック生成 + HIPHOPリリック作成①
5回目	AIトラック生成 + リリック作成②
6回目	アーティスト体験 レコーディング①
7回目	アーティスト体験 レコーディング②
8回目	MIX／資料制作（AIでジャケット生成）
9回目	Keynoteで発表準備
10回目	SNS用ショート動画制作①（YouTube／Instagram／TikTok）
11回目	SNS用ショート動画制作②（YouTube／Instagram／TikTok）
12回目	SNSマーケティング（アルゴリズム解説）
13回目	プロモーション企画①（事例研究）
14回目	プロモーション企画②（実践編）
15回目	前期振り返り／後期課題説明
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	アーティストディレクション II Artist Direction II	選択 必修	選択必修	年次	1		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	金曜 1・2時限目
【授業の学習内容】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる							
【到達目標】 【到達目標】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる。							

授業計画・内容	
1回目	業界構造の理解①（音楽ビジネス全体像）
2回目	業界構造の理解②（マネージャーの役割）
3回目	スケジュール管理基礎①
4回目	スケジュール管理基礎②
5回目	プロモーション手法比較（TV／ラジオ／SNS）
6回目	チームプロジェクト：企画立案①
7回目	チームプロジェクト：企画立案②
8回目	発表準備とプレゼン練習
9回目	プレゼンテーション：企画発表
10回目	契約交渉の基礎（実務演習）
11回目	契約書の読み方・書き方
12回目	コミュニケーションワーク①
13回目	コミュニケーションワーク②
14回目	実務シミュレーション①（模擬案件）
15回目	実務シミュレーション②（模擬案件）
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	アーティストディレクション Ⅲ Artist DirectionⅢ	選択 必修	選択必修	年次	2		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	金曜 1・2時限目
【授業の学習内容】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる							
【到達目標】 【到達目標】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる。							

授業計画・内容	
1回目	SNS分析ツールの使い方（TikTok／Instagram）
2回目	再生数・エンゲージメントの理解
3回目	データに基づく改善施策の立案
4回目	ライブイベントの企画・準備①
5回目	ライブイベントの企画・準備②
6回目	ライブ当日のマネジメント
7回目	イベント振り返りとレポート作成
8回目	アーティストとの面談ロールプレイ①
9回目	アーティストとの面談ロールプレイ②
10回目	ストーリーミング時代の戦略①
11回目	ストーリーミング時代の戦略②
12回目	アーティストブランディング入門
13回目	ファンベース構築とロイヤル顧客
14回目	映像・ビジュアル戦略の立案
15回目	中間まとめ・発表
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	アーティストディレクション IV Artist Direction IV	選択 必修	選択必修	年次	2		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	金曜 1・2時限目
【授業の学習内容】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる							
【到達目標】 【到達目標】 業界理解： ワークショップを通して、音楽業界の構造やビジネスモデルを理解し、マネージャーの役割を明確にする。 プロモーション企画、スケジュール管理、契約交渉、効果的なコミュニケーション、SNSやストーリーミングサービスを使用したプロモーションなどの実務能力を身につける。 FSM内で、他コースとのハブになるようなコースになる。							

授業計画・内容	
1回目	MV撮影の流れを理解する
2回目	MV撮影のディレクション体験①
3回目	MV撮影のディレクション体験②
4回目	編集指示書の作り方
5回目	DaVinci Resolveの基本操作
6回目	カラーグレーディング基礎
7回目	レタッチ基礎（写真素材を使用）
8回目	実践ワーク：編集素材を活用①
9回目	実践ワーク：編集素材を活用②
10回目	郊外スタジオでの撮影準備
11回目	郊外スタジオ実習①（現地撮影）
12回目	郊外スタジオ実習②（現地撮影）
13回目	編集・仕上げ工程
14回目	完成作品の発表会
15回目	作品に対するフィードバック会
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名（英）	レコーディングゼミ I Recording Seminar I	必修選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日 2.3.4限
【授業の学習内容】 作曲・編曲コースの楽曲のレコーディングおよびミックス。制作を通してアレンジャーとエンジニアのコミュニケーションを学ぶ。 <講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。 【到達目標】 主にプリプロダクション制作課題・卒業制作等の作品を完成させることが出来る。 楽曲制作を通して、ミュージシャンなど他学科の学生とも交流をはかり、コミュニケーション能力を高める事が出来る。 スケジュール管理、役割分担などチームワークとリーダーシップ能力を高める事が出来る。							

授業計画・内容	
1回目	オリジナル楽曲①ベーシックレコーディング
2回目	オリジナル楽曲①ダビング
3回目	オリジナル楽曲①ミックス
4回目	オリジナル楽曲②ベーシックレコーディング
5回目	オリジナル楽曲②ダビング
6回目	オリジナル楽曲②ミックス
7回目	オリジナル楽曲③ベーシックレコーディング
8回目	オリジナル楽曲③ダビング
9回目	オリジナル楽曲③ミックス
10回目	オリジナル楽曲④ベーシックレコーディング
11回目	オリジナル楽曲④ダビング
12回目	オリジナル楽曲④ミックス
13回目	前期まとめ
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	作曲学生とのプリプロダクション制作
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名（英）	レコーディングゼミⅡ Recording Seminar Ⅱ	必修選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	90 (6)	開講区分	後期
						曜日・時限	水曜日 2.3.4限
【授業の学習内容】 作曲・編曲コースの楽曲のレコーディングおよびミックス。制作を通してアレンジャーとエンジニアのコミュニケーションを学ぶ。 <講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。 【到達目標】 主にプリプロダクション制作課題・卒業制作等の作品を完成させることが出来る。 楽曲制作を通して、ミュージシャンなど他学科の学生とも交流をはかり、コミュニケーション能力を高める事が出来る。 スケジュール管理、役割分担などチームワークとリーダーシップ能力を高める事が出来る。							

授業計画・内容	
1回目	卒業制作楽曲①ベーシックレコーディング
2回目	卒業制作楽曲①ダビング
3回目	卒業制作楽曲①ミックス
4回目	卒業制作楽曲②ベーシックレコーディング
5回目	卒業制作楽曲②ダビング
6回目	卒業制作楽曲②ミックス
7回目	卒業制作楽曲③ベーシックレコーディング
8回目	卒業制作楽曲③ダビング
9回目	卒業制作楽曲③ミックス
10回目	卒業制作楽曲④ベーシックレコーディング
11回目	卒業制作楽曲④ダビング
12回目	卒業制作楽曲④ミックス
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	作曲学生とのプリプロダクション制作
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名（英）	レコーディングゼミⅢ Recording Seminar Ⅲ	必修選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	90 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日 3.4.5限
【授業の学習内容】 プロミュージシャン・卒業生等の楽曲をレコーディングおよびミックスして配信音源の完成形まで作り上げる。 <講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。 【到達目標】 アーティストのアルバムを完成させることが出来る。							

授業計画・内容	
1回目	「Made in Japan2」 ミックス
2回目	「Made in Japan2」 ミックス
3回目	「Made in Japan2」 ミックス
4回目	「Made in Japan2」 ミックス
5回目	「Made in Japan2」 ミックス
6回目	「Made in Japan2」 ミックス
7回目	「Made in Japan2」 ミックス
8回目	「Made in Japan2」 ミックス
9回目	「Made in Japan2」 ミックス
10回目	「Made in Japan2」 ミックス
11回目	「Made in Japan2」 マスタリング
12回目	Sora & Reiya Project プリプロ
13回目	Sora & Reiya Project プリプロ
14回目	ミュージカル演習 リハーサル
15回目	ミュージカル演習 本番
準備学習 時間外学習	Pro Tools知識
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	アーティストがアルバムを完成させるまでの、エンジニアの仕事を学びます。コミュニケーション力、ホスピタリティを発揮しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名（英）	レコーディングゼミⅣ Recording Seminar Ⅳ	必修選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	90 (6)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜日 3.4.5限
【授業の学習内容】 プロミュージシャン・卒業生等の楽曲をレコーディングおよびミックスして配信音源の完成形まで作り上げる。 <講師プロフィール>レコーディングエンジニア 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野の専属エンジニアを務める。映画「スイング・ガールズ」などの映画音楽制作にも携わる。 【到達目標】 アーティストのアルバムを完成させることが出来る。							

授業計画・内容	
1回目	Sora & Reiya Project レコーディング
2回目	Sora & Reiya Project レコーディング
3回目	Sora & Reiya Project レコーディング
4回目	Sora & Reiya Project レコーディング
5回目	Sora & Reiya Project レコーディング
6回目	Sora & Reiya Project レコーディング
7回目	Sora & Reiya Project レコーディング
8回目	Sora & Reiya Project レコーディング
9回目	Sora & Reiya Project ミックス
10回目	Sora & Reiya Project ミックス
11回目	Sora & Reiya Project ミックス
12回目	Sora & Reiya Project マスタリング
13回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	Pro Tools知識
評価方法	作品提出
受講生への メッセージ	アーティストがアルバムを完成させるまでの、エンジニアの仕事を学びます。コミュニケーション力、ホスピタリティを発揮しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バンドアンサンブル I Band Ensemble I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 3 限
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡を中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート（LIVE/レコーディング）、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 楽曲を通してメンバーとコミュニケーションを取り、自分らしい演奏やパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	課題曲① 授業概要説明。ステージマナーを身につけていこう！機材や楽器の基本的な使い方を覚えよう！
2回目	課題曲① カウントの出し方、曲の締め方のやり方を身につけよう！アンサンブルにおける音量バランスを覚えよう！
3回目	課題曲② 基本的な譜面の読み方を理解して、演奏しよう！
4回目	課題曲② 共通譜面におけるリハーサルマーク、リピート記号や括弧、D・S等の記号の意味を理解し演奏しよう！
5回目	課題曲③ 演奏中にアイコンタクト等、演奏中にコミュニケーションを取ろう！
6回目	課題曲③ 鏡を使い、パフォーマンスを意識した演奏してみよう！
7回目	学園祭に向けて 課題曲より楽曲を仕上げていこう！
8回目	課題曲④ 楽曲のリズムを演奏者全員で共有しFeelの合った演奏をしてみよう①
9回目	課題曲④ 楽曲のリズムを演奏者全員で共有しFeelの合った演奏をしてみよう②
10回目	課題曲⑤ 楽曲における抑揚の付け方、演奏の表現方法を学ぼう①
11回目	課題曲⑤ 楽曲における抑揚の付け方、演奏の表現方法を学ぼう②
12回目	テスト週 本番を想定してリハーサルをしよう！
13回目	テスト週 前期で学んだことを活かし、オリジナルバンドを組んで演奏しよう！
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	■授業へ取り組む姿勢（40%） ■各課題曲での目標の達成度、実践度（30%） ■自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（30%）
受講生への メッセージ	失敗を恐れずにとくさんトライして、共に学ぶ仲間と音楽を楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面（歌詞）、各自のMac、iPad（録音や動画撮影用）、各パートの楽器	

科目名 (英)	バンドアンサンブルⅡ Band Ensemble Ⅱ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜 3 限
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート（LIVE/レコーディング）、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 楽曲を通してメンバーとコミュニケーションを取り、自分らしい演奏やパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作1
2回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作2
3回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作3
4回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作4
5回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作5
6回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作6
7回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作7
8回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作8
9回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作9
10回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作10
11回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作11
12回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作12
13回目	評価
14回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ ブラッシュアップ
15回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ ブラッシュアップ
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	■授業へ取り組む姿勢（40%） ■各課題曲での目標の達成度、実践度（30%） ■自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（30%）
受講生への メッセージ	失敗を恐れずにとくさんトライして、共に学ぶ仲間と音楽を楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面（歌詞）、各自のMac、iPad（録音や動画撮影用）、各パートの楽器	

科目名 (英)	バンドアンサンブルⅢ Band Ensemble Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 4 限
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート（LIVE/レコーディング）、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 様々なジャンルの楽曲より、バンドアレンジやデジタル機材を用いたアレンジ、ステージパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲① 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ：ストレートなRock①
2回目	課題曲① 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ：ストレートなRock②
3回目	課題曲② 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ：Funk、R&B、POPSなどの16ビート①
4回目	課題曲② 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ：Funk、R&B、POPSなどの16ビート②
5回目	課題曲③ 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ：Shuffle、Swing16thなどのハネたグルーヴ感①
6回目	課題曲③ 楽曲よりリズム、抑揚、構成などを演奏者全員で合わせて演奏しよう テーマ：Shuffle、Swing16thなどのハネたグルーヴ感②
7回目	学園祭に向けて 課題曲より楽曲を仕上げていこう！
8回目	実演ライブに向けて 選曲、構成、アレンジなどアイデアを出して考えてみよう①
9回目	実演ライブに向けて 選曲、構成、アレンジなどアイデアを出して考えてみよう②
10回目	実演ライブに向けて 鏡を使ってお互いにステージパフォーマンスを確認しよう①
11回目	実演ライブに向けて 鏡を使ってお互いにステージパフォーマンスを確認しよう②
12回目	実演ライブに向けて 本番を想定してリハーサルをしよう！
13回目	実演ライブ 本番 前期で学んだことを活かし最高のパフォーマンスをしよう！
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	■ 授業へ取り組む姿勢（40%） ■ 各課題曲での目標の達成度、実践度（30%） ■ 自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（30%）
受講生への メッセージ	ひとりひとりの最高のパフォーマンスを磨いていく為に、一緒に表現の幅をどんどん広げていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面（歌詞）、各自のMac、iPad（録音や動画撮影用）、各パートの楽器	

科目名 (英)	バンドアンサンブルⅣ Band Ensemble IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 4 限
【授業の学習内容】 現在のライブシーンで役立つ技術・能力・知識を身につける。 イベント制作・課題曲を通してアンサンブル能力、コミュニケーション能力、ステージマナー、ステージパフォーマンスを学んでいく。 アレンジのアイデアと理解、各パートの演奏技術と知識、デジタル機材の使用法、楽曲や譜面に対する知識を身につける。 (講師プロフィール) 福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート（LIVE/レコーディング）、など活動は多岐にわたる							
【到達目標】 楽曲を通してメンバーとコミュニケーションを取り、自分らしい演奏やパフォーマンスができるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作1
2回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作2
3回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作3
4回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作4
5回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作5
6回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作6
7回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作7
8回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作8
9回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作9
10回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作10
11回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作11
12回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ 制作12
13回目	評価
14回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ ブラッシュアップ
15回目	We Are FSMに向けて楽曲のアレンジ ブラッシュアップ
準備学習 時間外 学習	受講前には音源、譜面、歌詞を基に自身が歌唱・演奏する事前練習を行う。
評価方法	■授業へ取り組む姿勢（40%） ■各課題曲での目標の達成度、実践度（30%） ■自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（30%）
受講生への メッセージ	ひとりひとりの最高のパフォーマンスを磨いていく為に、一緒に表現の幅をどんどん広げていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面（歌詞）、各自のMac、iPad（録音や動画撮影用）、各パートの楽器	

科目名 (英)	バンドアンサンブルⅤ Band Ensemble Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
【授業の学習内容】							
		・バンドメンバーと円滑なコミュニケーションをとる能力を身に付ける。 ・観ている人を感動させられるパフォーマンス・演奏技術を身に付ける。 ・楽曲のアレンジ(サイズチェンジ・キーチェンジ)の能力・理論を身に付ける。					
【講師プロフィール】							
		福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート（LIVE/レコーディング）、など活動は多岐にわたる					
【到達目標】							
		・ボーカルの力を最大限活かすことの出来る演奏が出来る。 ・ボーカルの要望に即座に対応し、円滑にリハーサルを進めることが出来る。 ・他パートの演奏にも耳を配り、臨機応変に演奏内容を変えられるようになる。					

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲①I Wish：ボーカルが歌いやすい音量感で演奏しよう
2回目	課題曲①I Wish：楽曲のサイズを変更して(XTime)、セクションの合図を出してみよう。ボーカルが安心できる演奏をしよう。
3回目	課題曲①I Wish：ボーカルが自然にノれる演奏をしよう
4回目	課題曲②ボーカルが自然にノれる演奏をしよう
5回目	課題曲②ボーカルが安心できるフィル、オカズを入れよう
6回目	課題曲②ボーカルが歌いやすい音量感で演奏しよう
7回目	課題曲③ボーカルが自然にノれる演奏をしよう
8回目	課題曲③ボーカルが安心できるフィル、オカズを入れよう
9回目	課題曲③ボーカルが歌いやすい音量感で演奏しよう
10回目	課題曲④ボーカルが自然にノれる演奏をしよう
11回目	課題曲④ボーカルが安心できるフィル、オカズを入れよう
12回目	課題曲④ボーカルが歌いやすい音量感で演奏しよう
13回目	課題曲⑤ボーカルが自然にノれる演奏をしよう
14回目	課題曲⑤ボーカルが安心できるフィル、オカズを入れよう
15回目	課題曲⑤ボーカルが歌いやすい音量感で演奏しよう
準備学習 時間外学習	・授業前にもらった資料をもとに、予習をする ・授業までに、譜面の作成をする ・授業で習った内容をもとに、継続的に復習する
評価方法	・出席率(40%) ・授業に取り組む姿勢(30%) ・各授業での達成度・実践度(30%)
受講生への メッセージ	ミュージシャンにとって、ライブはたくさんの人に評価を得られる最大のチャンスです。 お客さんや関係者に感動を与え、たくさんの人から必要とされる人材になれるよう成長していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
・筆記用具 ・iPad,Mac ・課題テキスト(授業で配布します) ・五線譜	

科目名 (英)	バンドアンサンブルVI Band Ensemble VI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
【授業の学習内容】		・バンドメンバーと円滑なコミュニケーションをとる能力を身に付ける。 ・観ている人を感動させられるパフォーマンス・演奏技術を身に付ける。 ・楽曲のアレンジ(サイズチェンジ・キーチェンジ)の能力・理論を身に付ける。					
【講師プロフィール】		福岡中心にPops/Rock/Jazzなど広いフィールドで活躍するほかにもCM楽曲制・アーティストのサポート（LIVE/レコーディング）、など活動は多岐にわたる					
【到達目標】		・ボーカルの力を最大限活かすことの出来る演奏が出来る。 ・ボーカルの要望に即座に対応し、円滑にリハーサルを進めることが出来る。 ・他パートの演奏にも耳を配り、臨機応変に演奏内容を変えられるようになる。					

授業計画・内容	
1回目	We Are FSMに向けて 楽曲担当振り割り
2回目	We Are FSMに向けて コーラス担当振り割り
3回目	We Are FSMに向けて 担当楽曲練習
4回目	We Are FSMに向けて 楽曲アレンジの調整①
5回目	We Are FSMに向けて 楽曲アレンジの調整②
6回目	We Are FSMに向けて 楽曲アレンジの調整③
7回目	We Are FSMに向けて パフォーマンスチェック①
8回目	We Are FSMに向けて パフォーマンスチェック②
9回目	We Are FSMに向けて パフォーマンスチェック③
10回目	全曲通しリハーサル①
11回目	全曲通しリハーサル②
12回目	全曲通しリハーサル③
13回目	We Are FSMに向けて パフォーマンス ブラッシュアップ
14回目	We Are FSMに向けて パフォーマンス ブラッシュアップ
15回目	We Are FSMに向けて パフォーマンス ブラッシュアップ
準備学習 時間外 学習	・授業前にもらった資料をもとに、予習をする ・授業までに、譜面の作成をする ・授業で習った内容をもとに、継続的に復習する
評価方法	・出席率(40%) ・授業に取り組む姿勢(30%) ・各授業での達成度・実践度(30%)
受講生への メッセージ	ミュージシャンにとって、ライブはたくさんの人に評価を得られる最大のチャンスです。 お客さんや関係者に感動を与え、たくさんの人から必要とされる人材になれるよう成長していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
・筆記用具 ・iPad,Mac ・課題テキスト(授業で配布します) ・五線譜	

科目名 (英)	アンサンブル I Ensemble I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜 2 限
【授業の学習内容】 楽曲を教え、準備していく過程の中、音楽を構築していく為の知識と技術を学ぶ授業。発音、音程、リズム、アナライズ、あらゆるカテゴリの必要性を知り、自身の歌唱力を上げていく。また、知識を教員が教授するだけではなく、構成主義に基づく教育の上で成果物を公に示していくことを定期的に行い、小さな本番を繰り返して改善するサイクルの中で新たな発見を促す。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。 【到達目標】 歌唱に必要な知識と技術を、楽曲を通して知ることができる。また、人前でパフォーマンスをすることでの経験値を積む事ができる。そしてその経験の中で、仮説、試作、実践、振り返り、再構築、実践、、、という学びのサイクルの本質を学ぶことを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	授業内容説明。男性・女性 カントリーロードを学ぶ
2回目	カントリーロードの復習。歌唱技術・知識を学ぶ
3回目	カントリーロードの仕上げ。歌詞を見ずに歌唱
4回目	男性・Take on me 女性 I feel the earte move を学ぶ
5回目	課題曲復讐。歌唱技術・知識を学ぶ
6回目	2週目課題曲仕上げ。歌詞を見ずに歌う
7回目	中間発表、配信を通して成果物を発表、振り返り
8回目	男性・The dock of the bay 女性・I say little prayer を学ぶ
9回目	課題曲復讐。歌唱技術・知識を学ぶ
10回目	3週目課題曲仕上げ。歌詞を見ずに歌う
11回目	前期最後の発表曲を歌唱指導
12回目	前期発表（試験）
13回目	まとめ
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲の予習・復習
評価方法	出席率 授業態度 課題曲仕上げ度
受講生への メッセージ	音楽は、課題曲を通してその曲だけを歌えるようになっても成果は十分ではありません。大切なのは練習の仕方、ステージに立つ経験の中で得る学び、改善してまた次に臨むこと、このサイクルを学ぶことが重要です。練習の仕方を学び、どのような曲でもその習慣が生かされるような基礎力を見に付けましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 譜面・図表・リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	アンサンブル II Ensemble II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜 2 限
【授業の学習内容】 楽曲を教え、準備していく過程の中、音楽を構築していく為の知識と技術を学ぶ授業。発音、音程、リズム、アナライズ、あらゆるカテゴリの必要性を知り、自身の歌唱力を上げていく。また、知識を教員が教授するだけではなく、構成主義に基づく教育の上で成果物を公に示していくことを定期的の実施し、小さな本番を繰り返して改善するサイクルの中で新たな発見を促す。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。 【到達目標】 歌唱に必要な知識と技術を、楽曲を通して知ることができる。また、人前でパフォーマンスをすることでの経験値を積む事ができる。そしてその経験の中で、仮説、試作、実践、振り返り、再構築、実践、、、という学びのサイクルの本質を学ぶことを目標とする。							

授業計画・内容	
1回目	後期授業プロセスの説明。男性 Honesty 女性 Time after time を学ぶ
2回目	1週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
3回目	1週目課題曲の仕上げ。歌詞を見ずに歌う
4回目	男性 Every breath you take 女性 We are never ever getting betterを学ぶ
5回目	2週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
6回目	2週目課題曲の仕上げ。歌詞を見ずに歌う
7回目	中間発表会、配信にて成果物を発表、振り返り
8回目	男性・Perfect 女性 Some one like youを学ぶ
9回目	3週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
10回目	3週目課題曲の仕上げ。歌詞を見ずに歌う
11回目	最終発表（後期試験）
12回目	まとめ
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外 学習	課題曲の予習・復習
評価方法	出席率 授業態度 課題曲仕上げ度
受講生への メッセージ	成長に重要なのは、経験を活かすことです。前期に学んだことは後期に活かすこと、同じミスを繰り返さない、もし繰り返す場合はその原因をしっかりとみつけて改善していくことが大切です。成長をサイクルをつかみとっていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 譜面・図表・リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	アンサンブル Ⅲ Ensemble Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜 3 限
【授業の学習内容】 世界に通用するヴォーカリストを目指す上で必要最低限の洋楽曲のレパートリーを、様々なジャンル、有名な曲から抜粋しレクチャーされた内容を各自演奏し披露する。観客の前でフロントマンとして説得力のある歌唱力、パフォーマンス力、コーラスワーク、演奏をする上での自身のトータルセルフプロデュース力を身につける。世界的な名曲に真摯に向き合い演奏することにより、好みに左右されることがなく良いものから学びを得ていき今後展開していくそれぞれのヴォーカリストの基盤を築く。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 英語での歌唱を楽しめるようになる。好みに左右されないレパートリーを常に練習、準備することで歌唱力、表現力を身につけ様々なシーンで応用、対応出来るようになる。人前で自分のベストパフォーマンスが出来るようになる。かつこよく歌う自分を具体的にプランし表現出来るようになる。コーラスワークの歌唱対応力、コーラス時の動き、立居振る舞いが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲①Don't stop believin' 1コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
2回目	課題曲①1コーラス発表、フィードバック実践
3回目	課題曲②Careless whisper,Rehub 1コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
4回目	課題曲②1コーラス発表、フィードバック実践
5回目	課題曲③Livin' la vida loca,Just missed the train 1コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
6回目	課題曲③1コーラス発表、フィードバック実践
7回目	課題曲④What's goin' on,I wanna dance with somebody 1コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
8回目	課題曲④1コーラス発表、フィードバック実践
9回目	課題曲⑤Always,Stronger 1コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
10回目	課題曲⑤1コーラス発表、フィードバック実践
11回目	課題曲⑥This love,I will survive 1コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
12回目	課題曲⑥1コーラス発表、フィードバック実践
13回目	前期発表会
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	オリジナルアーティストの動画鑑賞等
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	一年生時に学んできたことをいかに土台として応用を効かせられるか、また、これから得る学びに対していかに恐れずチャレンジしていかけるか、様々な楽曲を通して体験してもらえと思っています。今見えていることに縛られず、まだ知らない自分をたくさんのジャンルやアーティストによって手に入れていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 譜面・図表・リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	アンサンブル IV Ensemble IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜 3 限
【授業の学習内容】 世界に通用するヴォーカリストを目指す上で必要最低限の洋楽曲のレパートリーを、様々なジャンル、有名な曲から抜粋しレクチャーされた内容を各自演奏し披露する。観客の前でフロントマンとして説得力のある歌唱力、パフォーマンス力、コーラスワーク、演奏をする上で自身のトータルセルフプロデュース力を身につける。世界的な名曲に真摯に向き合い演奏することにより、好みに左右されることがなく良いものから学びを得ていき今後展開していくそれぞれのヴォーカリストの基盤を築く。 (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカリストスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 英語での歌唱を楽しめるようになる。好みに左右されないレパートリーを常に練習、準備することで歌唱力、表現力を身につけ様々なシーンで応用、対応出来るようになる。人前で自分のベストパフォーマンスが出来るようになる。かつこよく歌う自分を具体的にプランし表現出来るようになる。コーラスワークの歌唱対応力、コーラス時の動き、立居振る舞いが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	課題曲①Just the way you are,Theme from Mahogany 1 コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
2回目	課題曲① 1 コーラス発表、フィードバック実践
3回目	課題曲②All of me,Underdog 1 コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
4回目	課題曲② 1 コーラス発表、フィードバック実践
5回目	課題曲③Thausand miles 1 コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
6回目	課題曲③ 1 コーラス発表、フィードバック実践
7回目	課題曲④Perfect,Roar 1 コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
8回目	課題曲④ 1 コーラス発表、フィードバック実践
9回目	課題曲⑤Endless love 1 コーラスレクチャー（発音、リズム、音程）、発表
10回目	課題曲⑤ 1 コーラス発表、フィードバック実践
11回目	発表会リハーサル
12回目	後期発表会
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外 学習	オリジナルアーティストの動画鑑賞等
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	一年生時に学んできたことをいかに土台として応用を効かせられるか、また、これから得る学びに対していかに恐れずチャレンジしていきけるか、様々な楽曲を通して体験してもらえと思っています。今見えていることに縛られず、まだ知らない自分をたくさんのジャンルやアーティストによって手に入れていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 譜面・図表・リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	アンサンブルⅤ Ensemble Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
【授業の学習内容】		ジャムセッションの現場で演奏される頻度が高いインストゥルメンタルの楽曲を演奏する。ジャムセッションの進行やルール、演奏する編成に適したアプローチを学ぶ。					
【講師プロフィール】山口 涼也。ギタリスト、インストラクター。FOS GUITAR SCHOOL代表。ギターマガジン最強プレイヤーズコンテスト2011準グランプリ。JTC Guitar Jam of the month 2020 April 優勝。JTC Guitar Jam of the month 2020 Final 準優勝。							
【到達目標】		課題曲のメロディ、バックিংのリズムに合った適切なアプローチで弾くことが出来る。セクションの変わり目やソロの受け渡し等でアイコンタクトが出来る。コード進行のアナライズを行い適切なソロを弾くことが出来る。バンドリーダーとしてメンバーに進行や決め事を伝えることが出来る。					

授業計画・内容	
1回目	「Key=E 3コードのブルース(8th)」ステージマナーを養い、楽器・機材の基本的な使い方を覚える。
2回目	「Key=A 3コードのブルース(シャッフル)」カウントの出し方、曲の締め方を理解する。アンサンブルにおける音量バランスを覚える。□
3回目	「3コードのブルース(メロディあり)」基本的な楽譜の読み方を理解し、演奏する。□
4回目	「3コードのブルース(メロディ・ソロあり)」共通譜面におけるリピータ記号や括弧、コード等の記号の意味を理解し演奏する。□
5回目	「Cissy Strut」演奏中のアイコンタクト等、コミュニケーション能力を養う。リハーサルマークの意味を理解し演奏する。□
6回目	「Cissy Strut」演奏中のアイコンタクト等、コミュニケーション能力を養う。楽曲を完成させる。□
7回目	「The Chicken」楽曲のリズムを演奏者全員が体の動きを通して共有し、Feelの合った演奏を学ぶ。□
8回目	「The Chicken」ストレートとスウィングの16beatの違いを理解し演奏する。楽曲を完成させる。□
9回目	「Sunny」楽曲における抑揚のつけかた、演奏の表現方法を学ぶ。□
10回目	「Sunny」イントロ、アウトロの作成方法を学ぶ。楽曲を完成させる。□
11回目	「Chameleon」楽曲のキメを理解し演奏する。キメ後の拍数をカウントする。□
12回目	「Chameleon」ソロを弾く。楽曲を完成させる。
13回目	ソロの作り方、アドリブのアイディア、バックিংやコードコンピングのアイディア講座
14回目	テスト週 これまでの知識を生かしてバンドを作り演奏する。(リハーサル) □
15回目	テスト週 これまでの知識を生かしてバンドを作り演奏する。(本番) □
準備学習 時間外 学習	受講の前には音源、譜面を基に自身が演奏するパートの練習を行う。
評価方法	授業へ取り組み姿勢 (40%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度 (30%) 自己実現力と演奏力の向上度 (30%)
受講生への メッセージ	失敗を恐れずにチャレンジする気持ちを大切にして、一緒に音楽を楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	
音源、譜面、各自のMac、iPad (録音用、動画撮影用)、オリジナルテキスト、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	アンサンブルⅥ Ensemble Ⅵ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 木曜4限
【授業の学習内容】 ジャムセッションの現場で演奏される頻度が高いインストゥルメンタルの楽曲を演奏する。ジャムセッションの進行やルール、演奏する編成に適したアプローチを学ぶ。 【講師プロフィール】山口 涼也。ギタリスト、インストラクター。FOS GUITAR SCHOOL代表。ギターマガジン最強プレイヤーズコンテスト2011準グランプリ。JTC Guitar Jam of the month 2020 April 優勝。JTC Guitar Jam of the month 2020 Final 準優勝。							
【到達目標】 課題曲のメロディ、バックিংのリズムに合った適切なアプローチで弾くことが出来る。セクションの変わり目やソロの受け渡し等でアイコンタクトが出来る。コード進行のアナライズを行い適切なソロを弾くことが出来る。バンドリーダーとしてメンバーに進行や決め事を伝えることが出来る。							

授業計画・内容	
1回目	「Led Boots」リズムパターンのキメや変拍子を理解し演奏する。
2回目	「Led Boots」楽曲を完成させる。
3回目	「Footprints」4分の3拍子のリズムを理解し演奏する。
4回目	「Footprints」楽曲を完成させる。
5回目	「C Jam Blues」Swingのリズムを理解し演奏する。□
6回目	「C Jam Blues」4barsや8barsの受け渡しができるようになる。□
7回目	「Fly me to the moon」Bbsa Novaのリズムを理解し演奏する。□
8回目	「Fly me to the moon」定番のイントロやエンディング、セクションの変わり目のリズムパターンを理解し演奏する。□
9回目	「Isn't she lovely」リズムパターンのキメや拍子を理解し演奏する。
10回目	「Isn't she lovely」楽曲を完成させる。
11回目	テスト週 これまでの知識を生かしてバンドを作り演奏する。(リハーサル) □
12回目	テスト週 これまでの知識を生かしてバンドを作り演奏する。(本番) □
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外 学習	受講の前には音源、譜面を基に自身が演奏するパートの練習を行う。
評価方法	授業へ取り組み姿勢 (40%) 各課題曲での目標の達成度、実戦度 (30%) 自己実現力と演奏力の向上度 (30%)
受講生への メッセージ	失敗を恐れずにチャレンジする気持ちを大切にして、一緒に音楽を楽しみましょう！
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面、各自のMac、iPad（録音用、動画撮影用）、オリジナルテキスト、滋慶学園テキスト	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニック Vocal Technique I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日1限目
【授業の学習内容】 譜面や図を用いてのリズム、リズムパターンの解説とリズムトラックを用いてグルーワークトレーニング 譜面を用いてのさまざまなスケールの解説と歌唱実践、トラックを用いてのグルーワークトレーニング リズムとメロディーを合わせたインプロビゼーションの解説と実践、課題曲や小節フレーズでのダイナミックスのトレーニング (講師プロフィール) 200曲以上をレパートリーに持つゴスベルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 リズム、リズムパターンのバリエーションを理解して歌えるようになろう♪ スケールを歌いこなせるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンとシンプルなコード進行の中で歌えるようになろう♪ ダイナミックスをコントロールして歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	さまざまなテクニックを知り、可能性を見つけよう
2回目	リズムとリズムパターンを聴き取れるようになろう
3回目	リズムとリズムパターンを体感して再現できるようになろう
4回目	3種類のスケールを聴き取れるようになろう
5回目	3種類のスケールを歌えるようになろう
6回目	リズムパターンの中でリズムを駆使してスケールを歌えるようになろう
7回目	小テスト
8回目	3和音の聴き取りと機能が理解できるようになろう
9回目	シンプルなコード進行の中でリズムとメロディーを用いて歌ってみよう
10回目	2種類のダイナミックスを聴き取れるようになろう
11回目	2種類のダイナミックスを再現できるようになろう
12回目	リズムとメロディーとダイナミックスを用いてシンプルなコード進行の中で歌ってみよう
13回目	評価週
14回目	振り返り
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試行 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 譜面 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニック Vocal Technique II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜日1限目
【授業の学習内容】 課題曲や小・小節フレーズでの音色のトレーニング、音色とダイナミクスを合わせたインプロビゼーションの解説と実践 和音の機能解説と聴感トレーニング、課題曲を用いての歌詞のアナライズ 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 音色をコントロールして歌えるようになろう♪ 音色とダイナミクスを合わせて音楽的に歌えるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンと複雑なコード進行の中で歌えるようになろう♪ 歌唱の理解と自由解釈を通して、感情と歌唱表現を一致させて歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	3種類の音色を聴き取れるようになろう
2回目	3種類の音色を再現できるようになろう
3回目	ダイナミクスと音色を聴き取れるようになろう
4回目	ダイナミクスと音色を同時に再現できるようになろう
5回目	自由に歌ってみよう
6回目	小テスト
7回目	複雑な3和音を聴き取れるようになろう
8回目	複雑な3和音の中でリズムとメロディーをコントロールして歌えるようになろう
9回目	歌詞の世界観を味わい深く理解できるようになろう
10回目	歌詞を解釈して自身の感情や歌唱表現と繋ぎ合わせれるようになろう
11回目	自由に表現して歌ってみよう
12回目	評価週
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試行 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニク	必修 選択	選択 必修	年次	2		
	Vocal Technique III	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 譜面や図を用いてのリズム、リズムパターンの解説とリズムトラックを用いてグループワークトレーニング、譜面を用いてのさまざまなスケールの解説と歌唱実践、トラックを用いてのグループワークトレーニング、リズムとメロディーを合わせたインプロビゼーションの解説と実践 課題曲や小節フレーズでのダイナミックスのトレーニング （講師プロフィール） 200曲以上をレパートリーに持つゴスベルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカルスクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 リズム、リズムパターンのバリエーションを理解して歌えるようになろう♪ スケールを歌いこなせるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンとシンプルなコード進行の中で歌えるようになろう♪ ダイナミックスをコントロールして歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	さまざまなテクニックを知り、可能性を広げよう
2回目	リズムとリズムパターン聴き取り、その主なジャンルが理解できるようになろう
3回目	リズムとリズムパターンを体感して再現できるようになろう
4回目	6種類のスケールを聴き取れるようになろう
5回目	6種類のスケールを歌えるようになろう
6回目	リズムパターンの中でリズムを駆使してスケールを歌いこなそう
7回目	小テスト
8回目	4和音の聴き取りと機能が理解できるようになろう
9回目	シンプルなコード進行の中でリズムとメロディーを用いて歌いこなせるようになろう
10回目	4種類のダイナミックスを聴き取れるようになろう
11回目	4種類のダイナミックスを再現できるようになろう
12回目	リズムとメロディーとダイナミックスを用いてシンプルなコード進行の中で歌いこなそう
13回目	評価週
14回目	振り返り
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試行 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 譜面 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニック Vocal Technique IV	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜2限
【授業の学習内容】 課題曲や小節フレーズでの音色のトレーニング、音色とダイナミックスを合わせたインプロビゼーションの解説と実践 和音の機能解説と聴感トレーニング、課題曲を用いての歌詞のアナライズ 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 音色をコントロールして歌えるようになろう♪ 音色とダイナミックスを合わせて音楽的に歌えるようになろう♪ リズムとメロディーを用いてさまざまなリズムパターンと複雑なコード進行の中で歌えるようになろう♪ 歌唱の理解と自由解釈を通して、感情と歌唱表現を一致させて歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	5種類の音色を聴き取れるようになろう
2回目	5種類の音色を再現できるようになろう
3回目	ダイナミックスと音色を聴き取れるようになろう
4回目	ダイナミックスと音色を同時に再現できるようになろう
5回目	ダイナミックスと音色を自由に歌いこなそう
6回目	小テスト
7回目	複雑な4和音を聴き取れるようになろう
8回目	複雑な4和音の中でリズムとメロディーをコントロールして歌いこなそう
9回目	歌詞の世界観を味わい深く理解できるようになろう
10回目	歌詞を解釈して自身の感情や歌唱表現と繋ぎ合わせれるようになろう
11回目	自由に表現して歌えるようになろう
12回目	評価週
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	課題曲視聴、分析、歌唱 音源トラックでの歌唱試演 譜面、図解の熟読
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より自由に、より楽しく、より感動的に歌える、本格派と一緒に目指しましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 譜面 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニックV Vocal Technique V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜1限
【授業の学習内容】 ボーカリゼーションによる発声的歌唱の強化 スケルトレーニングによる音程の精度向上 インプロビゼーションによる音楽的表現度の自由化 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんや、EXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICCSファミリーのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 ボーカリゼーションを用いて柔軟な発声的歌唱ができるようになろう♪ スケルトレーニングで音程の精度を上げよう♪ インプロビゼーションのアプローチを理解実践し自由なフレーズを歌唱できるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	リズム、メロディー、和音感、インプロビゼーション、歌詞解釈の基礎を土台にした技術についての解説と実践
2回目	ボーカリゼーション:得意な母音、苦手な母音の発見
3回目	ボーカリゼーション:声門アタックと氣息音アタック回避のためのワーク
4回目	ボーカリゼーション:アーティキュレーショントレーニング
5回目	評価
6回目	音程の精度:上昇アプローチによるピッチコントロール
7回目	音程の精度:下降アプローチによるピッチコントロール
8回目	評価
9回目	インプロビゼーション:モチーフを意識してのタイムストレッチ、リズムミックディスプレイメント
10回目	インプロビゼーション:モチーフを意識してのダブルタイム、ハーフタイム
11回目	評価
12回目	ジャンル別ボーカリゼーション:ロックステップス、ロックシンコペーション
13回目	ジャンル別ボーカリゼーション:マイナーオクターブ、ラテンオクターブ
14回目	ジャンル別ボーカリゼーション: R & Bペンタトニックとパターン、ゴスペルスイング
15回目	評価
準備学習 時間外 学習	情報と体感の紐付け 各種項目を意識した楽曲視聴と歌唱トレーニング 反復練習による無意識化
評価方法	遅刻欠席、予習復習のチェック、授業態度、評価における理解度
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より本格的に歌えるよう、一緒に歩みましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルテクニックVI Vocal Technique VI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜1限
【授業の学習内容】 ジャンル別のコーラスワークでの知識と音楽力強化 高度なインプロビゼーションの理解と実践でのフレーズの自由化 総合的な歌唱のアプローチ 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんや、EXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICCSファミリーのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 ジャンル別のコーラスワークの特徴を理解し再現できるようになる♪ 高度なインプロビゼーションのアプローチを理解し歌唱できるようになる♪ 基礎を土台とした魅力的な歌唱ができるようになる♪							

授業計画・内容	
1回目	ジャンル別ハーモニーエクササイズ:2声ポップロック
2回目	ジャンル別ハーモニーエクササイズ: 2声カントリー
3回目	ジャンル別ハーモニーエクササイズ:2声ブルース
4回目	評価
5回目	ジャンル別ハーモニーエクササイズ: 2声R & Bポップ
6回目	ジャンル別ハーモニーエクササイズ:2声ファンク
7回目	評価
8回目	インプロビゼーション:モチーフを意識してのメロディックレンジ、クロマティックスケール
9回目	インプロビゼーション:モチーフを意識してのメロディックレンジ、トライトニックスケール
10回目	インプロビゼーション:モチーフを意識してのメロディックレンジ、テトラトニックスケール
11回目	自己評価と他者評価による音楽性の構築
12回目	総合評価
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	情報と体感の紐付け 各種項目を意識した楽曲視聴と歌唱トレーニング 反復練習による無意識化
評価方法	遅刻欠席、予習復習のチェック、授業態度、評価における理解度
受講生への メッセージ	テクニックを知り、習得することで、みなさんのヴォーカル力は進化していくでしょう♪ より本格的に歌えるよう、一緒に歩みましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 図表 リズム、音源トラック 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンス I Vocal Performance I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜 3 限
【授業の学習内容】 ピアノと一人の最小規模のスタイルで、ステージでの歌唱、表現、演出を学ぶ。世界的に評価の高いピアノデュオ向きの楽曲を通して、ピアノ演奏とのコミュニケーションや対応力、歌唱の基盤、パフォーマンスを身につける。また、ソロヴォーカリストとして独自の確立を図る。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ピアノデュオというスタイルを、ピアニストと共に創り上げられるようになる。ピアノ以外に頼る部分がないことから、より一層歌唱を仕上げていけるようになる。ピアニストに明確に自分のイメージを演奏の形に指示できるようになる。フレージングやキー設定など、個々のスキルに沿った歌唱デザインが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲①The Roseレクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
2回目	①復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ、コーラスワークレクチャー
3回目	①復習、発表（フルコーラス、コーラスワーク）
4回目	②The long and winding road レクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
5回目	②復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ
6回目	②復習、発表、フルコーラス仕上げ
7回目	③You light up my life, Now and foreverレクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
8回目	③復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ
9回目	③復習、発表、フルコーラス仕上げ
10回目	④I won't last a day without you, Honestyレクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
11回目	④復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ
12回目	④復習、発表、フルコーラス仕上げ
13回目	学期末発表会
14回目	発表会評価
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	課題アーティストに関連する動画の鑑賞、歌詞の和訳等
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ピアノデュオというスタイルはヴォーカリストそのものが際立つ、非常にシンプルでダイレクトなスタイルです。このスタイルを習得することにより、ヴォーカリストとしての自信もつけていながら、より繊細に、よりダイナミックに、自分の持つ力を更に磨いていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅡ Vocal Performance Ⅱ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 3 限
【授業の学習内容】 ピアノと一人の最小規模のスタイルで、ステージでの歌唱、表現、演出を学ぶ。世界的に評価の高いピアノデュオ向きの楽曲を通して、ピアノ演奏とのコミュニケーションや対応力、歌唱の基盤、パフォーマンスを身につける。また、ソロヴォーカリストとして独自の確立を図る。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。 【到達目標】 ピアノデュオというスタイルを、ピアニストと共に創り上げられるようになる。ピアノ以外に頼る部分がないことから、より一層歌唱を仕上げていけるようになる。ピアニストに明確に自分のイメージを演奏の形に指示できるようになる。フレージングやキー設定など、個々のスキルに沿った歌唱デザインが出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	⑤Colorblind,Sheレクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
2回目	⑤復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ、レクチャー
3回目	⑤復習、発表（フルコーラス、コーラスワーク）
4回目	⑥Let it rain,Hard to say I'm sorryレクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
5回目	⑥復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ、レクチャー
6回目	⑥復習、発表（フルコーラス、コーラスワーク）
7回目	⑦Bridge over troubled waterレクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
8回目	⑦復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ、レクチャー
9回目	⑦復習、発表（フルコーラス、コーラスワーク）
10回目	⑧Let it beレクチャー（発音、音程、リズム、1コーラス仕上げ）
11回目	⑧復習、発表（1コーラス）、フルコーラス仕上げ、レクチャー
12回目	総合発表会 本番
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	課題アーティストに関連する動画の鑑賞、歌詞の和訳等
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ピアノデュオというスタイルはヴォーカリストそのものが際立つ、非常にシンプルでダイレクトなスタイルです。このスタイルを習得することにより、ヴォーカリストとしての自信もつけていながら、より繊細に、よりダイナミックに、自分の持つ力を更に磨いていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 歌詞カード・ノート・筆記用具・録音機器	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅢ Vocal Performance Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 3 限
【授業の学習内容】 ピアノと一人の最小規模のスタイルで、ステージでの歌唱、表現、演出を学ぶ。世界的に評価の高いピアノデュオ向きの楽曲を通して、ピアノ演奏とのコミュニケーションや対応力、歌唱の基盤、パフォーマンスを身につける。また、ソロヴォーカリストとして独自の確立を図る。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 リズムやグルーブを意識して歌えるようになろう♪ タイミングをコントロールして歌えるようになろう♪ ダイナミックスを用いて音楽的に歌えるようになろう♪ リズム、タイミング、ダイナミックスを用いたアンサンブルができるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	デュオアンサンブルの要素を知り、可能性を見つけよう
2回目	基本となるテンポ、ビートを意識して歌えるようになろう
3回目	グルーブを体感して躍動感のある歌を歌えるようになろう
4回目	タイミングを意識して歌えるようになろう
5回目	タイミングをコントロールして歌えるようになろう
6回目	リズムとタイミングを用いて歌ってみよう
7回目	小テスト
8回目	楽曲のダイナミックスを意識して歌えるようになろう
9回目	楽曲のダイナミックスをコントロールして歌えるようになろう
10回目	リズムとダイナミックスを意識して歌えるようになろう
11回目	タイミングとダイナミックスを意識して歌えるようになろう
12回目	リズムとタイミングとダイナミックスを意識して歌ってみよう
13回目	学期末発表会
14回目	発表会評価
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	課題曲の熟聴、分析 発音、リズム、メロディー、音楽的表現の試歌唱練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	歌唱スキルとアンサンブル要素を修練していきます♪ みなさんが成果成長を感じ、自信を持って歌い続けられるように努めていきますので、一緒に頑張りましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 歌唱 音源 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
	Vocal Performance Ⅳ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜 3 限
【授業の学習内容】 ピアノと一人の最小規模のスタイルで、ステージでの歌唱、表現、演出を学ぶ。世界的に評価の高いピアノデュオ向きの楽曲を通して、ピアノ演奏とのコミュニケーションや対応力、歌唱の基盤、パフォーマンスを身につける。また、ソロヴォーカリストとして独自の確立を図る。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 リズムパターンやテンポ感や曲のムードを指示して、その変化の中で歌えるようになる♪ 伴奏者の意図を読み取り呼吸を合わせて歌えるようになる♪ 合図やアイコンタクトを使い演奏をコントロールしながら歌えるようになる♪ 自身の歌唱力や発声力が活かせるキーで、アンサンブル要素を用いた総合的な歌唱ができるようになる♪							

授業計画・内容	
1回目	リズムパターンやテンポの変化を意識して歌えるようになる
2回目	リズムパターンやテンポをコントロールして歌えるようになる
3回目	伴奏者のプランに合わせて歌えるようになる
4回目	伴奏者と共に演奏をプランして歌えるようになる
5回目	リズム、タイミング、ダイナミクス、リズムパターン、テンポを用いて歌ってみよう
6回目	小テスト
7回目	合図やアイコンタクトを意識して歌えるようになる
8回目	合図やアイコンタクトで伴奏をコントロールして歌えるようになる
9回目	ニュートラルなポイントを見つけ、周りを観て聴いて歌えるようになる
10回目	周りを観て聴いて、アンサンブル要素を用いて歌えるようになる
11回目	歌唱要素とアンサンブル要素を合わせて歌ってみよう
12回目	評価週
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	課題曲の熟聴、分析 発音、リズム、メロディー、音楽的表現の試歌唱練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	歌唱スキルとアンサンブル要素を修練していきます♪ みなさんが成果成長を感じ、自信を持って歌い続けられるように努めていますので、一緒に頑張りましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 歌唱 音源 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅤ Vocal Performance Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜2限
【授業の学習内容】 テンポ、リズムパターン、タイミング、ダイナミクスを音楽的に聴感的に生成し演奏する 音楽的コミュニケーションの実践 歌唱とフィードバック 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんや、EXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICCSファミリーのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 リズムやグルーブをコントロールして歌えるようになろう♪ タイミングをコントロールして歌えるようになろう♪ ダイナミクスをコントロールして歌えるようになろう♪ 音楽的コミュニケーションができるようになろう♪♪							

授業計画・内容	
1回目	テンポとリズムパターンをコントロールして歌えるようになろう
2回目	自由にテンポやパターン設定し適応する術を学び、演奏できるようになろう♪
3回目	評価
4回目	タイミングとダイナミクスをコントロールして歌ってみよう
5回目	自由にタイミングとダイナミクスを設定し適応する術を学び、演奏できるようになろう♪
6回目	評価
7回目	タイミングとダイナミクス、テンポとリズムパターンをコントロールして歌ってみよう
8回目	上記のを設定適応させ演奏しよう
9回目	評価
10回目	コールアンドレスポンスのチャレンジ
11回目	音楽的なコールアンドレスポンスの技法を学び、実践できるようになろう
12回目	評価
13回目	シチュエーショントレーニング、無関心への対応
14回目	困難なべ場面での対応法を検証し、効果的な雰囲気づくりができるようになろう
15回目	総合評価
準備学習 時間外学習	課題曲の熟聴、分析 リズム、メロディー、音楽的表現の試歌唱練習
評価方法	出席率 受講態度 発表頻度と達成度
受講生への メッセージ	歌唱スキルとアンサンブル、アーティスト性の要素を修練していきます♪ みなさんが成果成長を感じ、自信を持って歌い続けられるように努めていきますので、一緒に頑張りましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 音源 スコア 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅥ Vocal Performance Ⅵ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜2限
【授業の学習内容】 テンポ、リズムパターン、タイミング、ダイナミクスを音楽的に聴感的に生成し演奏する 音楽的コミュニケーションの実践 歌唱とフィードバック 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんや、EXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICCSファミリーのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 印象的なフレーズを組み込み、魅力的な演奏ができるようになろう♪ コーラスワークを曲中で実践し、聴衆との一体感を演出できるようになろう♪ アーティストとしての魅力的な世界観を形成できるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	モーメントを意識して歌ってみよう
2回目	モーメントのバリエーションを知り実践できるようになろう
3回目	評価
4回目	曲中のコーラスワークにチャレンジ
5回目	決められたコーラスワークを理解し、提示歌唱できるようになろう
6回目	評価
7回目	オーディエンスの情動やリアクションと音楽的な再現を意識して歌ってみよう
8回目	情動やリアクションに対しての音楽的アプローチを検証し、実践できるようになろう
9回目	評価
10回目	アトモスフィアトレーニング、曲中での応対を意識して歌ってみよう
11回目	キャラクター設定、語調、身構え方などを検証し、効果的なインプレッションを与えられるようになろう♪
12回目	総合評価
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	課題曲の熟聴、分析 リズム、メロディー、音楽的表現の試歌唱練習
評価方法	出席率 受講態度 発表頻度と達成度
受講生への メッセージ	歌唱スキルとアンサンブル、アーティスト性の要素を修練していきます♪ みなさんが成果成長を感じ、自信を持って歌い続けられるように努めていきますので、一緒に頑張りましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 音源 スコア 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅦ Vocal Performance Ⅶ	必修 選択	選択 必修	年次	4		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜1限
【授業の学習内容】 テンポ、リズムパターン、タイミング、ダイナミクスを音楽的に聴感的に生成し演奏する 魅力的で効果的な音楽的コミュニケーションの実践。歌唱とフィードバック 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんやEXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICSFAMILYのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 リズムやグルーブを演奏中にコントロールして歌えるようになろう♪ タイミングを演奏中にコントロールして歌えるようになろう♪ ダイナミクスを演奏中にコントロールして歌えるようになろう♪ フレキシブルな音楽的コミュニケーションができるようになろう♪♪							

授業計画・内容	
1回目	テンポとリズムパターンをコントロールしたフラクチュエイティブな歌唱にチャレンジしよう♪
2回目	テンポキープを根本に、聴衆を感動させるための情動的で音楽的なリズムミックアプローチができるようになろう♪
3回目	評価
4回目	タイミングとダイナミクスをコントロールしたフラクチュエイティブな歌唱にチャレンジしよう♪
5回目	音楽的なだタイミングやダイナミクスを根本に、聴衆を感動させるための情動的で音楽的なリズムミックアプローチができるようになろう♪
6回目	評価
7回目	タイミングとダイナミクス、テンポとリズムパターンをコントロールしたフラクチュエイティブな歌唱を完成させようp♪
8回目	上記を根本に、リズムミックアプローチを完成させよう♪
9回目	評価
10回目	コールアンドレスポンスの演奏中の生成にチャレンジしよう♪
11回目	効果的で音楽的なフレージングのアイディアの生成法を学び実践できるようになろう♪
12回目	評価
13回目	シチュエーショントレーニング、フレキシブルな演奏ができるようになろう♪
14回目	自分の表現したいことや在りたい姿をぶれずに再現できることと、空気感や聴衆の欲するものに対応できる術を身につけよう♪
15回目	総合評価
準備学習 時間外学 習	課題曲の熟聴、分析 リズム、メロディー、音楽的表現の試歌唱練習
評価方法	出席率 受講態度 発表頻度と達成度
受講生への メッセージ	魅力的で質の高い音楽的要素とアーティスト性を修練していきます♪ みなさんが成果成長を感じ、自信を持って歌い続けられるように努めていきますので、一緒に頑張りましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 音源 スコア 振り返りシート	

科目名 (英)	ヴォーカルパフォーマンスⅧ Vocal Performance Ⅷ	必修 選択	選択 必修	年次	4		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜1限
【授業の学習内容】 テンポ、リズムパターン、タイミング、ダイナミクスを音楽的に聴感的に生成し演奏する 魅力的で効果的な音楽的コミュニケーションの実践 歌唱とフィードバック 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんや、EXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICCSファミリーのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 情動や聴衆の反応を読み取り印象的な変化を演奏中にプランし演奏できるようになる♪ 効果的で印象的なコーラスワークを演奏中にプランし演奏できるようになる♪ 空気や情動を読み取りフレキシブルに魅力的な世界観を形成できるようになる♪♪							

授業計画・内容	
1回目	効果的で印象的なモーメントを演奏しながら生成できるようになる♪
2回目	モーメントのバリエーションを駆使して空気感や自身の情動に応じて魅力的な演奏ができるようになる♪
3回目	評価
4回目	曲中のコーラスワークを演奏しながら生成できるようになる♪
5回目	コーラスワークのアイデアを駆使して空気感や自身の情動に応じて魅力的な演奏ができるようになる♪
6回目	評価
7回目	オーディエンスの情動やリアクションと音楽的な再現を演奏中に生成できるようになる♪
8回目	空気感、情動、コンディション、反応や熱量など、聴き手と演奏者自身の現在に集中して魅力的で音楽的な演奏ができるようになる♪
9回目	評価
10回目	アトモスフィアトレーニング、聴衆を魅了する術をフレキシブルに効果的に発信できるようになる♪
11回目	空気感、情動、コンディション、熱量などを読み取り、魅力的かつ個性的な雰囲気や世界観を形成できるようになる♪
12回目	総合評価
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	課題曲の熟聴、分析 リズム、メロディー、音楽的表現の試歌唱練習
評価方法	出席率 受講態度 発表頻度と達成度
受講生への メッセージ	魅力的で質の高い音楽的要素とアーティスト性を修練していきます♪ みなさんが成果成長を感じ、自信を持って歌い続けられるように努めていきますので、一緒に頑張りましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 音源 スコア 振り返りシート	

科目名 (英)	スタイルアナライズ I Style Analysis I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜4限
【授業の学習内容】 ・楽曲を教え、準備していく過程の中、音楽を構築していく為の知識と技術を学ぶ授業。発音、音程、リズム、アナライズ、あらゆるカテゴリーの必要性を知り、自身の歌唱力を上げていく。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 歌唱に必要な知識と技術を、楽曲を通して知ることができる。また、人前でパフォーマンスをすることでの経験値を積む事ができる。また、田原先生と連動しているので、継続してプロセスをふんでいくことができる。							

授業計画・内容	
1回目	授業内容説明。男性・女性 カントリーロードを学ぶ
2回目	カントリーロードの復習。歌唱技術・知識を学ぶ
3回目	カントリーロードの仕上げ。歌詞を見ずに、対面で歌う練習・アドバイス
4回目	男性・Take on me 女性 I feel the earte move を学ぼう
5回目	課題曲復讐。歌唱技術・知識を学ぶ
6回目	2週目課題曲仕上げ。歌詞を見ずに、対面で歌う練習・アドバイス
7回目	田原先生の間接発表会への予習（歌唱指導・ステージでの心がけ）
8回目	男性・The dock of the bay 女性・I say little prayer を学ぼう
9回目	課題曲復讐。歌唱技術・知識を学ぶ
10回目	3週目課題曲仕上げ。歌詞を見ずに、対面で歌う練習・アドバイス
11回目	授業発表会に向けての指導・アドバイス
12回目	田原先生授業内発表会リハーサル
13回目	まとめ
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	課題曲の予習・復習
評価方法	出席率 授業態度 課題曲仕上げ度
受講生への メッセージ	課題曲を通して、授業外でのプロセスの積み方を、学生の中に沢山経験してください。努力した分、必ず結果が出る事を信じて、頑張りましょう
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタイルアナライズⅡ Style AnalysisⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜4限
【授業の学習内容】 ・楽曲を教え、準備していく過程の中、音楽を構築していく為の知識と技術を学ぶ授業。発音、音程、リズム、アナライズ、あらゆるカテゴリーの必要性を知り、自身の歌唱力を上げていく。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 歌唱に必要な知識と技術を、楽曲を通して知ることができる。また、人前でパフォーマンスをすることでの経験値を積む事ができる。また、田原先生と連動しているので、継続してプロセスをふんでいくことができる。							

授業計画・内容	
1回目	後期授業プロセスの説明。男性 Honesty 女性 Time after time を学ぼう
2回目	1週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
3回目	1週目課題曲の仕上げ。対面での歌唱・アドバイス
4回目	男性 Every breath you take 女性 We are never ever getting betterを学ぼう
5回目	2週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
6回目	2週目課題曲の仕上げ。歌詞を見ずに、対面での歌唱・アドバイス
7回目	中間発表会へのリハーサル
8回目	男性・Perfect 女性 Some one like youを学ぼう
9回目	3週目課題曲の復習、講義。楽曲に必要な技術・知識を学ぶ
10回目	3週目課題曲の仕上げ。歌詞を見ずに、対面での歌唱・アドバイス
11回目	田原先生の授業内発表会リハーサル
12回目	まとめ
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外 学習	課題曲の予習・復習
評価方法	出席率 授業態度 課題曲仕上げ度
受講生への メッセージ	1年後期を質の高さを意識したプロセスをふむことによって、2年次に向けて、モチベーションを高くもって迎える事ができます。音楽は積み重ねること、表現が広がっていきます。後期も頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタイルアナライズⅢ Style Analyze Ⅲ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜4限
【授業の学習内容】 文字表や短い会話文でのハングルの基礎解説と実践、課題曲を用いての言葉の基礎と音楽的表現の解説と実践、歴史や文化の解説とエンターテイメントについての考察と歌唱への応用実践 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ハングルの発音の基礎を理解して歌えるようになろう♪ オギャンの基礎を理解して歌えるようになろう♪ 音楽的表現を理解し歌えるようになろう♪ 時代背景や文化を知りそれらを理解して歌えるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	ことば、歌唱的発音、楽曲や歌唱分析、時代背景や文化を学ぶことで広がる可能性を見つけよう、デュオの課題曲①
2回目	発音①(母音、ワ行、ヤ行)
3回目	発音②(ロ、ㄥ、o、ㄹ、平音、パッチム①)
4回目	発音③(ㄴ、ㄴㄴ、ㅎ、濃音、激音、パッチム②)、デュオの課題曲②
5回目	オギャン①(低中の基本)、発音を意識して歌えるようになろう
6回目	オギャン②(高高の基本)、リズムとグルーブと発音を意識して歌えるようになろう
7回目	小テスト、デュオの課題曲③
8回目	発音①バリエーション、ダイナミックスを意識して歌えるようになろう
9回目	発音②バリエーション、音色を意識して歌えるようになろう
10回目	発音③バリエーション、デュオの課題曲④
11回目	オギャン①バリエーション、韓国文化と歴史から学ぼう
12回目	オギャン②バリエーション、K-POPの歴史から学ぼう
13回目	評価週
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	発音練習 楽曲の熟聴 歌唱練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	古き良きから最新の楽曲や王道曲の分析や歌唱と、時代背景や文化を知り学ぶことで、長く歌い続けられる自分自身の確かなスタイルを一緒に見つけていきましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 課題曲音源、歌詞 ハングル表、オギャン解説表	

科目名 (英)	スタイルアナライズⅣ Style Analysis Ⅳ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 課題曲や短いフレーズを用いて、歌唱のためのことばのアプローチ実践、ジャンルや年代ごとの歌唱解説と実践 コーラスワークの解説と実践、自身の歌唱スタイルを構築するための考察と実践 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ハングルの発音全般とオギャンを歌唱の中で活かせるようになろう♪ ジャンルや年代に対応した歌唱ができるようになろう♪ 少人数でのボーカルアンサンブルができるようになろう♪ 自分自身のスタイルを見つけ進化成長し続けられるようになろう♪							

授業計画・内容	
1回目	発音①ラップMix、デュオ課題曲⑤
2回目	発音②ラップMix、ジャンル年代歌唱比較①
3回目	発音③ラップMix、ジャンル年代歌唱比較②
4回目	オギャン①ラップMix、デュオ課題曲⑥
5回目	オギャン②ラップMix、課題曲⑥でアンサンブルチャレンジ①
6回目	小テスト、課題曲⑥でアンサンブルチャレンジ②
7回目	課題曲⑦、課題曲⑧でアンサンブルとラップチャレンジ①
8回目	課題曲⑧でアンサンブルとラップチャレンジ②
9回目	課題曲⑧でアンサンブルとラップチャレンジ③
10回目	自分自身のアーティストスタイルについて考えてみよう
11回目	成果成長のために、学びを振り返ろう
12回目	評価週
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外 学習	発音練習 楽曲の熟聴 歌唱練習
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	古き良きから最新の楽曲や王道曲の分析や歌唱と、時代背景や文化を知り学ぶことで、長く歌い続けられる自分自身の確かなスタイルを一緒に見つけていきましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 課題曲音源、歌詞 ハングル表、オギャン解説表	

科目名 (英)	スタイルアナライズⅤ Style Analysis Ⅴ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜4限
【授業の学習内容】 各種ジャンルのビートとコード進行を用いての分析と作曲メソッド 特殊和音の理解と活用 基本的な代理和音の理解とメロディーの生成 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんや、EXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICCSファミリーのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 様々なジャンルでのモチーフとセクションでのリズムとメロディーとコードの差別化ができる 特殊な和音でのメロディーメイクができる シンプルなコード進行の中で作曲メソッドを活かすことができる							

授業計画・内容	
1回目	リズム、メロディー、コードを用いたセクションの差別化
2回目	リズム、メロディー、コードを用いたモチーフの差別化
3回目	評価
4回目	4ビート、2ビート、コード進行とメロディーメイク
5回目	主要ジャンル、コード進行とメロディーメイク
6回目	副ジャンル、コード進行とメロディーメイク
7回目	評価
8回目	特殊三和音を含むコード進行、楽曲の分析、メロディーメイク
9回目	特殊四和音を含むコード進行、楽曲の分析、メロディーメイク
10回目	評価
11回目	ダイアトニックコードの代理和音を用いたコード進行、メロディーメイク
12回目	カデンツと終止でのメロディーメイク
13回目	ツーコードでのメロディーメイク
14回目	総合評価
15回目	特別講義
準備学習 時間外学習	事前配布資料での予習 各種メソッドを用いての分析 各種メソッドを用いての試作
評価方法	遅刻欠席、予習復習のチェック、授業態度、発表頻度と質
受講生への メッセージ	プロが実践する知識と技術を、本格的に個性的に楽曲制作していくための分析力を一緒に身につけていきましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 コード表 スケール表 参考楽曲 参考楽曲関連資料	

科目名 (英)	スタイルアナライズVI Style Analysis VI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜4限
【授業の学習内容】 ドミナント系コードでのスケール より高度なドミナントコードプロGRESSION 基本的なモジュレーション 【講師プロフィール】 YUI、絢香のデビュー前のボーカルレッスン担当。グラミー賞受賞アーティストTAKE6のリーダー、クロードマックナイトさんや、EXILEのChoo Choi Trainなど数多くの名曲を手がける中西圭三さんと共演。自身の所属するTHE SOULMATICCSファミリーのために年間50曲以上コーラスアレンジし、九州を中心に活動するクワイアへも提供。地元うきはのための楽曲制作を行う。							
【到達目標】 ドミナント系のコードスケールを楽曲制作に活用できる より高度なドミナント系のアプローチが理解し活用できる 基本的な転調の理解と活用ができる							

授業計画・内容	
1回目	ドミナントコードバリエーションのコードスケール
2回目	セカンダリドミナントのコードスケール
3回目	評価
4回目	サブスティテュートドミナント、クエスチョンアンドアンサーの応用
5回目	エクステンデッドドミナント、コールアンドレスポンスの応用
6回目	モーダルインターチェンジ、繰り返しのアプローチの応用
7回目	メロディックマイナー派生モード、リズムアプローチの応用
8回目	評価
9回目	モジュレーション、近親調、プレゼン思案
10回目	ダイレクトモジュレーション、プレゼン準備
11回目	ピボットモジュレーション、プレゼンリハ
12回目	総合評価
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外 学習	事前配布資料での予習 各種メソッドを用いての分析 各種メソッドを用いての試作
評価方法	遅刻欠席、予習復習のチェック、授業態度、発表頻度と質
受講生への メッセージ	プロが実践する知識と技術を、本格的に個性的に楽曲制作していくための分析力を一緒に身につけていきましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 コード表 スケール表 参考楽曲 参考楽曲関連資料	

科目名 (英)	テクニック I Drum Technique I	選択 必修	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 ドラムの基礎的な演奏技術と応用方法の結びつきを理解・体得する。 (講師プロフィール) 専門学校卒業後、ドラムの個人レッスンやバンドのケアを行う。 また、自らのバンドでの海外公演や小学校での学習支援アシスタント活動など、多岐に渡って活動している。							
【到達目標】 ドラムセットで演奏するために必要な技術の習得と楽器構造の理解を通じて、個性を生かした音楽表現やアイデアを生み出す基礎力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	ドラム譜の読み方、基本的なセッティングと操作方法、8ビート、8分音符の記譜を理解する
2回目	8ビート、4小節感覚を身につける、クリックを使った練習方法、カウティング、8分音符の記譜を理解する
3回目	8ビート、8小節感覚を身につける、オープンリムショットとクローズリムショット、16分音符の記譜を理解する
4回目	アクセント無しのシングルストローク、両手16ビート、オープンリムショット、16分音符の記譜を理解する
5回目	16ビートのバリエーション、16分裏拍のストロークとバスドラムのタイミングを合わせるエクササイズ①
6回目	16ビートのバリエーション、16分裏拍のストロークとバスドラムのタイミングを合わせるエクササイズ②
7回目	8ビートおよび片手16ビートでのダウンアップテクニック、アップストロークにバスドラムを合わせるエクササイズ
8回目	16分音符のアクセント移動（1アクセント）とドラムセットへの応用①
9回目	16分音符のアクセント移動（1アクセント）とドラムセットへの応用②
10回目	16分音符のアクセント移動（2アクセント）とリズムパターン、ドラムセットへの応用①
11回目	16分音符のアクセント移動（2アクセント）とリズムパターン、ドラムセットへの応用②
12回目	ダブルストロークを用いた32分音符と16分音符のコンビネーション、リズムパターン、ドラムセットへの応用①
13回目	期末テスト
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	パッドおよびドラムセットでの継続的な予習・復習が必要
評価方法	各課題の理解度・達成度（60%） 出席率（40%）
受講生への メッセージ	ミュージシャン、アーティストとしての音楽表現を豊かにするために必要な基礎技術と知識を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント	

科目名 (英)	テクニクⅡ Drum TechniqueⅡ	選択 必修	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 ドラムの基礎的な演奏技術と応用方法の結びつきを理解・体得する。 (講師プロフィール) 専門学校卒業後、ドラムの個人レッスンやバンドのケアを行う。 また、自らのバンドでの海外公演や小学校での学習支援アシスタント活動など、多岐に渡って活動している。							
【到達目標】 ドラムセットで演奏するために必要な技術の習得と楽器構造の理解を通じて、個性を生かした音楽表現やアイデアを生み出す基礎力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	ダブルストロークを用いた32分音符と16分音符のコンビネーション、リズムパターン、ドラムセットへの応用②
2回目	8ビートシャッフルのリズムパターン、ハイハットのエクササイズ、3連符の手順と記譜を理解する
3回目	8ビートシャッフルの8分裏拍にバスドラムを合わせるエクササイズ、3連符の手順と記譜を理解する
4回目	2拍3連符のエクササイズ、手順の振り分けとドラムセットへの応用
5回目	8ビートのシンコペーションを使ったリズムパターン、HHオーブクローズ
6回目	16ビートのシンコペーションを使ったリズムパターン、HHオーブクローズ①
7回目	16ビートのシンコペーションを使ったリズムパターン、HHオーブクローズ②
8回目	ハイハットを4分音符で演奏する、速いテンポの8ビートとバスドラムの奏法
9回目	ハイハットを8分音符で演奏する、バスドラムのダブルストロークを用いた16ビート①
10回目	ハイハットを8分音符で演奏する、バスドラムのダブルストロークを用いた16ビート②
11回目	ハイハットを16分音符で演奏する、バスドラムのダブルストロークを用いた16ビート
12回目	ハイハットを4分音符で演奏する、速いテンポの8ビートシャッフルとバスドラムの奏法
13回目	ハイハットを8分音符で演奏する、バスドラムのダブルストロークを用いた16ビートシャッフル
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	パッドおよびドラムセットでの継続的な予習・復習が必要
評価方法	各課題の理解度・達成度 (60%) 出席率 (40%)
受講生への メッセージ	ミュージシャン、アーティストとしての音楽表現を豊かにするために必要な基礎技術と知識を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント	

科目名 (英)	テクニクⅢ Drum TechniqueⅢ	選択 必修	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 ドラムの基礎的な演奏技術と応用方法の結びつきを理解・体得する。 (講師プロフィール) 専門学校卒業後、ドラムの個人レッスンやバンドのケアを行う。 また、自らのバンドでの海外公演や小学校での学習支援アシスタント活動など、多岐に渡って活動している。							
【到達目標】 ドラムセットで演奏するために必要な技術の習得と楽器構造の理解を通じて、個性を生かした音楽表現やアイデアを生み出す基礎力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	速いテンポの8ビート、ゴーストノート①
2回目	速いテンポの8ビート、ゴーストノート② 速いテンポの8/12拍子パターン、ゴーストノート①
3回目	速いテンポの8/12拍子パターン、ゴーストノート① ツインペダルの基礎練習（8ビート応用）
4回目	速いテンポの16ビート、HHのバリエーション、16分の裏拍にバスドラムを合わせるエクササイズ①
5回目	速いテンポの16ビート、HHのバリエーション、16分の裏拍にバスドラムを合わせるエクササイズ②
6回目	ツインペダルの基礎練習（オルタネイト）
7回目	8ビートおよび片手16ビートでのダウンアップテクニック、アップストロークにバスドラムを合わせるエクササイズ、バスドラムのシングル3連打、4連打
8回目	16分音符、手足のコンビネーション（バスドラム1打）ドラムセットへの応用①
9回目	16分音符、手足のコンビネーション（バスドラム1打）ドラムセットへの応用②
10回目	16分音符、手足のコンビネーション（バスドラム2打→シングル、ツインペダル）ドラムセットへの応用①
11回目	16分音符、手足のコンビネーション（バスドラム2打→シングル、ツインペダル）ドラムセットへの応用②
12回目	8分音符と16分音符を組み合わせた手足のコンビネーション（シングル、ツインペダル）①
13回目	期末テスト
14回目	特別授業
15回目	特別授業
準備学習 時間外 学習	パッドおよびドラムセットでの継続的な予習・復習が必要
評価方法	各課題の理解度・達成度（60%） 出席率（40%）
受講生への メッセージ	ミュージシャン、アーティストとしての音楽表現を豊かにするために必要な基礎技術と知識を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント	

科目名 (英)	テクニクⅣ Drum TechniqueⅣ	選択 必修	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 ドラムの基礎的な演奏技術と応用方法の結びつきを理解・体得する。 (講師プロフィール) 専門学校卒業後、ドラムの個人レッスンやバンドのケアを行う。 また、自らのバンドでの海外公演や小学校での学習支援アシスタント活動など、多岐に渡って活動している。							
【到達目標】 ドラムセットで演奏するために必要な技術の習得と楽器構造の理解を通じて、個性を生かした音楽表現やアイデアを生み出す基礎力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	32分音符と16分音符を組み合わせた手足のコンビネーション（シングル、ツインペダル）②
2回目	8ビートシャッフルのシンコペーション01、Fill in手順の応用①
3回目	8ビートシャッフルのシンコペーション01、Fill in手順の応用② 8ビートシャッフルのシンコペーション02
4回目	ツインペダル基礎練習（シャッフル、3連符）
5回目	小節線を跨ぐパターン、Fill inの練習と応用①
6回目	小節線を跨ぐパターン、Fill inの練習と応用② 速いテンポの16ビートのシンコペーションとHHオープンクローズ①
7回目	速いテンポの16ビートのシンコペーションとHHオープンクローズ②
8回目	シングル、ツインペダルの2ビート（HH表、裏）
9回目	シングル、ツインペダルの2ビート（HH表、裏）と手2足2のコンビネーション ツインペダルの16ビート（32分3打）①
10回目	ツインペダルの16ビート（32分3打）② ツインペダルの16ビート（32分4打）と手2足4、手4足4のコンビネーション
11回目	8シャッフル、HHバリエーションとゴーストノート（手順の応用） シングル、ツインペダルを使ったコンビネーションFill in
12回目	16シャッフル、HHバリエーションとゴーストノート（手順の応用） シングル、ツインペダルを使ったコンビネーションFill in
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	パッドおよびドラムセットでの継続的な予習・復習が必要
評価方法	各課題の理解度・達成度（60%） 出席率（40%）
受講生への メッセージ	ミュージシャン、アーティストとしての音楽表現を豊かにするために必要な基礎技術と知識を習得する科目です。 反復練習を日課にしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント	

科目名 (英)	アレンジング I (Arrangement I)	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜1限
【授業の学習内容】 和声、コーラスパターンの基礎を歌唱や分析を通して理解習得する 【講師プロフィール】 幼少より音楽に親しみ、FSM入学。多くの師や仲間たちとの出会い、ステージ経験や制作などを経て、本格的に音楽と貢献の道を志す。 YUI、絢香のデビュー目のボーカルレッスンを担う。 Chu Chu Trainやtimingなど多くの名曲を世に送り出した中西圭三氏や、グラミー賞受賞アーティストでTake6のリーダーであるクロードマックナイト氏と共演。 コーラスアレンジした楽曲は全国の演奏現場で歌われている。							
【到達目標】 コーラスアレンジのパターンを理解する 和声の成り立ちと特徴を理解する							

授業計画・内容	
1回目	ポピュラーミュージックにおけるコーラスの役割と特徴と効果、聴衆に与える影響
2回目	和声と母音別の効果
3回目	旋律のハーモニー
4回目	コールアンドレスポンスのハーモニー
5回目	対旋律のハーモニー
6回目	評価
7回目	和声:メジャー、マイナー
8回目	和声:aug、dim
9回目	和声:セブンス、メジャーセブンス
10回目	和声:シャープ5、フラット5
11回目	和声:テンションとアポイド
12回目	評価
13回目	課題対策
14回目	課題実施
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	理論や和声の理解 アンサンブル授業などでの歌唱実践
評価方法	筆記による理解度テスト 和声やパターンの歌唱実践での習熟度チェック
受講生への メッセージ	声の持つ特徴や理論を活かして自由に音楽を色付けすることは、音楽をより彩るための唯一無二のアレンジメントです。 ぜひ習得理解を深め、音楽制作や演奏に活かして欲しいです。
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面、和音楽器、理論教材	

科目名 (英)	アレンジング II (Arrangement II)	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜1限
【授業の学習内容】 和声、コーラスパターンの基礎を歌唱や分析を通して理解習得する 【講師プロフィール】 幼少より音楽に親しみ、FSM入学。多くの師や仲間たちとの出会い、ステージ経験や制作などを経て、本格的に音楽と貢献の道を志す。 YUI、絢香のデビュー目のボーカルレッスンを担当。 Chu Chu Trainやtimingなど多くの名曲を世に送り出した中西圭三氏や、グラミー賞受賞アーティストでTake6のリーダーであるクロードマックナイト氏と共演。 コーラスアレンジした楽曲は全国の演奏現場で歌われている。							
【到達目標】 コーラスパターンを理解し楽曲の中で用いることができる 和声の特徴を理解して組み立てることができる							

授業計画・内容	
1回目	和声と母音の効果的用法
2回目	旋律のハーモニーの効果的用法
3回目	コールアンドレスポンスの効果的用法
4回目	対旋律のハーモニーの効果的用法
5回目	上記の総合法
6回目	評価
7回目	和声の組み立て:メジャー、マイナー
8回目	和声の組み立て:aug、dim
9回目	和声の組み立て:セブンス、メジャーセブンス
10回目	和声の組み立て:シャープ5、フラット5
11回目	和声の組み立て:テンション、アボイド
12回目	評価
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学習	理論や和声の理解 アンサンブル授業などでの歌唱実践
評価方法	筆記による理解度テスト 和声やパターンの歌唱実践での習熟度チェック
受講生への メッセージ	声の持つ特徴や理論を活かして自由に音楽を色付けすることは、音楽をより彩るための唯一無二のアレンジメントです。 ぜひ習得理解を深め、音楽制作や演奏に活かして欲しいです。
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面、和音楽器、理論教材	

科目名 (英)	アレンジング III (Arrangement III)	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
【授業の学習内容】各ジャンルの和声、コーラスパターンの基礎を歌唱や分析を通して理解習得する						曜日・時限	火曜1限
【講師プロフィール】 幼少より音楽に親しみ、FSM入学。多くの師や仲間たちとの出会い、ステージ経験や制作などを経て、本格的に音楽と貢献の道を志す。 YUI、絢香のデビュー目のボーカルレッスンを担当。 Chu Chu Trainやtimingなど多くの名曲を世に送り出した中西圭三氏や、グラミー賞受賞アーティストでTake6のリーダーであるクロードマックナイト氏と共演。 コーラスアレンジした楽曲は全国の演奏現場で歌われている。							
【到達目標】 音楽の各ジャンルにおけるコーラスアレンジのパターンと和声の成り立ちと特徴を理解する 声域を理解し利用することができる							

授業計画・内容	
1回目	ポピュラーミュージックにおける各ジャンルのコーラスの特徴
2回目	ブルースやロックの和声と母音
3回目	ブルースのやロックの旋律のハーモニー
4回目	ブルースのやロックのコールアンドレスポンスのハーモニー
5回目	ブルースのやロックの対旋律のハーモニー
6回目	評価
7回目	性別や年齢による声の特性を活かした効果的なボーシング
8回目	ソウルやファンクの和声と母音
9回目	ソウルやファンクの旋律のハーモニー
10回目	ソウルやファンクのコールアンドレスポンスのハーモニー
11回目	ソウルやファンクの対旋律のハーモニー
12回目	評価
13回目	課題対策
14回目	課題実施
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	理論や和声の理解 アンサンブル授業などでの歌唱実践
評価方法	筆記による理解度テスト ジャンルごとや声の特徴によってコーラスを組み立てれるか実践での習熟度チェック
受講生への メッセージ	声の持つ特徴や理論を活かして自由に音楽を色付けすることは、音楽をより彩るための唯一無二のアレンジメントです。 ぜひ習得理解を深め、音楽制作や演奏に活かして欲しいです。
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面、和音楽器、理論教材	

科目名 (英)	アレンジング IV (Arrangement IV)	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜1限
【授業の学習内容】 各ジャンルの和声、コーラスパターンの基礎を歌唱や分析を通して理解習得する 【講師プロフィール】 幼少より音楽に親しみ、FSM入学。多くの師や仲間たちとの出会い、ステージ経験や制作などを経て、本格的に音楽と貢献の道を志す。 YUI、絢香のデビュー目のボーカルレッスンを担当。 Chu Chu Trainやtimingなど多くの名曲を世に送り出した中西圭三氏や、グラミー賞受賞アーティストでTake6のリーダーであるクロードマックナイト氏と共演。 コーラスアレンジした楽曲は全国の演奏現場で歌われている。							
【到達目標】 音楽の各ジャンルにおけるコーラスアレンジのパターンと和声の成り立ちと特徴を理解する 声域とその効果やリズムパターンを理解し利用することができる							

授業計画・内容	
1回目	音域の設定に関する効果と注意点
2回目	ダンスミュージックの和声と母音
3回目	ダンスミュージックの旋律のハーモニー
4回目	ダンスミュージックののコールアンドレスポンスのハーモニー
5回目	ダンスミュージックの対旋律のハーモニー
6回目	評価
7回目	リズムバリエーション
8回目	R&Bの和声と母音
9回目	R&Bの旋律のハーモニー
10回目	R&Bのコールアンドレスポンスのハーモニー
11回目	R&Bの対旋律のハーモニー
12回目	評価
13回目	卒業進級制作展 準備
14回目	卒業進級制作展 準備
15回目	卒業進級制作展 準備
準備学習 時間外学 習	理論や和声の理解 アンサンブル授業などでの歌唱実践
評価方法	筆記による理解度テスト ジャンルごとや声の特徴によってコーラスを組み立てれるか実践での習熟度チェック
受講生への メッセージ	声の持つ特徴や理論を活かして自由に音楽を色付けすることは、音楽をより彩るための唯一無二のアレンジメントです。 ぜひ習得理解を深め、音楽制作や演奏に活かして欲しいです。
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面、和音楽器、理論教材	

科目名 (英)	ダンステクニック I Dance technique I	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火1限
【授業の学習内容】 踊りの技術上達のためには、機能的な体の使い方を理解しないといけません。まず、解剖学的知識を深めながら体の知識を学び、その機能的な体の使い方を理解してもらいます。実践では、柔軟性と筋力強化を集中して行ないながら並行してバランスやターン、ジャンプなどのテクニックを学ぶことで、技術向上を目指していきます。また機能的と言われるバレエでの身体の使い方は、他ジャンルのダンス技術も高めてくれます。例えば、バランス力・ターン・ジャンプ力・動きのキレなど。そういったものを結びつけていくようクラスを進めていきます。 【講師プロフィール】宝塚歌劇団月組卒業							
【到達目標】 まず第一に、基礎柔軟性・基礎筋力の大幅な向上。第二に適切な姿勢と動作の習得。最後にダンスの基礎動作にそれを応用していきテクニックの向上。具体的には、アダジオ（スロウに行う動作）でのバランス力などの習得、様々なピルエット（ターン）を行える軸などの習得。様々なジャンプを行えるための体幹などの習得。							

授業計画・内容	
1回目	『バレエ解剖学』 機能的な身体の使い方を学ぶ
2回目	『バレエスタンス』 立ち方と姿勢。どうして最初に学ばないといけないのか
3回目	ターンアウト（大腿骨の外旋）を学ぶ。ジャンプやピルエットの力の根源となる動作①
4回目	ターンアウト（大腿骨の外旋）を学ぶ。ジャンプやピルエットの力の根源となる動作②
5回目	基本動作の必要性を学び実践する プリエとルルベ、タンジュ、ロンデジャンプ、フォンデュ、デベロッパ、バットマン①
6回目	基本動作の必要性を学び実践する プリエとルルベ、タンジュ、ロンデジャンプ、フォンデュ、デベロッパ、バットマン②
7回目	基本動作の必要性を学び実践する プリエとルルベ、タンジュ、ロンデジャンプ、フォンデュ、デベロッパ、バットマン③
8回目	ジャンプの仕方からその強化まで学ぶ① どの筋肉が働いている？ 上半身と下半身の連動性とは？
9回目	ジャンプの仕方からその強化まで学ぶ② どの筋肉が働いている？ 上半身と下半身の連動性とは？
10回目	ピルエット（ターン）の仕方からその強化まで学ぶ①
11回目	ピルエット（ターン）の仕方からその強化まで学ぶ②
12回目	様々な『パ』ステップとピルエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他②
13回目	様々な『パ』ステップとピルエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他③
14回目	前期まとめ・試験
15回目	特別講義
準備学習 時間外学習	ダンスの技術向上には、体が機能的に働くよう、姿勢や動作改善がとても重要になります。まず、自分がどのように生活をしているのか意識を向けることが課題です。次に姿勢や動作改善のためには、柔軟や筋力強化をする必要があります。それぞれの欠点に合わせてストレッチと筋力強化を行い、姿勢動作改善を行うことが日々の課題です。
評価方法	テストを最終コマに行います。項目は、バランス力、柔軟性、しなやかさ、またステップ、ピルエット、ジャンプといった物を評価させていただきます。
受講生への メッセージ	バレエ基礎クラスでの最終目標は、ボディコンディショニングと合わせて『身体能力の向上』を目指します。ダンスでは、表現力の前にやはりテクニック（技術）が一番の難問になってきます。踊りにキレを出す、ルルベでのバランス力、ピルエットの安定感、しなやかな動き、ジャンプ力、怪我をしない体、これらの技術向上を目的としクラスを行います。まずは、技術が上がることの喜びを一緒に感じていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 レッスン着・シューズ・タオル	

科目名 (英)	ダンステクニックⅡ Dance techniqueⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火1限
【授業の学習内容】 前期では、機能的な身体の使い方について、バレエを通して勉強してもらいました。バレエでの体の使い方（機能的な体の使い方）というのは、日々の練習や体づくりの繰り返しになります。なので、後期ではテクニックの練習はできる限り継続して行なってもらいます。しかし同時に表現力も身につける必要があるため、ボールドブラ（アームスの動き）と顔の動きの合わせ方なども身につけてもらいます。ステージ上では、振り付けや曲によって、力強さ・しなやかさなどの表現方法を変えないといけないため、「顔」の印象、踊り方など応用をクラスで身につけてもらいます。 【講師プロフィール】宝塚歌劇団月組卒業							
【到達目標】 ピリエット・ワルツ・アダジオ・プティアレグロ・グランアレグロ・一連のバレエの「パ」を行ってもらいます。							

授業計画・内容	
1回目	プリエやルルベによる足裏強化、そしてアンディオール（凱旋筋群）の強化①
2回目	プリエやルルベによる足裏強化、そしてアンディオール（凱旋筋群）の強化②
3回目	ターンとジャンプ、テクニック強化① グランジャンプのコツとトレーニング方法
4回目	ターンとジャンプ、テクニック強化② シェネやピケ、様々なターンのコツとトレーニング方法
5回目	ターンとジャンプ、テクニック強化③ ジャンプとターンを組み合わせた動作
6回目	ターンとジャンプ、テクニック強化④ ジャンプとターンを組み合わせた動作
7回目	ボールドブラ（背中と腕）、顔の使い方を学ぶ 応用編）ステージ上で印象を与えるダンサーになるためには①
8回目	ボールドブラ（背中と腕）、顔の使い方を学ぶ 応用編）ステージ上で印象を与えるダンサーになるためには②
9回目	実践① 様々な『パ』ステップとピリエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他
10回目	実践② 様々な『パ』ステップとピリエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他
11回目	実践③ 様々な『パ』ステップとピリエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他
12回目	後期まとめ
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	後期ではトレーニングにより筋疲労がよく起こることが考えられます、そうならないように、毎日ストレッチやメンテナンスでコンディションを整えることを行ってもらいます。
評価方法	最終コマあたりでバレエ「パ」の動作についてテストを行い、評価します。
受講生への メッセージ	前期では、ストレッチ・メンテナンス・筋力トレーニングを併合して技術向上を目指しています。これはダンスを行う以上、後期でも同じになります。ですが、ステージパフォーマンスがこれからの課題になってくるので、「踊り方」「表情」など様々な表現方法も身につけていただきたいと思います。プロになるためには技術という壁が一番高くなってくると思います。どのように超えていけるか一緒に取り組んでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 レッスン着・シューズ・タオル	

科目名 (英)	ダンステクニックⅢ Dance techniqueⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月1限
【授業の学習内容】 踊りの技術上達のためには、機能的な体の使い方を理解しないといけません。まず、解剖学的知識を深めながら体の知識を学び、その機能的な体の使い方を理解してもらいます。実践では、柔軟性と筋力強化を集中して行ないながら並行してバランスやターン、ジャンプなどのテクニックを学ぶことで、技術向上を目指していきます。また機能的と言われるバレエでの身体の使い方は、他ジャンルのダンス技術も高めてくれます。例えば、バランス力・ターン・ジャンプ力・動きのキレなど。そういったものを結びつけていくようクラスを進めていきます。 【講師プロフィール】宝塚歌劇団月組卒業							
【到達目標】 まず第一に、基礎柔軟性・基礎筋力の大幅な向上。第二に適切な姿勢と動作の習得。最後にダンスの基礎動作にそれを応用していきテクニックの向上。具体的には、アダジオ（スロウに行う動作）でのバランス力などの習得、様々なピルエット（ターン）を行える軸などの習得。様々なジャンプを行えるための体幹などの習得。							

授業計画・内容	
1回目	『バレエ解剖学』 機能的な身体の使い方を学ぶ
2回目	『バレエスタンス』 立ち方と姿勢。どうして最初に学ばないといけないのか
3回目	ターンアウト（大腿骨の外旋）を学ぶ。ジャンプやピルエットの力の根源となる動作①
4回目	ターンアウト（大腿骨の外旋）を学ぶ。ジャンプやピルエットの力の根源となる動作②
5回目	基本動作の必要性を学び実践する プリエとルルベ、タンジュ、ロンデジャンプ、フォンデュ、デベロッパ、バットマン①
6回目	基本動作の必要性を学び実践する プリエとルルベ、タンジュ、ロンデジャンプ、フォンデュ、デベロッパ、バットマン②
7回目	基本動作の必要性を学び実践する プリエとルルベ、タンジュ、ロンデジャンプ、フォンデュ、デベロッパ、バットマン③
8回目	ジャンプの仕方からその強化まで学ぶ① どの筋肉が働いている？ 上半身と下半身の連動性とは？
9回目	ジャンプの仕方からその強化まで学ぶ② どの筋肉が働いている？ 上半身と下半身の連動性とは？
10回目	ピルエット（ターン）の仕方からその強化まで学ぶ①
11回目	ピルエット（ターン）の仕方からその強化まで学ぶ②
12回目	様々な『パ』ステップとピルエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他②
13回目	様々な『パ』ステップとピルエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他③
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	ダンスの技術向上には、体が機能的に働くよう、姿勢や動作改善がとても重要になります。まず、自分がどのように生活をしているのか意識を向けることが課題です。次に姿勢や動作改善のためには、柔軟や筋力強化をする必要があります。それぞれの欠点に合わせてストレッチと筋力強化を行い、姿勢動作改善を行うことが日々の課題です。
評価方法	テストを最終コマに行います。項目は、バランス力、柔軟性、しなやかさ、またステップ、ピルエット、ジャンプといった物を評価させていただきます。
受講生への メッセージ	バレエ基礎クラスでの最終目標は、ボディコンディショニングと合わせて『身体能力の向上』を目指します。ダンスでは、表現力の前にやはりテクニック（技術）が一番の難問になってきます。踊りにキレを出す、ルルベでのバランス力、ピルエットの安定感、しなやかな動き、ジャンプ力、怪我をしない体、これらの技術向上を目的とクラスを行います。まずは、技術が上がることの喜びを一緒に感じていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 レッスン着・シューズ・タオル	

科目名 (英)	ダンステクニックⅣ Dance techniqueⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月1限
【授業の学習内容】 前期では、機能的な身体の使い方について、バレエを通して勉強してもらいました。バレエでの体の使い方（機能的な体の使い方）というのは、日々の練習や体づくりの繰り返しになります。なので、後期ではテクニックの練習はできる限り継続して行なってもらいます。しかし同時に表現力も身につける必要があるため、ボールドブラ（アームスの動き）と顔の動きの合わせ方なども身につけてもらいます。ステージ上では、振り付けや曲によって、力強さ・しなやかさなどの表現方法を変えないといけないため、「顔」の印象、踊り方など応用をクラスで身につけてもらいます。 【講師プロフィール】宝塚歌劇団月組卒業							
【到達目標】 ピリエット・ワルツ・アダジオ・プティアレグロ・グランアレグロ・一連のバレエの「パ」を行ってもらいます。							

授業計画・内容	
1回目	プリエやルルベによる足裏強化、そしてアンディオール（凱旋筋群）の強化①
2回目	プリエやルルベによる足裏強化、そしてアンディオール（凱旋筋群）の強化②
3回目	ターンとジャンプ、テクニック強化① グランジャンプのコツとトレーニング方法
4回目	ターンとジャンプ、テクニック強化② シェネやピケ、様々なターンのコツとトレーニング方法
5回目	ターンとジャンプ、テクニック強化③ ジャンプとターンを組み合わせた動作
6回目	ターンとジャンプ、テクニック強化④ ジャンプとターンを組み合わせた動作
7回目	ボールドブラと顔の使い方を学ぶ 応用編）ステージ上での表現や印象を与えるダンサー①
8回目	ダンサーとしての表現・表情の重要性を知ろう。 ステージ上で観客は何を見ている？
9回目	実践① 様々な『パ』ステップとピリエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他
10回目	実践② 様々な『パ』ステップとピリエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他
11回目	実践③ 様々な『パ』ステップとピリエット、ジャンプを学ぶ トンベ、パドブレ、グリッサード、グランジャンプ その他
12回目	後期まとめ・試験
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	後期ではトレーニングにより筋疲労がよく起こることが考えられます、そうならないように、毎日ストレッチやメンテナンスでコンディションを整えることを行ってもらいます。
評価方法	最終コマあたりでバレエ「パ」の動作についてテストを行い、評価します。
受講生への メッセージ	前期では、ストレッチ・メンテナンス・筋力トレーニングを併合して技術向上を目指しています。これはダンスを行う以上、後期でも同じになります。ですが、ステージパフォーマンスがこれからの課題になってくるので、「踊り方」「表情」など様々な表現方法も身につけていただきたいと思います。プロになるためには技術という壁が一番高くなってくると思います。どのように超えていけるか一緒に取り組んでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 レッスン着・シューズ・タオル	

科目名 (英)	ダンステクニックアドバンス I Dance Technique Advance I	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 4 限
【授業の学習内容】 ストレッチ、体感トレーニング。アイソレーション、リズムトレーニング。 ボディーコントロール。 ストリートダンス（フリースタイル）振り付け （講師）USJ振付担当							
【到達目標】 ストリートダンスを通してダンスに必要なアイソレーションやリズムの習得。 ボディーコントロールの幅を広げ、振り覚え能力UPを目指す。							

授業計画・内容	
1回目	アイソレーションでボディーコントロールの幅を広げる リズムトレーニングでリズムキープ 振り付け
2回目	アイソレーションでボディーコントロールの幅を広げる リズムトレーニングでリズムキープ 振り付け
3回目	アイソレーションでボディーコントロールの幅を広げる リズムトレーニングでリズムキープ 振り付け
4回目	ストップ、シルエット、アクセント 振り付け
5回目	ストップ、シルエット、アクセント 振り付け
6回目	ストップ、シルエット、アクセント 振り付け
7回目	ボディコントロールとアクセント 振り付け
8回目	ボディコントロールとアクセント 振り付け
9回目	ボディコントロールとアクセント 振り付け
10回目	ボディコントロールとアクセント 振り付け
11回目	振り付けメインで動きのニュアンスを知る
12回目	振り付けメインで動きのニュアンスを知る
13回目	振り付けメインで動きのニュアンスを知る
14回目	まとめ
15回目	特別授業
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	ダンスを通して自分の得意分野、苦手分野、を知って、さらにレベルアップ出来るように一緒に楽しみながら頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 動きやすい服装。動きやすいスニーカー。	

科目名 (英)	ダンステクニックアドバンスⅡ Dance Technique AdvanceⅡ	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜 4 限
【授業の学習内容】 ストレッチ、体感トレーニング。アイソレーション、リズムトレーニング。 ボディーコントロール。 ストリートダンス（フリースタイル）振り付け （講師）USJ振付担当							
【到達目標】 ストリートダンスを通してダンスに必要なアイソレーションやリズムの習得。 ボディーコントロールの幅を広げ、振り覚え能力UPを目指す。							

授業計画・内容	
1回目	ボディコントロールとアクセント 振り付け
2回目	ボディコントロールとアクセント 振り付け
3回目	ボディコントロールとアクセント 振り付け
4回目	音の取り方 ニュアンスの出し方
5回目	音の取り方 ニュアンスの出し方
6回目	音の取り方 ニュアンスの出し方
7回目	テーマに沿った踊り方、個性を生かした踊り方
8回目	テーマに沿った踊り方、個性を生かした踊り方
9回目	テーマに沿った踊り方、個性を生かした踊り方
10回目	踊り方、表現の出し方、使い分け
11回目	踊り方、表現の出し方、使い分け
12回目	まとめ
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■ 出席率 ■ 受講態度 ■ 【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	エンターテイナーとしてのスキルアップを一緒に目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 動きやすい服装、動きやすいスニーカー	

科目名 (英)	ダンスパフォーマンス I Dance Performance I	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜2限
【授業の学習内容】 ダンス＆ヴォーカルではソロ＋ダンサー～全員がマイクを持つなどの様々な演奏形態であったり、ポップス、EDM、ロック、ファンクなど色々なジャンルに対応出来る技術が必要です。1年生では与えられた振りや歌割りを短い時間の中で体現でき、デレクションを入れる事で「自身の表現の幅を広げる」を授業の中で実施していきます。 【講師プロフィール】 レコーディングディレクション、ライブディレクション、ヴォーカルトレーニングを行っており、 千賀健永（Kis-My-Ft2） / 藤原さくら（アミューズ） / May'n（ホリプロ）など様々なアーティストのヴォーカルトレーニングを担当。							
【到達目標】 自分の表現できるテクニックの幅を広げる為の実習を行う。							

授業計画・内容	
1回目	【目標①】【セクション1】 1st TAからCTへのブリッジトリートメント① 課題曲1振り落とし 1コーラス目＋基礎作り（毎回）（＋yuki）
2回目	【目標①】1st TAからCTへのブリッジトリートメント② 課題曲1振り落とし 2コーラス目以降＋パート分け歌唱（＋yuki）
3回目	【目標①】1st TA強化トレーニング 課題曲1振り落とし 構成＋パート別け（＋yuki）
4回目	【目標①】2nd 母音を入れ声帯閉鎖補助でのブリッジトリートメント① 課題曲1パフォーマンス（＋yuki）
5回目	【目標①】2nd 母音を入れ声帯閉鎖補助でのブリッジトリートメント② 課題曲1パフォーマンス固め
6回目	【目標①】3rd 声帯閉鎖補助なしでのブリッジトリートメント① 課題曲1パフォーマンス確認
7回目	【目標①】3rd 声帯閉鎖補助なしでのブリッジトリートメント② 課題曲1パフォーマンス最終チェック
8回目	【目標①】3rd 声帯閉鎖補助なしでのブリッジトリートメント③ 課題曲2振り落とし 1コーラス目＋メロ確（＋yuki）
9回目	【目標①】【セクション2】 1st 軟口蓋のストレッチングによる共鳴空間拡大① 課題曲2振り落とし 2コーラス目以降＋パート分け歌唱（＋yuki）
10回目	【目標②】1st 軟口蓋のストレッチングによる共鳴空間拡大② 課題曲2振り落とし 構成＋パート別け（＋yuki）
11回目	【目標②】2nd 胸骨甲状筋ストレッチング① 課題曲2パフォーマンス
12回目	【目標②】2nd 胸骨甲状筋ストレッチング② 課題曲1と2パフォーマンス
13回目	前期まとめ
14回目	試験
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	（目標①）1曲を安定して歌うためには体力が必要ですので自分のパート以外も何度も繰り返して練習をしてください。 （目標②）全員の表現が揃うことが大切になりますのでレッスンの映像を確認して復習が必要です。
評価方法	●出席率（50%） ●定期テスト（30%） ●受講意欲（20%）
受講生への メッセージ	この授業はグループとして1つの作品を作っていますので、体調管理に気をつけて欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 ●iPad、メモ用紙、ペン	

科目名 (英)	ダンスパフォーマンスⅡ Dance PerformanceⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜2限
【授業の学習内容】 自分で考え、表現していくための授業を実施していきます。オリジナル曲を用いて振りや構成、歌割など自分たちで作り上げていきます。限られた時間の中でクオリティを上げる練習をしていきます。 【講師プロフィール】 レコーディングディレクション、ライブディレクション、ヴォーカルトレーニングを行っており、 千賀健永（Kis-My-Ft2） / 藤原さくら（アムューズ） / May'n（ホリプロ）など様々なアーティストのヴォーカルトレーニングを担当。 【到達目標】 歌う為の体作り、自分の感性を表現できるテクニックを学ぶ為の実習を行う。							

授業計画・内容	
1回目	【セクション2】3rd チェスト 課題曲③渡し、アレンジや歌詞による曲の解釈 メロ確認
2回目	3rd チェスト 課題曲③パート分け歌唱、自分達で1コーラス分振り作り
3回目	4th ブリジットリートメント 課題曲③パート分け、構成作り 2コーラス分振り作り
4回目	4th ブリジットリートメント 課題曲③構成作り 2コーラス分振り作り
5回目	【セクション3】1st TAのバンブアップ 課題曲③パフォーマンス固め
6回目	1st TAのバンブアップ 課題曲③パフォーマンス確認
7回目	2st TA→CTのバンブアップ 課題曲④渡し、アレンジや歌詞による曲の解釈 メロ確認
8回目	2st TA→CTのバンブアップ 課題曲④パート分け歌唱、自分達で1コーラス分振り作り （2グループ）
9回目	3rd mixのバンブアップ 課題曲④パート分け、自分達で②2コーラス分振り作り
10回目	3rd mixのバンブアップ 課題曲④構成作り 2コーラス分振り作り
11回目	4th ヘッドのバンブアップ 課題曲④パフォーマンス固め
12回目	4th ヘッドのバンブアップ 課題曲④パフォーマンス確認
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	（目標①）全員の表現が揃うことが大切になりますのでレッスンの映像を確認して復習が必要です。 （目標②）見解を広げるために普段から自分の好きな音楽以外も聴いたり歌ったりする事がが必要です。 （目標③）1曲を安定して歌うためには体力が必要です所以自分のパート以外も何度も繰り返して練習をしてください。
評価方法	●出席率（50%） ●定期テスト（30%） ●受講意欲（20%）
受講生への メッセージ	この授業はグループとして1つの作品を作っていますので、体調管理に気をつけて欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 ●iPad、ペン	

科目名 (英)	ダンスパフォーマンスⅢ Dance PerformanceⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜2限
【授業の学習内容】 2年生では与えられた振りと歌割りを表現するのではなく、歌詞や楽器のサウンド、アレンジなどから意図を汲み取り「どんな表現を求められているのかを自分で考え、表現していく」ための授業を実施していきます。オリジナル曲を用いて振りや構成、歌割など自分たちで作上げていきます。限られた時間の中でクオリティを上げる練習をしていきます。 【講師プロフィール】 レコーディングディレクション、ライブディレクション、ヴォーカルトレーニングを行っており、 千賀健永（Kis-My-Ft2） / 藤原さくら（アミューズ） / May'n（ホリプロ）など様々なアーティストのヴォーカルトレーニングを担当。							
【到達目標】 歌う為の体作り、自分の感性を表現できるテクニックを学ぶ為の実習を行う。 〈具体的な目的〉 目標①歌詞やアレンジなどからどう表現すべきか曲の意図を汲み取る力をつける 目標②適正な音域などによるパート割りをする事により表現効果を増すテクニックを身につける 目標③課題曲に自分で振りを作り、構成をつける力を身につける事ができるようになる							

授業計画・内容	
1回目	（目標①②）オリジナル曲渡し、アレンジや歌詞による曲の解釈 パート割の為の歌唱、1コーラス分振り作り
2回目	（目標②③）1コーラス分振り作り
3回目	（目標②③） 2コーラス分振り作り、構成作り
4回目	（目標①②③） 2コーラス分振り作り、構成作り
5回目	（目標①②③）パフォーマンス確認
6回目	（目標①②③）パフォーマンス最終確認
7回目	（目標①②）課題曲②渡し、自分たちでのパート割、1コーラス分振り作り （男女グループ）
8回目	（目標②③） 1コーラス分振り作り
9回目	（目標②③） 2コーラス分振り作り、構成作り
10回目	（目標①②③） 2コーラス以降振り作り、構成作り
11回目	（目標①②③）パフォーマンス確認
12回目	（目標①②③）パフォーマンス最終確認
13回目	前期まとめ
14回目	試験
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外学習	（目標①）1曲を安定して歌うためには体力が必要ですので自分のパート以外も何度も繰り返して練習をしてください。 （目標②）全員の表現が揃うことが大切になりますのでレッスンの映像を確認して復習が必要です。
評価方法	●出席率（50%） ●定期テスト（30%） ●受講意欲（20%）
受講生への メッセージ	この授業はグループとして1つの作品を作っていますので、体調管理に気をつけて欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 ●iPad、メモ用紙、ペン	

科目名 (英)	ダンスパフォーマンスⅣ Dance PerformanceⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜2限
【授業の学習内容】 2年生では与えられた振りや歌詞を表現するのではなく、歌詞や楽器のサウンド、アレンジなどから意図を汲み取り「どんな表現を求められているのかを自分で考え、表現していく」ための授業を実施していきます。オリジナル曲を用いて振りや構成、歌詞など自分たちで作りにていきます。限られた時間の中でクオリティを上げる練習をしていきます。 【講師プロフィール】 レコーディングディレクション、ライブディレクション、ヴォーカルトレーニングを行っており、 千賀健永（Kis-My-Ft2） / 藤原さくら（アムューズ） / May'n（ホリプロ）など様々なアーティストのヴォーカルトレーニングを担当。 【到達目標】 歌うための体作り、自分の感性を表現できるテクニックを学ぶ為の実習を行う。							

授業計画・内容	
1回目	（目標①②）課題曲②渡し、自分たちでのパート割、1コーラス分振り作り （ソロ）
2回目	（目標②③） 1コーラス分振り作り
3回目	（目標②③） 2コーラス分振り作り、構成作り
4回目	（目標①②③） 2コーラス以降振り作り、構成作り
5回目	（目標①②③） パフォーマンス確認
6回目	（目標①②③） パフォーマンス最終確認
7回目	（目標①②） 課題曲②渡し、自分たちでのパート割、1コーラス分振り作り （ソロ）
8回目	（目標②③） 1コーラス分振り作り
9回目	（目標②③） 2コーラス分振り作り、構成作り
10回目	（目標①②③） 2コーラス以降振り作り、構成作り
11回目	（目標①②③） パフォーマンス確認
12回目	（目標①②③） パフォーマンス最終確認
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	（目標①） パートを割る事による表現効果の理解が不可欠ですのでヴォーカルが2人以上いるグループを聴く予習が必要です。 （目標②） 曲のジャンルやコンセプトによるキャッチーなキメ表現が必要になるので手振りなどの予習が必要です。 （目標③） 3度、5度などの理解が必要ですのでメロディーに対してどうハモっているのか予習が必要です。
評価方法	●出席率（50%） ●定期テスト（30%） ●受講意欲（20%）
受講生への メッセージ	この授業はグループとして1つの作品を作っていますので、体調管理に気をつけて欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】 ●iPad、メモ用紙、ペン	

科目名 (英)	ダンスパフォーマンスⅤ Dance Performance V	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜3限
【授業の学習内容】 ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ルーティーンワーク、自主制作、ソロパフォーマンス (講師) 福岡を拠点に、県内外でのshow、judge、lesson、バックアップダンサー、PV出演、振り付けなどを行い活動中。							
【到達目標】 ダンスの知識や技術を使い自主制作やソロパフォーマンスが出来るようになる。また、自己プロデュースをする事が大事なので自分のダンスでの長所を見つける事が出来る様になる。							

授業計画・内容	
1回目	アイソレーション、リズムトレーニングベーシック
2回目	アップ、ダウンのリズムを軸にアイソレの確認
3回目	前後のリズム、リズムバリエーション
4回目	ブレイクダウンを使った軸の意識を確認
5回目	重心移動を意識したステップやムーブ
6回目	ハウス基礎
7回目	ハウスのリズムバリエーション
8回目	ヒップホップから派生したステップ
9回目	様々なステップのリズムバリエーション
10回目	フロアムーブのベーシック
11回目	フロアムーブの応用
12回目	ルーティーン自主作成
13回目	ルーティーン＋ソロ
14回目	前期まとめ
15回目	特別授業
準備学習 時間外学 習	
評価方法	●出席率 (50%) ●定期テスト (30%) ●受講意欲 (20%)
受講生への メッセージ	ヒップホップやハウスダンスのニュースクール中心のレッスンですが、オールドスクールの要素は必須な事が多くあるので柔軟に考えて取り組んでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスパフォーマンスVI Dance PerformanceVI	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜3限
【授業の学習内容】 ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、ルーティーンワーク、自主制作 (講師) 福岡を拠点に、県内外でのshow、judge、lesson、バックアップダンサー、PV出演、振り付けなどを行い活動中。							
【到達目標】 授業で得た知識や技術を使って、自身でルーティーン制作やソロパフォーマンスが出来る様になる							

授業計画・内容	
1回目	ヒップホップ、オールドスクール要素を多めに
2回目	サイドワーク、バックスライド
3回目	ボディーウェーブ、ハンドウェーブ
4回目	ルーティーン+自主作成
5回目	ハウスダンスベーシック
6回目	ハウスダンスのステップ応用
7回目	ハウスダンス ターンを中心に様々なステップ
8回目	ルーティーン+自主作成
9回目	ヒップホップルーティーン
10回目	ハウスルーティーン
11回目	ルーティーン+ソロパフォーマンス
12回目	一年間のまとめ
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間外学習	
評価方法	●出席率 (50%) ●定期テスト (30%) ●受講意欲 (20%)
受講生への メッセージ	普段の授業で得た知識や技術をしっかりと身につけて、将来自分自信がプレイヤー、教える立場になった時に役に立てれるようにしよう。 流行りに敏感な業界ですが、基礎の部分は大事なので自分の土台作りをしっかりとしよう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスクリエイション I Dance Creation I	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜4限
【授業の学習内容】 案件に対して対応できるようになるため、舞台知識、発想の瞬発力、構成の妙、またポジションによつての動き方を指導（プロデュース、振付師、スタンドイン、プレイヤー）それと同時に裏方の知識も指導。 （講師）19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレビューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i x させたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 様々な現場で対応できる知識と経験を得る。好きな曲、好きな振付ではなくクライアントの要望に応えられるような振付ができる。							

授業計画・内容	
1回目	舞台基礎知識
2回目	照明基礎知識
3回目	照明応用知識
4回目	音響知識と編集力
5回目	テーマをランダムに決めた振付
6回目	セクション分けをしたもの作り
7回目	プレゼン、直し
8回目	直しが入った後のプレゼン
9回目	上級テーマで制作
10回目	制作期間とスケジュール管理
11回目	発表
12回目	セッション
13回目	コンテスト
14回目	まとめテスト
15回目	特別授業
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	もの作りはきついしんどいですがやり終えた後の作品は我が子のように愛おしいです。ハマります
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスクリエイションⅡ Dance CreationⅡ	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 卒業制作に向かい前期で得た知識と経験を生かしたものの作り。またそこから1歩進んだテクニックや考え方のレクチャー (講師) 19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレビューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i xさせたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 スケジュール管理や、メールでのやりとりなど社会人ダンサーとしてしっかりした土台を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	制作テーマ決め
2回目	テーマ議論
3回目	作成開始
4回目	作成、スケジュール管理
5回目	作成、リハーサル場所の確保
6回目	作成
7回目	作成
8回目	内覧会、直し
9回目	直し、衣装
10回目	小道具やではけの確認
11回目	照明案、制作チームと打ち合わせ
12回目	ブラッシュアップ
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間 外 学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	1年間の集大成。最高のものを作りましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスクリエイションⅢ Dance CreationⅢ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 案件に対して対応できるようになるため、舞台知識、発想の瞬発力、構成の妙、またポジションによつての動き方を指導（プロデュース、振付師、スタンドイン、プレイヤー）それと同時に裏方の知識も指導。 （講師）19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレビューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i x させたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 様々な現場で対応できる知識と経験を得る。好きな曲、好きな振付ではなくクライアントの要望に応えられるような振付ができる。							

授業計画・内容	
1回目	1年次振り返り、年間目標設定
2回目	制作テーマ決め
3回目	テーマ議論
4回目	作成開始
5回目	作成、スケジュール管理
6回目	作成、リハーサル場所の確保
7回目	作成
8回目	作成
9回目	内覧会、直し
10回目	直し、衣装
11回目	小道具やではけの確認
12回目	照明案、制作チームと打ち合わせ
13回目	ブラッシュアップ
14回目	まとめテスト
15回目	特別授業
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生へのメッセージ	もの作りはきついしんどいですがやり終えた後の作品は我が子のように愛おしいです。ハマります
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスクリエイションⅣ Dance CreationⅣ	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜4限
【授業の学習内容】 卒業制作に向かい前期で得た知識と経験を生かしたものの作り。またそこから1歩進んだテクニックや考え方のレクチャー (講師) 19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレビューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i xさせたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 スケジュール管理や、メールでのやりとりなど社会人ダンサーとしてしっかりした土台を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	制作テーマ決め
2回目	テーマ議論
3回目	作成開始
4回目	作成、スケジュール管理
5回目	作成、リハーサル場所の確保
6回目	作成
7回目	作成
8回目	内覧会、直し
9回目	直し、衣装
10回目	小道具やではけの確認
11回目	照明案、制作チームと打ち合わせ
12回目	ブラッシュアップ
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間 外 学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	1年間の集大成。最高のものを作りましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスクリエイションⅤ Dance CreationⅤ	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 案件に対して対応できるようになるため、舞台知識、発想の瞬発力、構成の妙、またポジションによつての動き方を指導（プロデュース、振付師、スタンドイン、プレイヤー）それと同時に裏方の知識も指導。 （講師）19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレビューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i x させたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 様々な現場で対応できる知識と経験を得る。好きな曲、好きな振付ではなくクライアントの要望に応えられるような振付ができる。							

授業計画・内容	
1回目	2年次振り返り、年間目標設定
2回目	制作テーマ決め
3回目	テーマ議論
4回目	作成開始
5回目	作成、スケジュール管理
6回目	作成、リハーサル場所の確保
7回目	作成
8回目	作成
9回目	内覧会、直し
10回目	直し、衣装
11回目	小道具やではけの確認
12回目	照明案、制作チームと打ち合わせ
13回目	ブラッシュアップ
14回目	まとめテスト
15回目	特別授業
準備学習 時間 外学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	もの作りはきついしんどいですがやり終えた後の作品は我が子のように愛おしいです。ハマります
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ダンスクリエイションⅥ Dance CreationⅥ	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜4限
【授業の学習内容】 卒業制作に向かい前期で得た知識と経験を生かしたものの作り。またそこから1歩進んだテクニックや考え方のレクチャー (講師) 19歳より大阪の専門学校にてダンス、演技、歌を学ぶ。スペースワールドにレビューダンサーとして就職後、東京、ロサンゼルスと在住しさらに技術を高める。ほぼ全てのジャンルを高次元でこなし、さらにそれをM i xさせたオリジナルスタイルで自身を表現。またディレクターとして20代後半に頭角を現し、様々なダンスチーム、アーティストにも振付、演出指導をしている。特にアイドル業界では何組ものアイドルへの振付。その数述べ300曲を超える。現在も九州を拠点に、関西、関東などで活動中。							
【到達目標】 スケジュール管理や、メールでのやりとりなど社会人ダンサーとしてしっかりした土台を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	制作テーマ決め
2回目	テーマ議論
3回目	作成開始
4回目	作成、スケジュール管理
5回目	作成、リハーサル場所の確保
6回目	作成
7回目	作成
8回目	内覧会、直し
9回目	直し、衣装
10回目	小道具やではけの確認
11回目	照明案、制作チームと打ち合わせ
12回目	ブラッシュアップ
13回目	実技試験・評価
14回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
15回目	We are FSM 卒業進級制作 準備
準備学習 時間 外 学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	1年間の集大成。最高のものを作りましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ユニットパフォーマンス I Unit Performance)	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜 5 限
【授業の学習内容】 今、声優は表舞台に立ち、歌って踊れるスキルも求められています。ワンマンライブが行える体力とスキルをつけ、自分なりの表現がパフォーマンスできるようになることを目指し、現場で対応できる心構えを身につけていく為の実践を行います。 ※実務者経験：大手レコード会社やプロダクションで長年、ヴォーカル指導者として新人育成担当として携わる。							
【到達目標】 現場で対応できるスキルと心構えを身につけ、自分の表現できる幅を広げる為の実習を行います。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	発声・声帯について（ヴォーカリストと体の筋肉）
3回目	正しい呼吸について（ヴォーカリストと体の筋肉）
4回目	フィジカルトレーニング（ライブができる体づくり）①
5回目	フィジカルトレーニング（ライブができる体づくり）②
6回目	フィジカルトレーニング（ライブができる体づくり）③
7回目	メンテナンスについて（栄養とトレーニング）①
8回目	メンテナンスについて（筋肉とマッサージ）②
9回目	メンテナンスについて（ストレッチ）③
10回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（発声練習と声の使い方）①
11回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（ダンスのステップとリズム感）②
12回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（歌唱技術）③
13回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（音楽理論）④
14回目	実技試験
15回目	評価・振り返り
準備学習 時間 外学習	演者側としてメディアを見て多くのアーティストを研究。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	この授業では、メディアに輩出できるアーティスト育成を目指してレッスンをを行います。 上手いだけではなく「心、技、体の成長」を目的として、みんなから愛され、応援される人になってほしいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具、iPad、授業は運動できる服装。	

科目名 (英)	ユニットパフォーマンスⅡ Unit Performance)	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 5 限
【授業の学習内容】 今、声優は表舞台に立ち、歌って踊れるスキルも求められています。ワンマンライブが行える体力とスキルをつけ、自分なりの表現がパフォーマンスできるようになることを目指し、現場で対応できる心構えを身につけていく為の実践を行います。 ※実務者経験：大手レコード会社やプロダクションで長年、ヴォーカル指導者として新人育成担当として携わる。							
【到達目標】 現場で対応できるスキルと心構えを身につけ、自分の表現できる幅を広げる為の実習を行います。							

授業計画・内容	
1回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、メロディ確認）①
2回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、メロディ確認）②
3回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）①
4回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）②
5回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、構成、ステージマナー）①
6回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、構成、ステージマナー）②
7回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス）
8回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
9回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、メロディ確認）①
10回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）①
11回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）②
12回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、構成）①
13回目	ヴォーカル&ダンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、構成）②
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間 外学習	演者側としてメディアを見て多くのアーティストを研究。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	この授業では、メディアに輩出できるアーティスト育成を目指してレッスンをを行います。 しかし上手いだけではなく「心、技、体の成長」を目的として、みんなから愛され、応援される人になってほしいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具、iPad、授業は運動できる服装。	

科目名 (英)	ユニットパフォーマンスⅢ Unit Performance)	必修 選択	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜 5 限
【授業の学習内容】 今、声優は表舞台に立ち、歌って踊れるスキルも求められています。ワンマンライブが行える体力とスキルをつけ、自分なりの表現がパフォーマンスできるようになることを目指し、現場で対応できる心構えを身につけていく為の実践を行います。 ※実務者経験：大手レコード会社やプロダクションで長年、ヴォーカル指導者として新人育成担当として携わる。							
【到達目標】 現場で対応できるスキルと心構えを身につけ、自分の表現できる幅を広げる為の実習を行います。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅲパフォーマンス、メロディ確認）①
3回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅲパフォーマンス、メロディ確認）②
4回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅲパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）①
5回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅲパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）②
6回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅲパフォーマンス、構成、ステージマナー）①
7回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅲパフォーマンス、構成、ステージマナー）②
8回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅲパフォーマンス）
9回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
10回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅳパフォーマンス、メロディ確認）①
11回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅳパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）①
12回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅳパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）②
13回目	ヴォーカル＆ダンス基礎（課題曲Ⅳパフォーマンス、構成）①
14回目	実技試験
15回目	評価・振り返り
準備学 習 時間 外学習	演者側としてメディアを見て多くのアーティストを研究。
評価方 法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	この授業では、メディアに輩出できるアーティスト育成を目指してレッスンをを行います。 しかし上手いだけではなく「心、技、体の成長」を目的として、みんなから愛され、応援される人になってほしいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具、iPad、授業は運動できる服装。	

科目名 (英)	ユニットパフォーマンスⅣ Unit Performance)	必修 選択	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 5 限
【授業の学習内容】 今、声優は表舞台に立ち、歌って踊れるスキルも求められています。ワンマンライブが行える体力とスキルをつけ、自分なりの表現がパフォーマンスできるようになることを目指し、現場で対応できる心構えを身につけていく為の実践を行います。 ※実務者経験：大手レコード会社やプロダクションで長年、ヴォーカル指導者として新人育成担当として携わる。							
【到達目標】 現場で対応できるスキルと心構えを身につけ、自分の表現できる幅を広げる為の実習を行います。							

授業計画・内容	
1回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、メロディ確認）①
2回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、メロディ確認）②
3回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）①
4回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）②
5回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、構成）①
6回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス、構成）②
7回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅰパフォーマンス）
8回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
9回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、メロディ確認）①
10回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）①
11回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、歌唱チェック、パート割）②
12回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、構成）①
13回目	ユニットパフォーマンス基礎（課題曲Ⅱパフォーマンス、構成）②
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間 外学習	演者側としてメディアを見て多くのアーティストを研究。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生へのメッセージ	この授業では、メディアに輩出できるアーティスト育成を目指してレッスンをを行います。しかし上手いだけではなく「心、技、体の成長」を目的として、みんなから愛され、応援される人になってほしいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具、iPad、授業は運動できる服装。	

科目名 (英)	ユニットパフォーマンスⅤ Unit Performance)	必修 選択	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜 5 限
【授業の学習内容】 今、声優は表舞台に立ち、歌って踊れるスキルも求められています。ワンマンライブが行える体力とスキルをつけ、自分なりの表現がパフォーマンスできるようになることを目指し、現場で対応できる心構えを身につけていく為の実践を行います。 ※実務者経験：大手レコード会社やプロダクションで長年、ヴォーカル指導者として新人育成担当として携わる。							
【到達目標】 現場で対応できるスキルと心構えを身につけ、自分の表現できる幅を広げる為の実習を行います。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	ユニットパフォーマンス制作（コンセプトの考え方、オリジナル曲制作）①
3回目	ユニットパフォーマンス制作（コンセプトの考え方、オリジナル曲制作）②
4回目	ユニットパフォーマンス制作（ダンスパフォーマンス、構成の作り方、アクション）①
5回目	ユニットパフォーマンス制作（ダンスパフォーマンス、構成の作り方、アクション）②
6回目	ユニットパフォーマンス制作（歌唱チェック）①
7回目	ユニットパフォーマンス制作（歌唱チェック）②
8回目	ユニットパフォーマンス制作（映像収録テクニカルリハーサル）①
9回目	ユニットパフォーマンス制作（映像収録）②
10回目	ユニットパフォーマンス制作（映像収録、編集、SNSプロモーション）③
11回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
12回目	オーディション対策①
13回目	オーディション対策②
14回目	実技試験
15回目	評価・振り返り
準備学習 時間 外学習	演者側としてメディアを見て多くのアーティストを研究。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生へのメッセージ	この授業では、メディアに輩出できるアーティスト育成を目指してレッスンをを行います。 しかし上手いだけではなく「心、技、体の成長」を目的として、みんなから愛され、応援される人になってほしいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具、iPad、授業は運動できる服装。	

科目名 (英)	ユニットパフォーマンスⅥ Unit Performance)	必修 選択	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜 5 限
【授業の学習内容】 今、声優は表舞台に立ち、歌って踊れるスキルも求められています。ワンマンライブが行える体力とスキルをつけ、自分なりの表現がパフォーマンスできるようになることを目指し、現場で対応できる心構えを身につけていく為の実践を行います。 ※実務者経験：大手レコード会社やプロダクションで長年、ヴォーカル指導者として新人育成担当として携わる。							
【到達目標】 現場で対応できるスキルと心構えを身につけ、自分の表現できる幅を広げる為の実習を行います。							

授業計画・内容	
1回目	ユニットパフォーマンス制作（企画、オリジナル曲制作、振付、構成）①
2回目	ユニットパフォーマンス制作（企画、オリジナル曲制作、振付、構成）②
3回目	ユニットパフォーマンス制作（歌唱チェック、パート分け）①
4回目	ユニットパフォーマンス制作（歌唱チェック、パート分け）②
5回目	ユニットパフォーマンス制作（ステージング基礎、テクニカルリハーサル）
6回目	ユニットパフォーマンス制作（パフォーマンス発表）
7回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
8回目	ユニットパフォーマンス制作（企画、オリジナル曲制作、振付、構成）①
9回目	ユニットパフォーマンス制作（企画、オリジナル曲制作、振付、構成）②
10回目	ユニットパフォーマンス制作（歌唱チェック、パート分け）①
11回目	ユニットパフォーマンス制作（歌唱チェック、パート分け）②
12回目	ユニットパフォーマンス制作（ステージング、テクニカルリハーサル）
13回目	ユニットパフォーマンス制作（テクニカルリハーサル、ゲネプロ、SNSプロモーション）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間 外学習	演者側としてメディアを見て多くのアーティストを研究してください。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	この授業では、メディアに輩出できるアーティスト育成を目指してレッスンをを行います。 しかし上手いだけではなく「心、技、体の成長」を目的として、みんなから愛され、応援される人になってほしいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具、iPad、授業は運動できる服装。	

科目名 (英)	ステージアクション/殺陣 I Stage Action I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 映画・ドラマ・舞台でのアクションシーンにおける、基本的な動きと所作、トレーニング方法、突き、蹴り、刀の使い方等、様々なアクションに関する動きや身体の使い方を指導。おもにボディーアクション(素手)、マットを使った、受け身やアクロバット指導も入れて、作品制作ワークを通じて実践的に学びます。 <講師プロフィール> アジア太平洋博覧（1989年）にて全1578回のアクションショーをこなした経験もあり、テレビドラマ、CM、にも多数出演、総ステージ数は4000を超え、現在、様々な作品でアクション指導を行い、殺陣師（アクション監督・アクションコーディネーター）として多くの現場で活動している。							
【到達目標】 最低限、現場での対応ができる身体作りと動きができるようにし、ケガをしないように受け身の基本、マット運動の基本などを習得します。							

授業計画・内容	
1回目	前期:アクションとは、ガイダンス講義
2回目	マット使って、簡単なマット運動①前転・後転の基本
3回目	マット使って、簡単なマット運動②前転・後転の基本
4回目	受け身・リアクション①前受け身・後ろ受け身
5回目	受け身・リアクション②横受け身・転がり受け身
6回目	突き・蹴り基本①
7回目	突き・蹴り基本②
8回目	突き・蹴り・リアクション応用①
9回目	突き・蹴り・リアクション応用②
10回目	振付された立ち回りを感情を入れながら動く①
11回目	振付された立ち回りを感情を入れながら動く②
12回目	前期 実技テスト
13回目	9月特別授業
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外 学習	日頃から体を動かす意識、イメージトレーニングが必要です。
評価方法	実技テスト（70％） 出席率（30％）
受講生への メッセージ	現場ではどんな仕事でも、体力勝負です！それに打ち勝つ精神力を身に付けてほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ステージアクション/殺陣Ⅱ Stage Action II	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 映画・ドラマ・舞台でのアクションシーンにおける、基本的な動きと所作、トレーニング方法、突き、蹴り、刀の使い方等、様々なアクションに関する動きや身体の使い方を指導。おもにボディーアクション(素手)、マットを使った、受け身やアクロバット指導も入れて、作品制作ワークを通じて実践的に学びます。 <講師プロフィール> アジア太平洋博覧（1989年）にて全1578回のアクションショーをこなした経験もあり、テレビドラマ、CM、にも多数出演、総ステージ数は4000を超え、現在、様々な作品でアクション指導を行い、殺陣師（アクション監督・アクションコーディネーター）として多くの現場で活動している。							
【到達目標】 ブリッジ、倒立、ロンダート、アクションジャンプの基礎的内容を習得し、受け身の連続動作の基礎と応用を学びます。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	ブリッジ・倒立の導入①
3回目	ブリッジ・倒立の導入②
4回目	ロンダート（側転からの着地）基礎①
5回目	ロンダート（側転からの着地）基礎②
6回目	立ち幅跳び・ジャンプ系基礎①
7回目	立ち幅跳び・ジャンプ系基礎②
8回目	アクションジャンプ基礎①
9回目	アクションジャンプ基礎②
10回目	受け身の連続動作の基礎と応用①
11回目	受け身の連続動作の基礎と応用②
12回目	受け身の連続動作の基礎と応用③
13回目	後期 実技テスト
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	日頃から体を動かす意識、イメージトレーニングが必要です。
評価方法	実技テスト（70％） 出席率（30％）
受講生への メッセージ	現場ではどんな仕事でも、体力勝負です！それに打ち勝つ精神力を身に付けてほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ステージアクション/殺陣Ⅲ Stage ActionⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 3 限
【授業の学習内容】 映画・ドラマ・舞台でのアクションシーンにおける、基本的な動きと所作、トレーニング方法、突き、蹴り、刀の使い方等、様々なアクションに関する動きや身体の使い方を指導。おもにボディーアクション(素手)、マットを使った、受け身やアクロバット指導も入れて、作品制作ワークを通じて実践的に学びます。 <講師プロフィール> アジア太平洋博覧（1989年）にて全1578回のアクションショーをこなした経験もあり、テレビドラマ、CM、にも多数出演、総ステージ数は4000を超え、現在、様々な作品でアクション指導を行い、殺陣師（アクション監督・アクションコーディネーター）として多くの現場で活動している。							
【到達目標】 殺陣についての基本動作を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	刀の説明①（刀の種類、部首）
3回目	刀の説明②（刀の握り方、足の運び）
4回目	刀、抜刀～納刀まで①（刀、抜刀から斬りかかるまで）
5回目	刀、抜刀～納刀まで②（刀、抜刀から納刀まで）
6回目	刀、抜刀～納刀まで応用①（斬り方の種類）
7回目	カリスティック基本動作①
8回目	カリスティック基本動作②
9回目	カリスティック応用①
10回目	カリスティック応用②
11回目	刀、カリスティックを織り交ぜた立ち回り振付①（現代風アレンジ）
12回目	刀、カリスティックを織り交ぜた立ち回り振付②（現代風アレンジ）
13回目	前期 実技テスト
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外 学習	日頃から体を動かす意識、イメージトレーニングが必要です。
評価方法	実技テスト（70％） 出席率（30％）
受講生への メッセージ	現場ではどんな仕事でも、体力勝負です！それに打ち勝つ精神力を身に付けてほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ステージアクション/殺陣Ⅳ Stage ActionⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 3 限
【授業の学習内容】 映画・ドラマ・舞台でのアクションシーンにおける、基本的な動きと所作、トレーニング方法、突き、蹴り、刀の使い方等、様々なアクションに関する動きや身体の使い方を指導。おもにボディーアクション(素手)、マットを使った、受け身やアクロバット指導も入れて、作品制作ワークを通じて実践的に学びます。 <講師プロフィール> アジア太平洋博覧（1989年）にて全1578回のアクションショーをこなした経験もあり、テレビドラマ、CM、にも多数出演、総ステージ数は4000を超え、現在、様々な作品でアクション指導を行い、殺陣師（アクション監督・アクションコーディネーター）として多くの現場で活動している。							
【到達目標】 舞台や映像作品における具体的なアクションシーン、スピード感のあるアクションと演技について基礎的内容を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	武器の種類と小道具の扱い方について（刀、棒、槍など）
3回目	アクションシーン多人数の動き①
4回目	アクションシーン多人数の動き②
5回目	アクションと演技の動き①
6回目	アクションと演技の動き②
7回目	スローモーションの殺陣の動き①
8回目	スローモーションの殺陣の動き②
9回目	アクション演技（転倒・受け身の基礎）①
10回目	アクション演技（転倒・受け身の基礎）②
11回目	スピード感のあるアクションと演技（基礎）
12回目	スピード感のあるアクションと演技（応用）
13回目	後期 実技テスト
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	日頃から体を動かす意識、イメージトレーニングが必要です。
評価方法	実技テスト（70％） 出席率（30％）
受講生への メッセージ	現場ではどんな仕事でも、体力勝負です！それに打ち勝つ精神力を身に付けてほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ステージアクション/殺陣 V Stage Action V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 4 限
【授業の学習内容】 映画・ドラマ・舞台でのアクションシーンにおける、基本的な動きと所作、トレーニング方法、突き、蹴り、刀の使い方等、様々なアクションに関する動きや身体の使い方を指導。おもにボディーアクション(素手)、マットを使った、受け身やアクロバット指導も入れて、作品制作ワークを通じて実践的に学びます。 <講師プロフィール> アジア太平洋博覧（1989年）にて全1578回のアクションショーをこなした経験もあり、テレビドラマ、CM、にも多数出演、総ステージ数は4000を超え、現在、様々な作品でアクション指導を行い、殺陣師（アクション監督・アクションコーディネーター）として多くの現場で活動している。							
【到達目標】 舞台や映像作品における具体的なアクションシーン、スピード感のあるアクションと演技について応用的内容を得ます。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	メディア アクションシーン別殺陣（時代劇・現代劇）①
3回目	メディア アクションシーン別殺陣（時代劇・現代劇）②
4回目	メディア アクションシーン別殺陣（時代劇・現代劇）③
5回目	舞台制作・アクションシーン①演出概論
6回目	舞台制作・アクションシーン②スピードと緩急の演出
7回目	舞台制作・アクションシーン③音楽・音響・効果音との合わせ方
8回目	映像制作・アクションシーン①演出概論
9回目	映像制作・アクションシーン②スピードと緩急の演出
10回目	映像制作・アクションシーン③音楽・音響・効果音との合わせ方と編集概論
11回目	作品制作ワークショップ概論
12回目	前期 舞台・映像制作実技テスト
13回目	9月特別授業
14回目	ミュージカル演習
15回目	ミュージカル演習
準備学習 時間外 学習	日頃から体を動かす意識、イメージトレーニングが必要です。
評価方法	実技テスト（70％） 出席率（30％）
受講生への メッセージ	現場ではどんな仕事でも、体力勝負です！それに打ち勝つ精神力を身に付けてほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ステージアクション/殺陣Ⅵ Stage ActionⅥ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 4 限
【授業の学習内容】 映画・ドラマ・舞台でのアクションシーンにおける、基本的な動きと所作、トレーニング方法、突き、蹴り、刀の使い方等、様々なアクションに関する動きや身体の使い方を指導。おもにボディーアクション(素手)、マットを使った、受け身やアクロバット指導も入れて、作品制作ワークを通じて実践的に学びます。 <講師プロフィール> アジア太平洋博覧（1989年）にて全1578回のアクションショーをこなした経験もあり、テレビドラマ、CM、にも多数出演、総ステージ数は4000を超え、現在、様々な作品でアクション指導を行い、殺陣師（アクション監督・アクションコーディネーター）として多くの現場で活動している。							
【到達目標】 舞台や映像作品における具体的なアクションシーン、スピード感のあるアクションと演技についての学びから、実際の作品制作を通じて現場のルールや制作の流れ、演出家の意図理解、ディスカッション、コミュニケーション力などを身に付けます。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	作品制作 グループワーク（チームでの演出とは）①
3回目	作品制作 グループワーク（演出家とのコミュニケーション）②
4回目	作品制作 グループワーク（企画制作）③
5回目	作品制作 グループワーク（音響・照明・舞台）④
6回目	作品制作 グループワーク（衣装・メイク）⑤
7回目	作品制作 グループワーク（映像・カメラワーク・編集基礎）⑥
8回目	作品制作 グループワーク（映像・カメラワーク・編集応用）⑦
9回目	舞台・映像作品制作ワーク①
10回目	舞台・映像作品制作ワーク②
11回目	舞台・映像作品制作ワーク③
12回目	舞台・映像作品制作ワーク発表
13回目	後期 実技テスト
14回目	We are FSM 卒業進級制作 リハーサル
15回目	We are FSM 卒業進級制作 本番
準備学習 時間外 学習	日頃から体を動かす意識、イメージトレーニングが必要です。
評価方法	実技テスト（70％） 出席率（30％）
受講生への メッセージ	現場ではどんな仕事でも、体力勝負です！それに打ち勝つ精神力を身に付けてほしい。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台演技 I Stage Acting I	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 演技に重要な発想力、想像力、柔軟性、適応力、読解力、コミュニケーション力等を身に付け、演技の基礎的能力を養います。舞台作品制作を通じて、演技に必要な人間力を育み、短編中編の課題作品では台本、キャラクター研究、演出など実践的に作品制作を学びます。オリジナル舞台作品制作ではグループで取組み、企画制作から発表までクリエイティブ能力を身に付け、演劇人としての基礎力がある、業界から求められる人材づくりを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 演技の基本は表現すること、人に伝えること、楽しませる意味などを知ることを習得し、発想力を柔軟に表現をする上で心身共に柔軟性を養う、「受け」と「発信」の意味、演技におけるコミュニケーション力を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	演技基礎・表現について
3回目	演技基礎・「想像力」演習
4回目	演技基礎・「発想力」演習
5回目	演技基礎・「瞬発力」演習
6回目	演技基礎・「柔軟性」演習
7回目	演技基礎・「適応力」演習
8回目	演技基礎・「読解力」演習
9回目	演技基礎・「コミュニケーション」演習①
10回目	演技基礎・「コミュニケーション」演習②
11回目	演技基礎・「会話の成り立ち」演習①
12回目	演技基礎・「会話の成り立ち」演習②
13回目	イベントを通して実践する
14回目	イベントを通して実践する
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台演技Ⅱ Stage ActingⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 演技に重要な発想力、想像力、柔軟性、適応力、読解力、コミュニケーション等を身に付け、演技の基礎的能力を養います。舞台作品制作を通じて、演技に必要な人間力を育み、短編中編の課題作品では台本、キャラクター研究、演出など実践的に作品制作を学びます。オリジナル舞台作品制作ではグループで取組み、企画制作から発表までクリエイティブ能力を身に付け、演劇人としての基礎力がある、業界から求められる人材づくりを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 課題作品を通じて、演技に重要な発想力、想像力、柔軟性、適応力、読解力、コミュニケーションを学ぶ応用的演習を行い、演技の基礎的能力を身に付けます。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	演技応用・表現について
3回目	演技応用・「想像力」演習（課題作品）
4回目	演技応用・「発想力」演習（課題作品）
5回目	演技応用・「瞬発力」演習（課題作品）
6回目	演技応用・「柔軟性」演習（課題作品）
7回目	演技応用・「適応力」演習（課題作品）
8回目	演技応用・「読解力」演習（課題作品）
9回目	演技応用・「コミュニケーション」演習①
10回目	演技応用・「コミュニケーション」演習②
11回目	演技応用・「コミュニケーション」演習③
12回目	演技応用・「会話の成り立ち」演習①
13回目	演技応用・「会話の成り立ち」演習②
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台演技Ⅲ Stage ActingⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 演技に重要な発想力、想像力、柔軟性、適応力、読解力、コミュニケーション力等を身に付け、演技の基礎的能力を養います。舞台作品制作を通じて、演技に必要な人間力を育み、短編中編の課題作品では台本、キャラクター研究、演出など実践的に作品制作を学びます。オリジナル舞台作品制作ではグループで取組み、企画制作から発表までクリエイティブ能力を身に付け、演劇人としての基礎力がある、業界から求められる人材づくりを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 課題作品を2作品を通じて、繊細に演技を学びます。短編課題作品を通じて、演技実習を行い、短編課題作品を発表します。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	感情表現 課題実習
3回目	課題作品① 演技実習（短編）
4回目	課題作品① 演技実習（短編）
5回目	課題作品① 演技実習（短編）
6回目	課題作品① 演技実習（短編）
7回目	課題作品① 発表
8回目	課題作品② 演技実習（短編）
9回目	課題作品② 演技実習（短編）
10回目	課題作品② 演技実習（短編）
11回目	課題作品② 演技実習（短編）
12回目	課題作品② 演技実習（短編）
13回目	イベントを通して実践する
14回目	イベントを通して実践する
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	舞台演技Ⅳ Stage ActingⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 演技に重要な発想力、想像力、柔軟性、適応力、読解力、コミュニケーション力等を身に付け、演技の基礎的能力を養います。舞台作品制作を通じて、演技に必要な人間力を育み、短編中編の課題作品では台本、キャラクター研究、演出など実践的に作品制作を学びます。オリジナル舞台作品制作ではグループで取組み、企画制作から発表までクリエイティブ能力を身に付け、演劇人としての基礎力がある、業界から求められる人材づくりを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 感情の流れと動機、キャラクター研究、台詞の裏にある意図の読み取りを課題作品を通じて学びます。中編の課題作品に取組み、実践的に舞台演技を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	後期：ガイダンス講義
2回目	課題作品 感情の流れと動機について
3回目	課題作品 感情の流れと動機について
4回目	課題作品 キャラクター研究
5回目	課題作品 キャラクター研究
6回目	課題作品 台詞の裏にある意図の読み取り
7回目	課題作品 台詞の裏にある意図の読み取り
8回目	作品制作 中編課題実習①
9回目	作品制作 中編課題実習②
10回目	作品制作 中編課題実習③
11回目	作品制作 中編課題実習④
12回目	作品制作 中編課題実習⑤
13回目	作品制作 中編課題実習⑥
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 発声、発音/あいうえおの歌/外郎売	

科目名 (英)	舞台演技Ⅴ Stage Acting V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 演技に重要な発想力、想像力、柔軟性、適応力、読解力、コミュニケーション力等を身に付け、演技の基礎的能力を養います。舞台作品制作を通じて、演技に必要な人間力を育み、短編中編の課題作品では台本、キャラクター研究、演出など実践的に作品制作を学びます。オリジナル舞台作品制作ではグループで取組み、企画制作から発表までクリエイティブ能力を身に付け、演劇人としての基礎力がある、業界から求められる人材づくりを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 グループに分かれてオリジナル作品の企画制作。台本制作から演出まで、担当を決めて実践的に作品制作をします。オリジナル作品の台本制作、演出手法を深く理解し、学び、作品発表に向けての準備を行います。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	舞台作品研究（台本）
3回目	舞台作品研究（演出）
4回目	舞台制作プロット構成制作
5回目	舞台制作・オリジナル作品台本制作①
6回目	舞台制作・オリジナル作品台本制作②
7回目	舞台制作・オリジナル作品台本制作③
8回目	舞台制作・オリジナル作品演出①
9回目	舞台制作・オリジナル作品演出②
10回目	舞台制作・オリジナル作品演出③
11回目	舞台制作・オリジナル作品台詞表現①
12回目	舞台制作・オリジナル作品台詞表現②
13回目	イベントを通して実践する
14回目	イベントを通して実践する
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 発声、発音/あいうえおの歌/外郎売	

科目名 (英)	舞台演技Ⅵ Stage ActingⅥ	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜4限
【授業の学習内容】 演技に重要な発想力、想像力、柔軟性、適応力、読解力、コミュニケーション力等を身に付け、演技の基礎的能力を養います。舞台作品制作を通じて、演技に必要な人間力を育み、短編中編の課題作品では台本、キャラクター研究、演出など実践的に作品制作を学びます。オリジナル舞台作品制作ではグループで取組み、企画制作から発表までクリエイティブ能力を身に付け、演劇人としての基礎力がある、業界から求められる人材づくりを目標とします。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 舞台作品をグループワークを通じて制作します。制作の流れを学び、実際の舞台作品をオリジナルで制作、発表し演出や脚本、演者、制作スタッフとしての役割を理解し、実践的に習得します。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	舞台作品制作 グループワーク（台本ディスカッション）
3回目	舞台作品制作 グループワーク（演出家とのコミュニケーション）
4回目	舞台作品制作 グループワーク（企画制作）
5回目	舞台作品制作 グループワーク（音響・照明・舞台美術）
6回目	舞台作品制作 グループワーク（衣装・メイク）
7回目	舞台作品制作 グループワーク（宣伝プロモーション）
8回目	舞台作品制作発表①
9回目	舞台作品制作発表②
10回目	舞台作品制作発表③
11回目	舞台作品制作発表④
12回目	舞台作品制作発表⑤
13回目	後期 評価テスト
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 発声、発音/あいうえおの歌/外郎売	

科目名 (英)	ナレーション I Narration	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 声を使う仕事として腹式呼吸、母音、子音、鼻濁音、無声音のしくみを正しく理解し、ナレーターとして必要なアクセント、イントネーション、ナレーションにおける文章のリズムやトーンを習得し、表現力もトレーニングしながら磨いていきます。※実務者経験:NHKキャスター、民放局アナを経て、現在フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオに出演中、アナウンサー歴はもうすぐ20年。声優・アクターのオーディションに必須となる「ナレーション・発声滑舌」の基礎をきちんと磨きながら、オーディションに向けた、実践を多くこなすことで、本番に強くなるメンタルも鍛えます。							
【到達目標】 声優として通用する発声・滑舌ができるようになる。その上で、話す力、伝える力を身に着け、発信できるようになる。声を使う仕事、ナレーション、CM、司会、リポーターなど、幅広く対応し、メディア・コンテンツ制作ができる能力を身につける。 <具体的な目標> 目標① 腹式呼吸、正しい発声の仕方、アクセント記号、鼻濁音、無声音を習得する。 目標② 正しいアクセント、イントネーションを理解する。 目標③ ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	腹式呼吸、正しい発声の仕方、アクセント記号、鼻濁音、無声音を学ぶ
3回目	クリアな話し方のためのトレーニング①
4回目	クリアな話し方のためのトレーニング②
5回目	アクセントとイントネーション（アクセントの役割と重要性）①
6回目	アクセントとイントネーション（アクセントの役割と重要性）②
7回目	アクセントとイントネーション（文章のリズムとイントネーション）①
8回目	アクセントとイントネーション（文章のリズムとイントネーション）②
9回目	ナレーションの概要と種類（ナレーションにおける声の特徴と表現力のトレーニング）①
10回目	ナレーションの概要と種類（ナレーションにおける声の特徴と表現力のトレーニング）②
11回目	ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方と音色変化のトレーニング①
12回目	ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方と音色変化のトレーニング②
13回目	実技試験①
14回目	実技試験②
15回目	評価と振り返り
準備学習 時間外 学習	発声や滑舌、呼吸法などは1日休むと、取り返すのに3日かかるとプロの世界では言われています。日頃から、自分で練習する習慣をつけましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	いつオーディションが来ても焦らないで済むよう、準備の大切さをしっかりと伝えていきます。
【使用教科書・教材・参考書】 （株）滋慶出版 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	ナレーションⅡ Narration	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 声を使う仕事として腹式呼吸、母音、子音、鼻濁音、無声音のしくみを正しく理解し、ナレーターとして必要なアクセント、イントネーション、ナレーションにおける文章のリズムやトーンを習得し、表現力もトレーニングしながら磨いていきます。ドキュメンタリー、広告などのナレーション課題を学びます。※実務者経験:NHKキャスター、民放局アナを経て、現在フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオに出演中、アナウンサー歴はもうすぐ20年。声優・アクターのオーディションに必須となる「ナレーション・発声滑舌」の基礎をきちんと磨きながら、オーディションに向けた、実践を多くこなすことで、本番に強くなるメンタルも鍛えます。							
【到達目標】 声優として通用する発声・滑舌ができるようになる。その上で、話す力、伝える力を身に付け、発信できるようになる。声を使う仕事、ナレーション、CM、司会、リポーターなど、幅広く対応し、メディア・コンテンツ制作ができる能力を身につける。 <具体的な目標> 目標① 腹式呼吸、正しい発声の仕方、アクセント記号、鼻濁音、無声音を習得する。 目標② 正しいアクセント、イントネーションを理解する。 目標③ ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	ナレーションテキストの解釈と表現（テキストの意味と感情の理解）①
2回目	ナレーションテキストの解釈と表現（テキストの意味と感情の理解）②
3回目	ナレーションテキストの解釈と表現（テキストの音読と解釈の練習）①
4回目	ナレーションテキストの解釈と表現（テキストの音読と解釈の練習）②
5回目	ナレーションリズム（ペース、テンポ、スピードコントロール）①
6回目	ナレーションリズム（ペース、テンポ、スピードコントロール）②
7回目	ナレーションスタイル（語り口の個性とジャンルの特徴をつかむ）①
8回目	ナレーションスタイル（語り口の個性とジャンルの特徴をつかむ）②
9回目	ナレーション課題（ニュース、ドキュメンタリー、広告）①
10回目	ナレーション課題（ニュース、ドキュメンタリー、広告）②
11回目	ナレーション課題（ニュース、ドキュメンタリー、広告）③
12回目	ナレーション課題（ニュース、ドキュメンタリー、広告）④
13回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	発声や滑舌、呼吸法などは1日休むと、取り返すのに3日かかるとプロの世界では言われています。日頃から、自分で練習する習慣をつけましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	いつオーディションが来ても焦らないで済むよう、準備の大切さをしっかりと伝えていきます。
【使用教科書・教材・参考書】 （株）滋慶出版 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	ナレーションⅢ Narration	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 声を使う仕事として腹式呼吸、母音、子音、鼻濁音、無声音のしくみを正しく理解し、ナレーターとして必要なアクセント、イントネーション、ナレーションにおける文章のリズムやトーンを習得し、表現力もトレーニングしながら磨いていきます。イベント関連、館内放送、インフォーマーシャルなどのナレーション課題を学びます。※実務者経験:NHKキャスター、民放局アナを経て、現在フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオに出演中、アナウンサー歴はもうすぐ20年。声優・アクターのオーディションに必須となる「ナレーション・発声滑舌」の基礎をきちんと磨きながら、オーディションに向けた、実践を多くこなすことで、本番に強くなるメンタルも鍛えます。							
【到達目標】 声優として通用する発声・滑舌ができるようになる。その上で、話す力、伝える力を身に付け、発信できるようになる。声を使う仕事、ナレーション、CM、司会、リポーターなど、幅広く対応し、メディア・コンテンツ制作ができる能力を身につける。 <具体的な目標> 目標① 腹式呼吸、正しい発声の仕方、アクセント記号、鼻濁音、無声音を習得する。 目標② 正しいアクセント、イントネーションを理解する。 目標③ ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	ナレーション基礎課題（短編小説、詩、舞台）①
3回目	ナレーション基礎課題（短編小説、詩、舞台）②
4回目	ナレーション基礎課題（短編小説、詩、舞台）③
5回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
6回目	ナレーション演習課題（言葉の明瞭さと聴取しやすさの向上練習）①
7回目	ナレーション演習課題（言葉の明瞭さと聴取しやすさの向上練習）②
8回目	ナレーション演習課題（言葉の明瞭さと聴取しやすさの向上練習）②
9回目	ナレーション基礎課題（公共施設、イベント関連、館内放送、インフォーマーシャル）①
10回目	ナレーション基礎課題（公共施設、イベント関連、館内放送、インフォーマーシャル）②
11回目	ナレーション基礎課題（公共施設、イベント関連、館内放送、インフォーマーシャル）③
12回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
13回目	実技試験①
14回目	実技試験②
15回目	評価と振り返り
準備学習 時間外 学習	発声や滑舌、呼吸法などは1日休むと、取り返すのに3日かかるとプロの世界では言われています。日頃から、自分で練習する習慣をつけましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	いつオーディションが来ても焦らないで済むよう、準備の大切さをしっかりと伝えていきます。
【使用教科書・教材・参考書】 （株）滋慶出版 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	ナレーションⅣ Narration	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 声を使う仕事として腹式呼吸、母音、子音、鼻濁音、無声音のしくみを正しく理解し、ナレーターとして必要なアクセント、イントネーション、ナレーションにおける文章のリズムやトーンを習得し、表現力もトレーニングしながら磨いていきます。ナレーション応用課題を用いてレベルアップした内容を学びます。※実務者経験:NHKキャスター、民放局アナを経て、現在フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオに出演中、アナウンサー歴はもうすぐ20年。声優・アクターのオーディションに必須となる「ナレーション・発声滑舌」の基礎をきちんと磨きながら、オーディションに向けた、実践を多くこなすことで、本番に強くなるメンタルも鍛えます。							
【到達目標】 声優として通用する発声・滑舌ができるようになる。その上で、話す力、伝える力を身に着け、発信できるようになる。声を使う仕事、ナレーション、CM、司会、リポーターなど、幅広く対応し、メディア・コンテンツ制作ができる能力を身につける。 <具体的な目標> 目標① 腹式呼吸、正しい発声の仕方、アクセント記号、鼻濁音、無声音を習得する。 目標② 正しいアクセント、イントネーションを理解する。 目標③ ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	ナレーション技術向上のための応用実践トレーニング①
2回目	ナレーションテキストの即興朗読①
3回目	ナレーションテキストの即興朗読②
4回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
5回目	ナレーション技術向上のための応用実践トレーニング②
6回目	ナレーション応用課題（メディア、短編小説、詩、舞台）①
7回目	ナレーション応用課題（メディア、短編小説、詩、舞台）②
8回目	ナレーション応用課題（メディア、短編小説、詩、舞台）③
9回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
10回目	ナレーション応用課題（メディア、公共施設、イベント関連、館内放送、インフォーマーシャル）①
11回目	ナレーション応用課題（メディア、公共施設、イベント関連、館内放送、インフォーマーシャル）②
12回目	ナレーション応用課題（メディア、公共施設、イベント関連、館内放送、インフォーマーシャル）③
13回目	課題評価（パフォーマンスに対するフィードバック評価）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	発声や滑舌、呼吸法などは1日休むと、取り返すのに3日かかるとプロの世界では言われています。日頃から、自分で練習する習慣をつけましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	いつオーディションが来ても焦らないで済むよう、準備の大切さをしっかりと伝えていきます。
【使用教科書・教材・参考書】 （株）滋慶出版 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	ナレーションⅤ Narration	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 声を使う仕事として腹式呼吸、母音、子音、鼻濁音、無声音のしくみを正しく理解し、ナレーターとして必要なアクセント、イントネーション、ナレーションにおける文章のリズムやトーンを習得し、表現力もトレーニングしながら磨いていきます。インタビューの基本、ナレーション原稿の作成、映像制作について学びます。※実務者経験:NHKキャスター、民放局アナを経て、現在フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオに出演中、アナウンサー歴はもうすぐ20年。声優・アクターのオーディションに必須となる「ナレーション・発声滑舌」の基礎をきちんと磨きながら、オーディションに向けた、実践を多くこなすことで、本番に強くなるメンタルも鍛えます。							
【到達目標】 声優として通用する発声・滑舌ができるようになる。その上で、話す力、伝える力を身に付け、発信できるようになる。声を使う仕事、ナレーション、CM、司会、リポーターなど、幅広く対応し、メディア・コンテンツ制作ができる能力を身につける。 <具体的な目標> 目標① 腹式呼吸、正しい発声の仕方、アクセント記号、鼻濁音、無声音を習得する。 目標② 正しいアクセント、イントネーションを理解する。 目標③ ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	ナレーションとメディアコミュニケーション（インタビュー取材の基本）①
3回目	ナレーションとメディアコミュニケーション（インタビュー取材の基本）②
4回目	ナレーションと映像の相互作用と演出方法①
5回目	ナレーションと映像の相互作用と演出方法②
6回目	ナレーション原稿作成演習（ニュース、CM、インフォメーション、曲紹介他）①
7回目	ナレーション原稿作成演習（ニュース、CM、インフォメーション、曲紹介他）②
8回目	メディア制作におけるBGMの選定と編集の基礎知識
9回目	ナレーションとBGMの調和とバランスの基礎知識①
10回目	ナレーションとBGMの調和とバランスの基礎知識②
11回目	ナレーション付き映像作品の制作と編集の基礎①
12回目	ナレーション付き映像作品の制作と編集の基礎②
13回目	実技試験①
14回目	実技試験②
15回目	評価と振り返り
準備学習 時間外 学習	発声や滑舌、呼吸法などは1日休むと、取り返すのに3日かかるとプロの世界では言われています。日頃から、自分で練習する習慣をつけましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	いつオーディションが来ても焦らないで済むよう、準備の大切さをしっかりと伝えていきます。
【使用教科書・教材・参考書】 （株）滋慶出版 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	ナレーションVI Narration	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	金曜 2 限
【授業の学習内容】 声を使う仕事として腹式呼吸、母音、子音、鼻濁音、無声音のしくみを正しく理解し、ナレーターとして必要なアクセント、イントネーション、ナレーションにおける文章のリズムやトーンを習得し、表現力もトレーニングしながら磨いていきます。ナレーションを用いたテレビ番組、ラジオ番組制作の基本について学びます。※実務者経験:NHKキャスター、民放局アナを経て、現在フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオに出演中、アナウンサー歴はもうすぐ20年。声優・アクターのオーディションに必須となる「ナレーション・発声滑舌」の基礎をきちんと磨きながら、オーディションに向けた、実践を多くこなすことで、本番に強くなるメンタルも鍛えます。							
【到達目標】 声優として通用する発声・滑舌ができるようになる。その上で、話す力、伝える力を身に着け、発信できるようになる。声を使う仕事、ナレーション、CM、司会、リポーターなど、幅広く対応し、メディア・コンテンツ制作ができる能力を身につける。 <具体的な目標> 目標① 腹式呼吸、正しい発声の仕方、アクセント記号、鼻濁音、無声音を習得する。 目標② 正しいアクセント、イントネーションを理解する。 目標③ ナレーションにおける文章のリズム、トーンの使い方を習得する。							

授業計画・内容	
1回目	ラジオ番組制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）①
2回目	ラジオ番組制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）②
3回目	ラジオ番組制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）③
4回目	ラジオ番組制作課題フィードバック（制作課題に対するフィードバック評価）
5回目	WEBメディア制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）①
6回目	WEBメディア制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）②
7回目	WEBメディア制作課題フィードバック（制作課題に対するフィードバック評価）
8回目	テレビ番組制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）①
9回目	テレビ番組制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）②
10回目	テレビ番組制作ナレーション（取材、番組制作、ナレーション原稿作成、BGM選曲、完パケ）③
11回目	テレビ番組制作課題フィードバック（制作課題に対するフィードバック評価）
12回目	オーディション対策①
13回目	オーディション対策②
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	発声や滑舌、呼吸法などは1日休むと、取り返すのに3日かかるとプロの世界では言われています。日頃から、自分で練習する習慣をつけましょう。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	いつオーディションが来ても焦らないで済むよう、準備の大切さをしっかりと伝えていきます。
【使用教科書・教材・参考書】 （株）滋慶出版 発声滑舌アクセントトレーニング教本 アクセント辞典	

科目名 (英)	アフレコ I Voice Over Technique	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜 1 限
【授業の学習内容】 アフレコ（スタジオでの演習）は実際にスタジオでマイクの前でアニメ＆外画などのアフレコを行います。口パクに合わせて喋ることはもちろん、声優の心構えを習得します。※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。 ◎姉妹校を含む外部企業からの音声収録の依頼があった場合は依頼された案件の収録・編集を行う場合があります。外部発注の依頼は完成度とスピードが求められ声優として仕事をする上でも同じことを求められます。在学中にプロとしての意識を高めておくことは重要です。							
【到達目標】 アフレコ基礎知識（文章理解力＆構成）、音声テクニック（高低＆強弱＆リズムの変化＆メリハリ）を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	アフレコの基礎知識（マイクワーク、収録におけるマイク前のマナー他）①
3回目	アフレコの基礎知識（マイクセッティング他）② 音声制作編集（DAW）
4回目	アフレコ収録基礎（正しい発声、言葉の発音とアクセント）①
5回目	アフレコ収録基礎（言葉のクリアさと聞き取りやすさの向上）②
6回目	アフレコ収録基礎（鼻濁音、無声音、基本＆変形滑舌練習）③
7回目	アフレコ収録基礎（台本解析、キャラクター演技）④
8回目	アニメアフレコ実習（キャラクターに合った声の演技、アフレコにおける感情表現）
9回目	外画アフレコ実習（キャラクターに合った声の演技、アフレコにおける感情表現）
10回目	アニメアフレコ実習（収録の振り返り）
11回目	外画アフレコ実習（収録の振り返り）
12回目	アニメアフレコ実習（アフレコ声の特徴と表現力のトレーニング）
13回目	外画アフレコ実習（アフレコ声の特徴と表現力のトレーニング）
14回目	実技試験
15回目	評価と振り返り
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生へのメッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ＆外画台本	

科目名 (英)	アフレコⅡ Voice Over Technique	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 1 限
【授業の学習内容】 アフレコ（スタジオでの演習）は実際にスタジオでマイクの前でアニメ＆外画などのアフレコを行います。口パクに合わせて喋ることはもちろん、声優の心構えを習得します。※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。 ◎姉妹校を含む外部企業からの音声収録の依頼があった場合は依頼された案件の収録・編集を行う場合があります。外部発注の依頼は完成度とスピードが求められ声優として仕事をする上でも同じことを求められます。在学中にプロとしての意識を高めておくことは重要です。							
【到達目標】 アフレコ基礎知識（文章理解力＆構成）、音声テクニック（高低＆強弱＆リズムの変化＆メリハリ）を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	アニメアフレコ実習（キャラクターボイスの演技、キャラクターやシーンに応じた演技の実践）①
2回目	アニメアフレコ実習（キャラクターボイスの演技、キャラクターやシーンに応じた演技の実践）②
3回目	アニメアフレコ実習（キャラクターボイスの演技、キャラクターやシーンに応じた演技の実践）③
4回目	外画アフレコ実習（キャラクターボイスの演技、キャラクターやシーンに応じた演技の実践）①
5回目	外画アフレコ実習（キャラクターボイスの演技、キャラクターやシーンに応じた演技の実践）②
6回目	外画アフレコ実習（キャラクターボイスの演技、キャラクターやシーンに応じた演技の実践）③
7回目	アニメアフレコ実習（音響監督実習）
8回目	アニメアフレコ実習（収録の振り返り）
9回目	外画アフレコ実習（音響監督実習）
10回目	外画アフレコ実習（収録の振り返り）
11回目	ボイスサンプル制作（キャラクターボイス）
12回目	ボイスサンプル制作（キャラクターボイス）
13回目	ボイスサンプル制作（キャラクターボイス）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ＆外画台本	

科目名 (英)	アフレコⅢ Voice Over Technique	必修 選択	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜 1 限
【授業の学習内容】 アフレコ（スタジオでの演習）は実際にスタジオでマイクの前でアニメ＆外画などのアフレコを行います。ロバクに合わせて喋ることはもちろん、声優の心構えを習得します。※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。 ◎姉妹校を含む外部企業からの音声収録の依頼があった場合は依頼された案件の収録・編集を行う場合があります。外部発注の依頼は完成度とスピードが求められ声優として仕事をする上でも同じことを求められます。在学中にプロとしての意識を高めておくことは重要です。							
【到達目標】 アフレコ基礎知識（文章理解力＆構成）、音声テクニック（高低＆強弱＆リズムの変化＆メリハリ）を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	アフレコテクニカル（収録技術、音声編集ソフトDAW習得）①
3回目	アフレコテクニカル（収録技術、音声編集ソフトDAW習得）②
4回目	アフレコテクニカル（収録技術、音声編集ソフトDAW習得）③
5回目	アニメ・アフレコ収録（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）①
6回目	アニメ・アフレコ収録（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）②
7回目	アニメ・アフレコ収録（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）③
8回目	アニメ・アフレコ収録（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）④
9回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
10回目	外画・アフレコ収録（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）①
11回目	外画・アフレコ収録（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）②
12回目	外画・アフレコ収録（各ジャンルのキャラクターデザインとイメージ構築）③
13回目	収録課題フィードバック（収録課題に対するフィードバック評価）
14回目	実技試験
15回目	評価と振り返り
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生へのメッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ＆外画台本	

科目名 (英)	アフレコIV Voice Over Technique	必修 選択	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 1 限
【授業の学習内容】 アフレコ（スタジオでの演習）は実際にスタジオでマイクの前でアニメ＆外画などのアフレコを行います。口パクに合わせて喋ることはもちろん、声優の心構えを習得します。※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。 ◎姉妹校を含む外部企業からの音声収録の依頼があった場合は依頼された案件の収録・編集を行う場合があります。外部発注の依頼は完成度とスピードが求められ声優として仕事をする上でも同じことを求められます。在学中にプロとしての意識を高めておくことは重要です。							
【到達目標】 アフレコ基礎知識（文章理解力＆構成）、音声テクニック（高低＆強弱＆リズムの変化＆メリハリ）を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	アニメ・外画アフレコ（音響監督実習）①
2回目	アニメ・外画アフレコ（音響監督実習）②
3回目	アニメ・外画アフレコ（音響監督実習）③
4回目	アニメ・外画アフレコ（音響監督実習）④
5回目	アニメアフレコ課題（各ジャンルアニメ作品、企業課題他）①
6回目	アニメアフレコ課題（各ジャンルアニメ作品、企業課題他）②
7回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
8回目	アニメ・外画アフレコ（音響監督実習）⑤
9回目	アニメ・外画アフレコ（音響監督実習）⑥
10回目	アニメ・外画アフレコ（オーディションボイスサンプル制作）①
11回目	アニメ・外画アフレコ（オーディションボイスサンプル制作）②
12回目	オーディション対策（プロダクション研究、模擬オーディション）①
13回目	オーディション対策（プロダクション研究、模擬オーディション）②
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ＆外画台本	

科目名 (英)	アフレコV Voice Over Technique	必修 選択	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜 1 限
【授業の学習内容】 アフレコ（スタジオでの演習）は実際にスタジオでマイクの前でアニメ＆外画などのアフレコを行います。口パクに合わせて喋ることはもちろん、声優の心構えを習得します。※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。 ◎姉妹校を含む外部企業からの音声収録の依頼があった場合は依頼された案件の収録・編集を行う場合があります。外部発注の依頼は完成度とスピードが求められ声優として仕事をする上でも同じことを求められます。在学中にプロとしての意識を高めておくことは重要です。							
【到達目標】 アフレコ基礎知識（文章理解力＆構成）、音声テクニック（高低＆強弱＆リズムの変化＆メリハリ）を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（今後の授業内容説明）
2回目	アニメアフレコ（アニメジャンルとキャラクター研究）①
3回目	アニメアフレコ（アニメジャンルとキャラクター研究）②
4回目	アニメアフレコ（アニメジャンルとキャラクター研究）③
5回目	アニメアフレコ（アニメジャンルとキャラクター研究）④
6回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
7回目	外画アフレコ（各ジャンルとアニメーションとの違いを考える）①
8回目	外画アフレコ（各ジャンルとアニメーションとの違いを考える）②
9回目	外画アフレコ（各ジャンルとアニメーションとの違いを考える）③
10回目	外画アフレコ（各ジャンルとアニメーションとの違いを考える）④
11回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
12回目	オーディション対策（プロダクション研究、模擬オーディション）
13回目	オーディション対策（プロダクション研究、模擬オーディション）
14回目	実技試験
15回目	評価と振り返り
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生へのメッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ＆外画台本	

科目名 (英)	アフレコVI Voice Over Technique	必修 選択	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義演 習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 1 限
【授業の学習内容】 アフレコ（スタジオでの演習）は実際にスタジオでマイクの前でアニメ＆外画などのアフレコを行います。口パクに合わせて喋ることはもちろん、声優の心構えを習得します。※実務経験：ダンサー・パフォーマーとして活躍後、吹き替えではアニメ・外画を中心に、テレビ・ラジオCMナレーション、企業VP、舞台や映像分野の仕事にも幅広く出演している。現在は講師の仕事を中心に活動中。 ◎姉妹校を含む外部企業からの音声収録の依頼があった場合は依頼された案件の収録・編集を行う場合があります。外部発注の依頼は完成度とスピードが求められ声優として仕事をする上でも同じことを求められます。在学中にプロとしての意識を高めておくことは重要です。							
【到達目標】 アフレコ基礎知識（文章理解力＆構成）、音声テクニック（高低＆強弱＆リズムの変化＆メリハリ）を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	オーディション対策（プロダクション研究、模擬オーディション）①
2回目	オーディション対策（プロダクション研究、模擬オーディション）②
3回目	オーディション対策（プロダクション研究、模擬オーディション）③
4回目	アニメアフレコ応用（各ジャンルアニメ作品、企業課題他）①
5回目	アニメアフレコ応用（各ジャンルアニメ作品、企業課題他）②
6回目	アニメアフレコ応用（各ジャンルアニメ作品、企業課題他）③
7回目	アニメアフレコ応用（各ジャンルアニメ作品、企業課題他）④
8回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
9回目	外画アフレコ応用（各ジャンル外画作品）①
10回目	外画アフレコ応用（各ジャンル外画作品）②
11回目	外画アフレコ応用（各ジャンル外画作品）③
12回目	外画アフレコ応用（各ジャンル外画作品）④
13回目	課題フィードバック（課題に対するフィードバック評価）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間 外学習	課題作品の研究（構成・音声テクニック）、発声滑舌、ストレッチと呼吸、舌の運動は必須です。
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 40% ■【到達目標に対する達成度】 30%
受講生への メッセージ	声を出す授業なので発声・滑舌は授業の前に済ませておくこと。
【使用教科書・教材・参考書】 アニメ＆外画台本	

科目名 (英)	ライバープロジェクト I Project of LiveStreamer	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	土曜4限
【授業の学習内容】 配信実習を通して配信の機材選定、ネットワークなども含むテクニカル要素、番組制作の構成要素、トークスキル、SNSプロモーションなどVtuber・ライバーとしての技術、知識を習得します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber・ライバー配信の基礎的知識、配信ソフト、使用機材、ネットワークに関する内容など配信に必要な知識を習得します。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	Vtuber・ライバー配信基礎①全体の流れと構成
3回目	Vtuber・ライバー配信基礎②配信プラットフォームの特徴比較（配信の種類と目的）
4回目	Vtuber・ライバー配信基礎③必要な機材（カメラ、マイク、照明など）の基礎知識
5回目	Vtuber・ライバー配信基礎④配信ソフト（OBSなど）の基本操作
6回目	Vtuber・ライバー配信基礎⑤配信ソフト（OBSなど）の基本操作 配信前の準備チェック
7回目	実践課題 基礎
8回目	配信ネットワーク基礎①用語と基本構成
9回目	配信ネットワーク基礎②クライアント・サーバー型の理解
10回目	配信ネットワーク基礎③IPと通信の仕組み
11回目	配信ネットワーク基礎④無線・セキュリティ・仮想化
12回目	配信ネットワーク基礎⑤ネットワーク障害の原因と対策
13回目	イベントを通して実践
14回目	イベントを通して実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバープロジェクトⅡ Project of LiveStreamerⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	土曜4限
【授業の学習内容】 配信実習を通して配信の機材選定、ネットワークなども含むテクニカル要素、番組制作の構成要素、トークスキル、SNSプロモーションなどVtuber・ライバーとしての技術、知識を習得します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber・ライバー配信の基礎的知識、オーディオインターフェース、マイク、音声の特性、カメラの種類など配信テクニカル要素について深く学びます。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	Vtuber・ライバー配信応用①モデルの種類（Live2D／3D）による機材の違い
3回目	Vtuber・ライバー配信応用②配信に適した環境づくり（照明／ネット速度／背景）
4回目	Vtuber・ライバー配信応用③カメラの種類、フェイストラッキングツール（VTube Studio、VSeeFaceなど）
5回目	Vtuber・ライバー配信応用④カメラの設定、フレーミングと構図他
6回目	Vtuber・ライバー配信応用⑤マイクの種類と使い分け、音声の基礎
7回目	Vtuber・ライバー配信応用⑥音量バランス・ミキサー操作の基本
8回目	Vtuber・ライバー配信応用⑦オーディオインターフェースの仕組みと設定
9回目	Vtuber・ライバー配信応用⑧OBS Studioの導入と基本設定
10回目	Vtuber・ライバー配信応用⑨配信ソフト（OBS等）との音声連携
11回目	Vtuber・ライバー配信応用⑩テクニカル機材の復習
12回目	実践課題 応用
13回目	実践課題 応用
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバープロジェクトⅡ Project of LiveStreamerⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	土曜4限
【授業の学習内容】 配信実習を通して配信の機材選定、ネットワークなども含むテクニカル要素、番組制作の構成要素、トークスキル、SNSプロモーションなどVtuber・ライバーとしての技術、知識を習得します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber・ライバー配信において実践的にトーク内容、番組構成、配信の注意点、SNS活用など配信について掘り下げて課題に取り組み、配信するスキルを学びます。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	Vtuber・ライバー配信実践①企画構成
3回目	Vtuber・ライバー配信実践②トーク内容配信スキル
4回目	Vtuber・ライバー配信実践③トーク内容配信スキル
5回目	Vtuber・ライバー配信実践④視聴者とのインタラクティブ（コメントへの反応）
6回目	Vtuber・ライバー配信実践⑤配信でのSNS活用
7回目	Vtuber・ライバー配信実践⑥配信実践課題
8回目	Vtuber・ライバー配信実践⑦危機管理とマナー
9回目	Vtuber・ライバー配信実践⑧コラボ配信の流れと注意点
10回目	Vtuber・ライバー配信実践⑨BGM・効果音の使い方
11回目	Vtuber・ライバー配信実践⑩雑談・企画配信の構成台本
12回目	Vtuber・ライバー配信実践 実践配信
13回目	イベントを通して実践
14回目	イベントを通して実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバープロジェクトⅣ Project of LiveStreamerⅣ	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	土曜4限
【授業の学習内容】 配信実習を通して配信の機材選定、ネットワークなども含むテクニカル要素、番組制作の構成要素、トークスキル、SNSプロモーションなどVtuber・ライバーとしての技術、知識を習得します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber・ライバー配信実習としてトレンドを取り入れた企画立案、コミュニティの育て方、スポンサー契約やマネタイズの基礎的知識、オリジナル配信番組の企画制作などを通じてライバーとしての意識や技術の向上につとめます。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	Vtuber・ライバー配信実習①アーカイブの編集と再利用
3回目	Vtuber・ライバー配信実習②再生数・視聴者数の分析方法
4回目	Vtuber・ライバー配信実習③自己プロデュース
5回目	Vtuber・ライバー配信実習④長時間配信（耐久配信）企画
6回目	Vtuber・ライバー配信実習⑤トレンドを取り入れた企画立案
7回目	Vtuber・ライバー配信実習⑥コミュニティの育て方
8回目	Vtuber・ライバー配信実習⑦スポンサー契約およびマネタイズの基礎
9回目	Vtuber・ライバー配信実習⑧プロフィール・チャンネルページ作成
10回目	Vtuber・ライバー配信実習⑨トラブルなどの危機管理
11回目	Vtuber・ライバー配信実習 オリジナル配信企画プレゼンテーション
12回目	Vtuber・ライバー配信実習 オリジナル配信番組の企画発表
13回目	Vtuber・ライバー配信実習 配信実習まとめ
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバープロジェクトV Project of LiveStreamer V	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	土曜4限
【授業の学習内容】 配信実習を通して配信の機材選定、ネットワークなども含むテクニカル要素、番組制作の構成要素、トークスキル、SNSプロモーションなどVtuber・ライバーとしての技術、知識を習得します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber・ライバー配信課題実習として、多彩なジャンルの企画へのチャレンジ、キャラクター設定への作り込み、テクニカル技術の知識向上を図ります。							

授業計画・内容	
1回目	前期:ガイダンス講義
2回目	Vtuber・ライバー配信課題実習①ゲーム実況、雑談、歌枠など
3回目	Vtuber・ライバー配信課題実習②キャラクター設定作り込み（テンションとトークスキル）
4回目	Vtuber・ライバー配信課題実習③Live2Dモデルの基本構造と表情設定トラッキングソフトの使い方
5回目	Vtuber・ライバー配信課題実習④Live2Dモデルの基本構造と表情設定トラッキングソフトの使い方
6回目	Vtuber・ライバー配信課題実習⑤背景、オーバーレイ、BGM素材の準備配信シーンの設定（待機画面・トーク画面など）
7回目	Vtuber・ライバー配信課題実習⑥背景、オーバーレイ、BGM素材の準備配信シーンの設定（待機画面・トーク画面など）
8回目	Vtuber・ライバー配信課題実習⑦実践的配信企画（配信企画の選定）
9回目	Vtuber・ライバー配信課題実習⑧配信後のアーカイブ活用法
10回目	Vtuber・ライバー配信課題実習⑨SNS連携と投稿（ファンネーム、コミュニティ形成）
11回目	Vtuber・ライバー配信課題実習⑩オリジナル企画制作
12回目	Vtuber・ライバー配信課題実習 実践配信 オリジナル企画
13回目	イベントを通して実践
14回目	イベントを通して実践
15回目	振り返り
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライバープロジェクトVI Project of LiveStreamerVI	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	土曜4限
【授業の学習内容】 配信実習を通して配信の機材選定、ネットワークなども含むテクニカル要素、番組制作の構成要素、トークスキル、SNSプロモーションなどVtuber・ライバーとしての技術、知識を習得します。 <講師プロフィール>							
【到達目標】 Vtuber・ライバー配信実習を通じて、オリジナル企画の立案、プレゼンテーション、配信実技を行い、産学連携企業プロジェクトを通じて即戦力となる人材育成を目標とします。							

授業計画・内容	
1回目	後期:ガイダンス講義
2回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作①
3回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作②
4回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作③
5回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作④
6回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作⑤
7回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作⑥
8回目	産学連携企画オリエンテーション
9回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作①応用（産学連携企画）
10回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作②応用（産学連携企画）
11回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作③応用（産学連携企画）
12回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作④応用（産学連携企画）
13回目	Vtuber・ライバー配信 オリジナル配信企画制作⑤応用（産学連携企画）
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	
評価方法	出席・授業態度（70%） 実技課題（30%）
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント制作 I Event Production I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜3,4,5限
【授業の学習内容】 ・イベント企画書の作成とプレゼンテーション ・会場設計、機材手配、タイムテーブル作成 ・チームでの役割分担と現場対応力の育成							
【到達目標】 イベントの企画・設計・実施を一貫して行う実践力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション - 授業概要・役割分担・制作とは何か
2回目	イベントの種類と構成要素 - コンサート・舞台・展示などの違い
3回目	チームビルディング - コミュニケーション・協力の技術
4回目	イベント① - 企画書の作成 (コンセプト・目的設定)
5回目	イベント① - 企画書の作成 (内容・予算・スケジュール記載)
6回目	イベント① - 会場レイアウトと導線設計、ステージ・客席配置
7回目	イベント① - イベント演習
8回目	イベント① - フィードバック
9回目	会場使用に関する法知識 - 使用許可・消防・電源などの基礎
10回目	イベント② - 企画書の作成 (コンセプト・目的設定)
11回目	イベント② - 企画書の作成 (内容・予算・スケジュール記載)
12回目	イベント② - 会場レイアウトと導線設計、ステージ・客席配置
13回目	イベント② - イベント演習
14回目	イベント② - フィードバック
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	・身近なイベントを観察・分析する。 ・イベントに関するニュースや事例を調べる。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	イベントは「人の心を動かす現場」です。企画・準備・運営といったすべての工程に関わることで、舞台裏の面白さと大変さをリアルに体験できます。 仲間と協力し、失敗も成功も共有しながら、あなたならではのイベントを一緒に創り上げましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント制作 II Event Production II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜3,4,5限
【授業の学習内容】 ・イベント企画書の作成とプレゼンテーション ・会場設計、機材手配、タイムテーブル作成 ・チームでの役割分担と現場対応力の育成							
【到達目標】 イベントの企画・設計・実施を一貫して行う実践力を身につける。							

授業計画・内容	
1回目	宣伝・広報の基礎 - SNS・ポスター・チラシなど
2回目	簡易機材リスト作成 - 照明・音響・映像機材の基本把握
3回目	イベント③ - 企画書の作成 (コンセプト・目的設定)
4回目	イベント③ - 企画書の作成 (内容・予算・スケジュール記載)
5回目	イベント③ - 会場レイアウトと導線設計、ステージ・客席配置
6回目	イベント③ - イベント演習
7回目	イベント③ - フィードバック
8回目	リアルイベントとオンライン配信 - 両者の特徴と併用方法
9回目	イベント④ - 企画書の作成 (コンセプト・目的設定)
10回目	イベント④ - 企画書の作成 (内容・予算・スケジュール記載)
11回目	イベント④ - 会場レイアウトと導線設計、ステージ・客席配置
12回目	イベント④ - イベント演習
13回目	イベント④ - フィードバック
14回目	予算管理と収支計画収入と支出の設計と調整
15回目	後期まとめ
準備学習 時間外学 習	・身近なイベントを観察・分析する。 ・イベントに関するニュースや事例を調べる。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	イベントは「人の心を動かす現場」です。企画・準備・運営といったすべての工程に関わることで、舞台裏の面白さと大変さをリアルに体験できます。 仲間と協力し、失敗も成功も共有しながら、あなたならではのイベントを一緒に創り上げましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント制作 Ⅲ Event Production Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜3,4,5限
【授業の学習内容】 ・イベント企画書の作成とプレゼンテーション ・会場設計、機材手配、タイムテーブル作成 ・宣伝・広報・運営・接客の基礎実践							
【到達目標】 チームで協力しながら制作を進行するコミュニケーション力を養う。							

授業計画・内容	
1回目	1年次の振り返り - 課題の明確化と改善目標
2回目	スポンサー・協力依頼 - 協賛や後援の交渉練習
3回目	イベント⑤ - 企画書の作成 (コンセプト・目的設定)
4回目	イベント⑤ - 企画書の作成 (内容・予算・スケジュール記載)
5回目	イベント⑤ - 会場レイアウトと導線設計、ステージ・客席配置
6回目	イベント⑤ - イベント演習
7回目	イベント⑤ - フィードバック
8回目	安全対策とリスクマネジメント - 備品管理・トラブル対策計画
9回目	ゲスト対応・接遇マナー - 招聘・当日対応の実践練習
10回目	イベント⑥ - 企画書の作成 (コンセプト・目的設定)
11回目	イベント⑥ - 企画書の作成 (内容・予算・スケジュール記載)
12回目	イベント⑥ - 会場レイアウトと導線設計、ステージ・客席配置
13回目	イベント⑥ - イベント演習
14回目	イベント⑥ - フィードバック
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	・身近なイベントを観察・分析する。 ・イベントに関するニュースや事例を調べる。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	イベントは「人の心を動かす現場」です。企画・準備・運営といったすべての工程に関わることで、舞台裏の面白さと大変さをリアルに体験できます。 仲間と協力し、失敗も成功も共有しながら、あなたならではのイベントを一緒に創り上げましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント制作 IV Event Production IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	後期
						曜日・時限	金曜3,4,5限
【授業の学習内容】 ・イベント企画書の作成とプレゼンテーション ・会場設計、機材手配、タイムテーブル作成 ・宣伝・広報・運営・接客の基礎実践							
【到達目標】 チームで協力しながら制作を進行するコミュニケーション力を養う。							

授業計画・内容	
1回目	中規模イベント企画会議 - 実施イベントのテーマと構成決定
2回目	イベント制作実習① - 実際のイベントを運営
3回目	イベント制作実習② - 実際のイベントを運営
4回目	イベント制作実習③ - 実際のイベントを運営
5回目	イベント制作実習④ - 実際のイベントを運営
6回目	イベント制作実習⑤ - 実際のイベントを運営
7回目	イベント制作実習⑥ - 実際のイベントを運営
8回目	実施イベント報告書作成成果・課題・改善点の整理
9回目	中規模イベント企画会議 - 実施イベントのテーマと構成決定
10回目	イベント制作実習⑦ - 実際のイベントを運営
11回目	イベント制作実習⑧ - 実際のイベントを運営
12回目	イベント制作実習⑨ - 実際のイベントを運営
13回目	イベント制作実習⑩ - 実際のイベントを運営
14回目	実施イベント報告書作成成果・課題・改善点の整理
15回目	後期まとめ
準備学習 時間外学 習	・身近なイベントを観察・分析する。 ・イベントに関するニュースや事例を調べる。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	イベントは「人の心を動かす現場」です。企画・準備・運営といったすべての工程に関わることで、舞台裏の面白さと大変さをリアルに体験できます。 仲間と協力し、失敗も成功も共有しながら、あなたならではのイベントと一緒に創り上げましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント制作 V Event Production V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜3,4,5限
【授業の学習内容】 ・イベント企画書の作成とプレゼンテーション ・会場設計、機材手配、タイムテーブル作成 ・学内外での模擬イベント・実践イベントの企画・運営							
【到達目標】 トラブルや変更に対応できる現場対応力を培う。							

授業計画・内容	
1回目	自主企画テーマ設定 - 個人またはグループによる自由テーマ設定
2回目	調査・ヒアリング① - 対象・ニーズ・事例調査
3回目	調査・ヒアリング② - 対象・ニーズ・事例調査□
4回目	企画立案・提案プレゼン① - 企画書作成とプレゼン実施
5回目	企画立案・提案プレゼン② - 企画書作成とプレゼン実施
6回目	企画立案・提案プレゼン③ - 企画書作成とプレゼン実施
7回目	本番に向けた準備① - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
8回目	本番に向けた準備② - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
9回目	本番に向けた準備③ - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
10回目	本番に向けた準備④ - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
11回目	本番に向けた準備⑤ - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
12回目	イベント実施① - 自主イベントの開催・運営
13回目	イベント実施② - 自主イベントの開催・運営□
14回目	振り返りと成果報告 - レポート作成と自己評価
15回目	ポートフォリオ制作 - 写真・記録・企画書のまとめと発表
準備学習 時間外学 習	・身近なイベントを観察・分析する。 ・イベントに関するニュースや事例を調べる。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	イベントは「人の心を動かす現場」です。企画・準備・運営といったすべての工程に関わることで、舞台裏の面白さと大変さをリアルに体験できます。 仲間と協力し、失敗も成功も共有しながら、あなたならではのイベントを一緒に創り上げましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	イベント制作 VI Event Production VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	後期 金曜3,4,5限
【授業の学習内容】 ・イベント企画書の作成とプレゼンテーション ・会場設計、機材手配、タイムテーブル作成 ・学内外での模擬イベント・実践イベントの企画・運営							
【到達目標】 トラブルや変更に対応できる現場対応力を培う。							

授業計画・内容	
1回目	自主企画テーマ設定 - 個人またはグループによる自由テーマ設定
2回目	調査・ヒアリング① - 対象・ニーズ・事例調査
3回目	調査・ヒアリング② - 対象・ニーズ・事例調査□
4回目	企画立案・提案プレゼン① - 企画書作成とプレゼン実施
5回目	企画立案・提案プレゼン② - 企画書作成とプレゼン実施
6回目	企画立案・提案プレゼン③ - 企画書作成とプレゼン実施
7回目	本番に向けた準備① - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
8回目	本番に向けた準備② - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
9回目	本番に向けた準備③ - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
10回目	本番に向けた準備④ - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
11回目	本番に向けた準備⑤ - 実施計画・スタッフ管理・機材手配など
12回目	イベント実施① - 自主イベントの開催・運営
13回目	イベント実施② - 自主イベントの開催・運営□
14回目	振り返りと成果報告 - レポート作成と自己評価
15回目	ポートフォリオ制作 - 写真・記録・企画書のまとめと発表
準備学習 時間外学 習	・身近なイベントを観察・分析する。 ・イベントに関するニュースや事例を調べる。
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	イベントは「人の心を動かす現場」です。企画・準備・運営といったすべての工程に関わることで、舞台裏の面白さと大変さをリアルに体験できます。 仲間と協力し、失敗も成功も共有しながら、あなたならではのイベントを一緒に創り上げましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	PAテクニック I PA Technique I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜1,2限
【授業の学習内容】 音響の基本知識と機材操作の基礎を学ぶ。 <講師プロフィール> NumbershotやSunsetLive、阿蘇ロックフェスティバルなど九州各地の様々なイベントやコンサートを手掛けるPAエンジニア。FSM卒業生。							
【到達目標】 PAの役割と基本構成（入力・処理・出力）を理解し、音響機材の名称と機能を説明できる。 マイク、スピーカー、ミキサー、アンプなどの基本的な接続が安全にできる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション - 音響とは、PAの役割
2回目	音の三要素と音波の性質 - 周波数、波長、dB
3回目	マイクの種類と特徴① - ダイナミック、コンデンサ
4回目	マイクの種類と特徴② - 指向性、セッティング
5回目	ケーブルとコネクタの基礎 - XLR、TRS、バランス・アンバランス
6回目	ミキサーの基本① - 入出力、チャンネル構成
7回目	ミキサーの基本② - ゲイン、EQ、PAN
8回目	スピーカーとアンプ - パッシブ、アクティブ、インピーダンス
9回目	モニターシステム - フロアモニター、IEM
10回目	シグナルフローの理解 - 音の流れを図で確認
11回目	ケーブル結線実習 - 実機で接続
12回目	基本セッティング実習① - 小編成（弾き語りなど）
13回目	基本セッティング実習② - ドラム含むバンド編成
14回目	PA用語集と図記号 - 用語確認、回路図の読み方
15回目	中間まとめ - 知識確認テスト
準備学習 時間外学習	・できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ・本校が協力する各研修に参加すること。 ・時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらう
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA入門 三訂版	

科目名 (英)	PAテクニック II PA Technique II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜1,2限
【授業の学習内容】 音響の基本知識と機材操作の基礎を学ぶ。 <講師プロフィール> NumbershotやSunsetLive、阿蘇ロックフェスティバルなど九州各地の様々なイベントやコンサートを手掛けるPAエンジニア。FSM卒業生。 【到達目標】 小規模なPAシステムを使った簡単な音出し、音量調整、バランス調整ができる。 音響現場における基本的な用語やマナー、安全管理の意識を持って行動できる。							

授業計画・内容	
1回目	マイク実習① - ボーカルマイキング
2回目	マイク実習② - 楽器マイキング
3回目	ミキサー操作演習① - フェーダー、PAN、ゲイン調整
4回目	ミキサー操作演習② - イコライジング演習
5回目	ハウリングと対処法 - フィードバック抑制
6回目	音響トラブルの原因と対策 - ノイズ、接触不良など
7回目	ミニライブ音響プラン① - 設計
8回目	ミニライブ音響プラン② - 実習準備
9回目	ミニライブ実施① - PA担当ローテーション
10回目	ミニライブ実施② - フィードバック会
11回目	レコーディングとの違い - スタジオ音響との比較
12回目	会場音響の基礎知識 - ホール、ライブハウスの違い
13回目	小規模PAシステムの構成 - 持ち運び機材の構築例
14回目	自主企画準備 - 音響設計シミュレーション
15回目	発表と講評 - 機材提案、設計案発表
準備学習 時間外学習	・できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ・本校が協力する各研修に参加すること。 ・時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらう
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA入門 三訂版	

科目名 (英)	PAテクニク Ⅲ PA Technique Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜3,4限
【授業の学習内容】 実践的なセッティング・ミキシング技術を学ぶ。 <講師プロフィール> NumbershotやSunsetLive、阿蘇ロックフェスティバルなど九州各地の様々なイベントやコンサートを手掛けるPAエンジニア。FSM卒業生。							
【到達目標】 ライブや演劇現場に対応する中規模PAシステムの構成・ルーティングを設計・構築できる。 アナログ・デジタル両方のミキサーを用いて、複数入力（ボーカル・楽器など）を調整し、クリアな音質を確保できる。							

授業計画・内容	
1回目	1年次復習＋実習ガイドライン確認 - シグナルフロー、マイキング復習
2回目	ライブ音響の役割と構造 - FOH、Monitor、Stage Techの役割分担
3回目	デジタルミキサー基礎① - タッチパネル操作、シーン管理
4回目	デジタルミキサー基礎② - AUX、グループバスの活用
5回目	マルチマイクセッティング① - ドラム（キック、スネア）
6回目	マルチマイクセッティング② - ドラム（オーバーヘッド、タム）
7回目	マルチマイクセッティング③ - ギター・ベース・キーボード等
8回目	モニターシステム構築 - AUX送信、バンドとのコミュニケーション
9回目	グラフィックEQとチューニング - 会場特性に合わせた調整
10回目	イコライジング実習 - 音源に応じたEQ処理
11回目	ダイナミクス処理(コンプレッサー等) - スレッシュホールド／レシオ
12回目	エフェクト活用① - リバーブ、ディレイ、ルーム感の演出
13回目	エフェクト活用② - スペシャルエフェクト
14回目	実戦セッティング実習① - ステージ設営～音出しまで
15回目	実戦セッティング実習② - マルチチャンネル対応
準備学習 時間外学習	・できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ・本校が協力する各研修に参加すること。 ・時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらう
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA入門 三訂版	

科目名 (英)	PAテクニック IV PA Technique IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜3,4限
【授業の学習内容】 実践的なセッティング・ミキシング技術を学ぶ。 <講師プロフィール> NumbershotやSunsetLive、阿蘇ロックフェスティバルなど九州各地の様々なイベントやコンサートを手掛けるPAエンジニア。FSM卒業生。							
【到達目標】 イコライザー（EQ）、コンプレッサー、リバーブなど基本的な音響処理を演出意図に応じて使いこなせる。 リハーサルから本番までの流れを把握し、演出・演者・スタッフと協調してPAオペレーションが行える。							

授業計画・内容	
1回目	本番シミュレーション① - 音出し→リハー→本番
2回目	本番シミュレーション② - トラブル発生→対応演習
3回目	トラブルシュート訓練 - ノイズ除去、機材リセット訓練
4回目	インカムとチーム運営 - 現場での連携術
5回目	マイクプラン作成演習 - 楽器編成に応じたプランニング
6回目	音響図面の読み方・描き方 - ステージ配置・配線図作成
7回目	屋外PA実習① - 電源管理、耐候性の考慮
8回目	屋外PA実習② - 距離と音量の関係、タイムアライメント
9回目	ライブ録音演習 - スプリットボックスとレコーダー
10回目	現場用語と指示伝達訓練無線連携、タイムスケジュールの理解
11回目	外部イベント音響の模擬計画 - 予算、設営、進行管理の練習
12回目	模擬現場運営①：計画立案 - グループでの設計・ロール分担
13回目	模擬現場運営②：実施 - 模擬イベント開催
14回目	模擬現場運営③：振り返り - トラブル点、改善点共有
15回目	成果発表と中間講評 - 個別講評・今後の課題提示
準備学習 時間外学習	・できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ・本校が協力する各研修に参加すること。 ・時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらう
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA入門 三訂版	

科目名 (英)	PAテクニック V PA Technique V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜5,6限
【授業の学習内容】 自主企画・運営を通じて実務力を学ぶ。 <講師プロフィール> NumbershotやSunsetLive、阿蘇ロックフェスティバルなど九州各地の様々なイベントやコンサートを手掛けるPAエンジニア。FSM卒業生。 【到達目標】 イベント・公演の内容に応じたPAプラン（マイク配置、卓設定、オペレーション設計など）を自立して作成・提案できる。 会場特性（残響、反響など）や音響トラブル（ハウリング、断線など）に応じた的確な判断と対処ができる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・3年間の総復習 - PAの役割、実務レベルの視点
2回目	プロ現場の事例分析 - ツアーPA、大型フェス、舞台PA
3回目	企画演習①：イベント内容の決定 - ジャンル・規模・会場の選定
4回目	企画演習②：音響設計プラン - 会場図・回線表・機材リスト
5回目	予算と見積もり - 機材レンタル、人件費、運搬費
6回目	タイムテーブルと段取り - 仕込み→リハ→本番→撤収
7回目	ステージプラン作成 - 楽器配置、マイク、モニター設計
8回目	音響資料作成(図面・伝達表) - ステージ図、伝達表、ケーブルマップ
9回目	プロジェクトチーム編成 - 現場リーダー、FOH、モニター係など
10回目	現場運営訓練①：指示出しと連携②現場会話、無線の使い方訓練
11回目	機材搬入搬出訓練 - 配線・収納・順路と安全確認
12回目	外部音響現場見学・実習① - 実在イベント見学
13回目	外部音響現場見学・実習② - 質問、反省、比較考察
14回目	トラブル対処演習(ケーススタディ) - 緊急対応・代替案作成
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	・できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ・本校が協力する各研修に参加すること。 ・時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらう
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA入門 三訂版	

科目名 (英)	PAテクニック VI PA Technique VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜5,6限
【授業の学習内容】 自主企画・運営を通じて実務力を学ぶ。 <講師プロフィール> NumbershotやSunsetLive、阿蘇ロックフェスティバルなど九州各地の様々なイベントやコンサートを手掛けるPAエンジニア。FSM卒業生。 【到達目標】 ワイヤレスマイク運用、複数拠点への音声分配、音響録音など発展的な応用技術を実践できる。 卒業制作や学外公演においてPAチーフとして全体設計・運用・チーム管理を遂行できる。							

授業計画・内容	
1回目	実地リハーサル①：システム設営 - プリプロダクション仕込み
2回目	実地リハーサル②：バンドサウンド構築 - モニター・FOH調整
3回目	実地リハーサル③：フィードバック会 - 問題点洗い出し
4回目	イベント本番①：準備日 - 搬入、設営
5回目	イベント本番②：リハーサル - 音出し・サウンドチェック
6回目	イベント本番③：実演日 - ローテーション担当実施
7回目	イベント本番④：撤収と反省会 - トラブル確認、成功点共有
8回目	音響レポート作成指導 - 設計～本番～課題まとめ
9回目	音響職の進路研究①：業界構造 - 音響会社、ホール、劇場など
10回目	音響職の進路研究②：面接と自己PR - ポートフォリオ、志望理由など
11回目	外部講師特別講義① - プロPA（実演 or 講義）
12回目	外部講師特別講義② - 大規模イベントの音響事例
13回目	卒業制作準備①：自主イベント企画 - 予算、出演者交渉、会場
14回目	卒業制作準備②：音響設計・チーム運営 - 音響マネジメント力
15回目	卒業制作実施 - フルオペレーション実践
準備学習 時間外学習	・できる限り、いろんなジャンルの音楽を聴く事 ・本校が協力する各研修に参加すること。 ・時間があれば自習等で復習を行い、わからない部分を明確にして授業時等で質問してもらう
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	「情けは人の為ならず」
【使用教科書・教材・参考書】 ・PA入門 三訂版	

科目名 (英)	ライティングテクニック I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
	Lighting Techniques I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜1,2限
【授業の学習内容】 照明の基本原理・機材・用語を理解し、簡単な操作とデザインを学ぶ。□ □ ＜講師プロフィール＞ 演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。 第29回 日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。FSM卒業生。							
【到達目標】 照明の基本原理（光の性質、色温度、明暗、角度）を理解し、基本用語を正しく使える。 PARライト、ムービングライト、LEDバーなど基本的な照明器具の名称・構造・役割を理解し、安全に取り扱いできる。							

授業計画・内容	
1回目	舞台照明の役割と歴史 - 照明の基本的な役割、演出との関係、照明の歴史を学ぶ
2回目	舞台照明用語の基礎 - フォーカス、調光、フェードなど基本用語の理解
3回目	照明機材1：スポットライト - スポットライトの種類・構造・操作方法
4回目	照明機材2：フレネルライト - フレネルレンズとその効果、使用例
5回目	照明機材3：LEDライトと現代照明 - LED照明の特徴、利点、色制御方法
6回目	色の理論とフィルター - RGB、CMY理論とカラーフィルターの使い方
7回目	配線と電源の基礎知識 - 回路、容量、ブレーカー、安全管理
8回目	調光器の基礎 - 調光の原理、使用上の注意
9回目	照明操作卓の概要 - 照明卓の構造と基本操作
10回目	照明操作卓の実習 - プリセット作成、チャンネル操作
11回目	舞台図面の読み方 - 舞台図、照明プロットの基礎
12回目	吊り込みとフォーカス作業1 - 吊り込み作業の手順と安全確認
13回目	吊り込みとフォーカス作業2 - 実践的なフォーカス作業
14回目	光の角度と印象 - 光の当て方による心理的効果
15回目	影のコントロール - 複数灯の調整、影の演出
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくりと頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングテクニック II Lighting Techniques II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	後期 月曜1,2限
【授業の学習内容】 照明の基本原理・機材・用語を理解し、簡単な操作とデザインを学ぶ。□ □ — ＜講師プロフィール＞ 演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。 第29回 日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。FSM卒業生。							
【到達目標】 小規模なライブ空間を想定したシンプルな照明構成を理解し、吊り込み・配線・調光ができる。 照明卓（アナログ/簡易デジタル）の基本操作を使い、明かりのON/OFFや色変更、簡単なキュー操作が行える。							

授業計画・内容	
1回目	舞台と照明の関係 - 美術・衣裳との連携基礎
2回目	ミニ演出と照明計画1 - 簡単な脚本を元に照明を構想
3回目	ミニ演出と照明計画2 - プラン作成と意見交換
4回目	実習：基本照明の設置と操作 - 単一シーンの照明を実施
5回目	振り返りと照明レビュー - 実習の成果をふりかえり考察
6回目	演出意図と照明のマッチング - 同じシーンを異なる照明で比較
7回目	リハーサルの基礎理解 - 照明準備とリハの流れ
8回目	舞台照明の安全管理 - 安全な設営・使用・撤去のルール
9回目	チームでの作業基礎 - 役割分担、チームワーク
10回目	舞台照明の職業と業界 - 現場の職種とキャリア
11回目	舞台鑑賞と照明観察1 - 舞台作品を鑑賞し照明の効果を記録
12回目	舞台鑑賞と照明観察2 - 感想共有と分析
13回目	照明プラン作成の導入 - 照明設計書の書き方
14回目	まとめとプレゼン準備 - 学んだ内容を整理し発表準備
15回目	発表とフィードバック - 照明プランの発表と講評
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくりと頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングテクニック Ⅲ Lighting Techniques Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3,4限
【授業の学習内容】 作品の意図を読み取り、演出意図に合わせた照明設計・操作を学ぶ。□ □ □ <講師プロフィール> 演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。 第29回 日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。FSM卒業生。							
【到達目標】 音楽のテンポ・ジャンル・演出意図に応じて、適切な照明プラン（色・動き・タイミング）を自立して構成できる。 DMXアドレス設定やシグナルルーティングを理解し、トラブル時の初期対応ができる。							

授業計画・内容	
1回目	照明デザインのプロセス - 演出意図を読み取る方法とプランの立て方
2回目	シーン別の照明分析 - 演劇・ダンス・音楽における照明の違い
3回目	時間・季節・天候の表現技法 - 自然光表現と時間経過の演出
4回目	色と感情のリンク - 色を使った感情表現と心理的効果
5回目	照明変化の演出設計 - シーンチェンジにおける照明の工夫
6回目	DMX制御の基礎 - 信号の流れとアドレス設定
7回目	パッチ作業と管理 - チャンネルと回路の割り当て
8回目	調光とタイミングの演出 - ミキシングとフェードタイムの活用
9回目	複数照明器具の連携 - 空間全体を演出するための配置と組み合わせ
10回目	実習：小作品の照明設計1 - 簡単な演劇シーンを想定して設計
11回目	実習：小作品の照明設計2 - 実装とレビュー
12回目	ショー照明とライブ演出 - 音楽と照明のシンクロ技法
13回目	ストロボ・ゴボなど特殊効果 - 視覚的なインパクトの演出法
14回目	演出家とのコミュニケーション - 意図の理解と反映の技法
15回目	舞台転換と照明の工夫 - 照明による空間の切り替え演出
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくりと頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングテクニック IV Lighting Techniques IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜3,4限
【授業の学習内容】 作品の意図を読み取り、演出意図に合わせた照明設計・操作を学ぶ。□ □ — ＜講師プロフィール＞ 演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。 第29回 日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。FSM卒業生。							
【到達目標】 デジタル照明卓（GrandMA、Avolitesなど）の基本操作と、簡単なプログラミング・キュー構築ができる。 フェーダー操作・ライブキューの実演練習により、リアルタイム対応力と音との同期感覚を養える。 中規模ライブにおける照明チーフまたはオペレーターとして、他スタッフと連携して作業ができる。							

授業計画・内容	
1回目	他部署（音響・美術）との連携 - 共同作業による舞台作り
2回目	公演準備：テクニカルリハーサル - 設営から本番までの流れを学ぶ
3回目	公演実習の企画立案 - 小規模作品の照明企画をチームで立てる
4回目	実習：チーム制作1（プランニング） - チームごとに照明デザインを構想
5回目	実習：チーム制作2（実装・リハ） - 実地での確認と修正
6回目	舞台照明ソフトの活用 - WYSIWYGなどのソフトを使った可視化
7回目	プレゼンテーション技法 - プランの伝え方・図面の見せ方
8回目	講評と改善提案 - 他チームのプランを評価し学ぶ
9回目	舞台鑑賞と照明研究1 - プロ作品の分析
10回目	舞台鑑賞と照明研究2 - 自作との比較・考察
11回目	現場見学またはゲスト講義 - プロの話を聞き、視野を広げる
12回目	公演におけるトラブル対応 - 緊急対応とバックアップ
13回目	中間レビューとふりかえり - これまでの学びの整理
14回目	最終実習の準備 - 発表に向けた調整とリハーサル
15回目	成果発表とフィードバック - チーム制作発表と総合評価
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくりと頑張っていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングテクニック V Lighting Techniques V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜5,6限
【授業の学習内容】 オリジナルの照明プランの構想・設計を学ぶ。□ □ □ ＜講師プロフィール＞ 演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。 第29回 日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。FSM卒業生。 【到達目標】 音楽アーティストや演出家の要望に応じて、演出意図を視覚化したオリジナル照明デザインを提案・実装できる。 楽曲に完全同期した照明演出（ビートに合わせたキュー、色展開、動きの構成）が構築できる。 レーザー、ストロボ、ムービングライト群など複雑な効果の演出を連携させ、空間演出として完成度を高められる。							

授業計画・内容	
1回目	オリジナル作品と照明の構想 - 創作作品における照明演出の意義
2回目	テーマ設定と演出意図の言語化 - 世界観やメッセージに基づく照明設計
3回目	照明デザインのプレゼン - 企画段階での提案方法
4回目	ライトプロットの描き方 - 機材配置と記号の使い方
5回目	実践的な機材選定と管理 - 予算と機材制限への対応
6回目	リハーサルスケジュールの管理 - 照明リハの段取りと管理能力
7回目	フォーカスと明かり合わせ - 照明の正確な位置決め
8回目	シーケンスとキューの設定 - 緻密なオペレーション設計
9回目	音響・映像との連携演出 - マルチメディアとの統合演出
10回目	実習：オリジナル作品制作1（前半） - 企画・構想・プラン策定
11回目	実習：オリジナル作品制作2（中盤） - 設営・フォーカス・リハ
12回目	実習：オリジナル作品制作3（後半） - 本番・録画・ふりかえり
13回目	ポートフォリオ作成1 - 照明プランのまとめ方
14回目	ポートフォリオ作成2 - 写真・図面・解説の整理
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくりと頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ライティングテクニック VI Lighting Techniques VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜5,6限
【授業の学習内容】 オリジナルの照明プランの構想・設計を学ぶ。□ □ — <講師プロフィール> 演劇、バレエ、ダンス等を中心に様々なジャンルの照明プランを担当し、福岡の様々なホールの管理から照明エンジニアとしても活躍中。 第29回 日本照明家協会賞にノミネートされ奨励賞受賞。FSM卒業生。							
【到達目標】 実際のコンサート（または模擬公演）において、プランニングからオペレーション、撤収まで全行程を主導できる。 照明スタッフとしてのマナー、職業倫理、安全管理能力を備え、業界就職に向けた実践力とポートフォリオを完成させる。							

授業計画・内容	
1回目	外部公演参加準備 - 学外活動に向けた対応
2回目	学外公演または合同発表会 - 実践経験と評価
3回目	技術資料の作成と管理 - 本番資料・進行台本など
4回目	トラブル再現と対応訓練 - 過去事例をもとに対処法を考える
5回目	ライティングのトレンドと研究 - 最新技術の調査と応用
6回目	実践課題：シーン再現 - 既存作品の照明を模倣・改良
7回目	コラボレーション実習（美術・演出） - 他分野との共同制作
8回目	成果発表準備1（構成と技術） - 卒業制作の設計
9回目	成果発表準備2（通しリハ） - 本番を想定した実践
10回目	成果発表本番 - 照明担当としての最終発表
11回目	振り返りと記録作成 - ログ、レポート、記録映像
12回目	自己評価と目標設定 - スキルシートと将来設計
13回目	照明業界研究 - 求人、現場環境、今後の展望①
14回目	照明業界研究 - 求人、現場環境、今後の展望②
15回目	最終講義と成果共有会 - 3年間のふりかえりと発表
準備学習 時間外学習	
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	焦らず、ゆっくりと頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バーチャルステージデザイン I Virtual Stage Design I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。 舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。 実際に、木材や発泡スチロールなどの素材も使用し、VectorWorksやIllustratorなど使用した図面およびデザインを縮尺サイズ・実寸サイズで再現する							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・舞台基礎知識（舞台用語・空間理解）
2回目	基本作図（手描きスケッチと簡易図面）
3回目	Vectorworks基本操作（2D）
4回目	Vectorworks応用（舞台平面図の作図）
5回目	木材の基礎知識・工具の扱い
6回目	木工実習①（直線・直角のカット）
7回目	木工実習②（簡単な接合）
8回目	発泡スチロール素材の理解と扱い
9回目	発泡スチロール加工①（ナイフカット・接着）
10回目	発泡スチロール加工②（彫刻的造形）
11回目	美術進行の基礎（時間管理・製作フロー）
12回目	校内ミニイベント美術製作①（設計）
13回目	校内ミニイベント美術製作②（加工・製作）
14回目	校内ミニイベント美術製作③（仕上げ・設置）
15回目	校内イベント本番参加・講評
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。 素材研究や実習で必要な材料費など調査する。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格 否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	バーチャルステージデザインⅡ Virtual Stage DesignⅡ	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。 前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。 舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。 実際に、木材や発泡スチロールなどの素材も使用し、VectorWorksやIllustratorなど使用した図面およびデザインを縮尺サイズ・実寸サイズで再現する							

授業計画・内容	
1回目	前期復習とステージ構成の理解
2回目	Vectorworks（3D基本操作）
3回目	Vectorworks（3D小道具モデリング）
4回目	舞台装置デザイン案の検討
5回目	舞台装置簡易模型①（紙・発泡）
6回目	舞台装置簡易模型②（彩色・仕上げ）
7回目	木工応用①（アール・傾斜）
8回目	木工応用②（組立構造）
9回目	発泡造形応用（大型オブジェ）
10回目	材料計画と予算の考え方
11回目	チーム制作①（デザインミーティング）
12回目	チーム制作②（図面作成・材料調達）
13回目	チーム制作③（製作）
14回目	チーム制作④（設置・調整）
15回目	発表会・講評
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。 素材研究や実習で必要な材料費など調査する。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格 否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	バーチャルステージデザインⅢ Virtual Stage DesignⅢ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。 前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。 舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。 実際に、木材や発泡スチロールなどの素材も使用し、VectorWorksやIllustratorなど使用した図面およびデザインを縮尺サイズ・実寸サイズで再現する							

授業計画・内容	
1回目	舞台プランニング演習（脚本分析）
2回目	Vectorworks（応用図面：断面図）
3回目	実物大舞台装置製作①（設計）
4回目	実物大舞台装置製作②（製作計画）
5回目	木材・発泡の選定と加工プラン
6回目	実物大製作③（木工）
7回目	実物大製作④（組立）
8回目	実物大製作⑤（表面加工・塗装）
9回目	イベントリハーサル・仕込み練習
10回目	照明・音響との連携理解
11回目	本番参加①（仕込み・リハーサル）
12回目	本番参加②（本番）
13回目	本番参加③（撤収・記録）
14回目	反省会・成果分析
15回目	ミュージカル関連作業
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。 素材研究や実習で必要な材料費など調査する。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	バーチャルステージデザインⅣ Virtual Stage DesignⅣ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。 前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。 舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。 実際に、木材や発泡スチロールなどの素材も使用し、VectorWorksやIllustratorなど使用した図面およびデザインを縮尺サイズ・実寸サイズで再現する							

授業計画・内容	
1回目	プロジェクト概要の提示・役割分担
2回目	スケッチ & 基本デザイン演習
3回目	図面作成（設計）①
4回目	図面作成（設計）②
5回目	モデリング演習①（発泡スチロール）
6回目	モデリング演習②（木材）
7回目	美術仕上げ演習（塗装・表面）
8回目	図面・製作資料仕上げ
9回目	中間チェック & 構造確認
10回目	実寸製作①
11回目	実寸製作②
12回目	美術仕上げ・色付け
13回目	舞台設営演習（仮組立）
14回目	本番（校内イベント・模擬発表）
15回目	振り返り・ポートフォリオ化
準備学習 時間外学 習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。 素材研究や実習で必要な材料費など調査する。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	バーチャルステージデザインⅣ Virtual Stage DesignⅣ	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。 前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。 舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。 実際に、木材や発泡スチロールなどの素材も使用し、VectorWorksやIllustratorなど使用した図面およびデザインを縮尺サイズ・実寸サイズで再現する							

授業計画・内容	
1回目	課題提示：演劇 or ダンス舞台プラン
2回目	デザインプレスト／コンセプト可視化
3回目	空間設計演習（構造の検討）
4回目	実寸素材スタディ①（木材）
5回目	実寸素材スタディ②（発泡スチロール）
6回目	特殊構造演習：可動／組立構造
7回目	ステージ美術設計演習
8回目	模型製作①
9回目	模型製作②＋照明考察
10回目	製作図作成／プレゼン準備
11回目	公開プレゼンテーション
12回目	採用案確定と役割分担
13回目	実寸製作①：構造部
14回目	実寸製作②：装飾部
15回目	実寸設営・仮組立
準備学習 時間外学 習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。 素材研究や実習で必要な材料費など調査する。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	バーチャルステージデザインⅥ Virtual Stage DesignⅥ	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日1限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。 舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。 実際に、木材や発泡スチロールなどの素材も使用し、VectorWorksやIllustratorなど使用した図面およびデザインを縮尺サイズ・実寸サイズで再現する							

授業計画・内容	
1回目	長期制作課題の提示
2回目	コンセプトワーク・リサーチ
3回目	チーム別空間デザイン立案
4回目	製作スケジュール・予算管理演習
5回目	図面作成（実製作図）
6回目	実寸製作①：構造組立
7回目	実寸製作②：装飾制作
8回目	実寸製作③：仕上げ・塗装
9回目	搬入計画・運搬技術演習
10回目	設営実習①
11回目	設営実習②＋ライティングチェック
12回目	効果・見え方調整
13回目	リハーサル形式チェック
14回目	模擬本番・プレゼン撮影
15回目	成果整理・振り返り・ポートフォリオ化・進級制作
準備学習 時間外学 習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。 素材研究や実習で必要な材料費など調査する。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	バーチャルステージデザインⅦ	選択 必修	選択必 修	年次	4		
学科・コース	スーパーeエンターテイメント科コンサートクリエイター本科コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日1限
【授業の学習内容】 舞台のあらゆる技術と知識は、繰り返し実習する事で身に着ける事ができる事を体得する。また、プロとしてのあらゆる方法や理屈を身に着けるためには、道理を深く考える必要がある事を促す。それらを教室で行う基礎技術と理論に加え、授業内実習、校内イベント等で美術製作・進行・資料作りを繰り返し経験させる。我々スタッフの仕事は本番をやり遂げる事である。本番を体験しなければ理解できない事が数多くある。本番を体験する事は、応用力を身に着ける事になる。校内イベントを含め、数多く本番体験をする事で即戦力性を高めさせる。前期の最後に外部ホールで行われるミュージカルは、集約されたものとなり、広い空間に適応する事を学ぶ事になる。							
【到達目標】 Vector Worksの操作習得を通して、自分が見ている世界を観察し分析し再構築、視覚化する能力を実践的手段として具体化できるようになる。 舞台制作あるいは舞台デザインの表現手段として、このツールの有効性を理解できるようになる。 実際に、木材や発泡スチロールなどの素材も使用し、VectorWorksやIllustratorなど使用した図面およびデザインを縮尺サイズ・実寸サイズで再現する							

授業計画・内容	
1回目	プロジェクト課題提示・編成
2回目	構想・調査
3回目	コンセプト立案・スタイル設計
4回目	Vectorworksでの設計作業①
5回目	模型制作（1/25）①
6回目	模型制作②・構造確認
7回目	プレゼン準備と実施
8回目	実施案決定・製作準備
9回目	実寸製作①（構造）
10回目	実寸製作②（パネル・床）
11回目	実寸製作③（発泡造形）
12回目	実寸製作④（装飾・特殊効果）
13回目	設営準備・搬入計画
14回目	仮設営・照明テスト
15回目	リハーサル対応・振り返り
準備学習 時間外学習	授業前と授業後には、配布された資料を必読し、CAD操作の正しい理解に努める。 素材研究や実習で必要な材料費など調査する。
評価方法	●取組姿勢：40点(学習に対する取組姿勢) ○出席：別途規定(出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) ●課題：40点(課題完成度と提出状況) ○合格 否：60点以上で合格 ●成長・成熟：20点(到達目標に対する成長具合や習熟度)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 インターフェイス解説・初期設定・環境設定・操作マニュアル資料の配布。 オリジナル課題表現の方法と参考資料の配布。	

科目名 (英)	データサイエンス I (Data Science I)	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】 2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。 【講師プロフィール】 経営管理学修士(MBA) キッツニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他							
【到達目標】 講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス、講義の目的や達成レベルを理解する
2回目	マーケティング基礎 その1 "4つのP"を学ぶ
3回目	マーケティング基礎 その2 "STP"を学ぶ
4回目	マーケティング基礎 その3 "3C分析"を学ぶ
5回目	戦略的情報発信 広報(PR)を学ぶ
6回目	イノベーションを起こす"デザイン思考"を身に着ける
7回目	飲食ビジネスの仕組みを理解する
8回目	成功企業の事例解説(ファッションブランド)
9回目	成功企業の事例解説(エンターテインメント企業)
10回目	成功企業の事例解説(興行ビジネス)
11回目	リモートコミュニケーションを使いこなす
12回目	試験・レポート課題
13回目	これまでの授業のまとめ、質問と回答
14回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
15回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。	

科目名 (英)	データサイエンスⅡ (Data ScienceⅡ)	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜4限
【授業の学習内容】 2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日的な話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。 【講師プロフィール】 経営管理学修士(MBA) キッツニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他							
【到達目標】 講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	デジタルマーケティングを学ぶ
2回目	パラダイムシフトにおける"アート思考"を理解する
3回目	情報爆発時代のメディアリテラシーを理解する
4回目	事例解説／アート系エンターテインメント施設の運営
5回目	商品開発のビジネスモデルを学ぶ
6回目	広告実務と広告代理店の機能を学ぶ
7回目	エンタメビジネスに必須のスポンサー制度を理解する
8回目	SDGsのビジネス展開を学ぶ
9回目	Society 5.0 未来社会の展望を学ぶ
10回目	企業研究の手法を事例で学ぶ(食品会社)
11回目	企業研究の手法を事例で学ぶ(アウトドアブランド)
12回目	試験・レポート課題
13回目	これまでの授業のまとめ、質問と回答
14回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
15回目	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	データサイエンスⅢ (Data ScienceⅢ)	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】 2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日的な話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。 【講師プロフィール】 経営管理学修士(MBA) キッサニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他							
【到達目標】 講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	ビッグデータとデータサイエンスの基礎
2回目	データ収集とアンケート設計の基本
3回目	数値データの可視化: グラフとチャート作成
4回目	統計基礎①: 平均・中央値・分散
5回目	統計基礎②: 相関関係と因果関係
6回目	エンタメ業界における統計データ活用例
7回目	エクセル・スプレッドシートの基本操作
8回目	エクセルで分析する: 関数とグラフ
9回目	エクセルで予測する: トレンド分析
10回目	データから読み解くファンの行動パターン
11回目	SNS分析①: 投稿と反応のデータ収集
12回目	SNS分析②
13回目	エンゲージメント率とKPI
14回目	試験・レポート課題③
15回目	授業のまとめ・質問と回答
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。	

科目名 (英)	データサイエンスⅣ (Data ScienceⅣ)	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜4限

【授業の学習内容】
2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。
【講師プロフィール】経営管理学修士(MBA) キッツニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他

【到達目標】
講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	顧客管理とCRMの基本
2回目	ロイヤルティマーケティングの考え方
3回目	サブスクリプションモデルの成功事例
4回目	データから考えるターゲティング戦略
5回目	商品開発のビジネスモデルを学ぶ
6回目	データを使ったイベント企画
7回目	顧客満足度調査と改善案作成
8回目	コンテンツマーケティングの構造
9回目	動画配信と視聴データの活用
10回目	音楽配信サービスの仕組みと分析
11回目	チケット販売と需要予測モデル
12回目	ECサイトと購買データ分析
13回目	試験・レポート課題
14回目	授業のまとめ・質問と回答④
15回目	実戦⑥: 商品またはイベントの企画発表
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	データサイエンスⅤ (Data ScienceⅤ)	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜3限
【授業の学習内容】 2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。 【講師プロフィール】 経営管理学修士(MBA) キッツニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他							
【到達目標】 講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	AIとデータサイエンス①: AIの基礎知識
2回目	AIとデータサイエンス②: 画像認識と音声認識
3回目	AIと音楽: 生成系AIの活用事例
4回目	AIと映像: プロモーション動画制作支援
5回目	チャットボットとカスタマーサービス
6回目	機械学習とは? 基本アルゴリズムの紹介
7回目	エンタメにおける機械学習の応用
8回目	生成AIと著作権の基礎知識
9回目	生成AIの倫理と問題点
10回目	AIを活用した未来予測と事業計画
11回目	試験・レポート課題⑤
12回目	授業のまとめ・質問と回答⑤
13回目	実戦⑧: AI活用による企画立案
14回目	実戦⑨: AI企画のプレゼンテーション
15回目	実戦⑩: AIと人の協働の未来について討論
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。	

科目名 (英)	データサイエンスVI (Data ScienceVI)	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜4限
【授業の学習内容】 2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日的な話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。 【講師プロフィール】 経営管理学修士(MBA) キッツニア広報・マーケティング部長、アートアクアリウム美術館総館長、他							
【到達目標】 講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	デジタル社会の課題とリスク
2回目	フェイクニュースと情報の信頼性
3回目	プライバシーと個人情報保護
4回目	情報セキュリティの基本
5回目	ITリテラシーの向上と習慣化
6回目	キャリア形成とデータリテラシー
7回目	リーダーシップとデータ活用
8回目	チームビルディングとデータ共有
9回目	起業家精神とビジネスアイデアの育て方
10回目	プレゼンテーションスキル①:構成と資料作成
11回目	プレゼンテーションスキル②:話し方と見せ方
12回目	試験・レポート課題⑥
13回目	授業のまとめ・質問と回答⑥
14回目	実戦⑪:ビジネスアイデアの企画書作成
15回目	実戦⑫:企画書発表とフィードバック
準備学習 時間外学習	講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。
評価方法	筆記または実技による採点
受講生への メッセージ	全国をZoomで繋いで行うハイブリッドスタイルの授業です。これからの時代に必ず必要なスキルですので、積極的に発言しながら頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタジオワーク I Studio Work I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜3,4限
【授業の学習内容】 音響・録音の基礎知識とスタジオ機材、DAWの操作、録音と基本編集を学びます。 <講師プロフィール> 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野のレコーディングエンジニアを務める。 映画「スウィング・ガールズ」、「ロボジー」、「ハッピーフライト」などの映画音楽制作にも携わるなどその仕事は多岐にわたる。 【到達目標】 スタジオ機材の名称・接続方法を理解し、安全に扱える。 DAWを用いて基本的な録音・編集操作が自力でできる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション - 授業の目的、評価、スタジオマナー、機材の安全確認
2回目	音の基本① - 音の性質、波形、周波数、dBなどの基礎理論
3回目	音の基本② - 位相、音速、反射・吸音と録音空間について
4回目	スタジオの構成と機材理解 - コンソール、マイク、インターフェース、モニター等
5回目	マイク基礎① - マイクの種類（ダイナミック、コンデンサー）と指向性
6回目	マイク基礎② - マイク技術（近接効果、セッティング実習）
7回目	録音準備① - シグナルフローの基礎と音声信号の流れ
8回目	録音準備② - パッチベイの理解、ケーブル種類と接続実習
9回目	Pro Tools入門① - ソフトウェアの基本操作と録音設定
10回目	Pro Tools入門② -トラック作成、入力設定、モニタリングの理解
11回目	実践：ナレーション録音① - 単一音源（ナレーション）の録音体験
12回目	実践：ナレーション録音② - 録音素材の整理と編集作業
13回目	EQと音作り入門① - 基本的なEQの仕組みと音色変化の体験
14回目	EQと音作り入門② - 実践：ボーカル録音素材でのEQ調整
15回目	音量とダイナミクス - コンプレッサー・リミッターの基礎理解
準備学習 時間外学 習	Macの基本操作、知識。□
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタジオワーク II Studio Work II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜3,4限
【授業の学習内容】 音響・録音の基礎知識とスタジオ機材、DAWの操作、録音と基本編集を学びます。 <講師プロフィール> 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野のレコーディングエンジニアを務める。 映画「スウィング・ガールズ」、「ロボジー」、「ハッピーフライト」などの映画音楽制作にも携わるなどその仕事は多岐にわたる。 【到達目標】 単一音源（ナレーション、ボーカルなど）の録音・編集を完結できる。 EQやパンニングなどの基本ミキシング処理ができる。 スタジオ内での適切なコミュニケーションが取れる。							

授業計画・内容	
1回目	実践：簡易ミキシング① - トラックバランス調整とパンニング体験
2回目	実践：簡易ミキシング② - リバーブ・ディレイなど空間系エフェクト導入
3回目	グルーピングとバス処理 - トラック整理とグループ制御
4回目	セッション管理と保存 - ファイル整理、バックアップ、セッション書き出し
5回目	ボーカル録音① - 実習：ボーカリストを招いての収録準備
6回目	ボーカル録音② - 実習：録音とレベル調整、ディレクション演習
7回目	ボーカル録音③ - 編集・ピッチ補正、リップノイズ処理
8回目	複数トラックの録音① - ギター・ベースの同時録音
9回目	複数トラックの録音② - ステレオ録音の基礎とパンニング実践
10回目	MIDIの基本① - MIDI入力、音源、ベロシティと編集
11回目	MIDIの基本② - ドラム・ベースのMIDI打ち込み演習
12回目	MIDIとオーディオの連携 - MIDI→オーディオ書き出しと編集演習
13回目	小規模楽曲の録音・編集① - 素材準備とプランニング
14回目	小規模楽曲の録音・編集② - 実録音と編集の実習
15回目	まとめ・作品発表 - 作品提出と相互講評、リフレクション
準備学習 時間外学 習	Macの基本操作、知識。□
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタジオワーク III Studio Work III	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜5,6限
【授業の学習内容】 マルチマイク録音技術と応用編集・音響処理、実践的ミキシング技法を学びます。 <講師プロフィール> 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野のレコーディングエンジニアを務める。 映画「スウィング・ガールズ」、「ロボジー」、「ハッピーフライト」などの映画音楽制作にも携わるなどその仕事は多岐にわたる。 【到達目標】 マルチマイクを使用したバンド編成の録音が行える。 複数のトラックを用いて基本的なミックス設計ができる。							

授業計画・内容	
1回目	応用スタジオワーク概要 - 1年次復習と今年度の目標確認（楽曲制作・チーム制作）
2回目	DAWの高度操作① - マルチトラック編集、クリップゲイン、センド／バス処理
3回目	DAWの高度操作② - 複雑なルーティング設定とプラグイン管理
4回目	リファレンスミックス研究 - 商業楽曲の分析と模倣（音場・ダイナミクス）
5回目	実践：ドラム録音① - マイクング、位相チェック、セットアップ演習
6回目	実践：ドラム録音② - テイク管理、編集、タイミング補正
7回目	ベース／ギター録音 - アンプ収録／ライン録りの比較と処理法
8回目	ボーカルディレクション① - 指示の出し方、表現の引き出し方
9回目	ボーカルディレクション② - コンピング・ダブリング・補正の応用
10回目	リズムセクションのまとめ - ベーシクトラック構成とミックス設計
11回目	音楽ジャンル別ミックス① - ロック・ポップスにおけるアレンジと処理傾向
12回目	音楽ジャンル別ミックス② - ヒップホップ・エレクトロのビートと音像処理
13回目	サウンドデザイン入門① - 効果音制作、シンセ音色作りの基本
14回目	サウンドデザイン入門② - 実践：SE作成演習とアニメーションへの適用
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	Macの基本操作、知識。□
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタジオワーク IV Studio Work IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	6 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜5,6限
【授業の学習内容】 マルチマイク録音技術と応用編集・音響処理、実践的ミキシング技法を学びます。 <講師プロフィール> 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野のレコーディングエンジニアを務める。 映画「スウィング・ガールズ」、「ロボジー」、「ハッピーフライト」などの映画音楽制作にも携わるなどその仕事は多岐にわたる。 【到達目標】 チームでの制作業務において自分の役割を明確に果たせる。 編集、コンピング、ピッチ補正を含む一連の編集作業ができる。 音楽ジャンルに応じた音像設計を意識したミックスが行える。							

授業計画・内容	
1回目	空間処理の応用① - 多段リバーブ、ステレオ拡張、奥行き感演出
2回目	空間処理の応用② - ダブリング、M/S処理、サチュレーション活用
3回目	実践：MIDIを中心とした制作① - DAW打ち込みを主軸としたトラック構成
4回目	実践：MIDIを中心とした制作② - サウンドライブラリとサンプラー使用
5回目	チーム制作①：企画立案 - テーマ決定、担当分担、制作スケジュール作成
6回目	チーム制作②：録音準備 - リハーサル・録音ブース設計・技術確認
7回目	チーム制作③：本番収録① - 各担当の分担に従い、全体録音実践（前半）
8回目	チーム制作④：本番収録② - 続き（後半）と収録完了チェック
9回目	チーム制作⑤：編集作業 - 波形編集、テイク選別、ピッチ修正
10回目	チーム制作⑥：ミックス前処理 - 音量調整、パン振り、基礎処理の統一
11回目	チーム制作⑦：ミックス実践① - コンプレッション、EQ、FX設計
12回目	チーム制作⑧：ミックス実践② - バランス最適化と空間調整
13回目	チーム制作⑨：マスタリング入門 - レベル調整、リミッター、書き出し設定
14回目	チーム制作⑩：成果発表準備 - ジャケット作成、データ整理、プレゼン構成
15回目	チーム制作⑪：発表と講評 - 完成作品のプレゼン、講評、質疑応答
準備学習 時間外学 習	Macの基本操作、知識。□
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタジオワーク V Studio Work V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	前期 木曜1,2限
【授業の学習内容】 プロジェクト制作、マスタリング技術、プレゼン・納品スキルを学びます。 <講師プロフィール> 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野のレコーディングエンジニアを務める。 映画「スウィング・ガールズ」、「ロボジー」、「ハッピーフライト」などの映画音楽制作にも携わるなどその仕事は多岐にわたる。 【到達目標】 自主的に楽曲制作プロジェクトを立案・遂行できる。 プロ仕様に近い品質の録音・ミキシング・マスタリングが行える。							

授業計画・内容	
1回目	業界の制作現場を知る - プロの制作フロー、納品形式、現場マナー
2回目	企画プレゼン① - 自主プロジェクトまたはチーム制作のテーマ提出
3回目	企画プレゼン② - プレゼン資料・企画書の作成と発表
4回目	制作準備① - 編成、収録スケジュール、出演者依頼
5回目	制作準備② - 技術準備（機材設計、卓設定、ケーブル配置）
6回目	録音①（収録前リハ） - 本番環境を想定したテストと対応演習
7回目	録音②（ベーシック録音） - バンド全体の基本録音
8回目	録音③（個別パート収録） - OverDub、Punch In/Outの活用
9回目	録音④（ボーカル・コーラス） - 感情表現と複数テイク録音
10回目	編集① - 波形編集・フェード処理・ノイズ除去
11回目	編集② - クロスフェード、位相管理、タイミング補正
12回目	ミックス① - 各パートの調整とEQ・FX処理（中間レビュー）
13回目	ミックス② - リバース設計、マスター処理前の確認
14回目	マスタリング - 音圧調整、フォーマット変換、曲間設計
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	Macの基本操作、知識。□
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	スタジオワーク VI Studio Work VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜1,2限
【授業の学習内容】 プロジェクト制作、マスタリング技術、プレゼン・納品スキルを学びます。 <講師プロフィール> 安室奈美恵、荻野目洋子、ゴダイゴ、ミッキー吉野のレコーディングエンジニアを務める。 映画「スウィング・ガールズ」、「ロボジー」、「ハッピーフライト」などの映画音楽制作にも携わるなどその仕事は多岐にわたる。 【到達目標】 他者（講師や仮想クライアント）からのフィードバックを受け、修正対応ができる。 映像作品やインタビュー素材への音声編集・整音ができる。 自作の作品集（ポートフォリオ）を制作し、進路選択に活用できる。							

授業計画・内容	
1回目	実務型制作①（架空依頼対応） - クライアント要望を想定した制作課題スタート
2回目	実務型制作② - ディレクション、修正対応、納品形式理解
3回目	実務型制作③ - プレゼン資料・納品書・音源提出
4回目	映像連携制作① - 映像BGM、MA（Multi Audio）基礎
5回目	映像連携制作② - 実践：映像に合わせた音づくり
6回目	インタビュー音声編集 - ポッドキャスト・ドキュメンタリー編集演習
7回目	自主制作プロジェクト① - テーマ決定とプロジェクト開始
8回目	自主制作プロジェクト② - 制作途中チェック、アドバイス
9回目	自主制作プロジェクト③ - ミックス作業とレビュー会
10回目	自主制作プロジェクト④ - マスタリングと完パケ制作
11回目	自主制作プロジェクト⑤ - ジャケット制作・広報資料
12回目	ポートフォリオ作成① - 作品整理、プロフィール、制作ノート整備
13回目	ポートフォリオ作成② - ウェブ公開・プレゼン練習
14回目	最終プレゼンテーション - 制作作品の最終発表会と総合評価
15回目	振り返りと進路支援 - 3年間のまとめ、自己評価、進路対策支援
準備学習 時間外学 習	Macの基本操作、知識。□
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト：40% ○課題提出：30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度：30%（到達目標に対する習熟度） 出席：別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	グループワークを通して、コミュニケーション、特にスケジューリングが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バーチャルライティング I Virtual Lighting I	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜3,4限
【授業の学習内容】 バーチャル照明の基本と操作スキルを学ぶ。 <講師プロフィール> ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける。							
【到達目標】 光の基礎的特性（方向・拡散・色温度）を理解し、照明設計に応用できる。 バーチャルライティング用ソフト（例：Capture、Depence2）の基本操作ができる。							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス - 授業概要／照明の進化とバーチャル照明の現在地
2回目	照明とは何か - 照明の役割・種類・歴史的背景
3回目	光の基本性質 - 反射・屈折・拡散・色温度
4回目	3光の基本性質 - 反射・屈折・拡散・色温度
5回目	3D空間の理解 - XYZ座標・カメラ視点の概念理解
6回目	ソフト導入①（Capture） - Captureの基本操作、空間設定
7回目	ライト設置演習 - バーチャル空間内での照明配置
8回目	色と影のコントロール - 光と影の演出／色彩操作の基礎
9回目	DMXとパッチ - アドレス・ユニバースの概念と実習
10回目	照明コンソール基礎① - grandMA3などの概念解説と操作体験
11回目	照明コンソール基礎② - grandMA3などの概念解説と操作体験
12回目	キュー操作① - 照明キュー作成、基本的な動作設定
13回目	キュー操作② - キューの編集、トランジションの理解
14回目	再現演習① - 既存ライブの映像再現に向けた準備
15回目	再現演習② - 配置・色彩の模倣と再現演出
準備学習 時間外学 習	事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる大切が必要です。 基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組む姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バーチャルライティング II Virtual Lighting II	選択 必修	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜3,4限
【授業の学習内容】 バーチャル照明の基本と操作スキルを学ぶ。 <講師プロフィール> ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける。							
【到達目標】 バーチャル空間における光源の配置・強度・色調整が可能である。 DMXアドレスやパッチの概念を理解し、基本的な信号構成が扱える。 実在の照明演出を模倣し、キューを設計・再現できる。							

授業計画・内容	
1回目	色彩と感情表現 - 色の心理効果と演出意図の関係
2回目	カラーパレット演習 - カラー選定とプリセット登録
3回目	ソフト導入② (Depence2) - 基本設定・DMX接続・動作確認
4回目	リアルタイム操作体験 - 実際のライブを想定した手動操作演習
5回目	エフェクト基礎① - シンプルなムーブメント演出演習
6回目	エフェクト基礎② - 繰り返し・波形・スピード設定
7回目	光と素材の関係 - バーチャルセットと照明の影響関係
8回目	小課題：セット照明プラン - 指定された空間に照明を設計する課題
9回目	作品構成と整理 - 記録用データ管理、プレゼン準備
10回目	自主制作① - 個人またはペアで簡易ライブ照明制作
11回目	自主制作② - 個人またはペアで簡易ライブ照明制作
12回目	自主制作③ - 個人またはペアで簡易ライブ照明制作
13回目	自主制作④ - 個人またはペアで簡易ライブ照明制作
14回目	自主制作⑤ - 個人またはペアで簡易ライブ照明制作
15回目	最終発表会 - 1年次の集大成作品発表と講評
準備学習 時間外学 習	事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる大切です。 基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組み姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バーチャルライティング Ⅲ Virtual Lighting Ⅲ	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜5,6限
【授業の学習内容】 演出設計と映像・音楽との連携を学ぶ。 <講師プロフィール> ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける。							
【到達目標】 音楽や映像に同期した照明演出がタイムコードベースで設計できる。 複雑なムービングエフェクトや照明のシーン切り替え演出を構築できる。							

授業計画・内容	
1回目	1年の振り返り - 習得技術の棚卸しと弱点の洗い出し
2回目	映像と照明 - 映像照明のポイント・クロマキーとライティング
3回目	音との連動① - BPM・小節と照明キューの関係
4回目	音との連動② - タイムコード制御（SMPTE/MIDI）実習
5回目	MV照明分析 - 実在のMVを構造的に分析する演習
6回目	MV照明再現演習① - チームごとに1作品を再現しプレゼン準備
7回目	MV照明再現演習② - チームごとに1作品を再現しプレゼン準備
8回目	MV照明再現演習③ - チームごとに1作品を再現しプレゼン準備
9回目	MV照明再現演習④ - チームごとに1作品を再現しプレゼン準備
10回目	MV照明再現演習⑤ - チームごとに1作品を再現しプレゼン準備
11回目	中間発表 - MV照明演習の成果発表と講評
12回目	Unreal Engine基礎① - UEでの空間設計と照明設置
13回目	Unreal Engine基礎② - 動的ライト・ポストプロセス理解
14回目	Unreal Engine基礎③ - 動的ライト・ポストプロセス理解
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる大切が必要です。 基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組み姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バーチャルライティング IV Virtual Lighting IV	選択 必修	選択必 修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜5,6限
【授業の学習内容】 演出設計と映像・音楽との連携を学ぶ。 <講師プロフィール> ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける。							
【到達目標】 Unreal EngineやTouchDesignerなどと連携し、マルチメディア演出が行える。 指定された演出要件をもとに、コンセプトに沿った照明プランを提案・制作できる。							

授業計画・内容	
1回目	マルチメディア連携① - TouchDesigner連携／音・映像・光の融合
2回目	マルチメディア連携② - OSC制御やリアルタイム反応演出
3回目	イベント空間演出① - ショー・展示会での照明事例研究
4回目	イベント空間演出② - ステージ以外でのライティング設計演習①
5回目	イベント空間演出③ - ステージ以外でのライティング設計演習②
6回目	エフェクト応用 - 複雑なパターン・クロスフェード演出
7回目	応用制作プロジェクト① - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
8回目	応用制作プロジェクト② - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
9回目	応用制作プロジェクト③ - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
10回目	応用制作プロジェクト④ - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
11回目	応用制作プロジェクト⑤ - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
12回目	応用制作プロジェクト⑥ - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
13回目	応用制作プロジェクト⑦ - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
14回目	応用制作プロジェクト⑧ - 各自の企画に基づいた作品制作（演出+技術）
15回目	成果発表 - 実演または映像による発表・外部講師講評
準備学習 時間外学 習	事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30%（課題提出、提出期限の厳守） ○習熟度 : 30%（到達目標に対する習熟度） 出席 : 別途規定（出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし）に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる大切が必要です。 基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組み姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バーチャルライティング V Virtual Lighting V	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義/演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜1,2限
【授業の学習内容】 企画・演出・プレゼン・業界対応を学ぶ。 <講師プロフィール> ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける。							
【到達目標】 チームでの制作において、役割分担・協働・フィードバック対応ができる。 自らの企画に基づき、バーチャル照明演出の設計・構築が行える。							

授業計画・内容	
1回目	進路とキャリア - 作品の使い方・ポートフォリオの方向性
2回目	プロジェクト立案 - 自由課題としての演出企画立案
3回目	企画プレゼン準備① - 企画書作成・スケジュール管理・予算設定
4回目	企画プレゼン準備② - 企画書作成・スケジュール管理・予算設定
5回目	企画プレゼン準備③ - 企画書作成・スケジュール管理・予算設定
6回目	企画プレゼン準備④ - 企画書作成・スケジュール管理・予算設定
7回目	中間企画発表 - 進行状況共有とフィードバック
8回目	制作フェーズ① - 空間設計・照明設計・キュー作成
9回目	制作フェーズ② - 空間設計・照明設計・キュー作成
10回目	制作フェーズ③ - 空間設計・照明設計・キュー作成
11回目	制作フェーズ④ - 空間設計・照明設計・キュー作成
12回目	制作フェーズ⑤ - 空間設計・照明設計・キュー作成
13回目	制作フェーズ⑥ - ソフト連携・演出仕上げ・リハーサル
14回目	制作フェーズ⑦ - ソフト連携・演出仕上げ・リハーサル
15回目	前期まとめ
準備学習 時間外学 習	事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わる大切が必要です。 基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組み姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	バーチャルライティング VI Virtual Lighting VI	選択 必修	選択必 修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜1,2限
【授業の学習内容】 企画・演出・プレゼン・業界対応を学ぶ。 <講師プロフィール> ムービングライトを駆使したオペレートは圧巻の技術レベルを持つ。プロレスの照明演出の他、照明・舞台機器の施工も手掛ける。							
【到達目標】 完成度の高い照明演出をアウトプットし、発表・評価に耐えうる作品を制作できる。 業界仕様に準拠したポートフォリオを構成し、進路（就職・進学・起業）に活かせる。							

授業計画・内容	
1回目	映像編集・資料作成① - プレゼン動画や解説資料の制作
2回目	映像編集・資料作成② - プレゼン動画や解説資料の制作
3回目	最終プレゼン準備① - 本番を想定した全体通し・改善
4回目	最終プレゼン準備② - 本番を想定した全体通し・改善
5回目	最終プレゼン準備③ - 本番を想定した全体通し・改善
6回目	最終プレゼン準備④ - 本番を想定した全体通し・改善
7回目	最終プレゼン準備⑤ - 本番を想定した全体通し・改善
8回目	最終プレゼン準備⑥ - 本番を想定した全体通し・改善
9回目	最終プレゼン準備⑦ - 本番を想定した全体通し・改善
10回目	最終プレゼン準備⑧ - 本番を想定した全体通し・改善□
11回目	終発表会①
12回目	終発表会②
13回目	終発表会③
14回目	終発表会レビュー・ロ学外ゲストによる評価・総括・修了式
15回目	まとめ①
準備学習 時間外学 習	事前の照明プラン作成、仕込み図作成
評価方法	出席率と授業態度で判断します。 ○実技テスト : 40% ○課題提出 : 30% (課題提出、提出期限の厳守) ○習熟度 : 30% (到達目標に対する習熟度) 出席 : 別途規定 (出席率2/3を下回る場合は単位認定はなし) に基づきます
受講生への メッセージ	様々なジャンルが氾濫する中、照明家として一貫した考え方を持っていれば何にでも対応できるという自分のスタンスを軸に、ちょっとしたアイデアが大きな進歩につながります。まず自分が楽しくなくてはならないがそこに行き着くには数多くの現場に関わることが大切です。 基本照明の美しさへの拘りを育て、「優しさや思いやり」から発展する経験が照明に対しての取り組む姿勢に影響を与えます。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	空間デザイン I (Space Design I)	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
【授業の学習内容】		この授業では舞台やイベントにおける空間デザインの基礎から応用までを学びます。空間設計の理論、舞台美術、照明、映像投影、舞台配置などを学びつつ、実際の公演や企画を想定したデザイン提案まで行います。演出効果を最大化するための創造力と実践力を養います。					
【到達目標】		舞台空間デザインの基礎理論と技術を理解する。 照明や映像、音響との連動を考慮した空間設計ができる。 コンセプトを立案し、舞台・イベントのための空間提案ができる。 チーム制作を通じて、コミュニケーション能力と協働制作のスキルを習得する。					

授業計画・内容	
1回目	空間デザインとは何か？舞台・イベントの役割と効果
2回目	舞台美術の歴史と代表作品紹介
3回目	舞台デザインのプロセスと企画立案方法
4回目	舞台空間の基本構成(プロセニウム型、アリーナ型等)
5回目	照明と空間: 基本的な照明設計の考え方
6回目	音響・映像と空間: 舞台空間における映像演出の役割
7回目	舞台装置・道具の種類と設計
8回目	配色・素材・質感と舞台の印象操作
9回目	舞台デザインのスケッチ制作①
10回目	舞台デザインのスケッチ制作②
11回目	ミニチュア模型の制作①(構想・設計)
12回目	ミニチュア模型の制作②(制作実習)
13回目	簡易プレゼンテーション: 発表と講評①
14回目	簡易プレゼンテーション: 発表と講評②
15回目	特別講義: 舞台美術家によるゲスト講義
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	イラストレータはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なもの制作に使用するソフトです。基礎をしつかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	空間デザインⅡ (Space DesignⅡ)	必修 選択	選択 必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
【授業の学習内容】		この授業では、映像制作におけるグラフィックデザインの基本理論とツール操作を学びつつ、実践的なプロジェクト制作を通して創造的な表現力を養います。配色やタイポグラフィといった基礎知識から、Illustrator・Photoshopの応用、映像作品向けのタイトルデザインやグラフィック素材制作までを体系的に学習します。					
		最終的には、学生一人ひとりがオリジナルの映像作品用グラフィック素材を企画・制作し、発表を行います。					
【到達目標】		デザインの基本理論(レイアウト・配色・フォント)を理解し適用できる Illustratorを使用してロゴ・アイコン・レイアウトを制作できる Photoshopを使用して写真補正・合成ができる ポスターや広告デザインを目的に応じて制作できる WEBサイトやアプリのUI設計に必要な基礎デザインができる 商品パッケージや映像作品用グッズのデザインができる 映像作品のタイトルやグラフィック素材を効果的に制作できる 卒業制作としてオリジナルデザインプロジェクトを完成させ発表できる					

授業計画・内容	
1回目	特定ジャンルの舞台デザイン研究(演劇・ミュージカル・コンサート)
2回目	コンセプト立案演習①(与えられたテーマで企画)
3回目	コンセプト立案演習②(ストーリーボード作成)
4回目	照明計画演習①(図面作成)
5回目	照明計画演習②(演出プラン提案)
6回目	映像演出の基本①(プロジェクションマッピング入門)
7回目	映像演出の基本②(コンテンツ制作演習)
8回目	舞台転換のアイデアと実践
9回目	中間発表①:空間デザインプレゼンテーション
10回目	中間発表②:講評とフィードバック
11回目	チーム制作①:役割分担と計画立案
12回目	チーム制作②:デザイン案の共有と改善
13回目	チーム制作③:実制作①
14回目	チーム制作④:実制作②
15回目	公開講評:外部講師によるフィードバック
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	イラストレータはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なものの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	空間デザインⅢ (Space DesignⅢ)	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
【授業の学習内容】		この授業では、映像制作におけるグラフィックデザインの基本理論とツール操作を学びつつ、実践的なプロジェクト制作を通して創造的な表現力を養います。配色やタイポグラフィといった基礎知識から、Illustrator・Photoshopの応用、映像作品向けのタイトルデザインやグラフィック素材制作までを体系的に学習します。					
最終的には、学生一人ひとりがオリジナルの映像作品用グラフィック素材を企画・制作し、発表を行います。							
【到達目標】		デザインの基本理論(レイアウト・配色・フォント)を理解し適用できる Illustratorを使用してロゴ・アイコン・レイアウトを制作できる Photoshopを使用して写真補正・合成ができる ポスターや広告デザインを目的に応じて制作できる WEBサイトやアプリのUI設計に必要な基礎デザインができる 商品パッケージや映像作品用グッズのデザインができる 映像作品のタイトルやグラフィック素材を効果的に制作できる 卒業制作としてオリジナルデザインプロジェクトを完成させ発表できる					

授業計画・内容	
1回目	イベント空間デザインの基本:仮設舞台と展示
2回目	イベント空間における動線設計
3回目	イベント演出プランの立案
4回目	照明計画応用①(カラー演出の工夫)
5回目	照明計画応用②(スポットライトの使い方)
6回目	音響演出の基礎と応用
7回目	映像演出応用①(複数映像の組み合わせ)
8回目	映像演出応用②(インタラクティブ演出)
9回目	特殊効果(スモーク・シャボン玉など)の基礎
10回目	特殊効果の応用と実験
11回目	空間演出コンセプトの提案演習①
12回目	空間演出コンセプトの提案演習②
13回目	イベント空間デザイン 中間発表①
14回目	イベント空間デザイン 中間発表②
15回目	講評と次回課題の設定
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	現在、様々な事をWEBを通して出来るようになっていきます。WEB全般の基礎的な力は就職や実務の際にも必ず必要になって
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	空間デザインⅣ (Space DesignⅣ)	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
【授業の学習内容】		この授業では、映像制作におけるグラフィックデザインの基本理論とツール操作を学びつつ、実践的なプロジェクト制作を通して創造的な表現力を養います。配色やタイポグラフィといった基礎知識から、Illustrator・Photoshopの応用、映像作品向けのタイトルデザインやグラフィック素材制作までを体系的に学習します。					
		最終的には、学生一人ひとりがオリジナルの映像作品用グラフィック素材を企画・制作し、発表を行います。					
【到達目標】		デザインの基本理論(レイアウト・配色・フォント)を理解し適用できる Illustratorを使用してロゴ・アイコン・レイアウトを制作できる Photoshopを使用して写真補正・合成ができる ポスターや広告デザインを目的に応じて制作できる WEBサイトやアプリのUI設計に必要な基礎デザインができる 商品パッケージや映像作品用グッズのデザインができる 映像作品のタイトルやグラフィック素材を効果的に制作できる 卒業制作としてオリジナルデザインプロジェクトを完成させ発表できる					

授業計画・内容	
1回目	空間デザインのための建築的視点①(構造と素材)
2回目	空間デザインのための建築的視点②(安全性と実用性)
3回目	舞台美術での安全対策・施工管理の基礎
4回目	照明・音響・映像 全体演出プランの統合①
5回目	照明・音響・映像 全体演出プランの統合②
6回目	舞台転換と流れを考慮したデザイン演習
7回目	空間とストーリーテリング:演出家との連携方法
8回目	舞台・イベント実制作演習①
9回目	舞台・イベント実制作演習②
10回目	舞台・イベント実制作演習③
11回目	舞台・イベント実制作演習④
12回目	舞台・イベント実制作演習⑤
13回目	最終プレゼンテーション①
14回目	最終プレゼンテーション②
15回目	最終講評・総括
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	現在、様々な事をWEBを通して出来るようになっていきます。WEB全般の基礎的な力は就職や実務の際にも必ず必要になって
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	空間デザインⅤ (Space DesignⅤ)	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
【授業の学習内容】		この授業では、映像制作におけるグラフィックデザインの基本理論とツール操作を学びつつ、実践的なプロジェクト制作を通して創造的な表現力を養います。配色やタイポグラフィといった基礎知識から、Illustrator・Photoshopの応用、映像作品向けのタイトルデザインやグラフィック素材制作までを体系的に学習します。					
		最終的には、学生一人ひとりがオリジナルの映像作品用グラフィック素材を企画・制作し、発表を行います。					
【到達目標】		デザインの基本理論(レイアウト・配色・フォント)を理解し適用できる Illustratorを使用してロゴ・アイコン・レイアウトを制作できる Photoshopを使用して写真補正・合成ができる ポスターや広告デザインを目的に応じて制作できる WEBサイトやアプリのUI設計に必要な基礎デザインができる 商品パッケージや映像作品用グッズのデザインができる 映像作品のタイトルやグラフィック素材を効果的に制作できる 卒業制作としてオリジナルデザインプロジェクトを完成させ発表できる					

授業計画・内容	
1回目	空間デザインとは何か？舞台・イベントの役割と効果
2回目	舞台美術の歴史と代表作品紹介
3回目	舞台デザインのプロセスと企画立案方法
4回目	舞台空間の基本構成(プロセニウム型、アリーナ型等)
5回目	照明と空間:基本的な照明設計の考え方
6回目	音響・映像と空間:舞台空間における映像演出の役割
7回目	舞台装置・道具の種類と設計
8回目	配色・素材・質感と舞台の印象操作
9回目	舞台デザインのスケッチ制作①
10回目	舞台デザインのスケッチ制作②
11回目	ミニチュア模型の制作①(構想・設計)
12回目	ミニチュア模型の制作②(制作実習)
13回目	簡易プレゼンテーション:発表と講評①
14回目	簡易プレゼンテーション:発表と講評②
15回目	特別講義:舞台美術家によるゲスト講義
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 30% ■受講態度 30% ■【到達目標に対する達成度】 40%
受講生への メッセージ	イラストレータはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なもの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	空間デザインVI (Space DesignVI)	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
【授業の学習内容】		この授業では、映像制作におけるグラフィックデザインの基本理論とツール操作を学びつつ、実践的なプロジェクト制作を通して創造的な表現力を養います。配色やタイポグラフィといった基礎知識から、Illustrator・Photoshopの応用、映像作品向けのタイトルデザインやグラフィック素材制作までを体系的に学習します。					
最終的には、学生一人ひとりがオリジナルの映像作品用グラフィック素材を企画・制作し、発表を行います。							
【到達目標】		デザインの基本理論(レイアウト・配色・フォント)を理解し適用できる Illustratorを使用してロゴ・アイコン・レイアウトを制作できる Photoshopを使用して写真補正・合成ができる ポスターや広告デザインを目的に応じて制作できる WEBサイトやアプリのUI設計に必要な基礎デザインができる 商品パッケージや映像作品用グッズのデザインができる 映像作品のタイトルやグラフィック素材を効果的に制作できる 卒業制作としてオリジナルデザインプロジェクトを完成させ発表できる					

授業計画・内容	
1回目	特定ジャンルの舞台デザイン研究(演劇・ミュージカル・コンサート)
2回目	コンセプト立案演習①(与えられたテーマで企画)
3回目	コンセプト立案演習②(ストーリーボード作成)
4回目	照明計画演習①(図面作成)
5回目	照明計画演習②(演出プラン提案)
6回目	映像演出の基本①(プロジェクションマッピング入門)
7回目	映像演出の基本②(コンテンツ制作演習)
8回目	舞台転換のアイデアと実践
9回目	中間発表①:空間デザインプレゼンテーション
10回目	中間発表②:講評とフィードバック
11回目	チーム制作①:役割分担と計画立案
12回目	チーム制作②:デザイン案の共有と改善
13回目	チーム制作③:実制作①
14回目	チーム制作④:実制作②
15回目	公開講評:外部講師によるフィードバック
準備学習 時間外 学習	
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	イラストレータはwebだけでなく、広告やポスター、名刺など色々なものの制作に使用するソフトです。基礎をしっかりと学び活用していけるように努力をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	デジタルイベント制作	必修 選択	選択必修	年次	1		
	Digital Event Product	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	
【授業の学習内容】 オンライン／ハイブリッド形式のイベントに必要な技術・知識を段階的に習得する。 バーチャルプラットフォーム、ストリーミング技術、インタラクティブ演出など、現代の音楽表現に不可欠なデジタルスキルを、実践的課題やチーム制作を通じて学ぶ。							
【到達目標】 デジタルイベントの基本と技術理解							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・履修目的の共有
2回目	オンラインイベントとは／事例紹介
3回目	イベント構成の基本①（進行と要素）
4回目	イベント構成の基本②（役割とフロー）
5回目	配信の基礎① OBS Studio入門
6回目	配信の基礎② マイク／カメラ設定
7回目	ストリーミングとネット回線基礎
8回目	バーチャル空間とイベント
9回目	グループ演習①：小規模イベント企画
10回目	グループ演習②：進行と台本作成
11回目	グループ演習③：素材収集と準備
12回目	配信テストとトラブル対策
13回目	ミニ発表会（学内配信イベント）
14回目	振り返りとフィードバック
15回目	前期まとめと自己評価
準備学習 時間外学習	・イベントの事前リサーチ ・使用予定ツールの基本操作の確認 ・チーム内の役割や進行の確認と把握
評価方法	ミニ発表会にて理解度のチェック
受講生への メッセージ	みなさんがこれから取り組む「デジタルイベント制作」は、単なる配信技術の習得ではなく、**「伝える力」「つなぐ力」「カタチにする力」**を総合的に育てる授業です。 オンラインやハイブリッドで開催されるイベントは、音楽やパフォーマンスの届け方を大きく広げています。場所や時間を超えて、世界中の観客に自分たちの企画を届けることも可能です。この授業では、配信ツールの使い方や演出の仕方はもちろん、**「どんな体験を届けたいか」**という視点から、企画・演出・広報・運営までを総合的に学んでいきます。 現場では、「企画力」「対応力」「チームで動く力」が試されます。**正解はひとつではありません。**挑戦と失敗を恐れず、仲間とともに「今、ここにしかない体験」を作り上げましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン、配布資料	

科目名 (英)	デジタルイベント制作 Degital Event Product	必修 選択	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	
【授業の学習内容】 オンライン／ハイブリッド形式のイベントに必要な技術・知識を段階的に習得する。 バーチャルプラットフォーム、ストリーミング技術、インタラクティブ演出など、現代の音楽表現に不可欠なデジタルスキルを、実践的課題やチーム制作を通じて学ぶ。							
【到達目標】 演出の工夫とデジタル表現入門							

授業計画・内容	
1回目	デジタル演出の種類と工夫
2回目	スライド／テロップ演出
3回目	カメラワークと画面切替
4回目	イベントの世界観と演出設計
5回目	アセット制作（バナー／配信用背景）
6回目	SNS・配信プラットフォームの活用
7回目	小イベント制作①（コンセプト設計）
8回目	小イベント制作②（素材制作・編集）
9回目	小イベント制作③（配信リハ）
10回目	小イベント本番（実施）
11回目	イベント記録の編集
12回目	イベントの評価と振り返り
13回目	ゲストによる講評
14回目	成果ポートフォリオ整理
15回目	後期まとめ／今後の課題設定
準備学習 時間外学習	・イベントの事前リサーチ ・使用予定ツールの基本操作の確認 ・チーム内の役割や進行の確認と把握
評価方法	小イベント本番での評価
受講生への メッセージ	みなさんがこれから取り組む「デジタルイベント制作」は、単なる配信技術の習得ではなく、**「伝える力」「つなぐ力」「カタチにする力」**を総合的に育てる授業です。 オンラインやハイブリッドで開催されるイベントは、音楽やパフォーマンスの届け方を大きく広げています。場所や時間を超えて、世界中の観客に自分たちの企画を届けることも可能です。この授業では、配信ツールの使い方や演出の仕方はもちろん、**「どんな体験を届けたいか」**という視点から、企画・演出・広報・運営までを総合的に学んでいきます。 現場では、「企画力」「対応力」「チームで動く力」が試されます。**正解はひとつではありません。**挑戦と失敗を恐れず、仲間とともに「今、ここにしかない体験」を作り上げましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン、配布資料	

科目名 (英)	デジタルイベント制作	必修 選択	選択必修	年次	2		
	Digital Event Product	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	
【授業の学習内容】 オンライン／ハイブリッド形式のイベントに必要な技術・知識を段階的に習得する。 バーチャルプラットフォーム、ストリーミング技術、インタラクティブ演出など、現代の音楽表現に不可欠なデジタルスキルを、実践的課題やチーム制作を通じて学ぶ。							
【到達目標】 企画力・演出力の応用を身につける							

授業計画・内容	
1回目	1年次の復習・振り返り
2回目	先端事例研究（国内外のデジタルイベント）
3回目	ハイブリッドイベントの設計視点
4回目	音楽イベントにおける演出設計
5回目	会場マップと配信視点の融合
6回目	コンテンツ演出（インタラクティブ設計）
7回目	チーム制作①（テーマ決定）
8回目	チーム制作②（台本・役割分担）
9回目	チーム制作③（素材・演出設計）
10回目	チーム制作④（リハーサル）
11回目	本番発表（公開収録・配信）
12回目	振り返り／レビュー
13回目	改善・再演準備
14回目	再発表／修正版イベント
15回目	前期総括／成長記録
準備学習 時間外学習	・イベントの事前リサーチ ・使用予定ツールの基本操作の確認 ・チーム内の役割や進行の確認と把握
評価方法	本番発表での評価
受講生への メッセージ	みなさんがこれから取り組む「デジタルイベント制作」は、単なる配信技術の習得ではなく、**「伝える力」「つなぐ力」「カタチにする力」**を総合的に育てる授業です。 オンラインやハイブリッドで開催されるイベントは、音楽やパフォーマンスの届け方を大きく広げています。場所や時間を超えて、世界中の観客に自分たちの企画を届けることも可能です。この授業では、配信ツールの使い方や演出の仕方はもちろん、**「どんな体験を届けたいか」**という視点から、企画・演出・広報・運営までを総合的に学んでいきます。 現場では、「企画力」「対応力」「チームで動く力」が試されます。**正解はひとつではありません。**挑戦と失敗を恐れず、仲間とともに「今、ここにしかない体験」を作り上げましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン、配布資料	

科目名 (英)	デジタルイベント制作 Degital Event Product	必修 選択	選択必修	年次	2		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	
学科・コース	音楽プロデュース科						
【授業の学習内容】 オンライン／ハイブリッド形式のイベントに必要な技術・知識を段階的に習得する。 バーチャルプラットフォーム、ストリーミング技術、インタラクティブ演出など、現代の音楽表現に不可欠なデジタルスキルを、実践的課題やチーム制作を通じて学ぶ。							
【到達目標】 リアル連携と外部発信ができるようになる							

授業計画・内容	
1回目	外部コラボイベント準備①
2回目	外部コラボイベント準備②
3回目	会場調査・通信環境チェック
4回目	タイムテーブル・演出資料の整理
5回目	映像演出（VJ・ライブ配信効果）
6回目	スタジオ技術との連携
7回目	イベント収録①（テスト版）
8回目	イベント収録②（本番）
9回目	編集・アーカイブ作成
10回目	発表・ゲスト講評
11回目	自主イベント企画立案
12回目	プレゼンテーション演習
13回目	広報／集客設計
14回目	成果物提出／プレゼン
15回目	後期総括・次年度へ
準備学習 時間外学習	・イベントの事前リサーチ ・使用予定ツールの基本操作の確認 ・チーム内の役割や進行の確認と把握
評価方法	イベントの企画書、付属資料を提出してもらい、内容の評価と理解度の確認
受講生への メッセージ	みなさんがこれから取り組む「デジタルイベント制作」は、単なる配信技術の習得ではなく、**「伝える力」「つなぐ力」「カタチにする力」**を総合的に育てる授業です。 オンラインやハイブリッドで開催されるイベントは、音楽やパフォーマンスの届け方を大きく広げています。場所や時間を超えて、世界中の観客に自分たちの企画を届けることも可能です。この授業では、配信ツールの使い方や演出の仕方はもちろん、**「どんな体験を届けたいか」**という視点から、企画・演出・広報・運営までを総合的に学んでいきます。 現場では、「企画力」「対応力」「チームで動く力」が試されます。**正解はひとつではありません。**挑戦と失敗を恐れず、仲間とともに「今、ここにしかない体験」を作り上げましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン、配布資料	

科目名 (英)	デジタルイベント制作 Digetal Event Product	必修 選択	選択必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	
【授業の学習内容】 オンライン／ハイブリッド形式のイベントに必要な技術・知識を段階的に習得する。 バーチャルプラットフォーム、ストーリーミング技術、インタラクティブ演出など、現代の音楽表現に不可欠なデジタルスキルを、実践的課題やチーム制作を通じて学ぶ。							
【到達目標】 自主企画・提案型イベントの設計・運営を通して、制作力・マネジメント力・対外発信力を高める。 卒業後の進路（就職／フリーランス／起業など）を見据え、デジタルポートフォリオとブランディングスキルを構築する。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：卒業制作の意義と目標
2回目	これまでの制作の振り返りと棚卸し
3回目	企画構想①：ジャンルとテーマの決定
4回目	企画構想②：ターゲットと目的の設定
5回目	実現可能性調査：予算・会場・配信環境
6回目	台本・進行構成の設計
7回目	スタッフイングとチーム編成
8回目	使用ツール・機材の選定と準備
9回目	スポンサーや協力者との交渉案作成
10回目	映像／音響素材の制作・発注
11回目	広報戦略（SNS、ティザー、PR動画）
12回目	プロジェクト進捗発表①（中間レビュー）
13回目	演出のシミュレーション
14回目	リハーサル準備・全体確認
15回目	前期まとめ：課題整理と後期に向けた計画書提出
準備学習 時間外学習	・イベントの事前リサーチ ・使用予定ツールの基本操作の確認 ・チーム内の役割や進行の確認と把握
評価方法	プロジェクトの進捗発表での評価
受講生への メッセージ	みなさんがこれから取り組む「デジタルイベント制作」は、単なる配信技術の習得ではなく、**「伝える力」「つなぐ力」「カタチにする力」**を総合的に育てる授業です。 オンラインやハイブリッドで開催されるイベントは、音楽やパフォーマンスの届け方を大きく広げています。場所や時間を超えて、世界中の観客に自分たちの企画を届けることも可能です。この授業では、配信ツールの使い方や演出の仕方はもちろん、**「どんな体験を届けたいか」**という視点から、企画・演出・広報・運営までを総合的に学んでいきます。 現場では、「企画力」「対応力」「チームで動く力」が試されます。**正解はひとつではありません。****挑戦と失敗を恐れず、仲間とともに「今、ここにしかない体験」を作り上げましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン、配布資料	

科目名 (英)	デジタルイベント制作	必修 選択	選択必修	年次	3		
	Digital Event Product	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	
【授業の学習内容】 オンライン／ハイブリッド形式のイベントに必要な技術・知識を段階的に習得する。 バーチャルプラットフォーム、ストリーミング技術、インタラクティブ演出など、現代の音楽表現に不可欠なデジタルスキルを、実践的課題やチーム制作を通じて学ぶ。							
【到達目標】 自主企画・提案型イベントの設計・運営を通して、制作力・マネジメント力・対外発信力を高める。 卒業後の進路（就職／フリーランス／起業など）を見据え、デジタルポートフォリオとブランディングスキルを構築する。							

授業計画・内容	
1回目	全体進行確認・役割最終調整
2回目	広報活動の進捗確認・戦略再構築
3回目	配信・収録機材の最終テスト
4回目	会場下見・設営リハーサル
5回目	演出リハーサル
6回目	本番イベント実施①（学内公開／限定公開）
7回目	本番イベント実施②（配信／一般公開）
8回目	アーカイブ編集・ハイライト映像制作
9回目	イベント振り返り・アンケート分析
10回目	成果プレゼンテーション①（学内向け）
11回目	成果プレゼンテーション②（外部向け）
12回目	デジタルポートフォリオ作成①
13回目	デジタルポートフォリオ作成②
14回目	自己ブランディング講座（履歴書・SNS等）
15回目	最終レビュー・講評・自己評価
準備学習 時間外学習	・イベントの事前リサーチ ・使用予定ツールの基本操作の確認 ・チーム内の役割や進行の確認と把握
評価方法	本番イベント、提出物にて評価
受講生への メッセージ	みなさんがこれから取り組む「デジタルイベント制作」は、単なる配信技術の習得ではなく、**「伝える力」「つなぐ力」「カタチにする力」**を総合的に育てる授業です。 オンラインやハイブリッドで開催されるイベントは、音楽やパフォーマンスの届け方を大きく広げています。場所や時間を超えて、世界中の観客に自分たちの企画を届けることも可能です。この授業では、配信ツールの使い方や演出の仕方はもちろん、**「どんな体験を届けたいか」**という視点から、企画・演出・広報・運営までを総合的に学んでいきます。 現場では、「企画力」「対応力」「チームで動く力」が試されます。**正解はひとつではありません。**挑戦と失敗を恐れず、仲間とともに「今、ここにしかない体験」を作り上げましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 パソコン、配布資料	

科目名 (英)	ステージ・イベント・プロダクション プロジェクト I	選択 必修	選択必修	年次	1		
	Stage&Event Production Project I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜4限目
【授業の学習内容】 SO.ON projectの運営に必要な知識と実践スキルを学ぶ。 イベント制作、グッズ制作、SNS運用、収支管理、ファン対応など多面的な活動を体験する。 チームでの分担と協働によるプロジェクトベース学習を行う。 実際の放課後ライブを通じて成果をアウトプットする。							
【到達目標】 アイドル運営の基本知識と現場対応力を身につけている。 チームで役割分担しながらイベント・SNS・物販などを企画運営できる。 成果物を通じて表現力・企画力・コミュニケーション力を高める。 ライブ企画・準備・運営の流れを理解し、実行できる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／SO.ON projectとは
2回目	SO.ON projectの歴史と現状分析
3回目	放課後ライブの基礎知識（企画～実施までの流れ）
4回目	放課後ライブ準備①：役割分担とチーム編成
5回目	放課後ライブ①（実施）
6回目	ライブのふりかえり／課題抽出
7回目	ファン層リサーチとペルソナ作成
8回目	SNS運用の基本と現状分析
9回目	投稿企画の立案・ビジュアル制作演習
10回目	グッズの役割と基本アイデア発想法
11回目	グッズ企画立案ワーク①
12回目	放課後ライブ準備②：運営改善の実行案作成
13回目	放課後ライブ②（実施）
14回目	ふりかえり／レポート作成演習
15回目	クォーターまとめプレゼン（改善提案）
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	ステージ・イベント・プロダクション プロジェクト II	選択 必修	選択必修	年次	1		
	Stage&Event Production Project II	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	科目名 (英)					曜日・時限	木曜4限目
【授業の学習内容】 SO.ON projectの運営に必要な知識と実践スキルを学ぶ。 イベント制作、グッズ制作、SNS運用、収支管理、ファン対応など多面的な活動を体験する。 チームでの分担と協働によるプロジェクトベース学習を行う。 実際の放課後ライブを通じて成果をアウトプットする。							
【到達目標】 アイドル運営の基本知識と現場対応力を身につけている。 チームで役割分担しながらイベント・SNS・物販などを企画運営できる。 成果物を通じて表現力・企画力・コミュニケーション力を高める。 ライブ企画・準備・運営の流れを理解し、実行できる。							

授業計画・内容	
1回目	前回ライブからの改善実施計画
2回目	SNS広告の基本知識とシミュレーション演習
3回目	SNS広告の実施と効果測定
4回目	放課後ライブ準備③：イベント構成演出会議
5回目	放課後ライブ③（実施）
6回目	ライブふりかえり＋動画分析ワーク
7回目	グッズ企画立案ワーク②（原価と利益）
8回目	販売戦略の立案（会場・EC販売）
9回目	イベント動線と現場導線計画演習
10回目	放課後ライブ準備④：運営マニュアル作成
11回目	放課後ライブ④（実施）
12回目	ライブのふりかえり／スタッフレポート作成
13回目	企画書づくり演習（グッズ／ライブ）
14回目	ファンアンケート作成と実施計画
15回目	まとめプレゼン（収益と運営の成果）
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	ステージ・イベント・プロダクション プロジェクトⅢ	選択 必修	選択必修	年次	2		
	Stage&Event Production ProjectⅢ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	科目名 (英)					曜日・時限	木曜4限目
【授業の学習内容】 SO.ON projectの運営に必要な知識と実践スキルを学ぶ。 イベント制作、グッズ制作、SNS運用、収支管理、ファン対応など多面的な活動を体験する。 チームでの分担と協働によるプロジェクトベース学習を行う。 実際の放課後ライブを通じて成果をアウトプットする。							
【到達目標】 アイドル運営の基本知識と現場対応力を身につけている。 チームで役割分担しながらイベント・SNS・物販などを企画運営できる。 成果物を通じて表現力・企画力・コミュニケーション力を高める。 ライブ企画・準備・運営の流れを理解し、実行できる。							

授業計画・内容	
1回目	現場課題の再抽出とチーム分担
2回目	ファンマーケティングの基本知識
3回目	放課後ライブ準備⑤：コンセプトライブ企画立案
4回目	放課後ライブ⑤（実施）
5回目	ライブふりかえり＋SNS分析
6回目	音響・照明の基礎とライブ演出の理解
7回目	照明プランと演出プラン作成演習
8回目	コラボ企画の可能性と注意点
9回目	他学科連携（映像／音響など）アイデア出し
10回目	放課後ライブ準備⑥：演出実装練習
11回目	放課後ライブ⑥（実施）
12回目	ライブ動画編集基礎とアーカイブ制作
13回目	収支計算演習（ライブ・グッズ）
14回目	成果を可視化する資料作成演習
15回目	第3Q成果発表プレゼン（成果と提案）
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	ステージ・イベント・プロダクション プロジェクト IV Stage&Event Production Project IV	選択 必修	選択必修	年次	2		
学科・コース	科目名 (英)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
						曜日・時限	木曜4限目
【授業の学習内容】 SO.ON projectの運営に必要な知識と実践スキルを学ぶ。 イベント制作、グッズ制作、SNS運用、収支管理、ファン対応など多面的な活動を体験する。 チームでの分担と協働によるプロジェクトベース学習を行う。 実際の放課後ライブを通じて成果をアウトプットする。							
【到達目標】 アイドル運営の基本知識と現場対応力を身につけている。 チームで役割分担しながらイベント・SNS・物販などを企画運営できる。 成果物を通じて表現力・企画力・コミュニケーション力を高める。 ライブ企画・準備・運営の流れを理解し、実行できる。							

授業計画・内容	
1回目	新チーム編成と目標共有
2回目	年間スケジュール全体設計演習
3回目	放課後ライブ準備⑦：演出強化と役割最適化
4回目	放課後ライブ⑦（実施）
5回目	ライブ分析＋課題のブレイクダウン
6回目	グッズ制作実践（発注～納品）
7回目	販売準備（価格設定・在庫管理）
8回目	売上報告書作成とプレゼン演習
9回目	SNSプロモーション動画制作
10回目	放課後ライブ準備⑧：PR強化とファン誘導
11回目	放課後ライブ⑧（実施）
12回目	アンケート回収と分析ワーク
13回目	ファンミーティング／オフライン企画立案
14回目	チーム別業務報告とふりかえり
15回目	半期総まとめ＋全体プレゼン
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	ステージ・イベント・プロダクション プロジェクト V Stage&Event Production Project V	選択 必修	選択必修	年次	3		
学科・コース	科目名 (英)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜4限目
【授業の学習内容】 SO.ON projectの運営に必要な知識と実践スキルを学ぶ。 イベント制作、グッズ制作、SNS運用、収支管理、ファン対応など多面的な活動を体験する。 チームでの分担と協働によるプロジェクトベース学習を行う。 実際の放課後ライブを通じて成果をアウトプットする。							
【到達目標】 アイドル運営の基本知識と現場対応力を身につけている。 チームで役割分担しながらイベント・SNS・物販などを企画運営できる。 成果物を通じて表現力・企画力・コミュニケーション力を高める。 ライブ企画・準備・運営の流れを理解し、実行できる。							

授業計画・内容	
1回目	放課後ライブ④振り返りと改善点共有
2回目	チーム再編成と役割見直しワーク
3回目	スケジュール管理の基礎（ガントチャート活用）
4回目	企画書フォーマットの理解と作成①
5回目	企画書フォーマットの理解と作成②
6回目	SNSアナリティクス分析（数値を元に改善案）
7回目	中長期イベント企画プレスト（3ヶ月スパン）
8回目	シナリオ／演出付きライブ企画①（テーマ決定）
9回目	シナリオ／演出付きライブ企画②（構成設計）
10回目	コール&レスポンス演習／観客参加型演出
11回目	グッズ開発プロセス（発注・納期・在庫）
12回目	追加収益アイデア会議（チェキ・配信など）
13回目	放課後ライブ準備（稽古・搬入・音響確認）
14回目	放課後ライブ⑤最終リハーサル
15回目	放課後ライブ⑤
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	ステージ・イベント・プロダクション プロジェクト VI	選択 必修	選択必修	年次	3		
	Stage&Event Production Project VI	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	スーパー・eエンターテインメント科					曜日・時限	木曜4限目
【授業の学習内容】 SO.ON projectの運営に必要な知識と実践スキルを学ぶ。 イベント制作、グッズ制作、SNS運用、収支管理、ファン対応など多面的な活動を体験する。 チームでの分担と協働によるプロジェクトベース学習を行う。 実際の放課後ライブを通じて成果をアウトプットする。							
【到達目標】 アイドル運営の基本知識と現場対応力を身につけている。 チームで役割分担しながらイベント・SNS・物販などを企画運営できる。 成果物を通じて表現力・企画力・コミュニケーション力を高める。 ライブ企画・準備・運営の流れを理解し、実行できる。							

授業計画・内容	
1回目	フィードバック&SNS・アンケート分析
2回目	定例ミーティングの進行と記録方法ワーク
3回目	配信ライブ体験①：配信の基礎知識
4回目	配信ライブ体験②：OBS操作体験／配信設計
5回目	ファン参加型企画の実践（例：投票・リクエスト）
6回目	アイドルドキュメンタリー風映像企画①（構成）
7回目	アイドルドキュメンタリー風映像企画②（撮影）
8回目	動画編集演習（簡易な編集ソフトを使用）
9回目	YouTube運用／チャンネル戦略入門
10回目	放課後ライブ告知動画の制作ワーク
11回目	演出表現の深掘り（照明・映像演出演習）
12回目	タレントのセルフプロデュース研究
13回目	放課後ライブ準備（配信演出含む）
14回目	放課後ライブ⑥
15回目	振り返り・反省と次回へ向けた改善会議
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	コンポジションソングライティングプロジェクト Composition Songwriting Project	必修 選択	選択必修	年次	1.2.3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	270 (6)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜2.3.4限
【授業の学習内容】 音楽プロダクション、レコードメーカー、一般企業より楽曲制作依頼を受け、滋慶学園COMグループ音楽系8校でそれぞれチームを編成し楽曲制作を行う。学生それぞれが、チームの中で役割を持ち、共同制作を行いながら実際の制作現場のシュミレーションを行う。 (講師プロフィール) 永吉啓嗣:株式会社日本芸能文化社チーフマネージャー。福岡でメジャーに向けた新人発掘、大手放送局への音楽制作まで幅広く行う。 他:福岡の第一線で現役で活躍する音楽クリエイター、アーティスト、ボーカルディレクター、レコーディング&MIXエンジニアによる講師陣							
【到達目標】 各案件での楽曲採用を最大の目標とし、総合的なクリエイティブ能力を向上させる。 1年生は主に楽曲制作スピードの向上 2年生は主に楽曲クオリティの向上 3年生、4年生はスピードとクオリティを踏まえ作品に価値を生み出しマネタイズできる実践力を身につける							

授業計画・内容	
1回目	企業課題制作／オリエンテーション
2回目	企業課題制作／コンペティション分析①
3回目	企業課題制作／プレゼンテーション基礎
4回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション①
5回目	企業課題制作／コンペティション分析②
6回目	企業課題制作／セルフレコーディング基礎
7回目	企業課題制作／コライティング基礎
8回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション②
9回目	企業課題制作／コンペティション分析③
10回目	企業課題制作／コードワーク基礎
11回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション③
12回目	企業課題制作／コンペティション分析④
13回目	企業課題制作／ミックスダウン基礎
14回目	Jikei Composer GP
15回目	Jikei Composer GP
準備学習 時間外学習	課題を家に持ち帰るのではなく可能な限り授業中に集中して制作し完成させていくことを目標とします
評価方法	各案件での楽曲採用が最大の評価であり また、チーム編成である故の出席率、及び毎回の楽曲提出が最低限の評価基準となる
受講生への メッセージ	とにかく制作に向き合う時間であり、第一線で活躍する講師陣と制作を共有できる貴重な時間になります。音楽制作におけるインプットとアウトプットを兼ねた効率的な成長の場です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	コンポジションソングライティングプロジェクト Composition Songwriting Project	必修 選択	選択必修	年次	1.2.3		
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	270 (6)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜2.3.4限
【授業の学習内容】 音楽プロダクション、レコードメーカー、一般企業より楽曲制作依頼を受け、滋慶学園COMグループ音楽系8校でそれぞれチームを編成し楽曲制作を行う。学生それぞれが、チームの中で役割を持ち、共同制作を行いながら実際の制作現場のシュミレーションを行う。 (講師プロフィール) 永吉啓嗣:株式会社日本芸能文化社チーフマネージャー。福岡でメジャーに向けた新人発掘、大手放送局への音楽制作まで幅広く行う。 他:福岡の第一線で現役で活躍する音楽クリエイター、アーティスト、ボーカルディレクター、レコーディング&MIXエンジニアによる講師陣							
【到達目標】 各案件での楽曲採用を最大の目標とし、総合的なクリエイティブ能力を向上させる。 1年生は主に楽曲制作スピードの向上 2年生は主に楽曲クオリティの向上 3年生、4年生はスピードとクオリティを踏まえ作品に価値を生み出しマネタイズできる実践力を身につける							

授業計画・内容	
1回目	企業課題制作／コンペティション分析⑤
2回目	企業課題制作／マスタリング基礎
3回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション⑤
4回目	企業課題制作／コンペティション分析⑥
5回目	企業課題制作／楽曲アレンジ基礎
6回目	企業課題制作／サウンドエフェクト基礎
7回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション⑦
8回目	企業課題制作／コンペティション分析⑧
9回目	企業課題制作／ボーカルディレクション基礎
10回目	企業課題制作／作品プレゼンテーション⑧
11回目	企業課題制作／コンペティション分析⑨
12回目	企業課題制作／プロデュースワーク基礎
13回目	卒業進級制作 準備
14回目	卒業進級制作 準備
15回目	卒業進級制作 準備
準備学習 時間外 学習	課題を家に持ち帰るのではなく可能な限り授業中に集中して制作し完成させていくことを目標とします
評価方法	各案件での楽曲採用が最大の評価であり また、チーム編成である故の出席率、及び毎回の楽曲提出が最低限の評価基準となる
受講生への メッセージ	とにかく制作に向き合う時間であり、第一線で活躍する講師陣と制作を共有できる貴重な時間になります。音楽制作におけるインプットとアウトプットを兼ねた効率的な成長の場です。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	ゴスペルアンサンブル	選択 必修	選択必修	年次	1	担当教員	池末 信
	Gospel Ensemble	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120	開講区分	通年
学科・コース	音楽プロデュース科			8	曜日・時限	木曜5限/木曜6限	
【授業の学習内容】							
世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル（黒人霊歌）のコンテンポラリーゴスペル（近代的なゴスペル）を中心に、オーセンティック（本格的）なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。							
〈講師プロフィール〉 マサチューセッツ州にあるバークリー音楽大学映画音楽科にて作曲、編曲、指揮法等を学び1991年、卒業後帰国。1996年に東京スクールオブミュージック専門学校副校長就任。1998年福岡スクールオブミュージック専門学校、大阪スクールオブミュージック専門学校、2002年名古屋コミュニケーションアート専門学校、2007年仙台コミュニケーションアート専門学校副校長就任。プロデューサー、ゴスペルディレクター、シンガー、作編曲家、ボイストレーナー。							
【到達目標】 「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」 それらを体感し信じられること。							
授業計画・内容							
1回目	説明、NLPワーク、新曲2曲レクチャー						
2回目	メディテーションワーク、2曲復習、新曲1曲						
3回目	3曲復習、新曲1曲、1曲パフォーマンス						
4回目	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー						
5回目	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー						
6回目	3曲新曲、ワーク						
7回目	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス						
8回目	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス						
9回目	プレイフルワーク、楽曲復習						
10回目	楽曲復習、新曲レクチャー						
11回目	楽曲復習、新曲レクチャー						
12回目	楽曲復習、キティワーク						
13回目	卒業進級制作						
14回目	卒業進級制作						
15回目	卒業進級制作						
準備学習 時間外学 習	楽曲の復習、パート毎の音の確認						
評価方法	実技テスト（楽曲の歌唱、パフォーマンスの実演、正しいパート音を歌唱できているか）						
受講生への メッセージ	ゴスペルは音楽のルーツです。難しい楽曲もありますが失敗することを恐れず、チャレンジしていきましょう。その積み重ねがあれば世界に通用するスキルも身につけていきます。						
【使用教科書・教材・参考書】							
歌詞カード、ボイスレコーダー							

科目名 (英)	ゴスペルアンサンブル	選択 必修	選択必修	年次	2	担当教員	池末 信
	Gospel Ensemble	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	通年
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	木曜5限/木曜6限
【授業の学習内容】							
世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル（黒人霊歌）のコンテンポラリーゴスペル（近代的なゴスペル）を中心に、オーセンティック（本格的）なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。							
〈講師プロフィール〉 マサチューセッツ州にあるバークリー音楽大学映画音楽科にて作曲、編曲、指揮法等を学び1991年、卒業後帰国。1996年に東京スクールオブミュージック専門学校副校長就任。1998年福岡スクールオブミュージック専門学校、大阪スクールオブミュージック専門学校、2002年名古屋コミュニケーションアート専門学校、2007年仙台コミュニケーションアート専門学校副校長就任。プロデューサー、ゴスペルディレクター、シンガー、作編曲家、ボイストレーナー。							
【到達目標】							
心技体において確実な成長を体感し、講師からの客観的視点より成長を認めれること。 それらをゴスペルアンサンブルメンバー全員で達成できていること。							
授業計画・内容							
1回目	ワーク、新曲3曲レクチャー						
2回目	楽曲復習						
3回目	海外研修						
4回目	新曲2曲レクチャー、パフォーマンスレクチャー						
5回目	楽曲復習、動き復習						
6回目	ケイティワーク、2曲新曲						
7回目	楽曲復習、動き復習						
8回目	楽曲復習						
9回目	新曲2曲レクチャー、楽曲復習						
10回目	イベント演習						
11回目	イベント演習						
12回目	イベント演習						
13回目	卒業進級制作						
14回目	卒業進級制作						
15回目	卒業進級制作						
準備学習 時間外学 習	楽曲の復習、パート毎の音の確認						
評価方法	実技テスト（楽曲の歌唱、パフォーマンスの実演、正しいパート音を歌唱できているか）						
受講生への メッセージ	ゴスペルは音楽のルーツです。難しい楽曲もありますが失敗することを恐れず、チャレンジしていきましょう。その積み重ねがあれば世界に通用するスキルも身についていきます。						
【使用教科書・教材・参考書】							
歌詞カード、ボイスレコーダー							

科目名 (英)	ゴスペルアンサンブル	選択 必修	選択必修	年次	3	担当教員	池末 信
	Gospel Ensemble	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120	開講区分	通年
学科・コース	音楽プロデュース科			8	曜日・時限	木曜5限/木曜6限	
【授業の学習内容】 世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル（黒人霊歌）のコンテンポラリーゴスペル（近代的なゴスペル）を中心に、オーセンティック（本格的）なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。							
〈講師プロフィール〉 マサチューセッツ州にあるバークリー音楽大学映画音楽科にて作曲、編曲、指揮法等を学び1991年、卒業後帰国。1996年に東京スクールオブミュージック専門学校副校長就任。1998年福岡スクールオブミュージック専門学校、大阪スクールオブミュージック専門学校、2002年名古屋コミュニケーションアート専門学校、2007年仙台コミュニケーションアート専門学校副校長就任。プロデューサー、ゴスペルディレクター、シンガー、作編曲家、ボイストレーナー。							
【到達目標】 「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」 それらを体感し信じられること。							
授業計画・内容							
1回目	説明、NLPワーク、新曲2曲レクチャー						
2回目	メディテーションワーク、2曲復習、新曲1曲						
3回目	3曲復習、新曲1曲、1曲パフォーマンス						
4回目	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー						
5回目	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー						
6回目	3曲新曲、ワーク						
7回目	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス						
8回目	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス						
9回目	プレイフルワーク、楽曲復習						
10回目	楽曲復習、新曲レクチャー						
11回目	楽曲復習、新曲レクチャー						
12回目	楽曲復習、キティワーク						
13回目	卒業進級制作						
14回目	卒業進級制作						
15回目	卒業進級制作						
準備学習 時間外学 習	楽曲の復習、パート毎の音の確認						
評価方法	実技テスト（楽曲の歌唱、パフォーマンスの実演、正しいパート音を歌唱できているか）						
受講生への メッセージ	ゴスペルは音楽のルーツです。難しい楽曲もありますが失敗することを恐れず、チャレンジしていきましょう。その積み重ねがあれば世界に通用するスキルも身につけていきます。						
【使用教科書・教材・参考書】							
歌詞カード、ボイスレコーダー							

科目名 (英)	ショーケースプロジェクト Showcase Project	必修 選択	選択必 修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年 水曜4限
【授業の学習内容】 Showcaseに向けて選曲から楽曲を完成させるまでの一連のプロセスのレクチャーとアドバイス (選曲⇒和訳⇒楽曲分析⇒ポエム (和訳読み) ⇒英語読み⇒パフォーマンス⇒振り返り) 〈講師プロフィール〉 年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。							
【到達目標】 レパトリーとして英語の曲でパフォーマンスできるようになろう♪ ④ヴォーカリストとしてのマインド、ノウハウ、スキルを身に付けよう♪							

授業計画・内容	
1回目	プロセスが大事♪ Showcase説明、課題曲
2回目	成長するための選択をしよう♪ 選曲について、アーティスト&楽曲紹介、課題曲
3回目	コレがステージの基本♪ 目線、マイキング 課題曲
4回目	アナライズで歌をもっと身近に♪ 歌とキャラクター分析、可能な人は歌 自由曲①
5回目	歌唱力向上の最大の秘訣とは？ 聴く力について、歌唱指導 自由曲①
6回目	さあ！歌ってみよう♪ パフォーマンス⇒振り返り 自由曲①
7回目	より自分のものにするために♪ 訳、ポエム、英語読み、可能な人は歌 自由曲②
8回目	起承転結のあるパフォーマンスと存在感にも繋がる♪ 立ち位置分析、歌唱指導 自由曲②
9回目	学びを活かして歌ってみよう♪ パフォーマンス⇒振り返り 自由曲②
10回目	更に深さを出せるようになろう♪ 歌、キャラクター分析、訳、ポエム、英語読み、可能な人は歌 自由曲③
11回目	歩みを阻むものとそれに打ち勝つ力♪ 恐れ、緊張について、歌唱指導 自由曲③
12回目	学びと気づきを武器に歌ってみよう♪ パフォーマンス⇒振り返り 自由曲③
13回目	学期末特別授業
14回目	学期末特別授業
15回目	ミュージカル演習
準備学 習 時間 外学習	課題曲、自由曲の歌詞の意味調べ、発音の練習、パフォーマンスの練習
評価方 法	実技テスト（各自課題曲の実演発表にて総合評価）
受講生への メッセージ	毎授業が皆さんのステージです♪ ④沢山のチャレンジが皆さんの可能性を最大限に引き出してくれます♪ ④憧れに向かって着実に前進していきましょう♪
【使用教科書・教材・参考書】 iPad、ボイスレコーダー、自由曲歌詞	

科目名 (英)	ショーケースプロジェクト Showcase Project	必修 選択	選択 必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	水曜4限
【授業の学習内容】 Showcaseに向けて選曲から楽曲を完成させるまでの一連のプロセスのレクチャーとアドバイス(選曲➡和訳➡楽曲分析➡ボエム (和訳読み) ➡英語読み➡パフォーマンス➡振り返り) ①選曲：無理のない曲でコントロールできる曲を勧める、選んできてもらう②和訳、楽曲分析、ボエム：楽曲の意味、言葉を深く曲を自分の中に落とし込む③英語読み：発音④パフォーマンス：歌唱、目線、表現、ポジショニング⑤振り返り：録音、録画による自己評価 〈講師プロフィール〉 年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアボシスター、そしてミュージカルRENTへの出演。							
【到達目標】 レパートリーとして英語の曲でパフォーマンスできるようになろう♪ ヴォーカリストとしてのマインド、ノウハウ、スキルを身に付けよう♪							

授業計画・内容	
1回目	前期と夏休みの集大成♪ 発表会
2回目	客観的な選曲ができるようになる♪ 受容型、克服型、強化型の選曲について 自由曲①
3回目	アンサンブルのためにどんな音楽が演奏形態が探ってみよう♪ ヴォーカル以外の楽曲分析 自由曲①
4回目	楽曲や歌唱に客観性をもって歌ってみよう♪ パフォーマンス➡振り返り 自由曲①
5回目	意味を理解して歌おう♪ 楽曲分析、和訳 自由曲②
6回目	更に深く意味を理解して歌おう♪ ボエム 自由曲②
7回目	世界観と感情表現で歌ってみよう♪ パフォーマンス➡振り返り 自由曲②
8回目	目線、表現、ポジショニングでステージングを強化しよう♪ 自由曲③
9回目	表情、メイク、衣装でステージングを更に強化しよう♪ 自由曲③
10回目	歌とステージングでイキイキとパフォーマンスしよう♪ パフォーマンス➡振り返り 自由曲③
11回目	テスト/振り返り
12回目	まとめ
13回目	卒業進級制作
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間 外学習	課題曲、自由曲の歌詞の意味調べ、発音の練習、歌唱の練習、パフォーマンスの練習
評価方法	実技テスト（各自課題曲の実演発表にて総合評価）
受講生へのメッセージ	ステージは皆さんの個性が輝く場所です。コピーを徹底し、技術を身に付ける事で、皆さんの個性を輝かせ方を学んでいきましょう。人前に立つ事で緊張する人も、不安要素を一つ一つ克服する事と、楽曲と自分を繋げることで克服できます。気持ちよくステージに立てよう、沢山勉強していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 iPad、ボイスレコーダー、自由曲歌詞	

科目名 (英)	ショーケースプロジェクト Showcase Project	必修 選択	選択 必修	年次	3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
						曜日・時限	木曜 3 限
【授業の学習内容】 ショーケース（業界向けライブオーディション）に向けて、自身のシンガーとしてのセールスポイントを客観的に分析し選曲、準備を行い、本番を想定したトータルパフォーマンスを仕上げる。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアプロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 自由曲選曲により自身の音楽の幅を広げていける、新たなチャレンジが出来る。自分の長所・短所を客観的に見ることによりよりニーズに応えられる選択が出来るようになる。ソロシンガーとしての自立心、責任感を持てるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、特別課題曲レクチャー、発表
2回目	自由曲①1コーラス発表、フィードバック
3回目	自由曲①フルコーラス発表、フィードバック
4回目	自由曲①トータルパフォーマンス発表（フルコーラス、歌詞暗記、振り付けやステージングを仕上げた状態のもの）
5回目	自由曲②1コーラス発表、フィードバック
6回目	自由曲②フルコーラス発表、フィードバック
7回目	自由曲②トータルパフォーマンス発表（フルコーラス、歌詞暗記、振り付けやステージングを仕上げた状態のもの）
8回目	自由曲③1コーラス発表、フィードバック
9回目	自由曲③フルコーラス発表、フィードバック
10回目	自由曲③トータルパフォーマンス発表（フルコーラス、歌詞暗記、振り付けやステージングを仕上げた状態のもの）
11回目	自由曲発表会 リハーサル①
12回目	自由曲発表会 リハーサル②
13回目	総合発表会
14回目	学期末特別授業
15回目	学期末特別授業
準備学習 時間外 学習	課題アーティストに関連する動画の鑑賞、歌詞の和訳等
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	自分の持つ力を最大限に発揮するためには、徹底的に準備をすることです。自分というアーティストにどのような可能性が隠されているかは好みとは別にある様々な良い楽曲と向かい合い、初めて知る事が出来ます。知らなかった音楽、シンガー、楽曲にたくさんトライし、丁寧に準備・練習し隠れた力に気づきそれを育てていきましょう！
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 (英)	メディアプロダクションプロジェクト I Media Production Project	選択 必修	選択必修	年次	1		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜 3・4時限目
【授業の学習内容】 映像制作の基礎から応用までを学び、実践的なスキルを身につける。 撮影・編集を一貫して経験し、最終的に1本の作品を完成させる。 音楽業界での映像制作（MV制作・ライブ映像・SNS用動画）に特化したスキルを習得する。 各回「前半：講義（基礎知識）」＋「後半：実践ワーク」の2部構成 カメラ・照明・録音 → 編集 → 映像作品制作の流れで学習 音楽専門学校らしく、MV制作やライブ撮影を取り入れる							
【到達目標】 DaVinci Resolveを使用し、カット編集からカラーグレーディング、音声処理までの一連の映像編集スキルを習得する 現場での映像制作を意識し、撮影（カメラワーク・照明・録音）から編集までの一貫したワークフローを理解する 屋外や郊外スタジオでの撮影、チームでのMV制作やライブ映像制作などを通じて、実践的な映像制作経験を積む SNS・YouTube・ライブ配信向けなど、現代のメディア環境に適した動画フォーマットと演出感覚を身につける 写真のレタッチ、ルック開発、カラーコレクションなど表現の幅を広げ、ポートフォリオ作品を完成させる							

授業計画・内容	
1回目	映像制作の全体像とDaVinci Resolveの基本操作
2回目	ショート映像編集（ジャンプカット／BGM挿入）
3回目	カメラの基本設定（絞り・ISO・シャッター）
4回目	映像構図と画角の理解
5回目	屋内撮影（1人リポート風動画）
6回目	撮影素材の取り込みと整理方法
7回目	シーケンスの作成とカット編集の基礎
8回目	BGMと効果音の挿入・音量バランス調整
9回目	タイトルとテロップの作成
10回目	トランジションの使い方と演出
11回目	基本的なカラーコレクション（露出・白バランス）
12回目	動画の書き出しとSNS向けフォーマット設定
13回目	実践編集①：音楽紹介動画の編集
14回目	実践編集②：ライブ映像ダイジェストの編集
15回目	まとめとプレゼン発表（1人制作）
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 50% ■ 【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	今、音楽と映像は切っても切れない関係にあります。 この授業では、MVやSNS動画、ライブ映像など“音と映像を融合させる表現”を、DaVinci Resolveというプロフェッショナル向けソフトを通じて学びます。 郊外スタジオでのロケ撮影や、チームでのMV制作など、机の上では終わらない実践的な授業が魅力です。 写真レタッチやカラーグレーディングといった、今の時代に求められるセンスも磨けます。 “観る人の心を動かす映像”を一緒に生み出していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	メディアプロダクションプロジェクト II Media Production Project	選択 必修	選択必修	年次	1		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜 3・4時限目
【授業の学習内容】 映像制作の基礎から応用までを学び、実践的なスキルを身につける。 撮影・編集を一貫して経験し、最終的に1本の作品を完成させる。 音楽業界での映像制作（MV制作・ライブ映像・SNS用動画）に特化したスキルを習得する。 各回「前半：講義（基礎知識）」＋「後半：実践ワーク」の2部構成 カメラ・照明・録音 → 編集 → 映像作品制作の流れで学習 音楽専門学校らしく、MV制作やライブ撮影を取り入れる							
【到達目標】 DaVinci Resolveを使用し、カット編集からカラーグレーディング、音声処理までの一連の映像編集スキルを習得する 現場での映像制作を意識し、撮影（カメラワーク・照明・録音）から編集までの一貫したワークフローを理解する 屋外や郊外スタジオでの撮影、チームでのMV制作やライブ映像制作などを通じて、実践的な映像制作経験を積む SNS・YouTube・ライブ配信向けなど、現代のメディア環境に適した動画フォーマットと演出感覚を身につける 写真のレタッチ、ルック開発、カラーコレクションなど表現の幅を広げ、ポートフォリオ作品を完成させる							

授業計画・内容	
1回目	撮影基礎の復習と屋外撮影準備
2回目	郊外スタジオでの撮影実習①（MVシーン撮影）
3回目	郊外スタジオでの撮影実習②（チーム制作）
4回目	素材の管理とバックアップの方法
5回目	複数カメラ素材の同期とマルチカム編集
6回目	色補正の基本とグレーディングの違い
7回目	カラーグレーディング実習①（ナチュラルルック）
8回目	カラーグレーディング実習②（シネマティックルック）
9回目	写真レタッチの基礎と動画応用
10回目	SNS用動画：縦型編集のポイント
11回目	オーディオ編集の基本（ノイズ除去・EQ）
12回目	実践制作：縦型ミニMV編集
13回目	映像企画書・絵コンテの作成
14回目	プレゼン形式でMV企画を発表
15回目	MV編集中間発表と講評
準備学習 時間外学習	
評価方法	■ 出席率 50% ■ 【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	今、音楽と映像は切っても切れない関係にあります。この授業では、MVやSNS動画、ライブ映像など”音と映像を融合させる表現”を、DaVinci Resolveというプロフェッショナル向けソフトを通じて学びます。郊外スタジオでのロケ撮影や、チームでのMV制作など、机の上では終わらない実践的な授業が魅力です。 写真レタッチやカラーグレーディングといった、今の時代に求められるセンスも磨けます。“観る人の心を動かす映像”と一緒に生み出していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	メディアプロダクションプロジェクトⅢ Media Production Project	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜 3・4時限目
【授業の学習内容】 映像制作の基礎から応用までを学び、実践的なスキルを身につける。 撮影・編集を一貫して経験し、最終的に1本の作品を完成させる。 音楽業界での映像制作（MV制作・ライブ映像・SNS用動画）に特化したスキルを習得する。 各回「前半：講義（基礎知識）」＋「後半：実践ワーク」の2部構成 カメラ・照明・録音 → 編集 → 映像作品制作の流れで学習 音楽専門学校らしく、MV制作やライブ撮影を取り入れる							
【到達目標】 DaVinci Resolveを使用し、カット編集からカラーグレーディング、音声処理までの一連の映像編集スキルを習得する 現場での映像制作を意識し、撮影（カメラワーク・照明・録音）から編集までの一貫したワークフローを理解する 屋外や郊外スタジオでの撮影、チームでのMV制作やライブ映像制作などを通じて、実践的な映像制作経験を積む SNS・YouTube・ライブ配信向けなど、現代のメディア環境に適した動画フォーマットと演出感覚を身につける 写真のレタッチ、ルック開発、カラーコレクションなど表現の幅を広げ、ポートフォリオ作品を完成させる							

授業計画・内容	
1回目	プロジェクト管理とチーム分担
2回目	MV撮影①：屋外ロケ撮影実習
3回目	MV撮影②：照明・ディレクションを含む実践
4回目	MV撮影③：録音チームとの連携
5回目	撮影素材の整理と初期編集
6回目	MV編集①：カット編集とタイミング調整
7回目	MV編集②：エフェクトとトランジション演出
8回目	MV編集③：カラーグレーディングとルック作成
9回目	MV編集④：オーディオ調整・同期
10回目	MV編集⑤：タイトル・ロゴ・クレジット追加
11回目	MV完成版の書き出しとSNSアップ対応
12回目	各チームの作品発表と講評①
13回目	各チームの作品発表と講評②
14回目	レビューと振り返り：改善点の共有
15回目	映像制作職種とキャリアについて学ぶ
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	今、音楽と映像は切っても切れない関係にあります。 この授業では、MVやSNS動画、ライブ映像など“音と映像を融合させる表現”を、DaVinci Resolveというプロフェッショナル向けソフトを通じて学びます。 郊外スタジオでのロケ撮影や、チームでのMV制作など、机の上では終わらない実践的な授業が魅力です。 写真レタッチやカラーグレーディングといった、今の時代に求められるセンスも磨けます。 “観る人の心を動かす映像”と一緒に生み出していきたいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	メディアプロダクションプロジェクト IV Media Production Project	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	月曜 3・4時限目
【授業の学習内容】 映像制作の基礎から応用までを学び、実践的なスキルを身につける。 撮影・編集を一貫して経験し、最終的に1本の作品を完成させる。 音楽業界での映像制作（MV制作・ライブ映像・SNS用動画）に特化したスキルを習得する。 各回「前半：講義（基礎知識）」＋「後半：実践ワーク」の2部構成 カメラ・照明・録音 → 編集 → 映像作品制作の流れで学習 音楽専門学校らしく、MV制作やライブ撮影を取り入れる							
【到達目標】 DaVinci Resolveを使用し、カット編集からカラーグレーディング、音声処理までの一連の映像編集スキルを習得する 現場での映像制作を意識し、撮影（カメラワーク・照明・録音）から編集までの一貫したワークフローを理解する 屋外や郊外スタジオでの撮影、チームでのMV制作やライブ映像制作などを通じて、実践的な映像制作経験を積む SNS・YouTube・ライブ配信向けなど、現代のメディア環境に適した動画フォーマットと演出感覚を身につける 写真のレタッチ、ルック開発、カラーコレクションなど表現の幅を広げ、ポートフォリオ作品を完成させる							

授業計画・内容	
1回目	写真×映像の融合①：スライドショー制作
2回目	写真×映像の融合②：レタッチとパララックス演出
3回目	SNS広告動画の分析と編集実践①
4回目	SNS広告動画の分析と編集実践②
5回目	ライブ配信用映像制作①：スイッチング基礎
6回目	ライブ配信用映像制作②：簡易機材を用いた配信演習
7回目	モーショングラフィックス入門①：テキストアニメーション
8回目	モーショングラフィックス入門②：図形・ロゴの動き
9回目	モーショングラフィックス応用：MV演出に組み込む
10回目	卒業制作ガイダンスとテーマ決め
11回目	卒業制作①：企画・チーム編成
12回目	卒業制作②：撮影開始
13回目	卒業制作③：編集・演出強化
14回目	卒業制作④：仕上げ・SNS用切り出し
15回目	卒業制作発表会
準備学習 時間外学 習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	今、音楽と映像は切っても切れない関係にあります。 この授業では、MVやSNS動画、ライブ映像など“音と映像を融合させる表現”を、DaVinci Resolveというプロフェッショナル向けソフトを通じて学びます。 郊外スタジオでのロケ撮影や、チームでのMV制作など、机の上では終わらない実践的な授業が魅力です。 写真レタッチやカラーグレーディングといった、今の時代に求められるセンスも磨けます。 “観る人の心を動かす映像”を一緒に生み出していきたいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	メディアプロダクションプロジェクト V Media Production Project	選択 必修	選択必修	年次	1		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	月曜 3・4時限目
【授業の学習内容】 映像制作の基礎から応用までを学び、実践的なスキルを身につける。 撮影・編集を一貫して経験し、最終的に1本の作品を完成させる。 音楽業界での映像制作（MV制作・ライブ映像・SNS用動画）に特化したスキルを習得する。 各回「前半：講義（基礎知識）」＋「後半：実践ワーク」の2部構成 カメラ・照明・録音 → 編集 → 映像作品制作の流れで学習 音楽専門学校らしく、MV制作やライブ撮影を取り入れる							
【到達目標】 DaVinci Resolveを使用し、カット編集からカラーグレーディング、音声処理までの一連の映像編集スキルを習得する 現場での映像制作を意識し、撮影（カメラワーク・照明・録音）から編集までの一貫したワークフローを理解する 屋外や郊外スタジオでの撮影、チームでのMV制作やライブ映像制作などを通じて、実践的な映像制作経験を積む SNS・YouTube・ライブ配信向けなど、現代のメディア環境に適した動画フォーマットと演出感覚を身につける 写真のレタッチ、ルック開発、カラーコレクションなど表現の幅を広げ、ポートフォリオ作品を完成させる							

授業計画・内容	
1回目	映像編集とナレーションの融合①：ボイス収録基礎
2回目	映像編集とナレーションの融合②：ナレーション同期と演出
3回目	テレビ風編集スタイル①：番組風タイトルとテロップ
4回目	テレビ風編集スタイル②：バラエティ的演出の研究
5回目	ニュース形式動画の構成と編集
6回目	音楽ドキュメンタリーの研究①：構成とインタビュー撮影
7回目	音楽ドキュメンタリーの研究②：編集演習
8回目	簡易3DCG素材の活用と合成入門
9回目	AIツールを活用した字幕生成と翻訳演出
10回目	タイムリマップとスローモーション表現の研究
11回目	スマホ映像のプロ仕様編集（4Kスマホ素材活用）
12回目	360度映像の基本知識と応用可能性
13回目	アーティストPR動画の構成と編集
14回目	アーティストPR動画の実践制作①：企画と撮影
15回目	アーティストPR動画の実践制作②：編集と発表
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	今、音楽と映像は切っても切れない関係にあります。 この授業では、MVやSNS動画、ライブ映像など“音と映像を融合させる表現”を、DaVinci Resolveというプロフェッショナル向けソフトを通じて学びます。 郊外スタジオでのロケ撮影や、チームでのMV制作など、机の上では終わらない実践的な授業が魅力です。 写真レタッチやカラーグレーディングといった、今の時代に求められるセンスも磨けます。 “観る人の心を動かす映像”を一緒に生み出していきたいと思います。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	メディアプロダクションプロジェクト VI Media Production Project	選択 必修	選択必修	年次	1		
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
学科・コース	音楽プロデュース科					曜日・時限	月曜 3・4時限目
【授業の学習内容】 映像制作の基礎から応用までを学び、実践的なスキルを身につける。 撮影・編集を一貫して経験し、最終的に1本の作品を完成させる。 音楽業界での映像制作（MV制作・ライブ映像・SNS用動画）に特化したスキルを習得する。 各回「前半：講義（基礎知識）」＋「後半：実践ワーク」の2部構成 カメラ・照明・録音 → 編集 → 映像作品制作の流れで学習 音楽専門学校らしく、MV制作やライブ撮影を取り入れる							
【到達目標】 DaVinci Resolveを使用し、カット編集からカラーグレーディング、音声処理までの一連の映像編集スキルを習得する 現場での映像制作を意識し、撮影（カメラワーク・照明・録音）から編集までの一貫したワークフローを理解する 屋外や郊外スタジオでの撮影、チームでのMV制作やライブ映像制作などを通じて、実践的な映像制作経験を積む SNS・YouTube・ライブ配信向けなど、現代のメディア環境に適した動画フォーマットと演出感覚を身につける 写真のレタッチ、ルック開発、カラーコレクションなど表現の幅を広げ、ポートフォリオ作品を完成させる							

授業計画・内容	
1回目	縦型メディアの分析：TikTok・Instagram編集研究
2回目	スマホ世代向け動画制作：テンポ感と演出
3回目	YouTubeショート形式の映像制作演習①
4回目	YouTubeショート形式の映像制作演習②
5回目	SNSバズを意識したサムネイルデザイン基礎
6回目	ループ動画・モーションポスター制作実践
7回目	トレンドMV分析：映像スタイルの流行を知る
8回目	アニメーションMV制作①：素材の選定と構成
9回目	アニメーションMV制作②：編集と演出強化
10回目	撮影×編集×音楽のマッチング演習
11回目	エフェクトの応用①：グリッチ、VHS風演出
12回目	エフェクトの応用②：AIエフェクトと最新機能
13回目	卒業作品企画発表①（グループ制作）
14回目	卒業作品企画発表②（個人制作）
15回目	制作準備とスケジュール設定
準備学習 時間外学習	
評価方法	■出席率 50% ■【到達目標に対する達成度】 50%
受講生への メッセージ	今、音楽と映像は切っても切れない関係にあります。 この授業では、MVやSNS動画、ライブ映像など”音と映像を融合させる表現”を、DaVinci Resolveというプロフェッショナル向けソフトを通じて学びます。 郊外スタジオでのロケ撮影や、チームでのMV制作など、机の上では終わらない実践的な授業が魅力です。 写真レタッチやカラーグレーディングといった、今の時代に求められるセンスも磨けます。 ”観る人の心を動かす映像”と一緒に生み出していきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 特になし	

科目名 (英)	パフォーミングプロジェクト Performing Project	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜 1 限/火曜 2 限
【授業の学習内容】 往年の名曲から現代音楽、または世界でもトップクラスのエンターテインメント演目が集結するブロードウェイミュージカル楽曲を主に課題とし、世界に認められているより深い感情表現や体の使い方を学ぶ。また、作品制作などの特定の課題に対し、研究・演習からプレゼンテーションまでを行い、実践力を養う。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ヴォーカリストとしてステージ上で機能するために必要な歌唱、表現、演出知識、コミュニケーションを含めた自身の総合プロデュースが身に付く。							

授業計画・内容	
1回目	授業概要説明、課題曲①Good morning Baltimore ②I know where I've been レクチャー（発音、音程、リズム、コーラスワーク）
2回目	課題曲①②復習・チェック
3回目	課題曲①②復習・チェック、③Dancing Queen レクチャー（発音、音程、リズム、コーラスワーク）
4回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック
5回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック、④Little shop of horrors レクチャー（発音、音程、リズム、コーラスワーク）
6回目	課題曲④復習・チェック、リードチェック
7回目	課題曲④復習・チェック、リードチェック、⑤Zero to hero レクチャー（発音、音程、リズム、コーラスワーク）
8回目	発表会曲リードオーディション
9回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング（イベントを遂行するための各所担当決め）
10回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
11回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
12回目	発表会通しリハーサル
13回目	前期発表会本番
14回目	9月特別授業
15回目	9月特別授業
準備学習 時間外 学習	課題曲に関連するミュージカル、映画、動画の鑑賞や歌詞の和訳の準備など
評価方法	■出席率 ■受講態度 ■【到達目標に対する達成度】
受講生への メッセージ	世界のトップクラスのエンターテインメントをしっかりと学ぶことでより一つでも多くを吸収出来る授業内容です。出来るか出来ないかで判断する前に、まずは一緒に挑戦してみましょう！一つずつ挑戦を繰り返し、その先に待つ自分自身を想像しながら一緒に進んでいきましょう！コーラスの音振りなど、欠席分の授業は自己責任で他の履修生から録音を必ずもらって準備、対応してください。
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面（歌詞）、各自のMac、iPad（録音や動画撮影用）、各パートの楽器	

科目名 (英)	パフォーミングプロジェクト Performing Project	必修 選択	選択必修	年次	2		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	後期
						曜日・時限	火曜 1 限/火曜 2 限
【授業の学習内容】 往年の名曲から現代音楽、または世界でもトップクラスのエンターテインメント演目が集結するブロードウェイミュージカル楽曲を主に課題とし、世界に認められているより深い感情表現や体の使い方を学ぶ。また、作品制作などの特定の課題に対し、研究・演習からプレゼンテーションまでを行い、実践力を養う。 〈講師プロフィール〉 200曲以上をレパートリーに持つゴスペルグループ。年間60本を超える全国の小中学校、高等学校での芸術鑑賞会、イベント出演は六本木ヒルズから老人ホーム、ツアーやレコーディングは五木ひろしから平井 堅、海外では中国の日本大使館からNYアポロシアター、そしてミュージカルRENTへの出演。ディレクター池末信の教育メソッドを用いて、15カ所以上の学校やボーカalsクール、プロダクションへの講師派遣、K-POPやJ-POPアーティストのレコーディングディレクションを行う。							
【到達目標】 ヴォーカリストとしてステージ上で機能するために必要な歌唱、表現、演出知識、コミュニケーションを含めた自身の総合プロデュースが身に付く。							

授業計画・内容	
1回目	課題曲① ②レクチャー
2回目	課題曲①②復習・チェック
3回目	課題曲①②復習・チェック、③レクチャー
4回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック
5回目	課題曲③復習・チェック、リードチェック、④レクチャー
6回目	課題曲④復習・チェック、リードチェック
7回目	発表会曲リードオーディション
8回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
9回目	リード・コーラス総合チェック、役割分担ミーティング
10回目	コーラス総合チェック、演出仕上げ
11回目	通しリハ
12回目	発表会本番
13回目	イベント実習
14回目	卒業進級制作
15回目	卒業進級制作
準備学習 時間外 学習	課題曲に関連するミュージカル、映画、動画の鑑賞や歌詞の和訳の準備など
評価方法	■授業へ取り組む姿勢（40%） ■各課題曲での目標の達成度、実践度（30%） ■自己実現力と演奏力（歌唱力）の向上度（30%）
受講生への メッセージ	世界のトップクラスのエンターテインメントをしっかりと学ぶことでより一つでも多くを吸収出来る授業内容です。出来るか出来ないかで判断する前に、まずは一緒に挑戦してみましょう！一つずつ挑戦を繰り返し、その先に待つ自分自身を想像しながら一緒に進んでいきましょう！コーラスの音振りなど、欠席分の授業は自己責任で他の履修生から録音を必ずもらって準備、対応してください。
【使用教科書・教材・参考書】 音源、譜面（歌詞）、各自のMac、iPad（録音や動画撮影用）、各パートの楽器	

科目名 (英)	ミュージカルプロジェクト Musical Project	必修 選択	選択必修	年次	1.2.3		
学科・コース	音楽プロデュース科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	270 (18)	開講区分 曜日・時限	通年 各クラスごとに異なる
【授業の学習内容】 幅広く活動できるプロを育成する為、ダンス・歌・演技の3つの要素を取り入れたミュージカルのスキルを身につけることができる。 ※実務経験：関西を中心に活躍する劇作家・演出家で、年間100本近くの上演を誇る高等学校向け進路啓発ミュージカルをはじめ、全国の専門学校で上演されている「Step of Life」「Hospital of Miracle」、ベストセラー書籍の舞台化「甲子園だけが高校野球ではない」など、日本一ティーンに観られている、と言えるほどの舞台演出家です。 【到達目標】 「生きることの素晴らしさ」をそれぞれの学習分野を通して伝える。 ミュージカル・イベント制作に必要なスキルを学ぶ。 エンターテイナー・パフォーマーとしての考え方、感じ方を習得することができる。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーションにてミュージカルのコンセプトと内容、社会貢献について理解することができる
2回目	メンバー顔合わせと今後のスケジュール確認や製作期間中の注意事項、役割分担を決めレッスンを行う
3回目	台本の読み合わせを行い、オーディションに向けて自分がチャレンジしたい役を決定する
4回目	各役ごとに歌と演技のオーディションを行う
5回目	各役ごとに歌と演技のオーディションを行う
6回目	仮キャストの発表～台本の読み合わせ～発声方法・演技指導を行う
7回目	ダンスシーンの振付・歌唱稽古開始し、歌唱・振付を覚えることができる
8回目	台詞を暗記し立ち稽古開始～演技指導～ステージマナーを学ぶことができる
9回目	台詞を暗記し立ち稽古開始～演技指導～ステージマナーを学ぶことができる
10回目	立ち稽古～広いアクティングエリアを使用し立ち位置の確認と導線、動きの確認をすることができる
11回目	リハーサル～実施に公演するホールを使用し、衣装を着用、小道具を使用してのリハーサルを行う
12回目	ホールリハーサルでの反省点を振り返り、修正と強化練習によってクオリティを上げることができる
13回目	ホールを使用してのリハーサル～本番に向けての最終確認とサウンドチェック・リハーサルを行う
14回目	進級発表本番1回目を行う
15回目	進級発表本番2回目を行う
準備学習 時間外学習	稽古の振り返り
評価方法	■ 出席率 40% ■ 授業へ取り組む姿勢 30% ■ 各課題曲の目標の達成度、実践度 30%
受講生への メッセージ	スキルを身につけるだけでなく、パフォーマーとしての礼儀やマナーも身につけることができる。
【使用教科書・教材・参考書】	